

シラバス

2015年度
(平成27年度)

名古屋経営短期大学

〒488-8711 尾張旭市新居町山の田 3255-5

TEL 0561-54-9611 FAX 0561-52-0515

平成27年度 学年暦 (講義)

名古屋経営短期大学

	日	月	火	水	木	金	土		
3月	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30	31	1	2	3	4		
4月	5	6	オリエンテーション	オリエンテーション	①講義開始	9	①		
	12	13	①	①	②	16	②		
	19	20	②	②	③	23	③		
	26	27	③	③	29 昭和の日	30	④		
5月	3	憲法記念日	4	みどりの日	5	子どもの日	6	振替休日	
	10	11	④	④	④	13	④		
	17	18	⑤	⑤	⑤	20	⑤		
	24	25	⑥	⑥	⑥	27	⑥		
6月	31	1	⑦	⑦	⑦	4	⑦		
	7	8	⑧	⑧	⑧	10	⑧		
	14	15	⑨	⑨	⑨	17	⑨		
	21	22	⑩	⑩	⑩	24	⑩		
7月	28	29	⑪	⑪	1	⑪	2		
	5	6	⑫	⑫	8	⑫	9		
	12	13	⑬	⑬	15	⑬	16		
	19	20	海の日	21	⑭	22	⑭		
8月	26	27	⑮	⑮	29	補講日	30	定期試験	
	2	3	定期試験	4	定期試験	5	定期試験	6	試験予備日
	9	10	集中講義①	11	成績発表 集中講義①	12	集中講義①	13	集中講義①
	16	17	追再試験	18	追再試験	19	追再試験	20	追再試験
9月	23	24	集中講義②	25	集中講義②	26	集中講義②	27	集中講義②
	30	31		1	2	3	4	5	
	6	7		8	9	10	11	12	
	13	14		15	16	17	18	19	
10月	20	21	敬老の日	22	国民の休日	23	秋分の日	24	
	27	28	①講義開始	29	①	30	①	1	①
	4	5	②	6	②	7	②	8	②
	11	12	体育の日	13	③	14	③	15	③
11月	18	19	③	20	④	21	④	22	④
	25	26	④	27	⑤	28	⑤	29	⑤
	1	2	⑤	3	文化の日	4	⑥	5	⑥
	8	9	⑥	10	⑥	11	⑦	12	⑦
12月	15	16	学園創立記念日	17	⑦	18	⑧	19	⑧
	22	23	勤労感謝の日	24	⑧	25	⑨	26	⑨
	29	30	⑦	1	⑨	2	⑩	3	⑩
	6	7	⑧	8	⑩	9	⑪	10	⑪
1月	13	14	⑨	15	⑪	16	⑫	17	⑫
	20	21	⑩	22	⑫	23	天皇誕生日	24	集中講義③
	27	28	集中講義③	29		30		31	1
	3	4		5	6	⑬	7	⑬	8
2月	10	11	成人の日	12	⑬	13	⑭	14	⑭
	17	18	⑪	19	⑭	20	⑮	21	⑮
	24	25	⑫	26	⑮	27	月曜日授業⑬	28	月曜日授業⑭
	31	1	⑮	2	補講日	3	補講日	4	定期試験
3月	7	8	定期試験	9	定期試験	10	定期試験	11	建国記念の日
	14	15	集中講義④	16	成績発表 集中講義④	17	集中講義④	18	集中講義④
	21	22	追再試験	23	追再試験	24	追再試験	25	追再試験
	28	29		1	2	3	4	5	
3月	6	7		8	卒業認定会議	9	卒業者発表	10	
	13	14		15		16		17	学位記授与式
	20	21	春分の日	22	振替休日	23		24	
	27	28		29		30		31	1

※宿泊オリエンテーションは任意参加で夏期に行う予定です。

2015年度 名古屋経営短期大学 シラバス 総合目次

- ◆ 未来キャリア学科 p 1 ~ 98
- ◆ 子ども学科 p 99 ~ 207
- ◆ 健康福祉学科 p 208 ~ 269

2015年度 シラバス目次 未来キャリア学科【1年生用】

1セメスター

【総合教育科目】		ページ
経済学入門	高濱 優子	1
ライフプランニング(菊武基礎)	高木 弘恵	2
実践キャリア教育 I	高濱 優子	3
日本語表現	西川 三恵子	4
ビジネス情報	武田 直之	5
秘書検定講座 I	西川 三恵子	6
ビジネスマナー基礎 I	児玉 美由紀	7
インターンシップ I	山本・島宗	8
簿記入門 I	加藤 由美子	9
簿記検定講座 I	加藤 由美子	10
マネジメント概論	高濱 優子	11
高齢者福祉論	藤田 委子	12
ロジカルシンキング	石田 敬二	13

【専門教育科目】

医療事務 I	塚本 佳子	14
人体の構造と機能及び疾病	早川 健太郎	15
情報処理	早川 健太郎	16
国内旅行実務	島宗 俊郎	17
観光ネットワーク(国内)	島宗 俊郎	18
国内旅行業務取扱管理者講座	島宗 俊郎	19
Word Excel基礎	武田 直之	20
ネイル・エステティック&ブライダル	近藤 諭美	21
生涯スポーツ	早川 健太郎	22
観光と約款	山本 芳功	23
観光英会話	西浜 クリス	24
美容法	原 志保	25
ファッションコーディネート	福井 美加子	26
調剤事務	塚本 佳子	27
カラーコーディネーター検定講座 I	三浦 睦子	28

【ゼミナール】

基礎ゼミナール I	各担当教員	29
-----------	-------	----

2セメスター

【総合教育科目】		ページ
日本の経済と世界の経済	山本 芳功	30
実践キャリア教育 II	高濱 優子	31
販売士検定講座	西川 三恵子	32
海外研修	島宗 俊郎	33
話し方演習	稲葉 寿美	34
人間関係とコミュニケーション	岡崎 強	35
ビジネスマナー基礎 II	児玉 美由紀	36
秘書検定講座 II	西川 三恵子	37
インターンシップ II	山本・島宗	38
簿記入門 II	加藤 由美子	39
簿記検定講座 II	加藤 由美子	40
プレゼンテーション技法	高濱 優子	41
マーケティング論	高濱 優子	42

【専門教育科目】

医療事務演習 I	塚本 佳子	43
TOEIC検定講座	西浜 クリス	44
英語検定講座	西浜 クリス	45
SNSネットコミュニケーション演習	早川 健太郎	46
栄養学演習	岡田 恵利	47
カラーコーディネーター検定講座 II	三浦 睦子	48
情報倫理	星野 雪子	49
医療秘書	塚本 佳子	50
医療事務 II	塚本 佳子	51
情報科学入門	武田 直之	52
MOS検定講座	武田 直之	53
ホテル業界論	森 景光	54
健康と運動の科学	早川 健太郎	55

【ゼミナール】

基礎ゼミナール II	各担当教員	56
------------	-------	----

2015年度 シラバス目次 未来キャリア学科【2年生用】

3セメスター

【総合教育科目】		ページ
実践キャリア教育Ⅲ	高濱 優子	57
マネジメント概論	高濱 優子	11
高齢者福祉論	藤田 委子	12
労働と法	高木 清秀	58
ビジネスイングリッシュ	西浜 クリス	59
企業と会計	山本 芳功	60
企業と情報	武田 直之	61
プレゼンテーション演習	高濱 優子	62
介護職員初任者研修講座Ⅰ	上田・三好ほか	63
営業検定講座	石田 敬二	64
ロジカルシンキング	石田 敬二	65

【専門教育科目】

美容法	原 志保	25
ファッションコーディネート	福井 美加子	26
調剤事務	塚本 佳子	27
カラーコーディネーター検定講座Ⅰ	三浦 睦子	28
アロマセラピー	塚本 佳子	66
観光ビジネス論	島宗 俊郎	67
エアライン業界論	児玉 美由紀	68
医療事務Ⅲ	塚本 佳子	69
医事コンピュータ演習	塚本 佳子	70
ホテル基礎管理	森 景光	71
データベース演習	武田 直之	72
メディカル総合演習	塚本 佳子	73
おもてなし演習	西川 三恵子	74

【ゼミナール】

ゼミナールⅢ	島宗 俊郎	75
ゼミナールⅢ	高濱 優子	76
ゼミナールⅢ	武田 直之	77
ゼミナールⅢ	塚本 佳子	78
ゼミナールⅢ	早川 健太郎	79

4セメスター

【総合教育科目】		ページ
マーケティング論	高濱 優子	42
心理学総論	陳 恵貞	80
政治と経済	高木 清秀	81
介護職員初任者研修講座Ⅱ	上田・三好ほか	82
ビジネス文書	武田 直之	83

【専門教育科目】

カラーコーディネーター検定講座Ⅱ	三浦 睦子	48
プログラミング演習	武田 直之	84
ダイエット検定講座	西川 三恵子	85
POP広告クリエイター検定講座	西浜 クリス	86
デジタルコミック検定講座	天野 寛	87
電子カルテ演習	塚本 佳子	88
表計算演習	武田 直之	89
キャビンアテンダント基礎	児玉 美由紀	90
観光マーケティング	島宗 俊郎	91
医療教養	西川 三恵子	92
パーソナルトレーナー資格講座	早川 健太郎	93

【ゼミナール】

ゼミナールⅣ	島宗 俊郎	94
ゼミナールⅣ	高濱 優子	95
ゼミナールⅣ	武田 直之	96
ゼミナールⅣ	塚本 佳子	97
ゼミナールⅣ	早川 健太郎	98

2015年度 シラバス目次 子ども学科【1年生用】

1セメスター

【総合教育科目】		ページ
英語コミュニケーションⅠ	西浜 クリス	99
情報リテラシーⅠ	早川・武田	100
ポルトガル語	サラ 早川	101
生涯スポーツ	佐々木 俊郎	102
日本国憲法	輔老 英淳	103
ビジネスマナー	西川 三恵子	104

【専門教育科目】		
子どもの保健Ⅰ	浅野 里美	105
保育原理	武 小燕	106
子どもの食と栄養	中川 美子	107
保育の心理学Ⅰ	陳 惠貞	108
自然環境と保育	篠田 陽作	109
保育内容演習(言葉)	岡本 弘子	110
児童家庭福祉Ⅰ	武藤 敦士	111
陶芸入門	本田 郁子	112
農業体験	関口 和彦	113
音楽基礎Ⅰ	笹谷 朋世	114
保育内容演習(人間関係)	岡本 弘子	115

【ゼミナール】		
基礎ゼミナールⅠ	各担当教員	116

2セメスター

【総合教育科目】		ページ
英語コミュニケーションⅡ	西浜 クリス	117
情報リテラシーⅡ	武田 直之	118
運動の科学	佐々木 俊郎	119
生命の科学	福本 理	120
ボランティア活動	児嶋 直也	121

【専門教育科目】		
教育原理	岡本 弘子	122
保育の心理学Ⅱ	陳 惠貞	123
造形表現Ⅰ	本田 郁子	124
保育内容総論	岡本 弘子	125
保育内容演習(環境)	中川 美子	126
保育内容演習(表現)Ⅰ	笹谷 朋世	127
乳児保育Ⅰ	岡本 弘子	128
教育心理学	陳 惠貞	129
演劇ワークショップ	小原 ひろみ	130
保育実践論	岡本 弘子	131
多文化保育演習	武 小燕	132
音楽基礎Ⅱ	笹谷 朋世	133
家庭	高橋 美恵	134
算数	新見 精三	135
国語	河村 恵子	136
社会	児嶋 直也	137
生活	勝田 みな	138
理科	深谷 秀次	139
幼稚園教育実習(事前・事後)	江上 信子	140

【ゼミナール】		
基礎ゼミナールⅡ	各担当教員	141

子ども学科【2年生用】

3セメスター

【総合教育科目】		ページ
中国語	武 小燕	142
労働と法	高木 清秀	143

【専門教育科目】		
社会福祉Ⅰ	木村 拓磨	144
社会的養護	武藤 敦士	145
音楽表現Ⅰ	笹谷 朋世	146
身体表現Ⅰ	佐々木 俊郎	147
保育内容演習(健康)	佐々木 俊郎	148
保育内容演習(表現)Ⅱ	本田 郁子	149
障害児保育Ⅰ	木村 拓磨	150
保育課程論	加藤 久美子	151
子どもの保健Ⅱ	浅野 里美	152
教職概論	武 小燕	153
発達心理学	陳 惠貞	154
多文化保育	武 小燕	155
保育心理概論	脇淵 徹映	156
国語科指導法	近藤 茂明	157
社会科指導法	宮原 悟	158
理科指導法	深谷 秀次	159
幼稚園教育実習(事前・事後)	江上 信子	160
幼稚園教育実習	江上 信子	161

【ゼミナール】		
保育専門演習Ⅰ	各担当教員	162

4セメスター

【総合教育科目】		ページ
英語コミュニケーションⅡ	西浜 クリス	117
日本文学	大竹 有子	163
手話入門	青山 純子	164

【専門教育科目】		
保育者論	加藤 久美子	165
相談援助	林 俊和	166
教育課程論	武 小燕	167
音楽表現Ⅱ	笹谷 朋世	168
身体表現Ⅱ	佐々木 俊郎	169
造形表現Ⅱ	本田 郁子	170
幼児教育史	寺部 直子	171
障害児保育Ⅱ	木村 拓磨	172
日本人と食育論	神野 順子	173
保育心理演習	椎野 智子	174
教育制度論	武 小燕	175
算数科指導法	新見 精三	176
家庭科指導法	高橋 美恵	177
生活科指導法	山田 隆幸	178

【ゼミナール】		
保育専門演習Ⅱ	各担当教員	179

2015年度 シラバス目次
子ども学科【3年生用】

5セメスター

【専門教育科目】		ページ
家庭支援論	林 俊和	180
保育相談支援	林 俊和	181
幼児理解の理論と方法	陳 惠貞	182
幼児教育方法論	岡本 弘子	183
乳児保育Ⅱ	岡本 弘子	184
保育人間学	脇淵 徹映	185
臨床心理学	椎野 智子	186
保育実習指導Ⅰ(保育所)	江上 信子	187
保育実習指導Ⅱ	江上 信子	188
保育実習Ⅰ(保育所)	江上 信子	189
保育実習Ⅱ	江上 信子	190

【ゼミナール】

演習(卒業研究)	各担当教員	191
----------	-------	-----

6セメスター

【専門教育科目】		ページ
英語コミュニケーションⅡ	西浜 クリス	117
相談援助	林 俊和	166
教育制度論	武 小燕	175
英語コミュニケーションⅢ	西浜 クリス	192
社会的養護内容	林 俊和	193
教育相談の基礎と方法	松瀬 留美子	194
保育・教職実践演習(幼稚園)	江上 信子	195
心身の発達と学習過程	陳 惠貞	196
社会福祉Ⅱ	木村 拓磨	197
児童家庭福祉Ⅱ	武藤 敦士	198
小児栄養実習	神野 順子	199
保育支援演習	椎野 智子	200
保育心理技法	椎野 智子	201
事例研究	目黒 達哉	202
保育実習(個別支援実習)	岡本 弘子	203
保育実習指導Ⅰ(施設)	木村 拓磨	204
保育実習Ⅰ(施設)	木村 拓磨	205
保育実習指導Ⅲ	木村 拓磨	206
保育実習Ⅲ	木村 拓磨	207

2015年度 シラバス目次 健康福祉学科【1年生用】

1セメスター

【総合教育科目】 ページ

社会保障論	藤田 委子	208
情報処理	早川 健太郎	209
介護予防運動指導論	佐々木・志水	210
カウンセリング概論	勝田 みな	211
障害者スポーツ指導員(初級)	佐々木 俊郎	212
健康管理士一般指導員	上田 智子	213
美容法	原 志保	214
スチューデントトレーナー講座	早川 健太郎	215

【専門教育科目】

人間の尊厳と自立	岡崎 強	216
人間関係とコミュニケーション	岡崎 強	217
社会福祉概論 I	三好 禎之	218
介護福祉 I	大橋 美加子	219
レクリエーション	佐々木 俊郎	220
生活支援技術 I(介護理論①)	川角 真弓	221
生活支援技術Ⅲ(基礎介護技術)	川角 真弓	222
介護過程 I(思考過程の理解)	井川 淳史	223
介護総合演習 I	井川・大橋	224
高齢者のこころとからだ I	下鶴 紀之	225
こころとからだのしくみ I(心理)	椎野 智子	226
こころとからだのしくみ II(生活機能)	上田 智子	227
認知症を患する I(認知症の基礎的理解)	下鶴 紀之	228
家庭における食事	神野 順子	229
メイクセラピー	玉置 あつこ	230
介護実習 I	上田・三好ほか	231

【ゼミナール】

基礎ゼミナール	各担当教員	232
---------	-------	-----

2セメスター

【総合教育科目】 ページ

介護予防運動指導演習	佐々木・志水	233
カウンセリングスキル	勝田 みな	234
介護保険事務	塚本 佳子	235
リラクゼーション	左満花	236
アニマルセラピー	青木 健	237
健康ケアトレーナー講座	早川 健太郎	238

【専門教育科目】

健康福祉教育論	志水 暎子	239
社会福祉概論 II	三好 禎之	240
介護福祉 II	井川 淳史	241
コミュニケーション技術 I(コミュニケーションの理解)	井川 淳史	242
生活支援技術 II(介護理論②)	三好 禎之	243
生活支援技術IV(応用介護技術)	三好・大橋	244
介護過程 II(基礎事例演習)	井川・藤田	245
介護総合演習 II	井川・大橋	246

2015年度 シラバス目次 健康福祉学科【2年生用】

3セメスター

【総合教育科目】	ページ	
労働と法	高木 清秀	247
住環境福祉論	志水 暎子	248

【専門教育科目】		
リスクマネジメント	三好 禎之	249
生活支援技術Ⅷ(家事援助②)	西川 光子	250
介護過程Ⅲ(応用事例演習)	川角・藤田	251
介護総合演習Ⅲ	井川・大橋	252
高齢者のこころとからだⅡ	上田 智子	253
認知症を患うⅡ(認知症への支援と理解)	下鶴 紀之	254
医療的ケアⅠ	上田 智子	255
介護実習Ⅱ	上田・三好ほか	256
介護実習Ⅲ	上田・三好ほか	257

【ゼミナール】		
専門ゼミナール	各担当教員	258

4セメスター

【総合教育科目】	ページ	
青年期の心理	岩瀬 真寿美	259

【専門教育科目】		
介護サービス論	藤田 委子	260
コミュニケーション技術Ⅱ(感覚機能障害)	西村 由美子	261
生活支援技術Ⅴ(障害別ケア①)	川角 真弓	262
生活支援技術Ⅶ(家事援助①)	神野 順子	263
生活支援技術Ⅵ(障害別ケア②)	井川 淳史	264
介護総合演習Ⅳ	川角・藤田	265
こころとからだのしくみⅣ(終末期)	下鶴 紀之	266
障害を患うⅡ(障害への支援と理解)	上田 智子	267
医療的ケアⅡ	上田 智子	268
医療的ケアⅢ	上田 智子	269

未来キャリア学科 シラバス

科目名	経済学入門【英語名:Introduction to economics】	職名・担当者	講師 高濱 優子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	本講座は現実経済を理解する手段としての経済学を、発生した実例やタイムリーな話題を取り上げ、可能な限りわかりやすく解説し、経済学の基礎を学習します。			
到達目標	経済学的な考え方をビジネスや実生活に活かすきっかけをつかむことができます。			
準備学習	随時指示します。			
授業方法	基本は講義形式ですが、理解促進のため演習を実施することもあります。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 日本における社会情勢と経済的関係性の理解 3. 世界における社会情勢と経済的関係性の理解 4. 経済学者と理論 5. 価格決定のメカニズム、収穫逓減、ゲーム理論 6. 企業の種類と企業の役割 7. 間接金融・直接金融とは 8. 企業の社会的責任、会社は誰のものか？ 9. 景気動向の考察 10. 財政政策、景気と株価・物価・失業との関係性 11. 金融機関の役割 12. 金融商品の仕組み、不良債権について 13. 為替と貿易 14. 国際経済の動向 15. まとめ 			
評価方法	受講態度・提出課題・演習取り組み姿勢 30%、定期試験 70%			
教科書	ゼロから始める経済学入門(2014) 著者:角田明義 出版:KADOKAWA/メディアファクトリー			

科目名	ライフプランニング（菊武基礎）【英語名:Self-Directed Life Plan】	職名・担当者	講師 高木 弘恵	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	未来キャリア学科の学生が一堂に会して、「ビジネス」「幼教」「福祉」領域の教員と外部講師による講義を行い、個々人のライフプランについて学び・考え・理解する。			
到達目標	これからの人生をより良く生きるために人間力を養う知識や教養を身につける			
準備学習	事前には授業内容についてイメージを膨らましておく。 授業後に復習をしておく。			
授業方法	各担当講師が講義した内容について、毎時間レポートを提出する。 主として講義形態であるが、時に応じて演習を行うこともある。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 菊武学園 建学の精神 短期大学の 50 年の歩み 2. ビジネスマナー & 電話検定の模擬受検 3. 防犯について 4. スポーツトレーニング 5. 社会で活躍するキャリアウーマンの話 6. 働き方と生涯賃金 7. 会社経営者の話 8. 自分を知る 9. メイクアドバイスⅠ 10. メイクアドバイスⅡ 11. メイクアドバイスⅢ 12. 新聞の読み方 13. テーブルマナー講座 14. 短大の理想像グループワークⅠ 15. 短大の理想像グループワークⅡ 			
評価方法	ミニテスト(レポート) 60%、まとめレポート 40%			
教科書	指定テキストはありません。適宜プリント等を配布します。			

科目名	実践キャリア教育 I 【英語名:Practice career education I】	職名・担当者	講師 高濱 優子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	希望する進路の実現には、学生生活の充実が何よりも重要です。本講座では、学生一人ひとりの適性を鑑み、希望進路の探求および就職の達成を目指し、学生が将来の目標・目的を持って学生生活および人生を設計できるように促します。			
到達目標	人生設計・自己理解・仕事理解をふまえ、学生生活における学習目標を設定します。			
準備学習	随時指示します。			
授業方法	社会環境についての知識を得たうえで、今後の自分は「どのように働くのか」および「どのように生きるのか」などを考えていく自己探求型の授業方法で行います。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会とキャリアデザイン、有利な就職活動のための秘策 2. 人生設計 (1)現代人のライフサイクルと職業 3. 人生設計 (2)職業の持つ多面的な意味の理解 4. 人生設計 (3)キャリアの広がりと生涯発達 5. 自己理解 (1)働く意味と自分の職業観とは 6. 自己理解 (2)自己分析 7. 仕事理解 (1)キャリア意識の明確化 8. 仕事理解 (2)経済・雇用環境に応じた働き方の理解 9. 職場理解 (1)インターンシップを活用したキャリア考察 10. 職場理解 (2)キャリア形成と求められる基礎能力 11. 職場理解 (3)多彩な職種や業種の理解と適職の探求 12. キャリアのケーススタディー (1)実例で考える将来設計 13. キャリアのケーススタディー (2)様々なキャリア形成のあり方 14. キャリアデザインに向けて (1)キャリアデザインの方向性 15. キャリアデザインに向けて (2)全体の振り返り 			
評価方法	受講態度 30%、ワークへの取り組み姿勢 30%、課題提出物 40%			
教科書	理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座 第2版(2014) 監修:大宮登 出版:日経 BP 社			

科目名	日本語表現【英語名:Japanese expression】	職名・担当者	教授 西川 三恵子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	1	1	1
学修目標	ビジネス社会に求められている能力の一つである状況対応能力を養うため、「聞く・話す・書く・読む」の国語力を学び、社会人基礎力を養う。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・間違っ覚えてしまった言葉を正しいものに直す。 ・コミュニケーション能力を高め、人と正しい会話で話すことができる。 ・話し言葉と書き言葉の違いを理解し、ビジネス文書を書くことができる。 			
準備学習	日頃から正しい文章を「読む」習慣を身につけ、読めない漢字や意味の分からない語彙などについて自ら調べておく。			
授業方法	テキストや配布プリントを用いての講義だけに終わらず、演習課題などで「書く・話す・聞く」能力を高める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネスにおける情報伝達について 2. コミュニケーション技法 3. 用語や語彙について ①慣用句・四字熟語など 4. 用語や語彙について ②尊敬語・謙譲語・丁寧語 5. 話すことの基本 ①相手に与える印象 6. 話すことの基本 ②話し方と気くばり 7. 電話応対・来客応対での表現 8. 指示の受け方・報告の仕方 9. 川柳から表現方法を学ぶ 10. 書くことの基本 ①文章の構成 11. 書くことの基本 ②レポートと論文の違い 12. 校正記号 13. ビジネス文書作成 ①社内文書 14. ビジネス文書作成 ②社外文書 15. まとめ 			
評価方法	試験 60%、課題 20%、受講態度 20%			
教科書	<p>参考テキスト: 知らないとゼッタイ恥をかく社会人話し方のマナーとコツ 角川学芸出版 2007</p> <p>その他必要に応じてプリントやコピーを配布する。</p>			

科目名	ビジネス情報【英語名:Business Information】	職名・担当者	講師 武田 直之	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	企業という組織の特徴を理解し、企業における「情報」種類やそれぞれの取り扱いの際、留意しなければならない点について理解する。			
到達目標	「情報」のもつ意義を理解し、適切に取り扱うことができるようになる。			
準備学習	教科書を一読しておくこと。			
授業方法	講義形式で実施していく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.「情報」の重要性 2.情報通信技術と実務 3.社会で必要とされる情報リテラシー 4.コンピューターリテラシー 5.企業におけるコンピューターのネットワーク化 6.企業における情報の共有化 7.個人の責任とマナー、ネチケット 8.個人情報の保護と知的所有権 9.パソコン導入に必要な知識 10.メンテナンスのための基礎 11.エンドユーザコンピューティング 12.データベースの特徴と活用 13.ビジネスにおける情報技術の適用事例と実践 14.インターネット技術の活用と展望 15.まとめ 			
評価方法	小レポート 40%、定期試験 60%			
教科書	ビジネスシリーズビジネスと情報			

科目名	秘書検定講座 I 【英語名:Secretary skill test Vol.1】	職名・担当者	教授 西川 三恵子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	ビジネスワークにおける特に秘書としての仕事の進め方を理解する。 実務技能検定協会主催の秘書検定問題集をとおして、仕事に対する心構えを理解する。			
到達目標	実務技能検定協会主催秘書検定3級を未修得の学生については6月実施の検定において3級合格を目指す。 また、2級・準1級・1級受験希望の学生にも個別対応でそれぞれの合格を目指す。			
準備学習	(予習)指定教科書に目を通し、不得意な領域はマーカーを付けるなどして、何度も読み返す。推奨教科書は準備学習のためのテキストで、最新の過去問題から傾向と対策を学ぶ。 (復習)授業中に問題の解答・解説を行う時には必ず各問題の注意点を書き込み、自宅に戻り復習する。 予習・復習合わせて1時間程度。			
授業方法	テキストを用いての説明(講義)をしたり、過去問題を実際に解き(演習)、さらに、解答と解説の時間を設け、じっくりと説明(講義)を加える。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 最新回(2月)の3級検定問題:演習 2. 最新回(2月)の3級検定問題:解答・解説 3. 理論編:秘書の資質・職務知識 4. 理論編:職務知識・一般知識 5. 理論編演習問題:演習 6. 理論編演習問題:解答・解説 7. 実技編:マナー・接遇 8. 実技編:接遇・技能 9. 実技編演習問題:演習 10.実技編演習問題:解答・解説 11.最新回(6月)の3級検定問題:演習 12.最新回(6月)の3級検定試験:解答・解説 13.最新回(6月)の2級検定問題:演習 14.最新回(6月)の2級検定問題:解答・解説 15.単位認定試験模擬問題:演習 			
評価方法	演習 80%・検定 20%			
教科書	指定教科書:秘書検定3級 クイックマスター 推奨問題集:2015年度版 秘書検定実問題集3級 なお、2級・準1級を受験希望の学生は自分に応じた級をご準備ください。			

科目名	ビジネスマナー基礎 I 【英語名:Business manner basic I】	職名・担当者	講師 児玉 美由紀	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	1あいさつ、言葉遣い、来客対応、電話の対応、ビジネス文書の書き方など基礎的なビジネスマナーを身に付ける。 2ビジネスコミュニケーションスキルの基本知識、傾聴・共感などの基本スキルを身に付ける。			
到達目標	ビジネスマナーの必要性と重要性を理解できるようになる。演習を通してポイントを体得し、実際のビジネスシーンに活用できるようになる。			
準備学習	毎回の授業の始めに前回の振り返りを行う。 必ずポイントを再確認してから授業に臨む事。			
授業方法	ロールプレイング・グループワークなど実践を交えた講義。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネスパーソンとマナー 2. 自己表現する 3. ビジネスの言葉遣い 4. ビジネスの会話 5. 受付対応のマナー 6. 紹介・名刺のマナー 7. 訪問のマナー 8. お茶のおもてなし 9. ビジネス電話のマナー 受け方・取り次ぎ 10. ビジネス電話のマナー かけ方 11. 冠婚葬祭のマナー 12. 就職活動のマナー 13. ビジネスコミュニケーションを学ぶ 14. 話を聴くためのスキル 傾聴・観察・共感 15. 理解を深めるためのスキル 質問・確認 			
評価方法	定期試験 70% 授業でのロールプレイング 20% レポート 10%			
教科書	ワークで学ぶビジネスマナー(西文社) ワークで学ぶコミュニケーションスキル(西文社)			

科目名	インターンシップ° I 【英語名:Business Internship】	職名・担当者	教授 山本・島宗	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	就職活動を始める前に、自分自身が志望してるまたは興味を持っている職種、業種について実体験を積むことにより、適正や職業観、職業意識について考えることを目標とします。			
到達目標	それぞれの学生がインターンシップを経験することで就職活動に役立てる。また、報告会で企業で経験したことを発表して評価をうける。			
準備学習	企業研究、分野、業種を調べる。新聞等で社会情勢など会社がかかわる情報を調べる。			
授業方法	①4月～8月に学内で6回の事前研修 ②8月～9月に5日間(40時間)以上の企業研修 ③研修後に報告会での報告 ④報告書の提出 以上すべてを行い単位を取得します。 医療事務希望者は後期に、それ以外の職種希望者は前期に登録してください。 研修費、研修中の諸費用(交通費、昼食代、制服クリーニング代等)は自己負担です。研修先により負担額は違います。			
授業計画	1. 事前研修 1(ガイダンス) 2. 事前研修 2(マナー) 3. 事前研修 3(情報とセキュリティー) 4. 事前研修 4(面接・研修先決定) 5. 事前研修 5(必要書類の説明) 6. 事前研修 5(必要書類の作成) 7. 企業研修 1(研修 1～5 時間) 8. 企業研修 2(研修 6～10 時間) 9. 企業研修 3(研修 11～15 時間) 10. 企業研修 4(研修 16～20 時間) 11. 企業研修 5(研修 21～25 時間) 12. 企業研修 6(研修 26～30 時間) 13. 企業研修 7(研修 31～35 時間) 14. 企業研修 8(研修 36～40 時間) 15. 報告会・報告書提出			
評価方法	事前研修 20%、企業側の評価書 40%、報告会報告 20%、報告書 20%			
教科書	本学生用『就職の手引き』を配布します。			

科目名	簿記入門Ⅰ【英語名:Introduction to bookkeepingⅠ】	職名・担当者	非常勤講師 加藤 由美子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	1	1	1
学修目標	簿記検定の取得は就職に有利となり、また、簿記の知識はビジネス社会では必要不可欠なツールです。 今までに、簿記を学んだことのない初心者を対象として、日商簿記3級レベルの個人商店の決算書の初歩的な見方が出来ることを目指します。			
到達目標	日商簿記3級までのレベルの簿記用語の意味とルールを理解、簿記の仕組みと業務の流れの理解を目標にします。そして、日商簿記検定3級に挑戦できるレベルを目指す簿記入門Ⅱにつなげていきます。			
準備学習	講義前までに教科書の該当箇所を読んでおくこと。			
授業方法	テキストによる講義と簿記用語と仕組みを理解できるように分かりやすい言葉と具体例を使い進めます。 また、ミニ演習をその都度取り入れながら理解の定着を図っていきますので、毎回、電卓を使用します。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記入門Ⅰのガイダンス、簿記の基礎(簿記一巡) 2. 簿記の要素と勘定科目、仕訳と転記のルール 3. 記帳の流れ:仕訳帳と総勘定元帳 4. 商品売買 5. 現金と当座預金 6. 手形:約束手形と為替手形 7. 手形:手形の裏書き、手形の割引き 8. 有価証券、固定資産 9. 前払金と前受金 未収金と未払金 仮払金と仮受金 立替金と預り金 10. 商品券 貸付金と借入金 資本金と引出金 税金 訂正仕訳 11. 試算表作成 12. 決算手続と決算整理事項 13. 決算整理事項 14. 精算表作成 損益計算書と貸借対照表作成 帳簿の締切 15. 伝票、補助簿の種類と各帳簿への記入 <p style="text-align: center;">(授業の進度により内容が多少変わります)</p>			
評価方法	定期テスト70% 学習意欲30%			
教科書	滝澤ななみ著 TAC出版 『みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級商業簿記 第3版			

科目名	簿記検定講座Ⅰ【英語名:Bookkeeping authorization courseⅠ】	職名・担当者	非常勤講師 加藤 由美子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	日商3級の受験経験者及び日商3級取得者を対象にカリキュラムを組みます。 6月検定までは日商簿記3級の復習を行い、検定レベルを目指します。また並行して、日商2級工業簿記の基本用語・知識・解答スキルの修得を目指します。			
到達目標	日商3級の範囲を復習し、3級未取得者の6月検定合格を目指します。 また、日商2級工業簿記の基本用語・知識を理解し、日商2級検定に挑戦できるレベルを目指す検定講座Ⅱにつなげていきます。			
準備学習	『簿記の問題集 日商3級』を指示範囲表にそって事前に学習してきてください。また、工業簿記のテキストを事前に読んできてください。			
授業方法	日商3級の復習としては、各回の準備学習の範囲の解説を6月検定前まで行います。 工業簿記は商業簿記とは全く異なり、製造業を対象とした原価計算を含みますので、教科書をもとに基本用語・知識を効率よく学べるように授業をすすめます。また、教科書で足りない最新情報をプリントして配布し、最新傾向の対策を学習します。 電卓を毎回使用します。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 最近の本試験の傾向、 工業簿記の全体像 2. 費目別計算 材料費 3級第1問対策演習 3. 費目別計算 労務費、経費 3級第1問対策演習 4. 個別原価計算 3級第3問対策演習 5. 部門別個別原価計算 3級第3問対策演習 6. 総合原価計算Ⅰ 単純総合原価計算 3級第5問対策演習 7. 総合原価計算Ⅱ 工程別総合原価計算 組別総合原価計算 等級別総合原価計算 3級第5問対策演習 8. 総合原価計算Ⅲ 仕損・減損の処理 3級第2問対策演習 9. 総合原価計算Ⅲ 材料の追加投入 3級第4問対策演習 10. 本社工場会計 3級対策演習 11. 工業簿記における財務諸表 12. 標準原価計算 原価標準の設定～原価差異の分析 13. 標準原価計算 原価差異分析と差異分析図 14. 直接原価計算と全部原価計算 15. CVP分析 <p style="text-align: center;">(授業の進度により内容が多少変わります)</p>			
評価方法	定期テスト70% 学習意欲30%			
教科書	<p>教科書</p> <p>① 滝澤ななみ著 TAC出版 『みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商2級 工業簿記 第2版』</p> <p>② 滝澤ななみ著 TAC出版 『みんなが欲しかった 簿記の問題集 日商3級 商業簿記 第3版』</p>			

科目名	マネジメント概論【英語名:Management outline】	職名・担当者	講師 高濱 優子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1・2
学修目標	企業の役割、しくみ、各職種の業務内容などを総合的に学び理解することで、まずは直面している就職活動における企業研究に役立て、さらに卒業後社会に巣立つ学生にとって知っていてよかったと感じられる知識が得られます。			
到達目標	ビジネス全般の知識を得ることで部分のみならず全体最適の視点を養い、就職活動はもちろんのこと、さらには組織から必要とされるビジネスパーソンに飛躍させるための術を学び取ります。			
準備学習	随時指示します。			
授業方法	座学のみならず、学びを定着させるための演習を行います。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、私たちの暮らしと企業経営 2. 環境の変化と企業経営 3. 現代の企業社会と経営学を学ぶ意義 4. 経営と所有の分離 5. 企業の活動経営目標と経営理念・戦略の策定方法 6. 経営資源の獲得、利用、蓄積、配分 7. マネジメント方法と組織の理解 8. 経営システム・情報システムとインターネット・ビジネスの発展 9. 企業の競争戦略と協調戦略 10. マーケティング 11. 生産と研究開発 12. 財務管理・資金調達方法と経営活動を評価する基準の理解 13. 企業における人材マネジメント方法 14. 企業文化の機能 15. まとめ 			
評価方法	受講態度 20%、提出課題 30%、定期試験 50%			
教科書	<p>はじめて学ぶ人のための経営学入門—セメスターテキストシリーズ〈1〉(2008) 著者:片岡 信之、佐々木 恒男、高橋 由明、渡辺 峻、齊藤 毅憲 出版:文眞堂ブックス</p>			

科目名	高齢者福祉論【英語名:Senior citizen care theory】	職名・担当者	講師 藤田 委子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1・2
学修目標	高齢社会の現状を理解し、介護保険制度の必要性を学びます。介護保険制度の理念・目的・制度の仕組みを理解し、介護保険事務士取得のための学科試験の合格を目指します。			
到達目標	介護保険事務士学科試験を合格する。			
準備学習	授業の前には、テキストの該当箇所を読んでおき、わからないところを調べておくようにしてください。			
授業方法	介護保険事務士テキストにしたがって、高齢社会と介護保険の概要を学びます。介護の理解を深めるため、VTR を視聴したり、介護機器や介護用品にふれることもします。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 高齢社会の現状 3. 介護保険制度の創設 4. 介護保険制度の目的と理念 5. 介護保険制度の改正 6. 保険者と被保険者 7. 介護保険の財源 8. 保険料 9. 要介護・要支援認定 10. 保険給付 11. 保険給付の内容 12. 介護報酬 13. ケアマネジメント 14. 介護機器・介護用品 15. 介護保険制度のまとめ 			
評価方法	受講態度 30%、レポート 30%、定期試験 40%			
教科書	介護保険事務士養成テキスト学科編(テキスト代・検定料・登録料など 24,000 円が必要です)			

科目名	ロジカルシンキング【英語名:Logical Thinking】	職名・担当者	非常勤講師 石田 敬二	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	ロジカル・シンキング(論理的思考)の基本は“わかりやすさ!”本科目ではロジカル・シンキングの思考フレームや重要スキルを理解し、わかりやすく説得力のある資料作成や説明力といったビジネス基礎力を高めます。就職活動そして人生で成果を勝ち取るための中核能力として、ロジカル・シンキングを自分のエンジンにしましょう!			
到達目標	ビジネス基礎力のベースとなるロジカルシンキングの基本を学び、就職活動や社会の現場での活用に備える			
準備学習	毎回、前回の授業内容を復習し、出された課題を着実に遂行してください。			
授業方法	毎回テーマ別のプリントを準備し基礎理論を講義し、その後にケーススタディやディスカッション等の演習を行い実際の活用力を高めます。活用のための当事者意識を高めるために、自分でテーマを選定(就職活動等)する実践的課題も設定します。 基本的にはパワーポイントを活用して授業進行を行います。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ロジカル・シンキングの基本とそのメリット 2. ロジカル・シンキングの思考フレーム ～ゼロベース思考、仮説思考、オプション思考～ 3. フレームワークを活用しよう① ～3C 分析～ 4. フレームワークを活用しよう② ～ポジショニング、グラフ等～ 5. 説得力・理解力を高める演繹法と帰納法 6. トップダウン思考とボトムアップ思考 7. ロジック・ツリーの基本とMECEの切り口 8. ロジック・ツリー活用演習① ～WHY ツリーの概説と演習～ 9. ロジック・ツリー活用演習② ～How ツリーの概説と演習～ 10. ロジック・ツリー活用演習③ ～個人演習と発表～ 11. わかりやすく説明するためのロジカル・プレゼンテーション 12. 一歩踏み込んだクリティカル・シンキングの活用 13. ロジカルなストーリー展開と資料作成方法 14. ロジカル・シンキング実践ケーススタディ① ～実践演習～ 15. ロジカル・シンキング実践ケーススタディ② ～まとめと成果発表・フィードバック～ <p>※～○○○○～の表記部分については、活用スキル又は実施内容</p>			
評価方法	定期試験 40 %、受講態度(参加度) 30 %、小テスト・課題レポート 30 %			
教科書	プリント、ケーススタディ、チェックテスト等を適時に配布します。			

科目名	医療事務 I 【英語名:Medical office work I】	職名・担当者	講師 塚本 佳子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	1. 医療事務検定への合格を目指す。 2. 医療保険制度、診療費支払いのしくみなど、診療報酬請求事務に必要な基本的知識を学ぶ。 3. 診療報酬点数の算定方法を学び、診療報酬明細書作成の技術を習得する(初診料～在宅医療)。			
到達目標	保険のしくみを知り、初診料～在宅医療までの診療報酬の算定ができるようになる。			
準備学習	出された課題は確実にいき、次週の授業前に必ず提出すること。			
授業方法	各算定方法の説明後、テキストおよび配付プリントの練習問題、診療報酬明細書作成に取り組む。			
授業計画	1. 医療機関と薬局／医療保障制度 2. 保険給付 3. 医療事務の仕事支払いのしくみ 4. 公費負担医療 5. その他の医療関係制度(労災保険／介護保険) 6. 医療事務スタッフの心構え 7. 基本診療料 初診料(所定点数と加算の方法) 8. 基本診療料 初診料(レセプト記載の方法) 9. 基本診療料 再診料(所定点数と加算の方法) 10. 基本診療料 再診料(レセプト記載の方法) 11. 特掲診療料 医学管理等(点数算定の方法) 12. 特掲診療料 医学管理等(レセプト記載の方法) 13. 特掲診療料 在宅医療(点数算定の方法) 14. 特掲診療料 在宅医療(レセプト記載の方法) 15. まとめ			
評価方法	定期試験60%、課題提出30%、受講態度10%で評価する。			
教科書	『医科テキスト1, 2, 3, 5』ソラスト 『診療点数早見表 2015年度4月(医科)』医学通信社			

科目名	人体の構造と機能及び疾病【英語名:Structure, Function, and Disease of Human Body】	職名・担当者	講師 早川 健太郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	<p>・人間のからだのしくみと働きについて理解し、各器官の正常な位置・構造・働きについて各自のからだのしくみと照らし合わせて活用できるようにする。</p> <p>・日常よくみられる疾患を取りあげ、その原因・症状・診断・看護について理解し健康上の課題が何であるかを疾患を通して学び家庭医学について応急処置ができるようになる。</p>			
到達目標	健康に関する仕事に従事する者として、身につけるべき知識を身につける。			
準備学習	普段、使いなれない言葉や漢字が多いので、授業前に教科書を一読しておくこと。			
授業方法	パワーポイントを用いて行う。 教科書を基本に学修する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 人体の構成・性と生殖器・固体の識別－免疫 3. 循環器系・呼吸器系・消化器系 4. 感覚器・神経系・内分泌系・運動器系 5. 循環器系の病気 6. 消化管の病気 7. 消化器の病気 8. 呼吸器の病気 9. 腎臓の病気 10. 生殖器の病気 11. 中枢神経系の病気 12. 運動器の病気 13. 救命・応急処置 14. 医学用語・略語と記号 15. まとめ 			
評価方法	定期試験 40%、受講態度 40%、課題提出物 20%			
教科書	医療秘書医学シリーズ② 改訂基礎医学 建帛社 医学・医療用語ハンドブック 日本医療福祉実務教育協会 建帛社			

科目名	情報処理【英語名:Information Processing】	職名・担当者	講師 早川 健太郎	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	これまでに学んできたソフトウェアの操作を中心に、短大生として最低限の共通レベルの知識と技能を身に付けます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書が作成できる。 ・デザイン文書が作成できる。 ・関数の利用と応用、各種グラフ作成ができる。 ・効果的なプレゼンテーションができる。 			
準備学習	キーボードに慣れ、一定の速度で日本語入力ができるよう練習しておくこと。			
授業方法	教科書を中心に演習課題を進めて頂きます。各自のスキルに合わせて、積極的な自己理解と問題解決に取り組んで頂きます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(アカウント配布, PC 及び電子メールのログオン確認) 2. Windows 基本操作(1:OS の基礎知識) 3. Windows 基本操作(2:ファイルとフォルダの操作) 4. Windows 基本操作(3:ネットワーク[H, R, W]ドライブの操作) 5. 日本語ワードプロセッサ演習(アプリ基本操作) 6. 日本語ワードプロセッサ演習(文書入力技術) 7. 日本語ワードプロセッサ演習(文書構成技術) 8. 表計算演習(アプリ基本操作) 9. 表計算演習(セルの概念と各種演算操作) 10. 表計算演習(関数の利用と応用) 11. プレゼンテーション演習(アプリ基本操作) 12. プレゼンテーション演習(図形描画技術) 13. プレゼンテーション演習(シナリオ構成) 14. 情報セキュリティと情報モラル 15. 復習課題 			
評価方法	課題レポート 50%、定期試験 50%で評価する。			
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2010』 杉本くみ子・吉田栄子 著, 実教出版 2. 『名古屋産業大学・名古屋経営短期大学 情報センター 利用の手引き』 			

科目名	国内旅行実務【英語名:Domestic Travel Business】	職名・担当者	講師 島宗 俊郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	学内旅行社、KEIEITAN ツアーズを利用して着地型旅行商品を作り、旅行社に企画商品として紹介する。			
到達目標	2～3名の班に分け、班ごとにパワーポイントを使い、自分が行ってみたい着地型の旅行商品を企画、発表し合わせてプレゼンテーションの力を習得する。又お互いに共同作業することも学習する。 そして4セメの「観光マーケティング」との関連性を理解する。発表の審査委員は学科長にお願いしています。			
準備学習	旅行会社の店頭にある旅行パンフレットを集めて、研究する。			
授業方法	旅行企画(尾張旭、長久手、瀬戸、名古屋を発見する)をする際の必要知識を学び、旅行を作りプレゼンをする、又観光現場で働いている先輩の職場見学もする。昨年はこの職場見学が大好評で本年度は長島スパーランドを6月に予定。 実費が¥4,000位掛かる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.授業のガイダンス。 2.旅行業法・約款 3.地理・愛知県の観光名所 4.旅行企画 班分け 5.貸切バス約款 運賃計算 6.外務員、旅程管理、 7.作品作成 旅行のコンセプトを考える 8.作品作成 発表枚数の構築 9.作品作成 パワーポイントで作成 10.作品作成 発表内容の原稿作成 11.作品作成 作品の手直し 12.プレゼンテーション予行演習 13.旅行実施 6月13日(土)長島観光開発予定 14.プレゼンテーション 15.纏め 			
評価方法	共同作業(班)ですることが多いので、受講態度は重要視する、50%。作品、50%。 3回遅刻は1日欠席と見なす。			
教科書	プリント配布			

科目名	観光ネットワーク(国内)【英語名:AXESS Training I】	職名・担当者	講師 島宗 俊郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	旅行業の従事に不可欠なコンピューター予約システムの一つであるAXESSを、社会に出てすぐ操作できるよう基本技能を身につけることがねらいです。			
到達目標	7月に行われる予定の AXESS 国内予約3級合格を目指す。			
準備学習	パソコン室で、習ったことを入力練習をする。			
授業方法	㈱アクセス国際ネットワークのプログラムに沿って、検定試験を受験するまでの研修を行い、国内予約3級合格を目指します。航空座席の空席照会から予約までの手順を実際の現場で使用されているシステムを利用し臨場感あふれる環境で技術を身につけていきます。また、技術習得が目的の為、継続しての受講が条件となります。 検定試験は7月の予定。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎・予備知識、AXESS操作方法、各種コード検索 2. 空席照会 3. 空席照会からの予約 4. 旅客データの入力・削除・訂正(旅客名) 5. 旅客データの入力・削除・訂正(連絡先・申込者/担当者) 6. 予約記録の作成 7. 予約記録の作成・抽出・予約コード 8. 旅程の取り消し・変更 9. 総復習 10. 事前座席指定 隣同士に座席を指定する 11. 事前座席指定 予約している座席をキャンセルし新しく座席を指定する 12. 総復習 13. 検定対策問題(3級)(1)第23回過去問復習 14. 検定対策問題(3級)(2)第24回過去問復習 15. 検定対策問題(3級)(3)第25回過去問復習 16. テスト 			
評価方法	小テスト成績30%,「AXESS 実用検定試験」の成績50%,出席、授業態度点20%			
教科書	「AXESS旅行総合システム国内旅客予約発券業務基礎 2013」 「AXESS操作早見表(国内)」			

科目名	国内旅行業務取扱管理者講座【英語名: Certified Domestic Travel Service Manager I】	職名・担当者	講師 島宗 俊郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	国家資格「国内旅行業務取扱管理者」資格試験合格を目的とする。国内旅行業を営む旅行代理店には有資格者が必要。現場で活かせることができるようになる。			
到達目標	年1回9月の試験に向けて勉強し10月末の結果発表。			
準備学習	毎日コツコツ勉強すれば、専門学校生、大学生に負けない。			
授業方法	年1回9月に行われる試験に向けて、15回の授業で合格できるよう指導するが、夏休みに数回事前試験対策授業を行う。			
授業計画	1. 旅行業法に関する知識 旅行業法の目的 2. 旅行業法に関する知識 旅行業の定義 3. 旅行業法に関する知識 営業保証金 4. 旅行業法に関する知識 旅行業務取扱管理者 5. 旅行業法に関する知識 旅行業務取扱料金 6. 約款に関する知識 国内航空 7. 約款 JR 営業規則 JR 運賃 8. 約款に関する知識 宿泊料金 9. 約款に関する知識 貸切バス 10. 旅行実務に関する知識 国内観光地理 北海道 東北 11. 旅行実務に関する知識 国内観光地理 関東 12. 旅行実務に関する知識 国内観光地理 中部 13. 旅行実務に関する知識 国内観光地理 近畿 14. 旅行実務に関する知識 国内観光地理 中国 四国 15. 旅行実務に関する知識 国内観光地理 九州 沖縄			
評価方法	受講態度20%、小テスト30% テスト50%で評価 9月に行われる国家試験は受ける事が望ましい。 平成25年度の受験料¥5,800.			
教科書	一発合格「国内旅行業務取扱管理者試験 テキスト&問題集」 ナツメ社 著者 児山寛子 ¥1,500. +税			

科目名	Word Excel 基礎【英語名:Word & Excel basic】	職名・担当者	講師 武田 直之	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	実践的な課題に取り組みながら、Word、Excel の活用法について学ぶ。目的に合わせて機能を取捨選択できる判断力を養い、美しい文書、資料の作成ができる。			
到達目標	Word、Excel の利用目的を明確にし、その目的に応じた処理・演算ができる。			
準備学習	事前にテキストを一読しておくこと。			
授業方法	コンピュータを用いた演習を中心に進める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.ビジネス文書の作成と管理 2.報告書の作成・印刷 3.表の作成・編集 4.ワードアート、クリップアート、図形の挿入 5.グラフの作成、挿入 6.フォーマットや他ファイルの利用 7.スタイル、テーマの編集 8.目次と段組み 9.ワークシートの編集 10.セルの参照 11.計算式の利用(1) 基礎 12.計算式の利用(2) 応用 13.データベース入門(1) 基礎 14.データベース入門(2) 応用 15.まとめ 			
評価方法	演習問題・課題 50%、定期試験 50%			
教科書	30 時間アカデミック情報リテラシーOffice2010			

科目名	ネイル・エステティック&ブライダル【英語名:Nail・Esthetics&Bridal Business】	職名・担当者	非常勤講師 近藤 諭美	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	<p>ネイル爪の構造、皮膚科学に関する知識とともに、ネイルの施術に際して必要とされる実践的技術を実践的に学習する。</p> <p>エステエステティックの基礎となる生理解剖や皮膚学の知識とともに、フェイシャルエステの基本手技について実習を通して学習する。</p> <p>ブライダルブライダルに関する基礎知識とともに、ドレススタイリングスキル及びブライダルヘアメイクの技術を実践的に学習する。</p>			
到達目標	<p>ネイル 自分の爪を美しく整え、清潔感溢れるネイルアートの施術ができるようになる。</p> <p>エステ 自分の顔に適切な手順でマッサージを行い、皮膚が本来持つ美しさを引き出すことができるようになる。</p> <p>ブライダル ブライダルに関する一通りの知識と、ドレスコーディネートスキルを身につけることができる。</p>			
準備学習	<p>予習>ネイル 爪の構造について調べておく</p> <p>エステ 皮膚の構造について調べておく</p> <p>ブライダル 人気の結婚式場を調べ、その人気の理由を調べておく</p> <p>復習>ネイル ネイルアートの反復練習</p> <p>エステ フェイシャルエステの反復練習</p> <p>ブライダル ヘアメイクの反復練習</p>			
授業方法	担当教員作成のオリジナルプリントを配布して、座学の授業を進める。その後、実習形式の授業を実施。			
授業計画	<p><ネイル></p> <p>1. ネイル基礎 (2)コンセプトシート作り</p> <p>(1)爪の構造 (2)皮膚科学 (3)ドレスコーディネート</p> <p>2. カラーポリッシュ塗布Ⅰ 3. ブライダルヘアメイクⅠ</p> <p>(1)爪のファイリング(削り方) (1)ヘアメイク</p> <p>(2)キューティクル処理(甘皮除去) 4. ブライダルヘアメイクⅡ</p> <p>3. カラーポリッシュ塗布Ⅱ (1)ボディーアート</p> <p>(3)バフフィング(磨き方) ・(2)ドレス着用</p> <p>(4)油分処理 5. ドレスコーディネート・撮影会</p> <p>(5)カラーポリッシュ塗布 (1)出来上がったヘアメイクに合わせ、ドレス小物をコーディネートし、スナップ撮影を行う</p> <p>4. 基礎ネイルアート</p> <p>(1)アートチップ制作 <交通費></p> <p>5. 相モデルになり、カラー&アート 授業は、大曾根 専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院にて実施されるため、交通費は自己負担</p> <p><エステ></p> <p>1. オリエンテーション、エステ概論 <教材費></p> <p>2. 皮膚科学、フェイシャルエステとは ¥5,900</p> <p>3. フェイシャルエステ技術Ⅰ <持ち物></p> <p>4. フェイシャルエステ技術Ⅱ タオル3枚(エステ授業時)</p> <p>5. フェイシャルエステ技術Ⅲ 総括</p> <p><ブライダル></p> <p>1. ブライダル概論 <その他></p> <p>DVD上映 受講者数は24名までです。受講希望者が24名を超えた場合は抽選にて受講者を決定します。</p> <p>2. ブライダルスタイリスト</p> <p>(1)ドレス基礎知識</p>			
評価方法	受講態度	60%		
	作品の完成度	40%		
教科書				

科目名	生涯スポーツ【英語名:Lifelong Sports】	職名・担当者	講師 早川 健太郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	実習	1	1	1
学修目標	<p>超高齢社会を迎えたわが国の課題として、生産年齢人口の低下や生活習慣病の増加が指摘されている。さまざまなライフステージにおいて健康/体力の維持増進や生活の質の向上を促進させるには、若年期における適切な身体運動習慣や定期的なスポーツ行動の育成が有効と考えられる。</p> <p>本講義では生涯スポーツとして様々な種目を取り上げ、身体運動の楽しさや技術を享受しながら健康/体力を維持増進し、主体的なスポーツの実践と運営を行なうことにより、永続的なスポーツライフを創造する姿勢を養う。そして授業を通して、自分自身で生涯続けられるスポーツを探求する。</p>			
到達目標	生涯続けることが出来るスポーツを見つける。			
準備学習	運動不足であることが予想されるので、普段から体操やストレッチを行うことを心がけてください。			
授業方法	体育館にて、実技を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション(服装やシューズなど講義に関する諸注意を行ないます) 2.アイスブレイキング 3.体力測定 4.バスケットボール① 基本 5.バスケットボール② 試合 6.リングテニス① 基本 7.リングテニス② 試合 8.ソフトバレーボール① 基本 9.ソフトバレーボール② 試合 10.バドミントン① 基本 11.バドミントン② 試合 シングルス 12.バドミントン③ 試合 ダブルス 13.卓球① 基本 14.卓球② 試合 シングルス 15.卓球③ 試合 ダブルス <p>* 学生数、学習の進捗状況により、他種目を教材として取り扱う場合がある。</p>			
評価方法	受講態度 60% レポート 40%			
教科書	特に指定しない。			

科目名	観光と約款【英語名:Sightseeing and Provision】	職名・担当者	教授 山本 芳功	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	私たちが旅行に出かける場合、旅行者(代理店)を利用することが多い。その旅行者を規律する法令が旅行業法である。また、具体的な旅行の契約は標準旅行業約款、その他の約款で契約内容が規制されている。講義では、これらの約款や業法について説明する。			
到達目標	約款とは法律である。 日本旅行業協会の法規制を理解することで旅行の法律についての仕組みを学ぶことになる。			
準備学習	旅行パンフレットを回収しよく読んでみる。目にしない場所に法律事項がある。			
授業方法	講義形式。日本旅行業協会のまとめた法規制の実務について説明する。 観光の検定試験に対処するため、練習問題を課すことがある。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・旅行の約款とは 2. 消費者契約法とは 3. 予備知識(条文の解釈) 4. 第1条から 適用範囲 5. 特約 6. 企画旅行の定義 7. 企画旅行契約 8. 第5条から 契約の締結 9. 契約の申込み 10. 契約の成立時期 11. 契約書面・確定書面 12. 旅行者の義務 13. 第13条から 契約内容の変更 14. 第16条から 契約の解除 15. 全体の解釈 			
評価方法	3回の練習問題(40%)・レポート(60%)にて評価			
教科書	プリントを配布する			

科目名	観光英会話【英語名:Tourism English】	職名・担当者	講師 西浜 クリス	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	観光客が置かれている状況や問題について、その場に応じた柔軟な対応ができる会話力と態度を学習する。			
到達目標	教科書に出てくる観光に関する様々な場面に必要な会話力を身につける。			
準備学習	予習として次回の授業のユニットの分からない単語調べや前回学んだユニットの復習をする。			
授業方法	教科書を活用して、互いにロールプレイや会話をしながら実力を身につけます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義で使用するあいさつ、質問の仕方、その他の表現方法、等 2. How long are you staying? (税関での会話、W5H の使い方) 3. Nice to meet you (自己紹介) 4. Make yourself at home (ホームステイ先での会話) 5. What time is dinner?(食事の時間やホテルでの会話) 6. It's a kind of jacket(日本の習慣の説明) 7. How was it?(最近の出来事の説明) 8. Help yourself(好き嫌いなどの食べ物に関する会話) 9. I'd like fifteen tickets, please(交通手段における切符の買い方) 10. Can I have a towel, please?(丁寧な依頼や器具の使い方の説明) 11. Are you into music?(興味、趣味に関する会話) 12. Tell me about your family(家族に関する会話) 13. I'm hungry(食べ物を買う時の売店での会話) 14. What are you doing tomorrow?(予定に関する会話) 15. How much is it?(値段を尋ねる時の会話) 			
評価方法	授業での積極性 50%、期末課題 50%			
教科書	My First PASSPORT1 OXFORD			

科目名	美容法【英語名:Beauty method】	職名・担当者	非常勤講師 原 志保	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	1	1	1・2
学修目標	将来的に美容家として活躍できるような知識を身につける。 美容法を学び心身ともに美しくなることで、就職活動や仕事に生かしていく。			
到達目標	まずは自分自身が変わることが大切なので、講義終了時には何らかの形で変わることを目標とする。			
準備学習	毎回、勉強したことを普段から実践する。			
授業方法	講義・実践を混じえながら行う。講義はパワーポイントやプリントを使って行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.お肌のしくみ 3.お肌のお手入れ方法 4.メイクレッスン ～基本のやり方～ 5.メイクレッスン 2 ～実践～ 6.メイクレッスン 3 ～仕上げ～ 7.食事について 8.ボディメイキング ～美しいボディラインの作り方～ 9.ボディメイキング 2 ～歪んだ身体を整える～ 10.セルフマッサージ 11.デコルテマッサージ 12.マッサージのまとめ 13.骨盤ストレッチング・ウォーキング 14.骨盤ストレッチング・ウォーキング ～仕上げ～ 15.まとめ 			
評価方法	定期試験 40%、受講態度 30%、実技 30%			
教科書	原志保の美ハラシェイパーで骨盤ダイエット			

科目名	ファッションコーディネート【英語名:fashion coordinate】	職名・担当者	非常勤講師 福井 美加子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1・2
学修目標	ファッションの基礎知識、素材の取り扱い方など実生活に役立つ知識の習得とともに、ファッションで自己表現を出来るコーディネート技術を身に付ける。			
到達目標	日常のファッションセンスを磨くと共に、新たな自分を発見することを目指す。			
準備学習	現在の自分の持っている洋服をチェックする。 日頃から、街でどのような服が流行っているかを観察する。			
授業方法	DVDを使用したり、実際の生地を見たりしてわかりやすく展開します。 また、ファッションリサーチなど校外での授業も致します。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.教科概要の説明 2.ファッションの歴史 3.素材の知識、洗濯方法、メンテナンス 4.衣服の名称 5.ファッション小物 6.ファッションデザイン 7.ファッションビジョンマップ 8.未来ビジョンマップ 9.ファッションリサーチ 10.マテリアル(素材)リサーチ 11.ファッションコーディネート実習Ⅰ 12.ファッションコーディネート実習Ⅱ 13.ファッションリメイクⅠ 14.ファッションリメイクⅡ 15.ウエディングドレス 			
評価方法	授業態度50%、課題50%で評価します。			
教科書	プリント等を必要に応じて配付します。			

科目名	調剤事務【英語名:Basic Knowledge for clerk of Pharmacy】	職名・担当者	講師 塚本 佳子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1・2
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 調剤報酬請求事務事務検定への合格を目指す。 2. 調剤報酬の算定方法、調剤報酬明細書の記載方法を習得する。 3. 医療保険制度、調剤報酬請求のしくみなど、調剤報酬請求事務に必要な基本的な知識を学ぶ。 4. 薬についての知識を得、理解を深める。 			
到達目標	保険調剤のしくみを知り、調剤薬局における調剤報酬の点数算定が確実に出来るようになる。			
準備学習	出された課題は確実にいき、次週の授業前に必ず提出すること。			
授業方法	<p>演習問題のプリントを配付するので、各自の進度に合わせて調剤報酬明細書作成に取り組む。</p> <p>*「医療事務Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.保険調剤のしくみ 2.処方せんの知識 3.医療保険制度 4.処方欄の見方 5.調剤報酬の算定1(点数表の構成、算定の原則) 6.調剤報酬の算定2(調剤基本料と加算) 7.調剤報酬の算定3(調剤料と加算) 8.調剤報酬の算定4(薬剤料) 9.調剤報酬の算定5(薬学管理料) 10.調剤報酬算定と調剤録の記入 11.レセプトの記載方法1(基本) 12.レセプトの記載方法2(応用) 13.公費負担医療制度、介護保険制度の基礎知識 14.薬の基礎知識 15.まとめ 			
評価方法	定期試験60%、課題提出30%、受講態度10%で評価する。			
教科書	『調剤薬局事務テキスト2, 3』 ソラスト			

科目名	カラーコーディネーター検定講座Ⅰ【英語名:color coordinator official approval lectureⅠ】	職名・担当者	非常勤講師 三浦 睦子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1・2
学修目標	11 月末のカラーコーディネーター検定 3 級受験に向けての対策です。受験される方は後期のⅡも受講してください。			
到達目標	受験するしないに関わらず 3 級レベルの知識の習得です。			
準備学習	授業開始前までに教科書を購入し、12～19 ページを読んでおいてください。			
授業方法	教科書を中心に重要点を解説していきます。毎回練習問題プリントで小テストを実施します。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.検定試験の概要 色が見えるしくみ 色の三属性 2.色相環 トーン 3.色の表示方法 色名 4.前回までの復習と確認テスト 5.JIS PCCS マンセル NCS 6.CCIC 配色と色彩調和① 7.配色と色彩調和② 8.色彩調和論 9.復習と確認テスト 10.色彩心理診断体験 カラーワーク 11.色の連想・象徴 心理的効果 12.光が織りなす色彩現象 13.眼のしくみ 色覚 14.復習と確認テスト 15.まとめ 			
評価方法	学習意欲・授業態度・提出物 70%、定期試験 30%で評価します。			
教科書	『カラーコーディネーター検定試験 3 級公式テキスト』第4版 2,800 円(税別)			

科目名	基礎ゼミナールⅠ【英語名:Basic SeminarⅠ】	職名・担当者	各担当教員	
		単位数	Semester	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	就職活動に役立つコミュニケーション能力、常識的な基礎知識を向上させることを目的とする。			
到達目標	ゼミナール活動としてメンバー全員で成し遂げることを目標とする。			
準備学習	計画されたゼミ研究を理解し、前もって検討、自分なりの考えをまとめる。			
授業方法	ゼミメンバーと協力して何かをやり遂げる、まとめの小テストに取り組むなどの形で進めていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修登録確認・指導 2. ゼミ委員選出・ゼミ研究ディスカッション 3. コース指導① 履修指導と資格取得指導 4. 基礎学力① SPI 非言語「仕事算・年齢算・損益算」 5. 個別面談A班・グッジョブノート課題B班 6. 個別面談B班・グッジョブノート課題A班 7. 基礎学力② SPI 非言語「距離・速さ・時間」 8. 基礎学力③ SPI 非言語「確率・集合・推論・論証」 9. ISO ガイダンス・学生課ガイダンス 10. 基礎学力④ SPI 非言語「図形・電気回路」 11. コース指導② 就職活動に向けて 12. 基礎学力⑤ SPI 言語分野「語句の意味・慣用句」 13. 合同レクリエーション 14. 基礎学力⑥ SPI 言語分野「長文解読・敬語」 15. 基礎学力⑦ まとめ「小テスト」 			
評価方法	基礎学力 25%、課題 50%、受講意欲 25%			
教科書	講義開始時に連絡			

科目名	日本の経済と世界の経済【英語名 : Japanese economy and world economy】	職名・担当者	教授 山本 芳功	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	日本経済学の基礎理論と世界経済現象の理解。 この講義では、問題を理解するための基礎理論の修得と関わる諸問題の理解を目標とする。			
到達目標	日本の経済を理解すること。 世界の経済を理解すること。 そして、それぞれの違いについて研究史理解する。			
準備学習	新聞、経済誌をよく読む。			
授業方法	講義形式で日本経済と世界経済、日本、アメリカ、欧州、アジアの問題を新聞、雑誌等からピックアップし問題定義していく。また、今後の経済に精通した、著名人の意も紹介していく。貿易を題材にすることもある。WT.FTA.TTP.の問題についてもふれる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ミクロ経済① 需要理論と供給理論 3. ミクロ経済② 市場構造 4. 国際貿易体制 WTO 5. 戦略的貿易政策 6. 各国地域経済事情と日本米国 7. 欧州 8. アジア 9. マクロ経済① ケインズの分析 10. マクロ経済② ニューケインジアン 11. 日本経済の金融 12. 日本経済の財政政策 13. 世界経済の金融 14. 世界経済の財政政策 15. まとめ 			
評価方法	授業への取り組み・レポート課題 40 パーセント 試験 60 パーセント			
教科書	プリント配布			

科目名	実践キャリア教育Ⅱ【英語名:Practice career educationⅡ】	職名・担当者	講師 高濱 優子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	職業能力を発揮する前提として、希望の組織への内定を勝ち取るための「就職基礎能力」の向上はもちろんのこと、卒業後、社会人として自立・自律していくために、現代社会が求めている「社会人基礎力」を養成する講座です。			
到達目標	自分に適した仕事を見つけるジョブマッチングを行い、就職活動をサポートするとともに、税金・年金を含む「お金」に関する知識、ビジネスマナーなどの社会常識、業種・職種・企業などの研究方法、文章力を高める思考法とスキルなどが習得できます。			
準備学習	随時指示します。			
授業方法	座学のみならず、ワークシートの作成や、グループワーク、グループディスカッションを取り入れた講義形式です。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 働く意味を考える、多様化された雇用形態の理解 2. 業界研究、職業研究、企業研究、就職活動の理解 3. エントリーシート等、提出書類の書き方 4. キャリアアンカーの探索、エニアグラム・ホランド理論によるジョブマッチング 5. ポジティブシンキング、リフレーミング、ロジカルライティングとわかりやすい状況説明 6. ホランド理論によるジョブマッチング 7. 今後の実行計画立案と自己PR、志望動機の記入方法 8. 提出書類内容の推敲 9. お金の意味と税金と社会保険を考える 10. ビジネスマナー 11. 面接指導 12. 面接指導テスト 13. 就職活動指導①重要ポイント講義 14. 就職活動指導②エントリーシート、質疑応答対策 15. まとめ 			
評価方法	受講態度 30%、ワークへの取り組み姿勢 30%、課題提出物 40%			
教科書	社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック 社会理解編(2012) 著者:寿山 泰二 出版:金子書房			

科目名	販売士検定講座【英語名:Retail Sales】	職名・担当者	教授 西川 三恵子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	小売業の販売員に必要な基礎知識として、小売業の種類、マーチャダイジング、ストアオペレーション、マーケティング、販売・経営管理について学習し、販売士検定3級合格を目標とした授業を行う。			
到達目標	販売士検定は販売員向けの唯一の公的資格であり、実社会でも多くの資格取得者が活躍しています。 学生時代に資格取得することは大変意義のあることで、合格を目指して、模擬問題、過去問題を含めた内容で取り組んでいきます。 受講学生の全員受験、合格が最終目標ですが、毎年、全国平均の合格率を確実に上回っていますので、今年も全員で頑張っていきたいと思います。			
準備学習	毎回の授業の復習を行ないポイントを整理すること。 課題を提出する場合があります。			
授業方法	授業計画にあるように、販売士検定試験の各分野ごとのポイント解説、模擬問題、過去問題に取り組んでいきます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.流通における小売業の基本的役割 2.業界別流通経路の基本的役割 3.形態別小売業・店舗形態別小売業の基本的知識と役割 4.チェーンストア・商業集積の基本的役割 5.商品の基本知識・マーチャダイジングの基本 6.商品計画・販売計画・仕入計画の基本的役割 7.在庫管理・販売管理の基本的役割 8.価格設定の基本的考え方・利益追求の基本知識 9.ストアオペレーション、ディスプレイの基本的役割 10.作業割当、人的販売の基本的考え方 11.小売業のマーケティングの基本的考え方 12.販売管理、販売促進の基本的役割 13.商圈、売場づくりの基本的考え方 14.販売員の基本業務、法令知識、計数管理 15.売場の人間関係、店舗管理の基本的役割 			
評価方法	課題テスト 60%、授業態度 40%で評価します。			
教科書	1回で合格！販売士検定3級過去問題集('15年度版)			

科目名	海外研修【英語名:Overseas Study Tour】	職名・担当者	講師 島宗 俊郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	お客さんとして旅行に参加するのではなく、旅行会社員の立場として旅行に参加することを学習する。旅行会社員としての必要知識、ホスピタリティを身に付ける事を目的とする。3月予定の3泊4日韓国か台湾の研修体験旅行に参加する事が望ましい。大学からの補助あり。			
到達目標	海外旅行における全般的な知識の習得			
準備学習	旅行会社のパンフレット、海外旅行記等参考にする。			
授業方法	海外旅行を企画する時の必要基礎知識を学び、3月予定の研修体験旅行に旅行会社員の立場として参加する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2. 旅券 申請方法 3.出入国手続き 4. 世界の主要都市、空港コード 5. 検疫、予防接種、税関、 6.世界の航空会社 インターネット販売 7.インバウンドについて 8.旅行関連英単語、トラベル英会話 9. 時差 10.旅行会社員の海外旅行商品の企画、実施 11.観光資源としての世界遺産 12. 海外旅行でのリスク管理 13. 観光資源としての見る、食べる、遊ぶ 14. 海外を体験するアイデア 15.纏め 			
評価方法	小テスト 30%、授業態度 20%、テスト 50% 授業態度は厳しく評価する。遅刻3回で1日欠席。 授業中に私語3回注意されたら、退出を促し1日欠席とみなす。			
教科書	プリントを配布する			

科目名	話し方演習【英語名:Speech technique practice】	職名・担当者	非常勤講師 稲葉 寿美	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	きちんとした日本語を、きちんと人に伝える話し方を学修。			
到達目標	人前で堂々と話す。コミュニケーション力をつける。			
準備学習	スピーチ原稿等の準備が数回あり。			
授業方法	発声・滑舌・スピーチなど実践を交えた講義。 動画撮影をし、各自話し方の研究を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口を正しく開き、腹式呼吸が話し方の基本 2. 大人の話し方とは。語尾の上げ下げ等、抑揚 3. コミュニケーション力(1)あいさつから何かひと言かけるまで 4. コミュニケーション力(2)話しの受け答え 5. コミュニケーション力(3)季節感、時事ネタ等会話を続ける力 6. 第一印象の好感度 7. 声の大小、高位、緩急、間 8. 話しの組み立て方(1)パターンを作る 9. 話しの組み立て方(2)キーワード化して分かりやすく 10. ビデオに撮って自分をチェック(1) 11. ビデオに撮って自分をチェック(2) 12. 朗読することで表現力が高まる(1) 13. 朗読することで表現力が高まる(2) 14. ニュース、レポート、朗読 分析。自分に合った話し方 15. 「言葉力」総合、まとめ 			
評価方法	レポート提出。			
教科書	講師・稲葉寿美作成のテキスト			

科目名	人間関係とコミュニケーション【英語名:Human relationship and communication between clients and careworkers】	職名・担当者	教授 岡崎 強	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	人間関係と心理の理解、自己形成の意義とその過程について学び、人間関係の機能について理解し、コミュニケーションの方法を学ぶ。			
到達目標	対人援助のために必要な人間関係の理解や他者への情報伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養う			
準備学習	予習として、テキストの該当箇所を読んでおく			
授業方法	講義・集団討議・振り返り・気づきノート 適宜取り組む			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.人間関係と心理ー人間関係の機能 2人間関係と心理ー人間関係のストレスとストレスコーピング 3. 人間関係形成のプロセスー基本的プロセス 4. 人間関係形成のプロセスー援助を必要とする人々との人間関係の形成 5. 前半のまとめ 6. コミュニケーションの技法ー言語コミュニケーション①-言語の機能・特性・能力 7. 言語コミュニケーション②ー話し言葉によるコミュニケーション 8. コミュニケーションの技法ー非言語コミュニケーション、非言語コミュニケーションの機能と特性 9. 非言語コミュニケーション②ー欺瞞のコミュニケーション 10. 現代のコミュニケーション 11. 人間関係を育てるコミュニケーション①ーコミュニケーションを促す環境 12. 人間関係を育てるコミュニケーション②ーコミュニケーションに役立つ技法 13. 対人関係とコミュニケーション①ーコミュニケーションとは 14. 対人関係とコミュニケーション②ーコミュニケーションの特性 15. まとめ 			
評価方法	授業態度30% レポート20% 定期試験50%			
教科書	資料を配布、その他			

科目名	ビジネスマナー基礎Ⅱ【英語名:Business manner basicⅡ】	職名・担当者	講師 児玉 美由紀	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	1ビジネスマナーとビジネスコミュニケーションについて実技とロールプレーを交えながら習得する。 2求められる人材になるための社会人基礎力を身に付ける。			
到達目標	ビジネスマナーとビジネスコミュニケーションの必要性と重要性を理解できるようになる。 様々なケースをもとにグループ内でディスカッションを行い、実践力を養う。			
準備学習	毎回の授業の始めに前回の振り返りを行う。必ずポイントを再確認してから授業に臨む事。			
授業方法	ロールプレイング・グループワークなど実践を交えた講義。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 仕事をスムーズに進めるためのスキル 報告・連絡・相談 2. 頭の中を整理するためのスキル 熟考・関連付け・優先順位 3. 情報を共有するためのスキル 説明 4. 提案し納得に導くためのスキル 説得・プレゼンテーション 5. クレームに対処するスキル 謝罪・問題解決 6. 社会人としての心構え 7. 前に踏み出す力(1)主体性 8. 前に踏み出す力(2)働きかけ力 9. 前に踏み出す力(3)実行力 10. 考え抜く力(1)課題発見力 11. 考え抜く力(2)計画力 12. 考え抜く力(3)創造力 13. チームで働く力(1)発信力 14. チームで働く力(2)状況把握力 15. チームで働く力(3)規律性 			
評価方法	定期試験 70% グループワークでの積極性 20% レポート 10%			
教科書	ワークで学ぶコミュニケーションスキル(西文社) 求められる人材になるための社会人基礎力講座(日経BP社)			

科目名	秘書検定講座Ⅱ【英語名:Secretary skill test lecture Vol.2】	職名・担当者	教授 西川 三恵子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	<p>ビジネスワークの特に秘書的業務における仕事の進め方を理解する。2級からは後輩の指導法も視野に入れた問題が出題されるので、人間関係を含めた仕事の進め方についても学習する。</p> <p>さらに準1級受験希望の学生には筆記試験と面接試験を並行して学習する。</p> <p>なお、3級希望の学生はビジネスワークについて理解する。</p>			
到達目標	<p>11月・2月に実施される実務技能検定協会主催秘書検定2級合格を目指す。</p> <p>準1級受験希望の学生には面接指導も併せて行い、3級希望の学生にも別途指導を行い、それぞれ合格を目指す。</p>			
準備学習	<p>(予習)指定教科書を読み込み、不得意な領域はマーカーを引くなどして、特に熟読する。推奨教科書は最新の過去問題を通して、傾向と対策を行う。</p> <p>(復習)授業で行ったテストの解答・解説の折には必ずメモを書き込み、理解を深める。</p> <p>予習・復習合わせて1時間程度。</p>			
授業方法	<p>2級になって追加された範囲などについて説明(講義)し、過去の問題を解き(演習)、さらに解答・解説の時間を設け、要点について説明(講義)を行う。</p> <p>3級、準1級を目指す学生にも同様の指導を行う。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前々回(2月)の2級問題:演習 2. 前々回(2月)の2級問題:解答・解説・ 3. 2級:理論編:秘書の資質・職務知識・一般知識 4. 2級:理論編:模擬問題:演習 5. 2級:理論編:模擬問題:解答・解説 6. 2級:実技編:マナー・接遇・技能 7. 2級:実技編:模擬問題:演習 8. 2級:実技編:模擬問題:解答・解説 9. 最新回(11月)2級問題:演習 10.最新回(11月)2級問題:解答・解説 11.準1級:面接の流れ・実技課題演習 12.最新回(11月)準1級問題:演習 13.最新回(11月)準1級問題:解答・解説 14.単位認定試験模擬問題:演習 15.単位認定試験模擬問題:解答・解説 			
評価方法	演習 80%・検定 20%			
教科書	<p>参考書:秘書検定2級 クイックマスター</p> <p>推奨教科書:秘書検定2級実問題集</p> <p>なお3級・準1級を受験希望の学生は自分に応じた級をご準備ください。</p>			

科目名	インターンシップ°Ⅱ【英語名:Business Practice】	職名・担当者	教授 山本・島宗	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	就職活動のため、自分自身が志望している職種、業種について実体験をし、適正や職業観、職業意識について考え、企業研修[インターンシップ]を通じて経験することを目標とします。			
到達目標	それぞれの学生がインターンシップを経験する。報告会で企業で経験したことを発表する。			
準備学習	企業研究、分野、業種を調べる。新聞等で社会情勢など会社に関係することを調べる。			
授業方法	①9月から1月に学内で事前研修 ②2月から3月に5日間、40時間以上の企業研修 ③報告会での報告 ④報告書の提出			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 事前研修① 社会人としてのビジネスマナー 3. 事前研修② 社会人としての言葉づかい 4. 事前研修③ 社会人としての情報ツール 5. 事前研修④ 電話対応マナー(演習) 6. 事前研修⑤ 接客対応マナー(演習) 7. 事前研修⑥ 書類の書き方(演習) 8. 事前研修⑦ 研修先選択面談 9. 事前研修⑧ 研修先決定および研修先別指導 10. 企業研修1日目(研修先企業の指導による) 11. 企業研修2日目(") 12. 企業研修3日目(") 13. 企業研修4日目(") 14. 企業研修5日目(") 15. 研修報告会発表ならびに報告書の提出 			
評価方法	事前研修 20%、企業側の評価 40%、報告会・報告書 40%			
教科書	本学生用「就職の手引き」を配布			

科目名	簿記入門Ⅱ【英語名:Introduction to bookkeeping Ⅱ】	職名・担当者	非常勤講師 加藤 由美子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	1	2	1
学修目標	簿記入門Ⅰで学修したレベルの簿記用語とルールが理解できていることを確認し、対象となる取引内容を段階的に高度なものにして仕訳のスキルアップを図りながら、日商簿3級に挑戦できる知識とスキルを修得することを目標にします。			
到達目標	近年、本試験の問題文が複雑になってきているので、問題文の分析テクニックを中心に、3級検定に挑戦できるレベルまでのスキルの修得を目指します。			
準備学習	講義前までに教科書の該当箇所を読んでおくこと。 また、復習をしてください。			
授業方法	少し複雑な取引を扱いますが、まずは簿記入門Ⅰの復習、その上で段階的にレベルアップしながら進めます。また、ミニ演習では日商簿記3級の本試験の各個別問題の対策問題を取り入れ、最終的に検定合格レベルの総合問題を解きます。毎回、電卓を使用します。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記入門Ⅱのガイダンス 2. 第1問対策 ①商品売買、②現金預金、③手形取引 ④有価証券 3. 第1問対策 ⑤固定資産、⑥その他の取引 ⑦決算に関する取引 4. 第3問対策 試算表の作成(取引日付順、 貸借対照表をもとにする) 5. 第3問対策 試算表の作成 (取引項目別、重複なしと重複あり) 6. 第3問対策 財務諸表の作成 (決算整理後試算表をもとにする) 7. 第5問対策 精算表の作成(標準型) 8. 第5問対策 精算表の作成(推定型) 9. 第5問対策 財務諸表の作成 (決算整理前試算表をもとにする) 10. 第4問対策 伝票、訂正仕訳 11. 第2問対策 特殊仕訳帳 12. 第2問・第4問対策 勘定記入等 13. 総合問題演習 14. 総合問題演習 15. 総合問題演習 <p>(授業の進度により内容が多少変わります)</p>			
評価方法	定期試験70% 学習意欲30%			
教科書	教科書 滝澤ななみ著 TAC出版 『みんなが欲しかった 簿記の問題集 日商3級 商業簿記 第3版』 参考書 滝澤ななみ著 TAC出版 『みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級 商業簿記 第3版』			

科目名	簿記検定講座Ⅱ【英語名:Bookkeeping authorization course Ⅱ】	職名・担当者	非常勤講師 加藤 由美子			
		単位数	セメスター	年次配当		
授業形態	演習	1	2	1		
学修目標	<p>検定講座Ⅰの受講者及び日商3級取得者・日商3級受験経験者で日商2級工業簿記学習者を対象とします。</p> <p>検定講座Ⅰに引き続き、日商2級の商業簿記の基本用語・知識・解答スキルの修得を目指します。</p>					
到達目標	<p>日商2級商業簿記の基本用語・知識・解答スキルを学習し、工業簿記の演習も並行して行うことにより、2月には検定試験に挑戦できることを目指します。</p>					
準備学習	<p>工業簿記の演習プリントの指示範囲を事前にやってきてください。また、日商2級の商業簿記のテキストを事前に読んできてください。</p>					
授業方法	<p>日商2級商業簿記は株式会社を対象としているので、会社法も絡み取りが複雑になっています。よって、教科書をもとに問題文の読み方の分析方法と効率的に解答するスキルを学習し、重要仕訳の小テストを行うことによりその定着を図ります。</p> <p>また、準備学習での工業簿記演習の解説も並行して行い、検定レベルを目指します。教科書で足りない最新情報をプリントして配布し、最新傾向の対策を学習します。電卓を毎回使用します。</p>					
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>1. ガイダンス 最近の本試験の傾向 「銀行勘定調整表」:当座預金 「株主資本等変動計算書」</p> <p>2. 固定資産:減価償却方法、売却、買い換え、除去、 廃棄 建設仮勘定 工業簿記の演習</p> <p>3. 固定資産:改良・修繕、減失 無形固定資産と繰延資産 工業簿記の演習</p> <p>4. 一般商品売買 特殊商品売買:予約販売、未着品売買、 工業簿記の演習</p> <p>5. 特殊商品売買:委託販売、受託販売、 試用販売、割賦販売 工業簿記の演習</p> <p>6. 手形取引:荷為替手形、不渡手形、保証債務、 手形の更改 工業簿記の演習</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>7. 有価証券、引当金 工業簿記の演習</p> <p>8. 株式の発行、剰余金の配当と処分 工業簿記の演習</p> <p>9. 社債、税金 工業簿記の演習</p> <p>10.精算表と財務諸表、帳簿の締め切り 工業簿記の演習</p> <p>11.本支店会計 工業簿記の演習</p> <p>12.伝票と仕訳日計表 工業簿記の演習</p> <p>13.帳簿組織:主要簿と補助簿～売上帳 工業簿記の演習</p> <p>14.帳簿組織:受取手形記入帳～試算表作成 工業簿記の演習</p> <p>15.日商2級総合問題 (授業の進度により内容が多少変わります)</p> </td> </tr> </table>				<p>1. ガイダンス 最近の本試験の傾向 「銀行勘定調整表」:当座預金 「株主資本等変動計算書」</p> <p>2. 固定資産:減価償却方法、売却、買い換え、除去、 廃棄 建設仮勘定 工業簿記の演習</p> <p>3. 固定資産:改良・修繕、減失 無形固定資産と繰延資産 工業簿記の演習</p> <p>4. 一般商品売買 特殊商品売買:予約販売、未着品売買、 工業簿記の演習</p> <p>5. 特殊商品売買:委託販売、受託販売、 試用販売、割賦販売 工業簿記の演習</p> <p>6. 手形取引:荷為替手形、不渡手形、保証債務、 手形の更改 工業簿記の演習</p>	<p>7. 有価証券、引当金 工業簿記の演習</p> <p>8. 株式の発行、剰余金の配当と処分 工業簿記の演習</p> <p>9. 社債、税金 工業簿記の演習</p> <p>10.精算表と財務諸表、帳簿の締め切り 工業簿記の演習</p> <p>11.本支店会計 工業簿記の演習</p> <p>12.伝票と仕訳日計表 工業簿記の演習</p> <p>13.帳簿組織:主要簿と補助簿～売上帳 工業簿記の演習</p> <p>14.帳簿組織:受取手形記入帳～試算表作成 工業簿記の演習</p> <p>15.日商2級総合問題 (授業の進度により内容が多少変わります)</p>
<p>1. ガイダンス 最近の本試験の傾向 「銀行勘定調整表」:当座預金 「株主資本等変動計算書」</p> <p>2. 固定資産:減価償却方法、売却、買い換え、除去、 廃棄 建設仮勘定 工業簿記の演習</p> <p>3. 固定資産:改良・修繕、減失 無形固定資産と繰延資産 工業簿記の演習</p> <p>4. 一般商品売買 特殊商品売買:予約販売、未着品売買、 工業簿記の演習</p> <p>5. 特殊商品売買:委託販売、受託販売、 試用販売、割賦販売 工業簿記の演習</p> <p>6. 手形取引:荷為替手形、不渡手形、保証債務、 手形の更改 工業簿記の演習</p>	<p>7. 有価証券、引当金 工業簿記の演習</p> <p>8. 株式の発行、剰余金の配当と処分 工業簿記の演習</p> <p>9. 社債、税金 工業簿記の演習</p> <p>10.精算表と財務諸表、帳簿の締め切り 工業簿記の演習</p> <p>11.本支店会計 工業簿記の演習</p> <p>12.伝票と仕訳日計表 工業簿記の演習</p> <p>13.帳簿組織:主要簿と補助簿～売上帳 工業簿記の演習</p> <p>14.帳簿組織:受取手形記入帳～試算表作成 工業簿記の演習</p> <p>15.日商2級総合問題 (授業の進度により内容が多少変わります)</p>					
評価方法	<p>定期テスト70% 学習意欲30%</p>					
教科書	<p>教科書 滝澤ななみ著 TAC出版 『みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商2級 商業簿記 第3版』</p> <p>参考書 滝澤ななみ著 TAC出版 『みんなが欲しかった 簿記の問題集 日商2級 商業簿記 第3版』 滝澤ななみ著 TAC出版 『みんなが欲しかった 簿記の問題集 日商2級 工業簿記 第3版』</p>					

科目名	プレゼンテーション技法【英語名:Technique of Presentation】	職名・担当者	講師 高濱 優子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	<p>現代社会では指示されたことだけを着実に実行することのみならず、自分の考えや企画、計画等を、端的かつ具体的に伝えられる能力が求められます。</p> <p>本講義では、日本語表現や口頭・身体表現、説得力を増す内容構成や進行方法、興味を感じさせられる資料作成やツール活用などを習得し、商品やサービスの企画立案において、より魅力的なプレゼンテーションができる人材を養成します。</p>			
到達目標	<p>準備、構成、内容、視覚効果などを考え、より説得力があるプレゼンテーションが行えるようになることを目標とします。</p> <p>また、プレゼンテーション技法を習得するのみならず、課題を期限内に終わらせよりよいものをつくるためのマネジメント方法についても併せて学習します。</p>			
準備学習	随時指示します。			
授業方法	<p>題材をきめてプレゼンテーションを行います。内容、構成、話し方などに加え、パソコンのソフトを利用してスライドを作成する実習を行います。</p> <p>また、発表時には聴取側からの評価・アドバイスを受け自己課題を明確化させ、次に実施する時に着実によりプレゼンテーションができるように促します。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.第1回プレゼンテーションのテーマ設定 2.プレゼンテーションの構成:紹介型 3.論理表現・ロジカルシンキングの理解 4.ストーリーをつむぐ、伝達力の向上 5.レイアウト 6.発表本番 7.他者評価 8.第2回プレゼンテーションのテーマ設定 9.プレゼンテーションの構成:提案型 10.理由の質を考える 11.ストーリーに磨きをかける 12.シンプルに見せる 13.聴衆を巻き込む 14.他者から学ぶ 15.プレゼンテーションのまとめ 			
評価方法	講義中のプレゼンテーション 50%、講義内での発言・課題提出物 50%			
教科書	よくわかる自信がつくプレゼンテーションー引きつけて離さないテクニック(2012) 出版:富士通エフ・オー・エム株式会社			

科目名	マーケティング論【英語名:Marketing】	職名・担当者	講師 高濱 優子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1・2
学修目標	マーケティングは担当部署のみならず、社会で働く上ではマーケティング視点で物事を考察することが必要です。 本講義では、みなさんがご存じの企業や商品が、どのような広告・販売戦略を行っているのか、具体的事例を数多く取り入れながら理解を深めていきます。			
到達目標	そもそもマーケティングとは何か？、マーケターの仕事は何をすればよいのか？、ヒット商品を生み出すためのマーケティング戦略の立て方は？という疑問が解決します。 販売・サービスの現場で実際に活用されているさまざまな売上データの分析方法や商品陳列のノウハウについて体感的に理解し、アルバイトや就職先の現場で実際に活かせることができるようになります。			
準備学習	随時指示します。			
授業方法	講義が中心ですが、演習も取り入れます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. マーケティングの理解とマーケターの仕事の把握 3. マーケティングの手順 4. 戦略の立て方 5. データの収集方法・環境分析・ポジショニング・マーケティングミックスを理解する 6. 売れる商品の条件 7. ブランドの考え方と有名ブランドの戦略とは 8. 前半のまとめ 9. 価格戦略のしくみと適正価格の設定方法の理解 10. 流通、物流の働きとマーケティングにおける役割 11. 販売促進や広告・CM等のプロモーション戦略の基本と手法 12. メディア・ミックス 13. インターネットの可能性 14. 後半のまとめ 15. 演習 			
評価方法	受講態度 30%、演習への参加姿勢 20%、課題 50%で評価します。			
教科書	プレステップマーケティング 新版(2012) 著者:丸山 正博(著) 出版:弘文堂			

科目名	医療事務演習Ⅰ【英語名:Certified Medical office workⅠ】	職名・担当者	講師 塚本 佳子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	1. 「医療事務Ⅰ、Ⅱ」で学んだ内容の理解を深める。 2. 各症例より、傷病名、診療内容および診療の流れを理解し、診療行為に対する診療報酬請求点数算定方法について学ぶ。 3. 演習問題に取り組みながら、検定試験合格を目指す。			
到達目標	カルテ症例をもとに、点数算定を確実にを行い、レセプト作成することができるようになる。			
準備学習	出された課題は確実にを行い、次週の授業前に必ず提出すること。			
授業方法	「医療事務Ⅰ、Ⅱ」で学んだ内容の基礎問題、応用問題に取り組む。			
授業計画	1. レセプト作成演習 外来(初診～医学管理) 2. レセプト作成演習 外来(初診～在宅医療) 3. レセプト作成演習 外来(初診～投薬) 4. レセプト作成演習 外来(初診～注射) 5. レセプト作成演習 外来(初診～処置) 6. レセプト作成演習 外来(初診～神経ブロック) 7. レセプト作成演習 外来(初診～リハビリ) 8. レセプト作成演習 外来(初診～画像診断) 9. レセプト作成演習 外来(初診～検査) 10. レセプト作成演習 外来(初診～病理診断) 11. レセプト作成演習 入院(入院料～検査) 12. レセプト作成演習 入院(入院料～処置) 13. レセプト作成演習 入院(入院料～手術・麻酔) 14. レセプト作成演習 入院(入院料～投薬・注射) 15. レセプト作成演習 総括			
評価方法	定期試験60%、課題提出40%で評価する。			
教科書	『医科テキスト1, 2, 3, 5』ソラスト 『診療点数早見表 2014年4月』医学通信社			

科目名	TOEIC 検定講座【英語名:TOEIC TEST】	職名・担当者	講師 西浜 クリス	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	TOEIC のスコアアップを目指して学習する。			
到達目標	TOEIC450点～500点を目標とし、コミュニケーションに必要な表現力を身につける。			
準備学習	次回の授業で学習する範囲で出てくる分からない単語のリストを作り、日本語の意味を調べてくる。			
授業方法	指定教科書に沿って問題を解いていく。教科書では足りない資料等はプリントとして配布する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Unit1 SHOPPING アナウンス情報の聞き取り(日にち) 2. Unit2 RESTAURANT アナウンス情報の聞き取り(電話番号) 3. Unit3 ENTERTAINMENT 芸能ニュース情報の聞き取り 4. Unit4 JOB HUNTING アドバイス要点の聞き取り 5. Unit5 HOTEL STAY 案内説明の聞き取り 6. Unit6 BUSINESS ビジネスニュースのヘッドラインの聞き取り 7. Unit7 SPORTS スポーツニュースの聞き取り 8. Unit8 EDUCATION ニュース発表の聞き取り 9. Unit9 SERVICES 宣伝内容の聞き取り 10. Unit10 HOUSING アナウンスの聞き取り 11. Unit11 ENVIRONMENT 説明の聞き取り 12. Unit12 VACATION アナウンスの聞き取り 13. REVIEW Unit1－Unit4 14. REVIEW Unit5－Unit8 15. REVIEW Unit9－Unit12 			
評価方法	授業での積極性 50%、期末課題 50%			
教科書	Aim High for the TOEIC Test 塩見佳代子 Richard Silver 滝田尚広 成美堂			

科目名	英語検定講座【英語名:Step Test】	職名・担当者	講師 西浜 クリス	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	英検や TOEIC 受験を目指す人のための講座です。英検準2級、英検2級、それぞれの目標を決め、合格を目指して学習する。			
到達目標	今現在のレベルより1段階上のレベルまで到達する。			
準備学習	前回の授業で配布された問題に出てくる分からない単語のリストを作り、日本語の意味を調べてくる。			
授業方法	受験する級の過去問題と単語に取り組んでいきます。模擬テスト、単語テストを繰り返して実力をつけていきます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験の受け方(時間配分、単語・語句・文の攻略法、等) 2. 頻出単語と例文、演習 3. 頻出熟語と例文、演習 4. 単語の活用演習と長文読解 5. 熟語の活用演習と長文読解 6. 試験問題演習(筆記・リスニング) 7. 試験問題演習(筆記・リスニング) 8. 予想問題演習(筆記試験の攻略法) 9. 予想問題演習(重要文法をマスターしよう) 10. 予想問題演習(会話表現をマスターしよう) 11. 予想問題演習(リスニングテストの攻略法) 12. 予想問題(直前総復習 1) 13. 予想問題(直前総復習 2) 14. 過去問題演習(総合演習1) 15. 過去問題演習(総合演習2) 			
評価方法	授業態度 50%、期末課題 50%			
教科書	プリント等配布			

科目名	SNS ネットコミュニケーション演習【英語名:SNS internet communication practice】	職名・担当者	講師 早川 健太郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	HP やブログによる一方的な情報発信の時代から、Facebookをはじめとするソーシャルメディアを利用したインタラクティブなコミュニケーションの時代に変化している。近年、利用者が急増し、ビジネスに欠かせないツールとなったSNS (Social Networking Service) の理解と活用方法について学習する。			
到達目標	SNS (Social Networking Service) について理解を深め、活用出来るようになる。			
準備学習	どのようなSNS (Social Networking Service) があるか、調べておくこと。			
授業方法	PC やスマートフォン、タブレット端末を利用し、授業の中で実際に SNS を利用する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)とは？ 3.代表的な SNS の特徴 4.SNS の基本操作法 5.SNS 使用におけるリスクについて 6.SNS の活用法 7.HTML の基本 8.HTML を使って 9.e ラーニングとは？ 10.e ラーニング実施のための基礎知識 11.e ラーニングの運用① 準備 12.e ラーニングの運用② ページ作成 13.e ラーニングの運用③ 問題作成 14.e ラーニングの運用④ 仕上げ 15.まとめ 			
評価方法	課題 50% 受講意欲 50% で評価いたします。			
教科書	資料を随時配布します。			

科目名	栄養学演習【英語名:】	職名・担当者	非常勤講師 岡田 恵利	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	食事バランス(生活バランス)から心と体の健康を作ることを理解する			
到達目標	栄養素の働き・代謝を理解し健康な体づくりを理論的に他の人へ伝えることができるようになる			
準備学習	テーマごとにレポート提出 1日の食事摂取状況をレポート提出 (写真添付)			
授業方法	1 身体測定 身長・体重 2 生活チェック 朝ご飯の摂食状況と内容 就寝・起床時間 排便 2 レジスタンス運動(加圧筋カトレーニング) 3 作成した資料・データのプリントを配布する			
授業計画	<p>①オリエンテーション 毎講義の始めに a.b.c を行う a 身体測定 b 生活チェック c レジスタンス運動 自分を知らう① 自分のカルテ作成 BMI 値算出</p> <p>②自分を知らう② a.b.c 1) 基礎代謝量算出 必要なカロリーの算出 2) 水分補給と代謝</p> <p>③栄養って何? a.b.c 1) 五代栄養素について 働き・代謝</p> <p>④栄養の消化・吸収 a.b.c 1) 消化器の働き 消化酵素</p> <p>⑤欠乏症・過剰症 ① a.b.c 1) エネルギー、タンパク質、脂質</p> <p>⑥欠乏症・過剰症 ② a.b.c 1) ビタミン</p> <p>⑦欠乏症・過剰症 ③ a.b.c 1) ミネラル</p> <p>⑧朝食の重要性 a.b.c 1) サーカディアンリズム 2) 朝食の内容 事例より考察</p> <p>⑨スポーツと栄養 ① a.b.c 1) スポーツの種類による食事のとり方の違い</p> <p>⑩スポーツと栄養 ② a.b.c 1) 試合前と試合後の食事 2) 水分補給 サプリメント</p> <p>⑪こんな時どうするの? A.b.c 1) 外食 コンビニ弁当 飲み会 2) 疲れがとれない 胃腸風邪 熱</p> <p>⑫手ばかり栄養法 a.b.c 1) 食事摂取状況よりバランスを見直す</p> <p>⑬「簡単朝ごはん」献立作成① a.b.c バランスを考えた献立作成 a.b.c 測定最終数値 半年前との比較 検証</p> <p>⑭ 調理実習 「簡単朝ごはん」</p> <p>⑮ //</p>			
評価方法	筆記試験 60% 学習意欲・態度・レポート 40%			
教科書	使用しません			

科目名	カラーコーディネーター検定講座Ⅱ【英語名:Color coordinator official approval lectureⅡ】	職名・担当者	非常勤講師 三浦 睦子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1・2
学修目標	<p>前期のⅠに続いて、11月のカラーコーディネーター検定3級受験に向けての対策です。</p> <p>Ⅰを履修していることが前提の授業内容になります。</p> <p>検定試験以降は、楽しいカラーの体験と、資格や職業とその現状についての講義です。</p>			
到達目標	<p>受験するしないに関わらず、3級レベルの知識の習得です。</p>			
準備学習	<p>前期最終日に渡すプリントで復習をしておいてください。</p>			
授業方法	<p>検定試験までは教科書を中心に重要点を解説していきます。毎回簡単な練習問題の小テストを実施します。</p> <p>検定試験日以降は、ワークや体験を通してカラーを楽しみます。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.前期授業の復習 2.色の見えを決める要因 3.混色と色再現 4.復習と確認テスト 5.色の測定 6.XYZ表色系と色差 7.色と文化 8.模擬試験① 9.模擬試験② 10.色の心理的効果と生理的効果 11.共感覚ワーク 12.カラーテスト体験 13.アートセラピー体験 14.外見の色とパーソナルカラー 15.総まとめ 各カラー資格と職業 			
評価方法	<p>学習意欲・授業態度・提出物 70%、定期試験 30%で評価します。</p>			
教科書	<p>『カラーコーディネーター検定試験 3級公式テキスト』第4版 2,800円(税別)</p>			

科目名	情報倫理【英語名:Information Ethics】	職名・担当者	非常勤講師 星野 雪子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	情報通信技術の進展と急速な普及は、情報通信技術を活用した便利な生活と、悪用による紛争や犯罪の増加をもたらしました。社会生活における情報や、情報技術の役割と影響力を理解して、情報倫理の必要性や、情報に対する責任、情報社会における望ましい態度について考える力を身に付けることを目標にします。			
到達目標	社会生活における情報や、情報技術の役割と影響力に関する現状を理解できるようになります。 情報倫理の必要性や、情報に対する責任、情報社会における態度、安全確保に対応できる考え方が身に付きます。			
準備学習	教科書と「講義ノート」プリント、教材フォルダに保存してある提示ファイルの内容を復習してください。			
授業方法	講義形式で行います。指定教科書の内容を補足説明するパワーポイントを提示して授業を進めます。教科書では説明不足である内容については、プリントを配布します。理解を深めるために、教科書の内容と類似する演習課題を出題して提出を義務付けます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報と情報社会 2. 情報の受信・発信と個人の責任 3. 個人情報 4. 知的財産と知的財産権 5. 著作物と著作権 6. 電子メールによる情報の受信・発信 7. Web ページによる情報の受信・発信 8. ネットにおけるコミュニケーション 9. 社会生活における情報サービス 10. ネット社会の影響 11. ネット社会におけるトラブルと犯罪 12. 利用者によるトラブル・犯罪の防止対策 13. 情報セキュリティ 14. コンピュータやスマートフォンの被害 15. ネット社会のセキュリティ技術 			
評価方法	定期試験(70%) 各講義における演習課題 15 種類の提出(30%)			
教科書	教科書を必ず購入してください。 インターネット社会を生きるための情報倫理新課程版(実教出版)			

科目名	医療秘書【英語名:Medical Secretary】	職名・担当者	講師 塚本 佳子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療秘書が勤務する医療機関や、医療を取り巻く環境などについて理解を深める。 2. 医療秘書の役割、実務について学ぶ。 3. 学んだ理論をもとに実践できるようになる。 4. ホスピタルコンシェルジュ検定の合格をめざす。 			
到達目標	医療秘書の具体的な役割について学び、現場の職務内容をより現実的にとらえることができるようになる。			
準備学習	授業に入る前に、テキストの該当箇所を読み、不明な点などは記しておくこと。			
授業方法	<p>テキストを中心に医療秘書の役割と必要なスキルを学ぶ。 授業時間の後半では、医療の現場に関する情報をウェブ上で検索し、内容をまとめレポート提出を課す。</p> <p>*当科目は「秘書士(メディカル秘書)」の称号取得に必要な科目である。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 日本の医療と医療界の現状 3. 医師事務作業補助者の役割 4. 医療事務と文書作成 5. 医療秘書の現状とその役割(個人秘書) 6. 医療秘書の現状とその役割(部門秘書) 7. 医療秘書の実務 基本編(守秘義務とコミュニケーション) 8. 医療秘書の実務 基本編(患者理解) 9. 医療秘書の実務 基本編(言葉遣いと接し方) 10. 医療秘書の実務 実務編(患者受付) 11. 医療秘書の実務 実務編(電話応対) 12. 医療秘書の実務 実務編(文書業務<院内>) 13. 医療秘書の実務 実務編(文書業務<院外>) 14. 医療秘書の実務 実務編(インターネット及びEメールの取り扱い) 15. まとめ 			
評価方法	定期試験60%、受講態度30%、課題提出10%で評価する。			
教科書	『改訂 医療秘書』(建帛社)			

科目名	医療事務Ⅱ【英語名:Medical office workⅡ】	職名・担当者	講師 塚本 佳子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	2	1
学修目標	1. 医療事務検定試験への合格を目指す。 2. 診療報酬点数の算定方法を学び、診療報酬明細書作成の技術を習得する(投薬～放射線治療)。			
到達目標	基本診療料や特掲診療料の算定ルールを学び、診療報酬の基本的な点数計算ができるようになる。			
準備学習	出された課題は確実に行き、次週の授業前に必ず提出すること。			
授業方法	各算定方法の説明後、テキストおよび配付プリントの練習問題、診療報酬明細書作成に取り組む。 *受講条件 「医療事務Ⅰ」を履修したものであること。 「医療事務演習Ⅰ」を併せて履修すること。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特掲診療料 投薬(点数算定の方法) 2. 特掲診療料 注射(点数算定の方法) 3. 特掲診療料 処置(点数表の引き方と点数算定) 4. 特掲診療料 リハビリテーション(点数算定の方法) 5. 特掲診療料 検体検査(種類と点数算定の方法) 6. 特掲診療料 生体検査(種類と点数算定の方法) 7. 特掲診療料 病理診断(点数算定の方法) 8. 特掲診療料 手術(点数表の引き方と点数算定) 9. 特掲診療料 麻酔(種類と点数算定の方法) 10. 特掲診療料 画像診断(種類と点数算定の方法) 11. 特掲診療料 精神科専門療法(点数算定の方法) 12. 特掲診療料 放射線治療(点数算定の方法) 13. 基本診療料 入院料(入院基本料と加算) 14. 基本診療料 入院料など(入院時食事療養費) 15. まとめ 			
評価方法	定期試験60%、課題提出30%、受講態度10%で評価する。			
教科書	『医科テキスト1, 2, 3, 5』ソラスト 『診療点数早見表 2015年4月(医科)』医学通信社			

科目名	情報科学入門【英語名:Introduction to information science】	職名・担当者	講師 武田 直之	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	企業における情報科学の必要性について理解し、情報技術に関する基礎的な知識を活用していける力を養う。			
到達目標	情報技術を活用法を学び、IT パスポート試験に合格できる。			
準備学習	教科書を一読しておくこと。			
授業方法	教科書を用いて、演習を交えた講義形式により授業を進める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 情報科学とは 2.企業と法務 3.経営戦略と情報 4.システム化と戦略 5.システムの開発技術 6.プロジェクトマネジメント 7.サービスマネジメント 8.アルゴリズムとプログラミング 9.コンピュータシステム 10.ソフトウェアとハードウェア 11.ヒューマンインターフェース、マルチメディア 12.データベースとネットワーク 13.情報セキュリティ 14.模擬試験問題演習(中間) 15.模擬試験問題演習(小問) 			
評価方法	授業態度、課題 50%、定期試験 50%			
教科書	ゼロからはじめる IT パスポートの教科書			

科目名	MOS 検定講座【英語名:Microsoft Office Specialist Test】	職名・担当者	講師 武田 直之	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	MOS(Microsoft Office Specialist)の取得を目指す。ソフト固有の様々な機能を、目的に合わせて使いこなせる実務力を養っていく。			
到達目標	それぞれのソフトを使いこなすスキルを身に付け、検定に合格できる。			
準備学習	テキストを一読しておくこと。			
授業方法	コンピュータを用いた演習を中心に進める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.ファイルの管理、書式設定 3.ページの設定、レイアウト 4.図表の挿入、編集 5.校正に便利な機能 6.Word 模擬試験 第1回問題解答解説 7.Word 模擬試験 第2回問題解答解説 8.Word 模擬試験 第3回問題解答解説 9.セル、ワークシートの書式設定 10.数式や関数の適用 11.図・表の表示 12.シートとブックの管理 13.Excel 模擬試験 第1回問題解答解説 14.Excel 模擬試験 第2回問題解答解説 15.Excel 模擬試験 第3回問題解答解説 			
評価方法	参加意欲・態度 50%、模擬試験 50%			
教科書	よくわかるマスターMOS Word2010 対策テキスト&問題集 よくわかるマスターMOS Excel2010 対策テキスト&問題集			

科目名	ホテル業界論【英語名:Structure of Hotel Industry】	職名・担当者	非常勤講師 森 景光	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	宿泊や料飲にとどまらず、ホスピタル産業のホテルはコンベクション、情報、ヘルスケア、宴会、カルチャー、スポーツなど多種多様な機能を提供し、情報の発信基地として、またその地域におけるシンボリックな存在として位置づけられています。ホテル業のサービス産業における基幹産業としての役割を学び修得します。			
到達目標	ホテル全般の基礎知識を身につけて少しでも現場で活かせるようになる。			
準備学習	毎授業時の復習をするとともに、質問があれば準備をしておくこと。			
授業方法	配布プリントを使用し、講義形式で授業を行います。 質疑応答の機会をふやし、主体性をもたせる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホテルの基礎を知る 2. ホテル開業までのプロセス 3. 海や山を彩るリゾートホテル 4. シティホテルは複合多機能施設 5. リゾートホテルとシティホテルの組織 6. シティホテルの客室の種類と料金体系 7. 宿泊部門の業務内容 8. 世界の味を造るホテルのレストランとメニュー構成 9. ホテルのバーと飲物の知識 10. ホテルが企画するイベントの数々 11. ホテルウェディングの内容 12. ブライダル、マーケティングの基礎知識 13. ホテルで行われる宴会や会議の種類 14. 時間と空間をコントロールする宴会業務内容 15. ホテルシステムの全体像、ホテルのイメージはつかめましたか？ 			
評価方法	試験50%、受講態度30%、課題提出20%			
教科書	著者 小野田正美 現代ホテル理論 発行 株式会社マーケティング・オフィス			

科目名	健康と運動の科学【英語名:Science of Sports and Health】	職名・担当者	講師 早川 健太郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	生涯を健康に過ごすために、健康と運動のかかわりについて学ぶ。身近な問題のダイエットやスポーツ科学、運動と脳との関係についても理解する。また、子どもや高齢者、女性の健康と体力についても理解する。そしてヒトの身体に関わる様々な情報の取得方法や活用方法についても理解する。			
到達目標	生涯を健康に過ごすための基礎知識を身につける。			
準備学習	自分の身体のことや健康について考えておくこと。			
授業方法	パワーポイントにて資料提示します。必要に応じて資料も配布します。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 健康とは？ 3. 生体情報 4. スポーツ科学とは？ 5. エネルギーについて 6. ダイエットについて 7. 子どもの健康と体力 8. 生活習慣病 9. 運動処方 10. 高齢者の健康と体力 11. 女性の健康と体力 12. 身体活動量としての歩数 13. 実際の運動量 14. 生体情報の変化 15. まとめ 			
評価方法	定期試験 50% レポート 50%			
教科書				

科目名	基礎ゼミナールⅡ【英語名:Basic SeminarⅡ】	職名・担当者	各担当教員	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	就職活動力向上を目指します。具体的には①コミュニケーション能力(英語を含む)を向上させる、②新聞などを通して、現代の話題についての知識を増やす、ことを目的とします。			
到達目標	自己PRの作成。志望動機の作成。 就職活動を通して自らを向上させる。			
準備学習	企業研究 分野、業種研究を前段階で調べる。			
授業方法	新聞記事を読む、意見を言い合う、などをしながら学修目標到達を目指します。後半では自分で興味のあるテーマを選び発表する形をとっていきます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修指導 2. 学際準備・役割分担 3. 就職活動指導 4. 自己分析・自己PR・履歴書 記入指導 5. ゼミナール登録 6. ゼミナール① 自己紹介・役員決め 7. 個別面談A班・グッジョブノート課題B班 8. 個別面談B班・グッジョブノート課題A班 9. 学友会主催 合同レクリエーション 10. コース指導 ③ 資格取得指導・就活指導 11. 学生課ガイダンス 12. ISO ガイダンス 13. 面接訓練① 言葉づかい・みだしなみ 14. 面接訓練② 模擬面接 15. 教務課ガイダンス 就活本番直前対策 			
評価方法	課題 50%、受講意欲 50%			
教科書	講義開始時に連絡			

科目名	実践キャリア教育Ⅲ【英語名:Practice career education Ⅲ】	職名・担当者	講師 高濱 優子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	一年後には多数の学生が社会人として巣立つことを想定し、どのような職種・業種であってもビジネスパーソンとしての社会人意識や知識の理解と、絶対的に必要となるヒューマンスキルに磨きをかけます。			
到達目標	組織から必要とされる「即戦力となる人財」を目指します。 また、教材は「ビジネス能力検定ジョブパス 2 級公式テキスト」を使用しますので、学習後受験し検定資格が取得可能です。			
準備学習	随時指示します。			
授業方法	座学のみならず、ワークシートの作成や、グループワーク、グループディスカッションを取り入れた講義形式です。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとビジネスコミュニケーションの基本理解 2. キャリアと仕事へのアプローチ 3. 会社活動の基本、 4. ビジネス会話とアクティブリスニング 5. 接客と営業の進め方、 6. 不満を信頼に変えるクレーム対応 7. 会議への参加意識と事前準備法、プレゼンテーション方法 8. チームワークと人のネットワーク 9. 仕事の進め方とビジネスツールの理解 10. ビジネス文書の基本 11. 統計・データの活用 12. 情報収集とメディアの活用 13. 会社数字の読み方 14. ビジネスと税金・法律知識 15. 産業と経済の基礎知識、まとめ 			
評価方法	受講態度 30%、ワークへの取り組み姿勢 40%、提出課題 30%			
教科書	2015 年版 ビジネス能力検定ジョブパス 2 級公式テキスト(2014/12) 出版:一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団			

科目名	労働と法【英語名:Labor and law】	職名・担当者	教授 高木 清秀	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	社会で働くための基本的なルール(労働と法)を学習し、実社会で安心して働ける知恵を習得する。 働くこと、生きることとは何かを考え、働く職場での人間の幸せ・尊厳を考える。			
到達目標	働くことの意義を学習し、ワークライフバランス(労働と生活のバランス)を考えながら、豊かな人生を考えられる人間になること。			
準備学習	次回の授業のテーマを、前授業で指示するので、新聞等の記事に関心を持ち、問題意識を持って授業に臨むこと。			
授業方法	1. レジュメとスライドショー(プリント)により授業 2. 現在雇用の一般知識を学び、解説すると同時に、現在起こっている事例(裁判判例)を紹介する 3. 労働に関係する、新しい法律、法改正について説明し、その背景(理由)を解説する 4. 講義中に、質問するので、その答えをメモに記入し提出する			
授業計画	1. 今起きている労働問題、事例 (労働と法を学ぶ意義) 2. 働くために関係している法律 (働くこととは、法は必要か) 3. 募集・採用(内定・試用期間・新入社員教育) 4. 労働契約法(就業規則・労働協約) 5. 労働基準法 賃金の概要(賃金額・成果主義・生涯賃金) 6. 賃金・手当・退職金・割増賃金(世界との比較) 7. 労働時間の概要 8. 労働時間・休憩・年次有給休暇 9. 労働時間の短縮(ワークシェアリング・フレックスタイム・変形労働時間制) 10. 労働組合法労働組合・団体交渉・団体行動(ストライキ・ロックアウト)・労働災害 11. 解雇と雇止め(不当労働行為) 12. 派遣(労働者派遣法)・パート・アルバイト(パート労働法) 13. 男女雇用機会均等法(ジェンダーフリー・セクハラ) 14. 育児・介護休業法 15. 個別労働紛争(問題)とその解決方法			
評価方法	定期試験 70%(3分の2以上の出席必要) 資料持込み可能 受講態度 20%(積極性) レポート 10%(質問に対するレポート提出)			
教科書	参考図書 「新・ビジネス法と現代社会」嵯峨野書院 講義の初めに、当日の資料を配付する。			

科目名	ビジネスイングリッシュ【英語名:Business English】	職名・担当者	講師 西浜 クリス	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	ビジネスに関する英語力(単語力、文章力、会話力、表現力など)を学習する。			
到達目標	基本的な表現を使いこなし、実際に社会で役立つコミュニケーション力を身につける。			
準備学習	次回の授業範囲で出てくる分からない単語の意味調べ			
授業方法	ビジネスに関する単語や熟語などの基礎知識を学び、文を読み書きする力をつけていきます。また、会話力をロールプレイなどを通して身につけていきます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 初対面の人との成熟した大人としての接し方 UNIT1-5 2. 初対面の人との成熟した大人としての接し方 UNIT6-10 3. たまに会うような人といい RELATIONSHIP を築いていくために UNIT11-15 4. たまに会うような人といい RELATIONSHIP を築いていくために UNIT16-20 5. たまに会うような人といい RELATIONSHIP を築いていくために UNIT21-25 6. たまに会うような人といい RELATIONSHIP を築いていくために UNIT26-30 7. いつも会うような人とお互いに RESPECT しあうために UNIT31-35 8. いつも会うような人とお互いに RESPECT しあうために UNIT36-40 9. いつも会うような人とお互いに RESPECT しあうために UNIT41-45 10. いつも会うような人とお互いに RESPECT しあうために UNIT46-50 11. いつも会うような人とお互いに RESPECT しあうために UNIT51-55 12. いつも会うような人とお互いに RESPECT しあうために UNIT56-60 13. 復習 UNIT1-20 14. 復習 UNIT21-40 15. 復習 UNIT41-60 			
評価方法	授業での積極性 50%、 期末課題 50%			
教科書	英会話ペラペラビジネス100			

科目名	企業と会計【英語名:Enterprise and Accounting】	職名・担当者	教授 山本 芳功	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	会計学の基礎的な考え方に力点をおいた場合、会計学を学ぶ前段として会計基礎論に集約される。会計学を企業の立場から理解する場合、会計 accounting とは、ある事柄を「説明する」 account for ための責任、すなわちアカウンタビリティ(accountability)会計責任を履行する行為を意味する。よって、会計責任とは、を理解する。			
到達目標	企業会計原則の理解。 貸借対照表、損益計算書の理解。 会計が持つ、責任について理解する。			
準備学習	日々生活している中でお金の流れ、使い方を考えてみる。			
授業方法	講義形式。この講義では、まず、会計の基礎となる企業会計原則を理解し、企業の経済活動を通じた会計責任について説明する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.企業の機構と会計・ガイダンス 2.経済活動と会計 3.貸借対照表の仕組みⅠ(日商3級程度) 4.貸借対照表の仕組みⅡ(日商2～1級程度) 5.損益計算書の仕組みⅠ(日商3級程度) 6.損益計算書の仕組みⅡ(日商2～1級程度) 7.会計責任とは 8.会計責任を果たすために会計記録が持つべき性質 9.貸借対照表の原理 10.損益計算書の原理 11.事実関係システム 12.数関係システム 13.企業の資産管理 14.企業の負債管理 15.全体のまとめ 			
評価方法	課題(40%)および定期テスト(60%)で評価			
教科書	プリントを配布する			

科目名	企業と情報【英語名:Effective use of information in enterprise】	職名・担当者	講師 武田 直之	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	企業という組織の特徴を理解し、企業における「情報」種類やそれぞれの取り扱いの際、留意しなければならない点について理解する。			
到達目標	「情報」のもつ意義を理解し、適切に取り扱うことができるようになる。			
準備学習	教科書を一読しておくこと。			
授業方法	講義形式で実施していく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.「情報」の重要性 2.情報通信技術と実務 3.社会で必要とされる情報リテラシー 4.コンピューターリテラシー 5.企業におけるコンピューターのネットワーク化 6.企業における情報の共有化 7.個人の責任とマナー、ネチケット 8.個人情報の保護と知的所有権 9.パソコン導入に必要な知識 10.メンテナンスのための基礎 11.エンドユーザコンピューティング 12.データベースの特徴と活用 13.ビジネスにおける情報技術の適用事例と実践 14.インターネット技術の活用と展望 15.まとめ 			
評価方法	小レポート 40%、定期試験 60%			
教科書	ビジネスシリーズビジネスと情報			

科目名	プレゼンテーション演習【英語名:Presentation practice】	職名・担当者	講師 高濱 優子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	本講座はビジネスにおけるプレゼンテーション時や直面している就職活動時における発言方法をブラッシュアップさせることを中心に進めます。相手に効果的に話の要点をわかりやすくする技術を学び、いかに短い時間でも話し手に共感と興味を持って聞いてもらえるようにします。			
到達目標	ビジネスプレゼンテーションの目的は、相手に自分の期待する行動を取ってもらうことです。聞いてもらうに足る価値があると聴き手が感じなければ、自分が良いと考える内容を懸命に準備したとしても聴きいれてもらえません。そのためには惹きつける要素を提示すること及び内容がロジカルに構成され、納得できる根拠があることが求められます。本講座では聞き手を惹き付けるプレゼンの構成と要素を学びプレゼンテーションをトータルで魅力的なものにする技術が学べます。			
準備学習	随時指示します。			
授業方法	座学のみならず演習・発表を取り入れ、「できる」ことを目指します。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとプレゼンテーションフィードバック①～メッセージをビジュアル化するときのポイントと発表方法 2. プレゼンテーションフィードバック②前回の続き 3. ビジネス上での効果的なプレゼンテーション方法 4. 人前で話をする怖さを克服する:コミュニケーションと表現技術 5. バーバル表現:効果的な言い回しや用語、構成を明確化させる伝え方、印象に残す表現 6. ノンバーバル表現:スピード、声の大きさ、間とメリハリ、話し方の癖の改善 7. 聞き手に好感を持ってもらうための姿勢、表情、服装、視線、身振り・態度、効果的な環境設定 8. プレゼンテーションの構成:目的を明確化と絞り方 9. 聞き手の心をつかむ構成の戦略:ロジカルシンキングをプレゼンテーションにいかす 10. 効果的な視覚資料のつくり方:手順や流れ、循環、グラフで図解する 11. プレゼンテーション演習①プレゼンの骨子検討、資料作成 12. プレゼンテーション演習②資料作成 13. プレゼンテーション演習③発表内容の検討 14. プレゼンテーション発表会 15. 発表内容のフィードバック、まとめ 			
評価方法	演習への取り組み姿勢・受講態度 30%、発言 30%、プレゼンテーション 40%			
教科書	ビジネスプレゼンテーション改訂版(2011) 著者:武田 秀子(編著)森脇 道子(監修) 出版社:実教出版			

科目名	介護職員初任者研修講座Ⅰ【英語名: Introduction course of care workerⅠ】	職名・担当者	上田・三好ほか	
		単位数	Semester	年次配当
授業形態	演習	3	3	2
学修目標	介護職員初任者研修講座Ⅰ・Ⅱは、介護に携わる者が、業務を遂行する上で最低限の知識・技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身につけ、基本的な介護業務を行うことができるようになることを目標とする。			
到達目標	<p>介護職員初任者研修講座Ⅰ・Ⅱを修了したときの到達目標は以下のとおりである。</p> <p>① 基本的な介護を実践するために最低限必要な知識・技術を理解できる。</p> <p>② 介護の実践については、正しい知識とアセスメント結果に基づく適切な介護技術の適用が必要であることを理解できる。</p> <p>③ 自立の助長と重度化防止・遅延化のために、介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させるといった視点が必要であることを理解できる。</p> <p>④ 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活を送れるようにするために、利用者一人ひとりに対する生活状況の的確な把握が必要であることを理解できる。</p> <p>⑤ 他者の生活観及び生活の営み方への共感、相手の立場に立って考えるという姿勢を持つことの大切さについて理解できる。</p> <p>⑥ 自立支援に資するサービスを他職種と協働して総合的、計画的に提供できる能力を身につけることが、自らの将来の到達目標であることを理解できる。</p> <p>⑦ 利用者本位のサービスを提供するため、チームアプローチの重要性とその一員として業務に従事する際の役割、責務等を理解できる。</p> <p>⑧ 利用者、家族、他職種との円滑なコミュニケーションのとり方の基本を理解できる。</p> <p>⑨ 的確な記録・記述の大切さを理解できる。</p> <p>⑩ 人権擁護の視点、職業倫理の基本を理解できる。</p> <p>⑪ 介護に関する社会保障の制度、施策、サービス利用の流れについての概要を理解できる。</p>			
準備学習	授業前に該当するテキストのページを読んでおく。授業終了時にはレポート作成を課すことがある。提出期限を遵守すること。課題がない場合は必ず復習をしておくこと。			
授業方法	講義・演習が一体的に実施する。受講生は原則欠席を認めない。受講者がやむを得ない理由により研修の一部を欠席した場合、補講をすることがある。			
授業計画	授業開始時に指示する。 介護職員初任者研修講座Ⅱを続けて受講すること。			
評価方法	試験 100%			
教科書	「介護職員初任者研修課程テキスト」全3巻 日本医療企画			

科目名	営業検定講座【英語名: Certification of Sales Skill】	職名・担当者	非常勤講師 石田 敬二	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	営業という職業能力を高めるためのベンチマークとして、社会的認知度の高いビジネス・キャリア検定試験の営業3級(中央職業能力開発協会)の合格を目指します。			
到達目標	営業パーソンとして必要な最低限の職業能力を養い、営業の実務や就職活動で活用できるようにする。			
準備学習	予習: 毎回、次回授業範囲部分のテキストに目通しをしておいてください。 復習: 毎回確認テストを行うので、授業内容を復習してください。			
授業方法	ビジネス・キャリア検定試験の営業3級の標準テキストの各分野ごとのポイント解説、確認テスト(毎回実施)、過去問題へ取り組み、合格への駒を前進させます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 営業パーソンシップ 2. 営業パーソンの役割求められる知識と能力 3. 営業パーソンに求められる知識への理解及び能力 4. 営業事務管理の基礎知識 5. 自社と競合他社の商品知識 6. 営業情報の収集と活用 7. 営業数字の見方・活かし方 8. 利益とコストマインド 9. コミュニケーション能力 10. 顧客訪問のステップ 11. 商談技術(アプローチ、プレゼンテーション、クロージング) 12. 与信管理 13. 債権保全と回収 14. 営業法務基礎: 契約法務 15. 営業法務基礎: 消費者保護 			
評価方法	定期試験: 70% 受講態度(参加度): 30%			
教科書	営業3級(ビジネス・キャリア検定試験標準テキスト) 出版社: 社会保険研究所; 第2版(2012/05) その他、確認テスト、過去問題等を適時に配布します。			

科目名	ロジカルシンキング【英語名:Logical Thinking】	職名・担当者	非常勤講師 石田 敬二	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	ロジカル・シンキングの究極の学習目的は、ビジネス基礎力を高め成果を創出することです。本科目ではロジカル・シンキングの基礎やノウハウを活用して、実際に設定した目標(課題)達成のための活用力を高め、実際の結実を目標とします			
到達目標	ロジカル・シンキングのノウハウを活用し、就職活動や社会の現場で成果を出せるようになる。			
準備学習	毎回小課題がオーダーされるため、着実に遂行してください。			
授業方法	ロジカル・シンキングのスキルを活用して、各自が設定した目標(達成したい課題:就職活動関連を推奨)にチャレンジするためのシナリオを策定し、実際に PDCA を行い達成に繋げる「ゴールシーク型ワークショップ」形式。講師は毎回ショートレクチャー実施後、それぞれの課題の進捗状況等に応じてフィードバックを行いゴールに近づけます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ロジカル・シンキングの基本 2. ロジカル・シンキングで現状把握(棚卸)～自己の SWOT 分析～ 3. ロジカル・シンキングで目標設定 ～ゴールイメージング等～ 4. ロジカル・シンキングで問題発見 ～不字・十点分析～ 5. ロジック・ツリーで真因を発見 6. ロジック・ツリーとピラミッドストラクチャーで対策立案 7. ロジカル・シンキングで対策の評価 ～オプションマトリクス～ 8. ロジカル・シンキングで計画をまとめる(P)～ガントチャート～ 9. ロジカル・シンキングで行動具体化(P)～アクションプラン～ 10. ロジカル・プレゼンテーションで自己 PR(D)～実演～ 11. ロジカル・シンキングで交渉演習(D) ～ロジカル交渉術～ 12. ロジカル・シンキングで進捗確認(C) ～全員が報告&激励～ 13. ロジカル&クリティカル・シンキングで是正対策(A) 14. ロジカル・ミーティングで KFS の洗い出し 15. ロジカル・シンキングで目標達成の決意表明 ～ビジョン&アクションプランシート～ <p>※～○○○○～の表記部分については、活用スキル又は実施内容</p>			
評価方法	定期試験 40 %、受講態度(参加度)30 %、課題実施状況 30 %			
教科書	プリント、ワークシート等を適時に配布します。			

科目名	アロマセラピー - 【英語名:】	職名・担当者	講師 塚本 佳子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	1. アロマセラピー検定1級、2級の合格を目指す。 2. 精油の基礎知識を学び、その特徴に応じた利用法を習得する。			
到達目標	精油の特徴を知り、場面に応じた利用ができるようになる。			
準備学習	出されたテーマについて具体的に内容を考え、次週の授業に備えること。			
授業方法	公式テキストとオリジナルプリントを中心に進め、数回の実習を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アロマセラピーとは 2. 精油の基礎知識 3. アロマセラピーの歴史 4. 精油のプロフィール(1)ハーブ系 <ルームスプレー作成> 5. 精油のプロフィール(2)柑橘系、アロマセラピーの基材 6. 精油のプロフィール(3)フラワー系 <ボディパウダー作成> 7. 精油のプロフィール(4)樹木系 8. 精油のプロフィール(5)オリエンタル系 <アロマトリートメント体験> 9. アロマのための健康学(栄養) 10. アロマのための健康学(運動) 11. アロマのための健康学(生活習慣病とその予防) 12. アロマのための健康学(睡眠) <香りのサシェ作成> 13. アロマのための健康学(女性の一生) 14. アロマのための健康学(ストレス) 15. 検定試験対策 			
評価方法	期末試験60%、授業参加度40%			
教科書	アロマセラピー検定公式テキスト2級 2,500 円 <日本アロマ環境協会> 精油検定キット1級 3,000 円、2級 2,000 円 <生活の木> 実習キット 1,500 円 <生活の木>			

科目名	観光ビジネス論【英語名:Tourism Business】	職名・担当者	講師 島宗 俊郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	旅行素材には観光資源、交通、宿泊等があり、旅行者に情報やサービスを提供する旅行社がある。最近ではネットの発達により旅行社の存続も問われている。観光産業を過去の旅行の歴史や現在の様子、将来の在り方等学び将来に役立てる。			
到達目標	日本の21世紀の成長産業と位置づける観光力を理解する。			
準備学習	観光関連の書籍を紹介し事前に準備するように指導する。			
授業方法	教科書「観光白書」を使い理解すると共に映像を使い分かりやすく進める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.概要 2.観光の意義と特性 3.観光事業の概念と特徴 4.国民の国内観光の動向 5.日本人の海外旅行の現状 6.外国人の訪日旅行の動向 7.旅行業法 8.宿泊業の制度と経営 9.日本の交通体系 10.航空事業 11.鉄道 12.町おこし 13.観光開発と観光資源 14.テーマパークの概念と盛衰 15.纏め 			
評価方法	受講態度50%、試験 50%で評価 交通機関、つまり鉄道、飛行機等は時間に間に合わないと乗れないので遅刻3回で1日欠席にする。私語、授業中に3回注意されたら1日欠席とみなす。			
教科書	平成25年版「観光白書」コンパクト版。国土交通省 観光庁編集、発売:全国官報販売協同組合。 定価:¥1,619+税			

科目名	I7ライン業界論【英語名:Structure of Airline Industry】	職名・担当者	講師 児玉 美由紀	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	1航空業界・空港についての基礎的な知識を学ぶ。 2航空業界の現状を知りそれぞれの航空会社の特色を理解する。			
到達目標	航空会社の仕組みや取り組みを理解することを目指す。また、航空業界の様々な職種を学び、航空業界で求められる人材適性を高め、マインドを磨く。			
準備学習	授業前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。			
授業方法	講義形式で実施していく。毎回振り返りレポートを提出する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 航空業界の歴史 2. グローバルアライアンス 3. 航空会社の事業規模 4. 国際線と国内線シェア 5. JALの経営改善 6. ANAの経営改善 7. 羽田空港の国際線ネットワーク 8. 航空運賃のしくみ 9. LCCのしくみ 10. 外資系航空会社の国際線シェア 11. 世界の航空大国 12. 世界のLCC 13. 航空産業と地球環境 14. 働く場所としての航空業界 15. 航空会社におけるCS 			
評価方法	定期試験 70%、振り返りレポート 30%			
教科書	「よくわかる航空業界」日本実業出版社			

科目名	医療事務Ⅲ【英語名:Medical SecretaryⅢ】	職名・担当者	講師 塚本 佳子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	3	2
学修目標	1. 医療事務管理士技能認定試験への合格を目指す。 2. 医療事務Ⅰ・Ⅱで習得した知識をもとに、さらなる診療報酬点数に対する理解、傷病名および診療内容に対する理解を深める。			
到達目標	さまざまなカルテ症例の点数算定を行うことで、診療報酬の点数解釈ができるようになる。			
準備学習	出された課題は確実に行き、次週の授業前に必ず提出すること。			
授業方法	医療事務管理士技能認定試験の過去問題やオリジナル問題に取り組む。 *受講条件 「医療事務Ⅰ」「医療事務Ⅱ」を履修済みであること			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(医療事務管理士技能認定試験について) 2. 学科問題対策(基本編) 3. 学科問題対策(応用編) 4. 外来症例対策(基本編) 5. 外来症例対策(応用編) 6. 入院症例対策(基本編) 7. 入院症例対策(応用編) 8. レセプト点検対策(外来 基本編) 9. レセプト点検対策(外来 応用編) 10. レセプト点検対策(オリジナル問題 外来) 11. レセプト点検対策(オリジナル問題 入院) 11. 過去問題(外来症例問題および解説) 12. 過去問題(入院症例問題および解説) 13. 過去問題(学科問題および解説) 14. 過去問題(レセプト点検問題および解説) 15. 医療事務管理士技能認定試験に向けて 			
評価方法	定期試験60%、課題提出30%、受講態度10%で評価する。			
教科書	『医科テキスト1, 2, 3, 5』ソラスト 『診療点数早見表 2014年4月(医科)』医学通信社			

科目名	医事コンピュータ演習【英語名:Medical office work computer practice】	職名・担当者	講師 塚本 佳子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医科医療コンピュータ検定への合格を目指す。 2. 医学、医療事務Ⅰ、Ⅱで習得した知識をもとに、コンピュータでの標準的な操作方法を学ぶ。 3. 各カルテ症例問題に取り組むことにより、病名と診療の流れ、専門用語などについて学ぶ。 			
到達目標	さまざまなカルテ症例を入力演習することで、医療の現場において、即戦力として活かすことができるようになる。			
準備学習	基本診療料や特掲診療料の算定ルールなど、既習内容の復習を行い授業に臨むこと。			
授業方法	各自の進度に沿って、医療事務コンピュータを操作し、カルテ症例問題の診療報酬明細書を作成し提出する。 ＊受講条件 「医療事務Ⅰ」「医療事務Ⅱ」を履修済みであること			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医事コンピュータによる業務の流れ、システムの起動と終了 2. 患者情報の入力と検索、傷病名入力、診療情報入力 3. 診療情報内容入力(基本操作) 4. 診療情報内容入力(修正他) 5. 窓口会計業務 6. Do処理 7. レセプト表示とレセプト電算処理 8. マスタ等の操作方法 9. カルテ例題演習<医学管理等・在宅医療> 10. カルテ例題演習<投薬・注射> 11. カルテ例題演習<検査> 12. カルテ例題演習<処置> 13. カルテ例題演習<手術・麻酔> 14. カルテ例題演習<画像診断> 15. カルテ例題演習<入院> 			
評価方法	課題提出70%、受講態度30%で評価する。			
教科書	『医事NaviⅢ操作テキスト』2015年度版 ケアアンドコミュニケーション株式会社			

科目名	ホテル基礎管理【英語名:Knowledge of basic management for Hotel】	職名・担当者	非常勤講師 森 景光	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	わが国のサービス産業の中でも代表的な業種の一つに位置づけられているホテル業は様々な形で社会的な役割を担っています。社会的な役割を持つホテルについての基礎知識とビジネスマナーなど幅広く修得する。			
到達目標	ホテル全般の基礎知識を身につけて少しでも現場で活かせるようになる。			
準備学習	毎授業時の復習をするとともに、質問があれば準備をしておくこと。			
授業方法	配布プリントを使用し、講義形式で授業を行います。 質疑応答の機会を増やし主体性をもたせる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『ホテル』って何？ 2. 現代のホテル業の役割 3. ホテルの発生と歴史 4. 宿泊部門の概要 5. フロント業務とロビーまわり 6. 料飲部門の概要 7. 料理メニューとワインの知識ABC 8. フランス料理とパーティー料理のマナー 9. 日本料理の作法とマナー 10. サービスとホスピタリティ 11. サービスに必要な言葉遣い 12. ホテルマーケティングの基本は 13. ホテルが行うマーケティング活動 14. ホテルが求められる安全管理とホテルのコンピューターシステムの概要 15. ホテルビジネスの喜びと将来の展望 			
評価方法	試験50%、受講態度30%、課題提出20%			
教科書	著者 小野田正美 現代ホテル理論 発行 株式会社マーケティング・オフィス			

科目名	データベース演習【英語名:Database】	職名・担当者	講師 武田 直之	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	データベースとは何かを理解し、大量のデータをコンピュータに自動処理させるための、目的に合わせた構築と、その編集、維持管理の仕方について学ぶ。			
到達目標	もっとも一般的なリレーショナルデータベースである Microsoft Access の操作が行えるだけでなく、確実に使いこなせるようになる。			
準備学習	授業計画を読み、全体の講義進行についてイメージしておくこと。			
授業方法	コンピュータを利用し、データベースの構築から維持管理までを、実際の演習を通して学んでいく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.データベースの構築(1) フィールド定義、リレーションシップ 3.データベースの構築(2) 主キー、データベースの分割 4.要素の作成と書式設定(1) データベース作成、テーブル作成 5.要素の作成と書式設定(2) プロパティ編集 6.要素の作成と書式設定(3) フォーム作成 7.要素の作成と書式設定(4) レポート作成 8.データの入力と編集 9.クエリの作成 10.クエリの編集 11.データの並び替えとフィルタ 12.データのエクスポート 13.データベースの維持管理 14.総合問題(1) 基礎 15.総合問題(2) 応用 			
評価方法	受講態度 30%、演習問題・課題 20%、定期試験 50%			
教科書	よくわかる MicrosoftAccess2010 基礎			

科目名	メディカル総合演習【英語名:Medical general practice】	職名・担当者	講師 塚本 佳子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	<p>医療機関で勤務するに当たり、医療秘書として求められる基本的な対応技法を体得する。</p> <p>1. 受付業務では、基本的な受付をもとに、さまざまな来院者および事例への対処の方法を学ぶ。</p> <p>2. 文書作成業務では、院内外で取り交わされる文書やスケジュール管理についての理解を深めたくえで、作成方法とその取扱い(処理方法)について学ぶ。</p> <p>※当科目は、「秘書士(メディカル秘書)」の称号取得に必要な科目です。</p>			
到達目標	役割演習を繰り返し行い、その都度話し合いをすることで、医療事務職員としてのさまざまな事例が落ち着いて対応できるようになる。			
準備学習	各回のテーマについて、事前によく考え、授業内で発表できるよう準備すること。			
授業方法	<p>医療秘書(2セメスター)の授業で学んだ理論をもとに、実際の医療機関を想定し、患者受付を中心とした、さまざまな事例の演習に取り組む。</p> <p>*受講条件 「医療秘書」を履修済みであること</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(院内施設および設備) 2. 受付対応(初診・再来・入院) 3. 受付対応(計算・会計・各診療科受付) 4. 受付対応(さまざまな来院者) 5. 受付対応(事例による対応) 6. 受付対応(クレーム対応および問い合わせ) 7. 院内案内 8. 院外案内 9. 電話対応(院内外へのかけ方および受け方) 10. 電話対応(伝言)および報告・連絡・相談 11. 環境整備の実際①(問題点の抽出) 12. 環境整備の実際②(改善案の話し合い) 13. 環境整備の実際③(受付環境を整える) 14. 環境整備の実際④(アセスメント) 15. まとめ 			
評価方法	受講意欲(参加度)70%、課題提出30%で評価する。			
教科書	プリント・資料配布			

科目名	おもてなし演習【英語名:Hospitality training】	職名・担当者	教授 西川 三恵子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	ホスピタリティとは何かを理解し、ホスピタリティを身につける手段を考え、今後の人生に発揮できるよう自覚する。			
到達目標	「知っている」から「できる」に意識を変えて、対人コミュニケーション能力を発揮できるようになる。			
準備学習	日々の生活の中で、EQ(こころの知能指数)を高められるよう、「目配り・気配り・心配り」を実践し、気づきの感情を高めていく。			
授業方法	視聴覚資料、指定教科書、配付資料を基に事例を学び、感想をまとめ、最終レポートを作成する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.おもてなしとは？ 2.サービスとおもてなしの違い 3.おもてなし(知識編) 4.おおもてなし(基礎編) 5.おもてなし(応用編) 6.おもてなしの仕事 7.人を大事にする心 8.プロの仕事人 9.販売サービス業に見るおもてなし 10.接客業に見るおもてなし 11.怒りを生まないコミュニケーション術 12.プラス思考を習慣にする術 13.生協の白石さんに学ぶおもてなし 14.おいしいお茶の入れ方 15.総括 			
評価方法	レポート課題 60%、受講意欲 40%			
教科書	イラッとしたときやさしい気持ちになれる本 成美堂出版			

科目名	ゼミナールⅢ【英語名:SeminarⅢ】	職名・担当者	講師 島宗 俊郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	十分に学生と話し合い、学生それぞれの卒業後の目標達成に必要な知識を勉強する。殆どの学生が就職と思われるので、就職対策に向けた学習を主として行い、卒業10年後にゼミ生が楽しく集まれる様に指導をする。大学祭への参加、模擬店を出店し利益を上げる目的で。			
到達目標	就職が目的の場合は内定を兎に角貰う事、進学の場合は勉強。			
準備学習	キャリア支援課と密に連絡を取り、募集情報を得る。又は自分でも所謂コネを使い情報を得る。			
授業方法	一番は楽しいゼミにする。 次にゼミ生お互いが各自の目標を達成できるよう、Plan,Do,Check,Report を指導するが、ゼミ生同士が仲間意識を持てる様指導する。教科書を使うが、必ず自分の意見を述べるようにする。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゼミの方針。自己紹介、出会いの大切さ 2. 「幸せ」になるための授業 3. 「あいさつ」について 4. 「掃除」について 5. 「素直」について 6. 「人生の役割」 7. 「おもてなしの心」 8. 「ツキを呼ぶ魔法の言葉」 9. 「与える者は与えられる」 10. 「ありがとう」「感謝」 11. 「パワースポット」 12. 先生が体験したこと イギリスでの体験 13. 先生が体験したこと アメリカでの体験 14. ゼミのレポート提出 15. 各自、自作の料理を持ち寄り会食セミナー 			
評価方法	定期試験50%、小テスト30%、受講態度20%			
教科書	教科書でなく参考書として。 「私が一番受けたいココロの授業」 著者:比田井和孝、比田美恵 株式会社 ごま書房新社			

科目名	ゼミナールⅢ【英語名:SeminarⅢ】	職名・担当者	講師 高濱 優子	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	企業・組織側が求職者に求めることや、既存の社員に求めることは何かといったあるべき姿を研究するとともに、充実した就職活動になるために、各人の目標や夢に合わせた指導、および周囲からの助言による気づきを得られるようにします。			
到達目標	就職活動戦線を有利に進め、さらに卒業後に組織から必要とされる「人財力」を向上させます。 チームで働く力、考え抜く力、前に踏み出す力の「社会人基礎力」、およびコミュニケーション能力、職業人意識、ビジネスマナーを体得し「できる」レベルになることを目標とします。			
準備学習	随時指示します。			
授業方法	双方向型のゼミにします。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 企業・組織の仕事を知る 3. 企業・組織の仕組み・仕事内容を知る 4. 組織側、人事が「人財」に求める基準・スキルとは 5. 就活および社会で活躍できるためのビジネスマナー 6. コミュニケーションの達人になるための敬語・話し方 7. 就活でしっかりキメよう、訪問・立ち居振る舞いマナー 8. 電話応対上手になろう 9. 文書表現のスキル UP:ビジネス文書の書き方、メールの書き方 10. 就職活動支援演習:書類作成 11. 就職活動支援演習:訪問マナー 12. 就職活動支援演習:面接訓練①練習 13. 就職活動支援演習:面接訓練②本番 14. 就職活動支援演習:グループディスカッション①練習 15. 就職活動支援演習:グループディスカッション②本番 			
評価方法	参加姿勢 30%、課題提出物 30%、積極性・発言度 40%で評価します。			
教科書	なし			

科目名	ゼミナールⅢ【英語名:SeminarⅢ】	職名・担当者	講師 武田 直之	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	社会の構成員としての自己像をとらえ直し、自分が働きたいと思える職種・業種について研究することで、就職活動に必要な、ひいては社会人として必要なスキルを理解し高める。また学生時代の集大成として、熱意を持って取り組める卒業論文のテーマを決定する。			
到達目標	自分の得手、不得手を客観的に理解し、就職活動に生かすことができる。 問題意識を持ち、建設的に指摘できる。			
準備学習	関心のある業界について自分なりに調べておく。自己分析を進めておく。			
授業方法	適宜、プリントや資料を用いて演習を行う。インターネットや図書館で情報を収集する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 就職活動とは 2.自己分析と業界研究(1) 自分の強み、弱み 3.自己分析と業界研究(2) 成長した自分とは 4.志望動機と自己PR(1) 論理的思考 5.志望動機と自己PR(2) プレゼンテーションスキル 6.面接対策、グループディスカッション(1) メタ認知 7.面接対策、グループディスカッション(2) マネジメントスキル 8.コミュニケーション実習 9.ITの積極的活用法について 10.社会人とはどんな存在か 11.卒業論文とは 12.卒業論文作成のための情報収集 13.卒業論文テーマの検討 14.卒業論文の決定 15.まとめ 			
評価方法	受講態度 50%、課題 50%			
教科書	なし			

科目名	ゼミナールⅢ【英語名:SeminarⅢ】	職名・担当者	講師 塚本 佳子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	医科診療報酬算定のさまざまな解釈について学習し、応用技術を身につける。			
到達目標	医科診療報酬点数早見表の内容を理解し、より早く確実な点数算定ができるようになる。			
準備学習	認定試験合格のためには、授業のみならず自宅においても積極的な問題演習を行うこと。			
授業方法	不明な点はその場で解決できるよう、個人対応を基本として授業を進める。 各自、理解習得度に合わせ、目標をもって問題集に取り組む。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(目標設定とコミュニケーションづくり) 2. 学科問題対策(基礎編1)医療関係法規等 3. 学科問題対策(基礎編2)基本診療料、特掲診療料 4. 学科問題対策(演習編1)医療保険制度、療養担当規則等、初診、再診 5. 学科問題対策(演習編2)入院、医学管理等、在宅医療 6. 学科問題対策(演習編3)検査、病理診断、画像診断、投薬、注射 7. 学科問題対策(演習編4)処置、手術、麻酔、リハビリ、精神科専門療法他 8. 学科問題模擬試験 9. 実技問題対策(1)オリジナル早見表作成(基本診療料) 10. 実技問題対策(2)オリジナル早見表作成(特掲診療料) 11. 実技問題対策(3)外来カルテ<内科症例> 12. 実技問題対策(4)外来カルテ<内科・整形外科症例> 13. 実技問題対策(5)入院カルテ 14. 実技問題模擬試験(1)外来 15. 実技問題模擬試験(2)入院 			
評価方法	受講態度50%、課題提出50%で評価する。			
教科書	『診療点数早見表2014年版医科』医学通信社 『診療報酬請求事務能力認定試験医科 学科集中』社会保険研究所 『医事関連法の完全知識』医学通信社			

科目名	ゼミナールⅢ【英語名:SeminarⅢ】	職名・担当者	講師 早川 健太郎	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	充実した就職活動を行い、自分の目標とする職業に就職できるように取り組む。就職活動に必要なスキルを高める。短期大学生の集大成となる卒業論文のテーマも考える。			
到達目標	自分の希望する職業に就職できるように活動する。 卒業論文作成の準備をする。			
準備学習	自己分析をしっかりと行う。			
授業方法	適宜資料を用いて演習を行う。インターネットや図書館で文献検索を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 就職活動について 3. 面接指導 4. 面接対策 5. 自己分析 6. 自己PRの確認 7. 就職活動の中間報告 8. 自分自身の健康について 9. 健康について調べる 10. スポーツについて調べる 11. 卒業論文とは 12. 論文を読む 13. 卒業論文テーマの検討 14. 就職状況報告 15. まとめ 			
評価方法	課題・レポート 50% 意欲 50%			
教科書				

科目名	心理学総論【英語名:Psychology】	職名・担当者	教授 陳 惠貞	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	<p>1. 心理学の一般的な方法論や心理学の各領域における基礎的な知識を身に付けていく。</p> <p>2. 人間を理解するための方法を学び、人間の行動を心理学的に分析し観察を通して探求する。</p> <p>3. 子供の行動の喚起、動機づけ理論を学び、子供の性格に応じたやる気を引き出す方法を考える。</p> <p>4. 子供の発達障害・適応障害などの問題行動を理解し、現代の子供の問題行動の背景を探る。</p>			
到達目標	心理学の一般的な方法論や心理学の各領域における基礎的な知識を身に付けることができる。人間を理解するための方法を学び、人間の行動を心理学的に分析し、職場で応用ができるようになる。			
準備学習	進度表を示し、毎回の授業範囲と分量(テキスト 10 ページ前後)を示す。授業の前に進度表をもとに予習し、授業後に復習し、レポートを提出する。			
授業方法	講義を中心に展開していく。必要に応じて映像資料を用い、分析・発表を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人の心理学的探求、心理学とは 2. 現代心理学の源流 3. 心理学の研究方法 4. 知覚の基礎、外界知覚の諸相 5. パターン認識と注意 6. 行動獲得の基礎、情報の処理と保持 7. 行動獲得と思考 8. 行動の喚起—動機づけ 9. フラストレーションと葛藤 10. 情動と動機づけ 11. 性格とは、性格の測定 12. 子どもの適応障害の諸相とその理解 13. 人の社会的行動、対人関係の認知 14. 社会的な態度、集団内での人の行動 15. まとめ 			
評価方法	授業態度とノート(60%)、小テストや課題の提出状況(40%)による評価			
教科書	心理学の基礎—新しい知見とトピックスから学ぶ— 加藤司編集 樹村房			

科目名	政治と経済【英語名:Politics and Economics】	職名・担当者	教授 高木 清秀	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	日本社会における政治・経済的な側面を概観する。そして現在の日本社会の大きな枠組みがどのように形成されたかを、社会・経済的側面を中心に学習する。			
到達目標	政治と経済についての基本的な考え方、および、経済の仕組みと政治の仕組みについて理解し、幅広い知識の習得を目指す。			
準備学習	新聞の政治面・経済面にも目を通す。日経新聞なども図書館に所蔵しているので、空き時間等を利用して閲覧し、理解できない語句については積極的に調べるなどして用語に慣れておく。			
授業方法	講義形式ではあるが、質疑応答の機会を設けるなど、主体的な理解を深めながら学ぶ。			
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① インTRODクシヨン ② 政治とは何か ③ 経営経済の注意点 ④ 物価と原価 ⑤ 政治制度論 — 三権分立 ⑥ 慶事制度論 — 議院内閣制と大統領制 ⑦ 株式市場 ⑧ 景気 ⑨ 経済政策の対立状況 ⑩ 行政 ⑪ 政党 ⑫ 世界の経済 ⑬ 世論 ⑭ まとめ 			
評価方法	テスト 60%、受講態度 40%で評価。			
教科書	別途案内する。			

科目名	介護職員初任者研修講座Ⅱ【英語名: Introduction course of care worker Ⅱ】	職名・担当者	上田・三好ほか	
		単位数	Semester	年次配当
授業形態	演習	3	4	2
学修目標	介護職員初任者研修講座Ⅰ・Ⅱは、介護に携わる者が、業務を遂行する上で最低限の知識・技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身につけ、基本的な介護業務を行うことができるようになることを目標とする。			
到達目標	<p>介護職員初任者研修講座Ⅰ・Ⅱを修了したときの到達目標は以下のとおりである。</p> <p>① 基本的な介護を実践するために最低限必要な知識・技術を理解できる。</p> <p>② 介護の実践については、正しい知識とアセスメント結果に基づく適切な介護技術の適用が必要であることを理解できる。</p> <p>③ 自立の助長と重度化防止・遅延化のために、介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させるといった視点が必要であることを理解できる。</p> <p>④ 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活を送れるようにするために、利用者一人ひとりに対する生活状況の的確な把握が必要であることを理解できる。</p> <p>⑤ 他者の生活観及び生活の営み方への共感、相手の立場に立って考えるという姿勢を持つことの大切さについて理解できる。</p> <p>⑥ 自立支援に資するサービスを他職種と協働して総合的、計画的に提供できる能力を身につけることが、自らの将来の到達目標であることを理解できる。</p> <p>⑦ 利用者本位のサービスを提供するため、チームアプローチの重要性とその一員として業務に従事する際の役割、責務等を理解できる。</p> <p>⑧ 利用者、家族、他職種との円滑なコミュニケーションのとり方の基本を理解できる。</p> <p>⑨ 的確な記録・記述の大切さを理解できる。</p> <p>⑩ 人権擁護の視点、職業倫理の基本を理解できる。</p> <p>⑪ 介護に関する社会保障の制度、施策、サービス利用の流れについての概要を理解できる。</p>			
準備学習	授業前に該当するテキストのページを読んでおく。授業終了時にはレポート作成を課すことがある。提出期限を遵守すること。課題がない場合は必ず復習をしておくこと。			
授業方法	講義・演習が一体的に実施する。受講生は原則欠席を認めない。受講者がやむを得ない理由により研修の一部を欠席した場合、補講をすることがある。			
授業計画	授業開始時に指示する。 介護職員初任者研修講座Ⅰを修了していること。			
評価方法	試験 100%			
教科書	「介護職員初任者研修課程テキスト」全3巻 日本医療企画			

科目名	ビジネス文書【英語名:Business Document】	職名・担当者	講師 武田 直之	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	ビジネスの世界で必須となる文書作成において、論理的にわかりやすく相手に伝えることのできる構成や視覚化の技術を身に付ける。また、ケースに合わせて文章を要約したり、データから考察を文章化したりできるスキルを習得する。			
到達目標	社会で必要とされる、わかりやすいシンプルで美しい文書を作成することができる。			
準備学習	普段使う文章と、ビジネス文書の違いを考えておくこと。			
授業方法	毎回課題を課し、演習を通して文書作成を学ぶ。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.相手に「伝える」ということ 2.情報の整理(1) 重複や矛盾を防ぐ 3.情報の整理(2) 論理的飛躍をなくす 4.論理パターン(1) 基礎 5.論理パターン(2) 図解 6.論理パターン(3) 応用 7.メッセージ組み立ての準備 8.本論の組立て(1) 基礎 9.本論の組立て(2) 応用 10.導入の必要性 11.メッセージの日本語表現 12.対象の明確化 13.文章の作成(1) 全体の見通し 14.文章の作成(2) 視覚化 15.文章の作成(3) 推敲 			
評価方法	受講態度 40%、演習問題 20%、レポート課題 40%			
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。			

科目名	プログラミング演習【英語名:Programming】	職名・担当者	講師 武田 直之	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	実用的なソフト開発や、コンピュータの理解を深めるために必要なプログラミングの考え方、作成の仕方を身につける。			
到達目標	プログラミングの手法を通して、論理的に考え方、効率よく問題を解決することができる。			
準備学習	コンピュータの基本について学んでおくこと。			
授業方法	演習形式により授業を進める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. プログラミング環境と言語・コンピュータの扱えるデータ 3. 変数と代入 4. 課題演習(変数と代入) 5. 制御構造・条件分岐 6. 課題演習(条件分岐) 7. 制御構造・繰り返し 8. 課題演習(繰り返し) 9. 演算子 10. 課題演習(演算子) 11. 効率的な文法 12. 課題演習(効率的な文法) 13. 応用的な文法 14. 総合演習(1) 基礎 15. 総合演習(2) 応用 			
評価方法	受講態度 40%、課題提出 10%、期末課題 50%			
教科書	必要に応じて適宜配布する。			

科目名	ダイエット検定講座【英語名:Diet test】	職名・担当者	教授 西川 三恵子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	・健康と美に関する正しい知識を学び、理解する。			
到達目標	正しいダイエットと健康知識を理解し、自身の健康管理ができるようになり、他の人にも説明できるようになる。			
準備学習	使用するテキストに目を通し、読めない漢字や意味の分からない語彙については各自で調べておくこと			
授業方法	日本ダイエット健康協会発行のテキストを用いて、試験問題領域について講義をしたのち、模擬問題で習得度を測る。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ダイエット検定について 2. ダイエットとは 3. ダイエットの歴史 4. 現代ダイエットの基礎知識 5. BMI・LBM値 6. 体脂肪の基礎知識 7. 三大栄養素の過剰摂取と体脂肪 8. カロリーと栄養素とダイエット 9. 代謝とリバウンドの基礎知識 10. インスリンとG1値 11. 運動とダイエット方法論 12. 模擬問題① 13. 模擬問題①の解答と解説 14. 模擬問題② 15. 模擬問題②の解答と解説 			
評価方法	定期試験 60%、受講態度 40%			
教科書	ダイエット検定 公式テキスト2級			

科目名	POP 広告クリエイター検定講座【英語名:Point of Purchase Advertising】	職名・担当者	講師 西浜 クリス	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	社団法人 公開経営指導協会のPOP広告クリエイター技能審査試験に合格できるように、POP広告の基礎知識、基礎から応用レベルまでのPOP広告作成能力を修得する。			
到達目標	社団法人 公開経営指導協会のPOP広告クリエイター技能審査試験に合格できる知識と力をつける。			
準備学習	事前に教科書を読んでおく。			
授業方法	角ゴシック体、丸ゴシック体などのハンドレタリングの基本ストロークから、ショーカード、プライスカード、ポスター風POP広告までの応用的なPOP広告まで段階的に学びます。また、学科試験対策として、POP広告の基礎知識についても効率的に学びます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.ガイダンス 2.販売促進とPOP広告 3.POP広告の種類と役割 4.POP広告作成の一般知識 5.POP広告作成に使用する用具、用紙の種類、用途及び使用方法 6.POP広告作成 ガイダンス 7.レタリング基礎 8.レタリング応用 9.ショーカード作成 10.プライスカード作成 11.ポスター風 POP 作成 12.過去問題演習①レタリング、装飾文字 13.過去問題演習②ショーカード、プライスカード 14.過去問題演習③ポスター風POP作成 15.総合演習 			
評価方法	授業態度 50%、課題 50%で評価します。			
教科書	公開経営指導協会公式「学科テキスト」、プリント等配布			

科目名	デジタルコミック検定講座【英語名:Lecture for qualification acquisition of a Digital Comic】	職名・担当者	非常勤講師 天野 寛	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	デジタルコミックに関する基礎的知識・技術を習得し、作品を完成させる実力をつける。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. デジタルコミックの用語や概念について理解し、説明できる。 2. デジタルコミックを完成させる技術を身につけ、作品を仕上げることができる。 3. アシスタントに必要な知識を身につけ、現場で活用できる。 4. 初級(4級程度)に合格する実力をつける。 			
準備学習	<p>事前学習として、演習の前にテキストの該当箇所を予習して授業に臨む。</p> <p>事後学習として、演習の内容を振り返り、再度描くことによって操作方法の理解を深める。</p>			
授業方法	指定の教科書を基にして操作方法を解説しながら、実際にタブレットを使って描くことで作品を完成させる技術を習得していく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 描画とデータの保存。レイヤーの種類と用途 2. 原稿のスキャン。下書きの読み込みとペン入れ。 3. 枠線の操作と制作、コマ割りの作り方 4. フキダシの作り方とセリフの入力 5. ベタ塗り、塗りつぶしツールの操作。マジックワンドのツール 6. 効果線の描画における集中線と流線の使い方 7. トーンワークの基本。基本トーンの種類、グラデーショントーンの操作 8. パターンブラシでの描画。パターンの特徴と描画するレイヤー 9. 背景の描き方。消失点フィルターの利用 10. 写真データをトレースする 11. 写真データの加工と利用 12. 書き出し、印刷の基本設定 13. ページもの作品の制作の手順 14. ネームから下書きまでの操作方法 15. 下書きから作品完成までの操作方法 			
評価方法	定期試験(操作技術)90%、受講態度(出席、参加度)10%			
教科書	「Comic Studio の教科書」小高みちる、日本マンガ教育文化普及協会			

科目名	電子カルテ演習【英語名:Practice of electric patient's record】	職名・担当者	講師 塚本 佳子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	1. 電子カルテへの標準的な操作方法を習得する。 2. 医学、医療事務Ⅰ・Ⅱで習得した知識をもとに、カルテ症例の病名および診療内容に対する理解を深める。 3. 医事会計システム、オーダリングシステムについて学ぶ。			
到達目標	電子カルテの現状と役割を知り、電子カルテへの標準的な操作ができるようになる。			
準備学習	授業で学んだ操作方は必ずメモを取り、スムーズで確実な操作を行うためにはどのような工夫が必要かを考え、復習し、次の授業に臨むこと。			
授業方法	各自カルテ症例の病名・診療内容入力を行い、入力後のカルテ用紙およびレセプト用紙を提出する。 チェックを受け、訂正があれば、訂正後再提出を行う。 ＊受講条件 「医療事務Ⅰ」「医療事務Ⅱ」「医事コンピュータ演習」を履修済みであること。			
授業計画	1.電子カルテシステム関連知識、システムの起動と終了 2.権限設定、メニュー画面・ステーション画面における操作 3.カルテの記録(問診票)(SOAP形式に従った入力判断) 4.補足ツール(テンプレート・シェーマ・DRAW)の活用 5.標準マスタ使用による病名登録、処方等の入力 6.画像・注射・処置・検査等の入力 7.オーダー処理(医事会計、画像、検査)、do処理 8.傷病名のシークレット化、予約登録(診療・検査等) 9.カルテ印刷、検査の院内セット 10.操作演習(診療所 外来)＜初再診・医学管理・投薬＞ 11.操作演習(診療所 外来)＜注射・処置＞ 12.操作演習(診療所 外来)＜検査・画像診断＞ 13.操作演習(病院 外来)＜問答形式問題 検査＞ 14.操作演習(病院 外来)＜問答形式問題 投薬・注射＞ 15.操作演習(病院 外来)＜問答形式問題 輸血＞			
評価方法	課題提出60%、受講態度40%で評価する。			
教科書	『電子カルテシステムの理解と演習』2015年度版 ケアアンドコミュニケーション株式会社			

科目名	表計算演習【英語名:Spread-Sheet】	職名・担当者	講師 武田 直之	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	表計算ソフト Excel の利用技術に磨きをかけ、より実践的な操作技術として実社会で活かせる能力を身に付ける。			
到達目標	Excel の機能をひと通り学び、機能を的確に選択し活用することができる。			
準備学習	これまでの予習をしておくこと。			
授業方法	配布資料を用いて、演習形式により授業を進める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 文字列操作 3. 日付データの計算 4. データベース関数 5. シート間の計算 6. ピボットテーブル 7. 条件付き集計 8. データの共有とセキュリティ 9. データ抽出 10. データ分析の基礎 11. データ分析演習(1) 販売管理 12. データ分析演習(2) マーケティング 13. データ分析演習(3) 生産管理・在庫管理 14. データ分析演習(4) 経理・財務管理 15. 総合演習 			
評価方法	授業態度、課題 50%、定期試験 50%			
教科書	必要に応じて適宜プリントを配布する。			

科目名	キャビンアテンダント基礎【英語名:Cabin Attendant Basic】	職名・担当者	講師 児玉 美由紀	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	1キャビンアテンダントの仕事内容とサービスを学び、最高のおもてなしを提供するための接客マナーを身に付ける。 2キャビンアテンダント向け面接対策、グループディスカッション対策を行い、自己表現力を培う。			
到達目標	JAL・ANAキャビンアテンダントの仕事内容理解、それに伴う専門知識の修得を目標とする。清潔感のある身だしなみ、明るく豊かな表情づくり、美しい立ち居振る舞いを習得する。模擬面接を通じて面接マナー、言葉遣いを身に付けキャビンアテンダント就職内定を勝ち取るレベルまで向上する。			
準備学習	授業前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。			
授業方法	グループ面接、グループディスカッションなど実践を交えた講義。 振り返りレポート提出。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャビンアテンダントの業務内容 2. 入社後の生活とキャリア 3. 第一印象と身だしなみの重要性 4. JAL企業研究 5. ANA企業研究 6. JAL ANAグループディスカッション対策 7. グループ面接対策 8. JALグループエアラインCAのキャリアパス 9. ANAグループエアラインCAのキャリアパス 10. JALのサービス 11. ANAのサービス 12. 機内サービス ロールプレイング 13. 機内アナウンス実践 14. JALフィロソフィ 15. ANAのCSR 			
評価方法	定期試験 60%、グループワークでの積極性 30パーセント 振り返りレポート 10%			
教科書	「国内エアライン 客室乗務員になる本」イカロス出版			

科目名	観光マーケティング【英語名:Tourism Marketing】	職名・担当者	講師 島宗 俊郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	2年間お世話になった先生に感謝の気持ちを込めて先生の為の旅行を企画、パワーポイントを使い作成し発表する事により、他の人に説明出来るようになることを目的とする。			
到達目標	入社前に、他の人の前で自分の意見が明確に述べることができるように、旅行の作品発表という方法で習得する。			
準備学習	お世話になったゼミの先生は何処に旅行に行きたいのか、折に触れ聞いておくこと。			
授業方法	先生を尋ね、旅行の目的を聞き出して、旅行を企画、作成する。学生同士で2～3名の班を構成し、班で旅行を作り発表する。併せて旅行商品の作り方も学ぶ。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.概要 2.国内旅行商品企画、企画、コンセプト、独自性、付加価値 3.班に分け、約割り分担 4.お客さんとのコンタクト 5.商品作成 観光資源 6.商品作成 宿泊施設の概観 7.商品作成 観光と交通 8.商品作成 テーマパーク 9.商品作成 観光土産品と土産品業 10.プレゼンテーション予習 前半の班の進捗チェック 11.プレゼンテーション予習 後半の班の進捗チェック 12.プレゼンテーション予習 前半の班の作制作品訂正 13.プレゼンテーション予習 後半の班の作制作品訂正 14.プレゼンテーション本番 審査委員による判定 15.纏め 			
評価方法	受講態度 50%、プレゼンテーション・作品 50%で評価 遅刻、欠席は、同じ班の学生に迷惑が掛かるので減点にする。3回遅刻は1日欠席とする。			
教科書	プリント配布、旅行社のパンフレット。			

科目名	医療教養【英語名:Manner of health care worker】	職名・担当者	教授 西川 三恵子	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	医事従事者は来院者に対して援助者と被援助者の関係であることを理解する。 被援助者に寄り添うコミュニケーションを学ぶ。			
到達目標	医事従事者としてのマナーが身に付く。 ケア・コミュニケーションについて学び、実社会においても活かせるようになる。			
準備学習	身の回りのものについて興味や関心を持って生活することを心掛ける。			
授業方法	テキストや配布プリントに沿って講義形式で進めたり、演習・実習形式で実際に体験することで学んだりする。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療従事者のケア・コミュニケーション 2. 接遇の5原則 3. 慶事のマナー 4. 弔事のマナー 5. テーブルマナー演習 6. コーチング・コミュニケーション(非言語) 7. コーチング・コミュニケーション(言語) 8. コーチング・コミュニケーション(サポート) 9. ホスピタリティ・マインドを育てる 10. がんばらないけどあきらめない 11. 院内の環境整備 12. 博物館見学 13. 美術館見学 14. アレンジメントフラワー体験 15. まとめ 			
評価方法	レポート試験 50%、課題 30%、受講態度 20%			
教科書	たった1つ変わればうまくいく 蒲田實 集英社文庫			

科目名	パーソナルトレーナー資格講座【英語名:Lecture for the personal trainer qualification】	職名・担当者	講師 早川 健太郎	
		単位数	semester	年次配当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	全米ストレングス&コンディショニング協会(NSCA)が出している「パーソナルトレーナーのための基礎知識」を理解する			
到達目標	パーソナルトレーナーとして必要なエクササイズサイエンス・初回面談と評価・エクササイズテクニック・プログラムデザイン・特定クライアントについて学び資格取得に必要な知識を得ることができる。			
準備学習	次回に行う内容の教科書範囲を必ず熟読しておくこと			
授業方法	教科書を中心に講義を行う			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.解剖生理学 3.バイオメカニクス 4.トレーニングへの適応 5.トレーニングにおける栄養 6.運動心理学 7.面談・テストと評価 8.エクササイズテクニック 1 柔軟性・自重エクササイズ 9.エクササイズテクニック 2 レジスタンスエクササイズ 10.プログラムデザイン 1 レジスタンス・有酸素トレーニング 11.プログラムデザイン 2 プライオメトリック・スピードトレーニング 12.特定のクライアントに向けて 1 対象別 13.特定のクライアントに向けて 2 疾患別 14.安全性と法的問題 15.まとめ 			
評価方法	小テスト 50% 定期試験 50%			
教科書	パーソナルトレーナーのための基礎知識			

科目名	ゼミナールⅣ【英語名:SeminerⅣ】	職名・担当者	講師 島宗 俊郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	観光・旅行、その他に関連するテーマを選び、卒業レポートを作成する。			
到達目標	卒業テーマの研究発表をゼミ生の前で行い、 テーマについて理解する。			
準備学習	テーマが決まったら関係する書物を読み込み参考にする。			
授業方法	当番学生の2分間スピーチを授業の初めに行う。 図書館、研究室を使用。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. セミナーの方針 2. 26年度卒業生の卒論を検討する 3. 卒論テーマの作成計画 4. 卒論作成 なぜ論文を書くのか？ 5. 卒論作成 何を(どこで)書のか？ 6. 卒論作成 いかにか書くか？ 7. 卒論作成 データの収集 8. 卒論作成 データの分析 9. 卒論作成の中間チェック 10. 卒論作成 内容の考察 11. 卒論作成 パワーポイント作成 12. 卒論作成 スピーチ練習 13. 卒論作成 卒論発表の模擬練習 14. 卒論テーマの研究発表 15. 各自、自作の料理の会食セミナー 			
評価方法	研究・発表70%、受講態度30%			
教科書	各自に参考文献の紹介、指導する。			

科目名	ゼミナールⅣ【英語名:SeminerⅣ】	職名・担当者	講師 高濱 優子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	<p>本ゼミは、企業等の組織の仕組みや、人事制度、有効な人材育成手法について研究し、自分自身が社会で活躍できるビジネス・パーソンになることを目指します。</p> <p>学生生活の集大成となる卒業レポートの作成を行います。各人の目標に沿ったテーマを設定し、文章をまとめるとともに、聴き手にとってわかりやすい説明方法の研鑽も目標とします。</p> <p>なお、卒業後の進路・就職指導に関しても併せて随時指導します。</p>			
到達目標	<p>どの年代、立場の人とも良好な関係性が築けるようになるヒューマンスキルの向上と、文章作成にあたり、論文およびビジネス上で通用する的確な表現力を学習・理解することができます。</p> <p>発表経験を積むことで、自信を持ったプレゼンテーションができるようになります。</p>			
準備学習	随時指示します。			
授業方法	双方向型の授業形式です。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業レポートテーマの設定 2. 卒業レポートの書き方指導と計画立案 3. 卒業レポートテーマの発表 4. 卒業レポートの作成①計画 5. 卒業レポートの作成②先行研究調査 6. 卒業レポートの作成③調査手法の検討 7. 卒業レポートの作成④調査 8. 卒業レポートの中間報告 9. 卒業レポートの作成⑤分析 10. 卒業レポートの作成⑥作成 11. 卒業レポートの作成⑦仕上げ 12. 卒業レポートの発表①1～3 13. 卒業レポートの発表②4～6 14. 卒業レポートの発表③7～8 15. まとめ 			
評価方法	卒業レポート・発表 40%、受講態度・積極性・発言度 60%で評価します。			
教科書	別途指示します。			

科目名	ゼミナールⅣ【英語名:SeminerⅣ】	職名・担当者	講師 武田 直之	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	学生時代の集大成として卒業研究に取り組み、それを卒業論文としてまとめる。問題意識を持ち、それを建設的に指摘する方法について学習する。また、コンピュータを駆使し、効果的な文章のまとめ方、図表の示し方を考察する。 また就職活動報告を通して、ポイントをおさえた報告・連絡・相談の方法を学ぶ。			
到達目標	研究成果をまとめ、卒業論文を完成させる。また、それを人に伝えられる効果的なプレゼンテーションをすることができる。			
準備学習	興味関心のある分野について、情報収集しておく。			
授業方法	先行研究を参考にしながら、PCを利用し卒業論文を作成する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就職活動の報告 2. 卒業研究計画の立案 3. テーマと卒業研究計画の発表 4. 卒業研究(1)興味を持って取り組める内容か 5. 卒業研究(2)オリジナリティとは 6. 卒業研究(3)予備調査と仮説設定 7. 卒業研究の中間報告 8. 卒業論文の作成(1)実験・調査 9. 卒業論文の作成(2)データのまとめ方 10. 卒業論文の作成(3)データの提示 11. 卒業論文の作成(4)文章表現 12. 卒業論文の作成(5)全体の構成 13. 研究成果の発表(1)プレゼンテーション 14. 研究成果の発表(2)ディスカッション 15. 研究成果の発表(3)まとめ 			
評価方法	受講態度 50%、卒業論文・発表 50%			
教科書	なし			

科目名	ゼミナールⅣ【英語名:SeminerⅣ】	職名・担当者	講師 塚本 佳子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	1. 医科診療報酬算定のさまざまな解釈について学習し、応用技術を身につける。 2. 難易度の高い診療報酬請求事務能力認定試験合格をめざす。			
到達目標	医科診療報酬点数早見表の内容を理解し、より早く確実な点数算定ができるようになる。			
準備学習	認定試験合格のためには、授業のみならず自宅においても積極的な問題演習を行うこと。			
授業方法	不明な点はその場で解決できるよう、個人対応を基本として授業を進める。 各自、理解習得度に合わせ、目標をもって問題集に取り組む。			
授業計画	1. 実技問題対策(1)外来カルテ<外科症例> 2. 実技問題対策(2)外来カルテ<眼科症例> 3. 実技問題対策(3)入院カルテ<診療所> 4. 実技問題対策(4)入院カルテ<病院・一般病床> 5. 実技問題対策(5)入院カルテ<病院・緊急入院> 6. 実技問題対策(6)入院カルテ<病院・継続入院> 7. 過去問題(1-1)第35回学科問題 8. 過去問題(1-2)第35回外来問題 9. 過去問題(1-3)第35回入院問題 10. 過去問題(2-1)第36回学科問題 11. 過去問題(2-2)第36回外来問題 12. 過去問題(2-3)第36回入院問題 13. 過去問題(3-1)第37回学科問題 14. 過去問題(3-2)第37回外来問題 15. 過去問題(3-3)第37回入院問題			
評価方法	受講態度50%、課題提出50%で評価する。			
教科書	『最新問題と受験対策平成26年版』社会保険研究所 『診療点数早見表2014年度版医科』医学通信社 『医事関連法の完全知識』医学通信社			

科目名	ゼミナールⅣ【英語名:SeminerⅣ】	職名・担当者	講師 早川 健太郎	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	短期大学生として集大成となる卒業論文の作成を行う。それぞれが自分の進むべき方向に沿ったテーマを探究し、図表を用いて、文章をまとめ、発表する。			
到達目標	卒業論文を完成させる。			
準備学習	卒業論文作成のための準備を行う。			
授業方法	過去の卒業生の卒業論文も参考にしながら、自分のテーマを見つけ、卒業論文を作成する。適宜、PCも利用しながら進める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就職活動の報告 2. 卒業論文作成計画の立案 3. 卒業論文テーマの模索 4. 卒業論文テーマの決定 5. 卒業論文 文献検索 6. 卒業論文 文献リスト作成 7. 卒業論文 方法の選択 8. 卒業論文 調査 9. 卒業論文 結果のとりまとめ 10. 卒業論文 章立て 11. 卒業論文 方法・結果の作成 12. 卒業論文 諸言・考察の作成 13. 卒業論文 加筆・修正 14. 卒業論文 仕上げ 15. 卒業論文 提出 			
評価方法	卒業研究論文 80% 態度・意欲 20%			
教科書				

子ども学科 シラバス

科目名	英語コミュニケーション I 【英語名:English Communication I】	職名・担当者	講師 西浜 クリス	
		単位数	Semester	年次配当
授業形態	演習	2	1	1
学修目標	“子ども英語指導者トレーニング”をテーマに学習する。ビデオ・英語の歌を通して、英語のリズムと発音を学ぶ。			
到達目標	将来現場で子ども達に、英語の歌を教えること、簡単な英語のゲームを楽しませることができるようになる。			
準備学習	次回学習するユニットに出てくる分からない単語を調べてくる。			
授業方法	歌やゲームを子ども達と楽しむにはまず英語の発音やリズムのトレーニング、簡単な単語の知識が必要です。実際に歌をうたったり、ゲームをする中で身に付けていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.ビデオによる英語のインプット 親子の会話1、 歌による発音リズム練習 1 Hello! 2.ビデオによる英語のインプット 親子の会話 2、 歌による発音リズム練習、前回の復習 3.ビデオによる英語のインプット 親子の会話 3、 歌による発音リズム練習 2 Twelve Months 4.ビデオによる英語のインプット 姉妹の会話1 歌による発音リズム練習 前回の復習 5.ビデオによる英語のインプット 姉妹の会話 2 歌による発音リズム練習 3 Bingo 6.ビデオによる英語のインプット 姉妹の会話 3 歌による発音リズム練習 前回の復習 7.ビデオによる英語のインプット 学校の会話1 歌による発音リズム練習 4 The Bus Song 8.ビデオによる英語のインプット 学校の会話 2 歌による発音リズム練習 前回の復習 9.ビデオによる英語のインプット 学校の会話 3 歌による発音リズム練習 5 Row Row Row Your Boat 10.ビデオによる英語のインプット 友人との会話1 歌による発音リズム練習 前回の復習 11.ビデオによる英語のインプット 友人との会話 2 歌による発音リズム練習 6 Head, Shoulder, Knees, and Toes 12.ビデオによる英語のインプット 友人との会話 3 歌による発音リズム練習 前回の復習 13.ビデオによる英語のインプット 日常会話全般:家庭で1 歌による発音リズム練習 これまでの復習 (Hello!, Twelve Months) 14.ビデオによる英語のインプット 日常会話全般:友人との場面で 2 歌による発音リズム練習 これまでの復習 (Bingo, The Bus Song)2 15.ビデオによる英語のインプット 日常会話全般:学校で 3 歌による発音リズム練習 これまでの復習 (Row Row Row Your Boat, Head, Shoulder, Knees, and Toes)3 			
評価方法	授業での積極性 50%、期末課題 50%			
教科書	『Activity Based Listening : Starter』朝日出版社 片野田浩子著			

科目名	情報リテラシー I 【英語名:Information Literacy I】	職名・担当者	講師 早川・武田	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	1	1
学修目標	情報通信技術の進歩に伴い、私たちの生活、社会が大きく変わりつつあります。デジタル・ディバイド(情報格差)を脱却するために、情報通信の原理・原則・マナー、各種ソフトウェア(主に Word,Excel,Powerpoint)の利用技術を学び、ならびに最低限のキーボード操作を習得します。			
到達目標	情報リテラシーを学び、保育分野において活かせることができるようになる。			
準備学習	どのような内容について学ぶのか、教科書を一読しておくこと。			
授業方法	指定の教科書を用いて、演習形式で課題を作成していきます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(アカウントの配布、PC および電子メールのログオン確認) 2. 学内システムとその利用(OS の操作、ネットワークドライブの操作、ネチケット、情報化社会のモラルとルール、Mail 基本操作・添付ファイルの送信) 3. インターネット概要 4. IT を利用した自己紹介 5. ワードプロソフトの基本 1(入力・編集・書式設定) 6. ワードプロソフトの基本 2(文書の体裁設定) 7. ワードプロソフトの基本 3(図形の組み込みと編集) 8. ワードプロソフトの基本 4(表の組み込み編集) 9. 表計算ソフトの基本 1(基礎) 10. 表計算ソフトの基本 2(表の体裁設定) 11. 表計算ソフトの基本 3(関数の利用) 12. 表計算ソフトの基本 4(グラフの利用) 13. プレゼンテーションソフトの基本 1(基礎) 14. プレゼンテーションソフトの基本 2(アニメーション効果) 15. プレゼンテーションソフトの基本 3(スライドショー) 			
評価方法	授業態度および課題の提出状況 50% 定期試験 50%			
教科書	『情報リテラシー 入門編』富士通エフ・オー・エム株式会社 FOM 出版 名古屋産業大学・名古屋経営短期大学 情報センター利用の手引き			

科目名	ポルトガル語【英語名:Portuguese】	職名・担当者	非常勤講師 サラ 早川	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	1	1
学修目標	ブラジルのポルトガル語基礎について理解する。			
到達目標	現在、日本にいるブラジル人たちとコミュニケーション能力をとることについて学び活かせることができるようになる。			
準備学習	ポルトガル語 I ではポルトガル語を初めて勉強する方に有効です。 毎回会話の勉強をします、その中に文法が少しずつ出ます！授業外でも会話のトレーニングをすればかなり上達します。 それから毎回宿題やプリントがあります。			
授業方法	会話、リーディング、ライティング、文法。			
授業計画	<p>毎回、簡単な会話を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ポルトガル語アルファベット～母音、子音、音節、発音・初対面の挨拶 2. 名前・所有格人称代名詞・主格人称代名詞・冠詞 3. 国名と国籍・動詞 Ser の活用・日常の挨拶 4. 職業・名詞の性と数 5. 年齢と電話番号・動詞 Ter の活用・尋ねること、返事をする、答える 6. 様々なモノの形や色・形答詞から副詞への転換 7. 場所と行為・-ar/ -er/ -ir 動詞の直説法・現在の活用 8. 「～である／～状態である」の表現・動詞 Estar の活用 9. 動詞 Ser (=ficar) / estar + 前置詞句+場所 10. 再帰代名詞・頼みごと、要望、感謝とお詫び 11. 挨拶と友達紹介 12. 指示代名詞 13. 日時・単語→月、曜日の表現 14. 疑問詞・認可を認める、できる、できない、断る、反論する 15. 家族・自然(天体、地理、動物) 			
評価方法	定期試験 60%、小テスト 40%			
教科書	テキストは使用しない。プリントを配布する。			

科目名	生涯スポーツ【英語名:The Lifelong Sports】	職名・担当者	教授 佐々木 俊郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	実習	1	1	1
学修目標	保育者として必要な運動会の知識を学び、実際の運動会に参加して、体験学習を行う。また、主に球技系のスポーツのルール等を学び、生涯に亘って行えるスポーツの知識と技能を修得する。			
到達目標	自分に合った、生涯にわたって行えるスポーツを確認・発見する。			
準備学習	毎回授業内容を、ノートにまとめること。			
授業方法	実技方式で行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 卓球(1)ルール・試合方法の説明 3. 卓球(2)ゲーム(予選リーグ) 4. 卓球(3)ゲーム(決勝リーグ) 5. バドミントン(1)ルール・試合方法の説明 6. バドミントン(2)ゲーム(予選リーグ) 7. バドミントン(3)ゲーム(決勝リーグ) 8. ソフトバレーボール(1)ルール・試合方法の説明 9. ソフトバレーボール(2)ゲーム(予選リーグ) 10. ソフトバレーボール(3)ゲーム(決勝リーグ) 11. ユニバーサルホッケー 12. 運動会の運営について 13. 運動会実施の準備 14. 体験学習(運動会への参加) 15. まとめ 			
評価方法	意欲・態度 50% 基礎技能50%			
教科書	なし			

科目名	日本国憲法【英語名：JAPAN'S constitution】	職名・担当者	非常勤講師 輔老 英淳	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	日本国憲法が施行されてから 70 年を迎える。その間、当憲法は解釈・運用について政権と共に様々な問題を提起してきた。所謂「憲法改正」問題もその一つであり、これに関する選択もわが国将来のゆく末を決定することを意味しかねない。 主権者の一人として、今日起こっているこれら憲法上の諸問題の選択は避けて通れないであろう。国民の一人としての受講者は次の世代に何を残し、何を変革して行くのか。当講座は私共に課せられている人類将来の選択について、グローバルな視点から多面的且つ論理的に物事を考えることができる能力を涵養する。			
到達目標	正義や平和について知り、他の人に説明できるように又、人権についても学び、社会の現場で活かせるようになる。			
準備学習	講義したテーマ内容に関連して、今日起こっている憲法上の問題点について新聞記事あるいはインターネットから引き出しプリントアウトしたものをもって再度確認するためのディスカッションを行なう。			
授業方法	学修目標を達成するために指定教科書を基に講義形式を中心に進める。教科書で足りない部分は別に資料をプリントし配布する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法学(含・日本国憲法)を学ぶ意味・価値 2. 法学の対象・方法・目的 3. 法の概念—法とは何か— 4. 法と他の社会規範の異同—法と道徳・宗教・慣習・礼儀・流行— 5. 法の目的・理念—法は究極において如何なる価値を社会に実現しようとするか— 6. 法の効力—法は何故に効力を有し、人々はそれを遵守し尊重しようとするか— 7. 近代国家の成立と近代憲法 8. 近代憲法の原理とその特徴 9. 現代憲法の展開—前史としての大日本帝国憲法の成立とその特徴— 10. 日本国憲法の成立とその成立過程 11. 日本国憲法の基本原則とその連関性 12. 基本的人権の保障—人権の性格・人権の体系・人権の制約原理— 13. 国民主権主義—主権の概念・国民主権と民主制・一票の価値— 14. 平和主義—戦争放棄と前文・9 条解釈問題と現実— 15. 国際協調主義と国際連合と日本の今後 			
評価方法	授業態度(ディスカッション時の論点把握レベルの評価) 10%、定期試験 90%で評価する			
教科書	輔老 英淳他「現代の法学入門」中央経済社 野畑 健太郎・輔老 英淳共著(2009)「憲法学事始」—学舎 (参考書)			

科目名	ビジネスマナー【英語名:Manners of business society】	職名・担当者	教授 西川 三恵子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	保育者のためのマナーをテキストをとおして学び、理解を深め、実習の前の心構えを養う。 保育者の対象者は「子ども」「親」「園の同僚・先輩」「業者」などさまざまであり、ビジネスマナーも必要であることを理解し、言葉づかいや態度・表情のマナーを身につける。			
到達目標	保育者になる(働く)ことの自覚が身に付く。正しい言葉づかいで話せるようになる。			
準備学習	(予習) 授業の前までにその日の章に目を通し、理解したうえで授業に臨みたい。 (復習) 取り上げたトピックについて自分なりに感想をまとめ、書きとめておく。			
授業方法	当初は文献により章立てされた事例をもとに学び、ディスカッションを踏まえて、理解する。 美しい文字の書き方・熨斗の書き方などは実際にペンや筆ペンを用いて書いたり、お誕生から人生の祝いごとについては、地方独特の風習について調査し、発表する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. エチケット・マナーの心構え 2. 挨拶・表情の大切さ 3. 身だしなみ(服装・化粧) 4. 言葉遣いと会話 5. 正しい言葉遣い 6. 電話のマナー(受け方・かけ方) 7. 対応のマナー 8. 食事のマナー(和・洋・中・立食パーティー) 9. 慶事・弔事のマナー 10. 美しい字の書き方 11. 熨斗の書き方、包み方、渡し方 12. 手紙の書き方 13. お誕生からの人生の祝いごと 14. 歳時記のマナー 15. マナーの重要性について 			
評価方法	テスト成績 50%、レポート 25%、受講態度 25%で評価			
教科書	塩谷香監修 保育者のマナーと常識			

科目名	子どもの保健 I 【英語名:child health I】	職名・担当者	教授 浅野 里美	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	4	1・2	1
学修目標	これから保育園、幼稚園、施設などで働くこととなる人々にとって必要な子どもの発達、病気、そして社会の制度などについて学習する。			
到達目標	こどもの発達、病気などについて学び、社会の現場で働く際の常識的知識を身に着けことができるようになる。			
準備学習	教科書の復讐、予習を行い知識を確実にする。			
授業方法	指定教科書、を基にして、DVDなどの資料を提示して授業を進める。また最新の政府(厚生労働省などよりの)の方針などについても紹介する。補助教材としてパワーポイントなどを使用する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの保健の概念、目的、意義 2. 人間の発生、発達(胎児期より) 3. 胎児の発達、胎児循環について 4. 出生後よりの発達と発育 (正常、病気、異常、健康被害) 乳児期の1年の発達について (DVD鑑賞) 5. 日本の母子保健行政について 7. 母子手帳について、B型肝炎など 8. 先天性代謝異常症の検査、 アレルギー疾患について 9. 子どもの栄養、母乳栄養 10. 子どもの健康状態の対処法 (子どものワンポイントアドバイス)の解説 11. 水と電解質のバランス、熱中症 12. 新生児・低出生体重児の特徴と病気 13. 受精から妊娠のしくみ 14. 染色体の病気(ダウン症候群その他) 15. 前期のまとめ 16. 子どもを取り巻く環境 17. 保育所保育指針 18. 子どもの事故予防、子供の救急蘇生術など 19. 子どもの病気:先天異常 20. 子どもの病気:感染症 21. 子どもの病気:消化器の病気 22. 子どもの病気:呼吸器の解剖と病気 23. 子どもの病気:心臓と血管の病気 24. 子どもの病気:先天性心疾患、 腎臓の機能、疾患について 25. 子どもの病気:運動器の病気 26. 子どもの病気:眼、耳、鼻、皮膚の病気 27. 精神神経の病気(ADHD、自閉症スペクトラムについて) 28. 子どもの病気:アレルギー疾患など 29. 子どもの病気:その他 30. 子どもの病気の予防と予防接種 31. テスト 			
評価方法	筆記試験 60% 学習意欲や態度 30% レポート等 10%			
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの保健 I (一部改訂):服部右子、大森正英編(株)みらい2011年4月1日初版発行 ・子どもの保健演習 :大西 文子 中山書店 2012 発行 			

科目名	保育原理【英語名:Principles of Child care】	職名・担当者	講師 武 小燕	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	保育者養成に関する保育の基本的内容の習得を通じて、保育の意義・内容・方法を理解し、保育の歴史と現状に関する認識を深めることを目的とします。			
到達目標	保育の原理と現状について知り、他の人に説明できるようになり、職場でその理解を活かせるようになります。			
準備学習	事前に指定した資料の予習と授業中に出した課題の復習をしてもらいます。			
授業方法	パワーポイントや自作資料の提示および視聴覚教材の使用で授業を進める。毎回授業内容へのフィードバックとしてリアクションペーパーの提出を求める。また、小レポートを課すことがある。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.子どもと保育 3.保育の理念と概念 4.保育の社会的意義 5.保育制度について 6.保育所保育指針について 7.保育の目標 8.保育の方法 9.外国の保育の思想と歴史 10.日本の保育の思想と歴史 11.保育の現状と課題(1)国際比較から 12.保育の現状と課題(2)海外の事情 13.保育の現状と課題(3)日本の子どもの現状 14.保育の現状と課題(4)日本の保育制度改革 15.まとめ 			
評価方法	受講態度(15%) 提出物(15%) 定期試験(70%)			
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・新 保育士養成協議会編纂委員会編『保育原理』全国社会福祉協議会、2012年。 ・厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2008年。 			

科目名	子どもの食と栄養【英語名:Nutrition for Children】	職名・担当者	非常勤講師 中川 美子	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	2	1	1
学修目標	人間が望ましい生活習慣を身につけることにより、健康を保持・増進することができる。発育・発達のみられる小児期に望ましい生活習慣を身につけることは、将来の健康状態を左右する重要な課題である。しかし、その生活習慣の根幹を成す食生活についても考えて見ると、小児の食生活の現状は必ずしも望ましいものばかりとはいえない。この授業では小児の望ましい食生活をさせることを目的として、栄養に関する基礎的な知識、子どもの食生活の現状とあり方について学習させる。			
到達目標	子どもの成長に合わせた食生活の内容を理解し、他の人にも説明できるようにすると共に、保育の現場においてもそれを活かせることができるようにする。			
準備学習	教科書に沿った予習と復習			
授業方法	テキストに沿って授業を進める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 子どもの健康と食生活の意義 3. 子どもの食生活の現状と課題 4. 栄養に関する基礎知識(糖質・脂質・たんぱく質) 5. 栄養に関する基礎的知識(ビタミンなど) 6. 授乳期の食生活と母乳分泌 7. 離乳期の食生活と栄養 8. 幼児期の食生活と栄養 9. 学童期・思春期の食生活と栄養 10. 食育の現状と今後の課題 11. 家庭における食事と栄養 12. 児童福祉施設における食事と栄養 13. 疾病および体調不良の子どもへの対応 14. 食物アレルギーのある子どもへの対応 15. まとめ 			
評価方法	レポート80%、小テスト20%			
教科書	菅原 園ら著「発育期の子どもの食生活と栄養」学建書院			

科目名	保育の心理学 I 【英語名:Psychology of Childcare I】	職名・担当者	教授 陳 惠貞	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	<p>1.保育は子どもたちがすくすくと成長し、発達するように援助する営みである。保育の対象である子どもたちの発達について理解させることは第一の目標とする。</p> <p>2.人間の一生涯、胎児期から老年期までの発達、そしてそれぞれの発達段階の特徴を理解させる。</p> <p>3.保育士が子どもに及ぼす影響を理解させ、自覚するように促す。</p> <p>4.発達障害などの問題行動の特徴に対する基礎知識を理解させ、そのような子どもについての対応や援助の仕方を意識させ、考えるように仕向ける。</p>			
到達目標	<p>保育の対象である子どもたちの発達について学び、人間の一生涯、胎児期から老年期までの発達、そしてそれぞれの発達段階の特徴が理解できるようになる。</p> <p>保育士として子どもに及ぼす影響を理解し、自覚できるようになる。</p> <p>発達障害などの問題行動の特徴に対する基礎知識を理解し、そのような子どもについての対応や援助の仕方を意識して、考えるようになる。</p>			
準備学習	<p>事前に資料(A4一枚)を配付し、次の授業を備えるように予習をしてもらうことと復習として小レポートを提出することが要する。</p>			
授業方法	<p>学修目標を達成するために、テキストを基にして作成したパワーポイントと参考資料を提示しながら、講義を展開していく。学習効果と理解度を確かめるため、講義の内容についてレポートを作成し、提出する。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達と発達段階、幼児・児童心理学の実用性 2. 実験的胎児の有能さ、胎児の記憶力 3. 新生児の未熟性、脳の発達と睡眠リズム 4. 乳児期の運動機能の発達、反射の種類と特徴 5. 乳児期の知覚の発達と認知・思考の発達 6. ピアジェの感覚・運動の認知と発達段階. 7. 乳児の言語機能の発達、音声弁別と言語理解 8. 動機・情緒の発達、愛着の発達 9. 対人関係の形成と発達、気質研究 10. 赤ちゃんの泣きに関する原因・種類・対処法 11. 子育て環境の変化と子育てサポート 12. 乳児期の社会化の発達、信頼感、自己認識 13. 早期教育について 14. 発達障害児の定義・種類とその特徴 15. 発達障害児の事例研究とその指導 			
評価方法	<p>授業態度とノート(60%)、小テストや課題の提出状況(40%)による評価</p>			
教科書	<p>理論と子どもの心を結ぶ 保育の心理学 大橋 喜美子編著 保育出版社</p>			

科目名	自然環境と保育【英語名:Environmental education in nature】	職名・担当者	非常勤講師 篠田 陽作	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	<input type="checkbox"/> 幼児教育における体験型環境教育のあり方と、その実践に対する基本的な理解と具体的な方法について学習。 <input type="checkbox"/> 幼児期の自然体験型環境教育の歴史と諸外国での実施の現状を学ぶ。 <input type="checkbox"/> 現場での教育の展開に対する組み立てと企画の基本的な構成について学ぶ。 <input type="checkbox"/> 実施に際してのリスクマネジメントを学ぶ。 <input type="checkbox"/> 教材となる絵本や図鑑の使用法やそれらの活用について学ぶ。			
到達目標	幼児教育者としての自然に対する基本的な理解と認識を学び、さらに自然に対する「豊かな感性」を養う、自然の中での活動時の安全管理を学ぶ。			
準備学習	1. 事前に課題を与え、予習を行わせ、授業時に解説や評価を行う。 2. 事前にテーマを与えレポートを作成させる。			
授業方法	講義・実習			
授業計画	1. 自然体験型環境教育の基本理念を学ぶ 2. 日本の教育現場での自然体験型環境教育の現状 3. 幼児期の自然体験型環境教育の重要性について 4. 外国における幼児自然体験型環境教育の現状 5. 自然体験型環境教育の概念(学術的な意義) 6. 自然体験型環境教育の概念(その効果について) 7. 実習による学習法・1(植物について) 8. 実習による学習法・2(危険な生物と植物) 9. 実習による学習法・3(命のつながりについて) 10. 生活の場で学ぶ環境教育・1(資源と有効利用) 11. 生活の場で学ぶ環境教育・2(持続可能な環境) 12. 五感を使用しての環境教育・1(体験で感じる) 13. 五感を使用しての環境教育・2(体験から学ぶ) 14. 野外での活動におけるリスクマネジメント 15. 自然体験型幼児環境教育の未来			
評価方法	*小テスト30% *レポート30% *授業・実習受講態度40% *実習作品の提出			
教科書	特になし			

科目名	保育内容演習(言葉)【英語名:Content of Child care in guide : Language】	職名・担当者	講師 岡本 弘子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	この科目は、資格取得のための基本的な科目である。授業では、言葉の発達を、話し言葉の側面だけではなく、表情や動作によるコミュニケーションの観点から見つめ、保育者がどのように子どもの言葉の発達を援助していく必要があるのかを学ぶ。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の子どもの言葉の発達における集団の意義、保育者の役割について説明することができる。 ・児童文化財の役割を理解し保育の中で活用することができる。 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義後に学んだことを振り返り、疑問点等を調べる。 ・講義で学んだ内容やグループディスカッションで得られた気づきから、課題レポートを作成し理解を深める。 ・課題製作に向けて、構想や材料集め等をする。(作り方等の詳細は、授業内で説明する。) 			
授業方法	<p>講義、グループワーク、課題制作・発表</p> <p>教科書では足りない資料や最新のデータを、プリントとして配布する。</p> <p>随時、確認テストやレポート課題を出す。</p> <p>(授業内容は、初回に説明する。)</p>			
授業計画	<p>第1回:保育内容「言葉」の意義</p> <p>第2回:領域「言葉」のねらいと内容</p> <p>第3回:子どもの言葉の発達</p> <p>第4回:子どもの言葉と環境</p> <p>第5回:3歳未満児の言葉1 保育者の関わりを中心に</p> <p>第6回:3歳未満児の言葉2 0歳から2歳の発達を中心に</p> <p>第7回:3歳以上児の言葉1 保育者の関わりを中心に</p> <p>第8回:3歳以上児の言葉2 3歳から6歳の発達を中心に</p> <p>第9回:言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援</p> <p>第10回:保育者の言葉</p> <p>第11回:子どもの言葉と児童文化財1 児童文化とは</p> <p>第12回:子どもの言葉と児童文化財2 言葉遊びとは何か</p> <p>第13回:子どもの言葉と児童文化財3 演じられる物語とは</p> <p>第14回:言葉の指導計画</p> <p>第15回:言葉と国語教育</p>			
評価方法	授業態度 40%、小レポート・確認テスト・課題・課題レポート 60%			
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育者をめざす人の保育内容 言葉」駒井美智子編、みらい、2012年 ・幼稚園教育要領解説 ・保育所保育指針解説書 			

科目名	児童家庭福祉 I 【英語名:Child Welfare I】	職名・担当者	非常勤講師 武藤 敦士	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	1. 児童家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 児童家庭福祉と保育の関連性及び児童の人権について理解する。 3. 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 児童家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 児童家庭福祉の動向と展望について理解する。			
到達目標	児童家庭福祉の基礎を学び、なぜ児童が支援の対象になるのかを理解し、今後の応用的学習に備える。			
準備学習	予習:事前にテキストに目を通し、わからない用語等があれば調べておくこと。 復習:講義で学んだことを実際の事例等に照らし合わせて理解できるようにすること。 児童家庭福祉に関する新聞等マスメディアによるニュースや、児童家庭福祉に関連する機関・施設の実際について、日ごろから興味・関心をもって情報収集にあたること。			
授業方法	テキストの要点を抽出し、事例を提示しながら説明する。適宜視聴覚教材を使用し、それに対するレポートを課していく。			
授業計画	1.児童家庭福祉の考え方 2.児童家庭福祉を取り巻く状況 3.児童家庭福祉の歴史 4.児童家庭福祉行政の仕組み 5.児童家庭福祉の機関と施設 6.健全育成 7.母子保健 8.保育 9.要養護児童への福祉 10.障害のある子どもへの福祉 11.少年非行への対応 12.ひとり親家庭への福祉 13.子ども虐待の防止とその対応 14.児童家庭福祉でのソーシャルワーク 15.児童家庭福祉の担い手			
評価方法	定期試験 80% レポート 20%			
教科書	福田公教・山縣文治『児童家庭福祉』ミネルヴァ書房			

科目名	陶芸入門【英語名:Basic Ceramic Art】	職名・担当者	講師 本田 郁子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	1	1
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. やきものの基本的な知識、種類、技法、歴史を学ぶ。 2. やきもの製作を通して、技術と科学的知識を学ぶ。 3. 人々の生活に根ざした陶芸を理解する。 			
到達目標	やきものの工程を理解し素焼き、陶器の作品を作り上げる。 身の周りのやきものや工芸品に目を向けて生活の道具について考える力をつける。			
準備学習	自分自身で使っている身の周りのやきものについて寸法を測ったり、色や材質について観察記録しておく。			
授業方法	陶芸のさまざまな技法を製作を通して学ぶ。 絵付けや釉薬のかけ方を実践を通して学ぶ。 出来上がった作品を鑑賞し、学生通しの作品を見ることでちがいや面白さを学ぶ。 美術館で鑑賞授業を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. やきものができるまで、土をさわってみよう(土の性質、種類など)、道具作り 2. てびねりで指人形を作る 3. 玉作りで土鈴を作る 4. 玉作りで茶碗を作る 5. 光る粘土玉を作る1(削る) 6. 光る粘土玉を作る2(化粧土を塗る, 磨く) 7. 素焼きに下絵付け, 装飾をする 8. 釉薬について(茶碗に釉薬をかける) 9. 焼き上がった自作の器、たたら作りで皿を作る 10. たたら作りで動物をつくる 11. やきもの鑑賞1(見学) 12. やきもの鑑賞2(スケッチ, レポート) 13. 素焼きに下絵付け, 装飾する 14. 釉薬をかける 15. 講評会 			
評価方法	平常点40%、ミニレポート10%、実技・作品評価50%			
教科書	なし			

科目名	農業体験【英語名:agricultural science】	職名・担当者	非常勤講師 関口 和彦	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	1	1
学修目標	農業の基礎知識を講義と実技で学び、農業の役割りを将来の現場で伝え、活かせるようになる。			
到達目標	基礎的な農業知識が活用でき、社会での実践に生かせる学生の育成。			
準備学習	畑を使用した基礎栽培実習の授業の補足として、水やり・除草など日常の管理を学生自ら実施し、作物を育成し収穫までの過程を体験していくことから生産の喜び等を体験する。			
授業方法	教科書を基に授業を進め、実際には場に出て作付けから収穫までの実技を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎講座(野菜の実際、品種特性等)「野菜について」 2. 基礎講座(野菜の実際、品種特性等)「土づくり」 3. 実習(土壌改良、施肥等)1, 2の 4. 実習(土壌改良、施肥等)「土づくり実技」 5. 基礎講座(定植の仕方)「野菜の植付」 6. 実習(栽培管理、ほ場管理作業)5の 7. 実習(栽培管理、ほ場管理作業)「植付圃場説明」 8. 実習(栽培管理、ほ場管理作業)「植付実技」 9. 基礎講座(整枝・せん定、誘引の仕方)「野菜の生理・生態1、2」 10. 基礎講座(整枝・せん定、誘引の仕方)「野菜の生理・生態1」 11. 基礎講座(整枝・せん定、誘引の仕方)「野菜の生理・生態2」「収穫」 12. 実習(収穫、ほ場管理作業)「野菜の生理・生態1の実技」 13. 実習(収穫、ほ場管理作業)「野菜の生理・生態2、3の実技」 14. 基礎講座「稲の生理・生態」 15. 基礎講座(振返り)「全般」 			
評価方法	定期試験 50%、受講態度 20%、実技参加度 30%			
教科書	新版 農業の基礎			

科目名	音楽基礎 I 【英語名: music basics I】	職名・担当者	講師 笹谷 朋世	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	<p>本学の「音楽表現 II」の学修目標はバイエル修了程度としており、幼稚園・保育園で求められるピアノの実技力量も一般的にこの程度とされている。</p> <p>しかし、ピアノ経験のない学生にとってこのスキルを身につけるためには大変な個々の努力が強いられる。</p> <p>そのため、この演習授業ではピアノ初心者を対象に、楽典・ソルフェージュの基礎を学習し読譜力をつけ、ピアノ奏法技術の学習を行う。</p>			
到達目標	<p>基本的な楽譜の読譜力を身につける。また、簡易伴奏のついた童謡の弾き歌いができるようにする。</p>			
準備学習	<p>ピアノレッスンは個人のレベルに合わせて行っていくが、事前に提示された課題曲を十分に譜読みし、練習して臨む事。</p> <p>毎日、各自でピアノ練習の時間を持つことが望ましい。</p>			
授業方法	<p>前半 30 分程度は読譜のための楽典を学習し、後半1時間でピアノレッスン、ソルフェージュを行う。</p>			
授業計画	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 楽典(記譜法の基礎(音部記号と5線))、ソルフェージュ、ピアノレッスン 3. 楽典(音名)、ソルフェージュ、ピアノレッスン 4. 楽典(音符と休符(4分、8分))、ソルフェージュ、ピアノレッスン 5. 楽典(音符と休符(2分、全音符、付点))、ソルフェージュ、ピアノレッスン 6. 楽典(変化記号)、ソルフェージュ、ピアノレッスン 7. 楽典(拍子記号)、ソルフェージュ、ピアノレッスン 8. 楽典(リズムと拍子)、ソルフェージュ、ピアノレッスン 9. 楽典(楽語)、ソルフェージュ、ピアノレッスン 10. 楽典(反復記号)、ソルフェージュ、ピアノレッスン 11. 楽典(調性(長調と短調))、ソルフェージュ、ピアノレッスン 12. 楽典(コードネーム長調)、ソルフェージュ、ピアノレッスン 13. 楽典(コードネーム短調)、ソルフェージュ、ピアノレッスン 14. 楽典復習、ソルフェージュ、ピアノレッスン 15. まとめ 			
評価方法	<p>平常点 60%、試験内容 40%</p> <p>学習意欲、授業態度を重視する。</p>			
教科書	<p>「標準バイエルピアノ教則本」(全音楽譜出版社)</p> <p>他、初回授業にて指示します。</p>			

科目名	保育内容演習（人間関係）【英語名:Content of Child care in guide : Human relations】	職名・担当者	講師 岡本 弘子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	この科目は、資格取得のための基本的な科目である。授業では、乳幼児が周囲の人々との相互関係の中で、「人とのかかわり力」をどのように形成していくのかを学習する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの視点から「人とのかかわり」をとらえることができる。 ・人とのかかわりの発達の主な特徴が分かり、生活や遊びでの援助ができるようになる。 ・人とのかかわりが難しい子どもへの援助の仕方を知ることができる。 ・保育現場において「共に支え、つながり、育ち合う」人とのかかわりについて考えることができる。 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義後に学んだことを振り返り、疑問点等を調べる。 ・講義で学んだ内容やグループディスカッションで得られた気づきから、課題レポートを作成し理解を深める。 			
授業方法	<p>講義、グループワーク、課題制作 資料や最新のデータを、プリントとして配布する。 随時、確認テストやレポート課題を出す。 (授業内容は、初回に説明する。)</p>			
授業計画	<p>第1回: 人間関係とは 第2回: 乳幼児をとりまく人とのかかわりの変化 第3回: 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における保育の基本 第4回: 乳幼児期における人とのかかわりの発達1 乳児期の人とのかかわりの育ちと特徴 第5回: 乳幼児期における人とのかかわりの発達2 幼児期の人とのかかわりの育ちと特徴 第6回: 園生活における人とのかかわり1 遊びの中で人とのかかわりをどのように広げるのか 第7回: 園生活における人とのかかわり2 園生活の中で人とのかかわりの体験があたえるもの 第8回: 園生活における人とのかかわり3 個と集団 第9回: 園生活における人とのかかわり4 園で子どもと共に生活する者として保育者の役割 第10回: 地域における生活と人とのかかわり 第11回: 家庭における生活と人とのかかわり 第12回: 人とのかかわりが難しい子どもへの援助 第13回: 人とのかかわりを育てる保育者の役割1 具体的な場面から子どもを理解する 第14回: 人とのかかわりを育てる保育者の役割2 保護者への対応 第15回: 領域「人間関係」をめぐる諸問題</p>			
評価方法	授業態度 40%、小レポート・確認テスト・課題・課題レポート 60%			
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領解説 ・保育所保育指針解説書 			

科目名	基礎ゼミナールⅠ【英語名:Basic SeminarⅠ】	職名・担当者	各担当教員	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	大学生としての学びの基礎を確実にし、充実した学生生活の実現を図るとともに、保育者・教育者としての素地を養う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.社会人としての基本的なマナーを身につけ、場に応じた適切な言葉遣いや行動ができる。 2.主体的に学び、自分の弱点を克服し長所を伸ばす取り組みができる。 3.子どもの特性や発達に目を向け、子どもへの自らの関わりについて振り返り、まとめることができる。 			
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児から小学生までの子どもの育成に関わる保育・教育の仕組みや職業について調べる。 2. 子どもの育成に関わる指導者としての自分の得手・不得手について自己分析し、まとめる。 3. 課題について、事前に自分の考えをまとめて参加する。 			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題について発表、意見交換をする。 ・授業や活動での振り返りを行い、毎回授業後にレポートかワークシートを提出する。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゼミの組織づくり及び施設利用の仕方 2. 大学での学び(目標、学び方)と学生生活 3. マナー、ISO 及びネット社会への対応 4. 児童館祭り事前学習と参加計画 5. 児童館まつり参加準備と確認 6. 児童館まつりの振り返りと意見交換 7. 学生生活の充実(授業、ボランティア、バイト、サークル、友人等) 8. 目指す職業と自分の得手不得手 9. 保育園実習報告会 10. 保育園実習報告会からの学び 11. コミュニケーションの力を伸ばす方策 12. 実践力、行動力を伸ばす方策 13. 学力、文章表現を伸ばす方策 14. 学園祭の計画 15. 定期試験心得と前期大学生生活の総括及び夏季休暇心得 			
評価方法	参加態度(意欲、貢献度)40%、レポート 30%、マナー・言動(社会人、指導者として)30%			
教科書	資料やワークシートを配布する。			

科目名	英語コミュニケーションⅡ【英語名:English Communication II】	職名・担当者	講師 西浜 クリス	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	2	1・2・3
学修目標	英語コミュニケーションⅠで養った英語のリズムと発音を基礎とし、子どもに英語を教えられるようになることを目標に学習していく。			
到達目標	英語の文章を読む力がつくようになる。また、子どもに英語を教えられるようになる。			
準備学習	次回の授業範囲で出てくる分からない単語の意味を調べる。			
授業方法	指定教科書、ビデオを基にして授業を進めていく。投影機を使用して絵本の読み聞かせの練習をする。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション。英語を楽しく学ばせるための教材(ビデオ、歌)の活用法。 2.ビデオ視聴(映像から話の概要をつかむ)。歌を通して楽しく英語を表現する練習。 3.視聴(場面に応じた言葉の使い方を学ぶ)。歌による抑揚、強弱、リズムの練習。 4.ビデオ視聴(字幕に頼らず音声のみで話の概要を理解する)。歌を表現力豊かに正しく歌う練習。 5.ビデオ視聴(まとめと発表:気に入った場面などを自分の言葉で表現する)。好きな歌を表現力豊かに歌う(発表)。 6.絵本を音読する練習。歌による英語発音練習。 7.絵本を読み聞かせるためのスキル(発音)を学ぶ。歌による英語発音練習。 8.絵本を読み聞かせるためのスキル(リズム、抑揚)を学ぶ。歌による英語発音練習歌。 9.絵本を表現豊かに読み聞かせる。(発表)。歌による英語発音練習。 10.カードを使った教授法練習(スペル)。 11.カードを使った教授法練習(発音)。 12.カードを使った教授法練習(未知の単語の発音)。 13.TPRによる教授法練習(TPRについて知る。モデル動作を使った教授法)。 14.TPRによる教授法練習(指示のみの教授法)。 15.TPRによる教授法練習(全体練習と応用)。 			
評価方法	授業での積極性 50%、期末課題 50%			
教科書	『カタノダメソッズによる5分間 TOEIC テストリスニング』片野田浩子著 南雲堂			

科目名	情報リテラシーⅡ【英語名:Information LiteracyⅡ】	職名・担当者	講師 武田 直之	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	2	2	1
学修目標	世の中に溢れる情報から、必要かつ正しいものを得るために必要なことを学ぶ。またそれらを理解したうえで、急速に普及している SNS(Social Networking Service)の利活用方法を知り、情報発信能力を身に付けるとともに、それらを通じてメディアリテラシーを学ぶ。			
到達目標	私的情報と公的情報が区別でき、それぞれ適切な対象に対し、適切に情報発信することができる。			
準備学習	情報リテラシーⅠの学習内容を復習しておくこと。			
授業方法	教科書のほか、適宜資料を用いて演習形式により授業を進める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.アカウント作成 3.プライバシーとは 4.SNS の利用(1) 基礎 5.SNS の利用(2) 応用 6.セキュリティとは 7.ブログの作成(1) 基礎 8.ブログの作成(2) 応用 9.メディアリテラシーとは 10.ホームページの作成(1) 基礎 11.ホームページの作成(2) 応用 12.マルチメディアの活用(1) 基礎 13.マルチメディアの活用(2) 応用 14.プレゼンテーション(1) 前半 15.プレゼンテーション(2) 後半 			
評価方法	授業態度および課題の提出 50%、定期試験 50%			
教科書				

科目名	運動の科学【英語名:Science of Sports】	職名・担当者	教授 佐々木 俊郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	1	2	1
学修目標	2011年3月11日の東日本大震災で、私たちは当たり前が当たり前に行えることや、当たり前にあるものが当たり前そこにあることが、いかに幸せなことであるかを再確認させられた。そこで本講座では、健康・スポーツ科学について学び、日々当たり前の生活を送るうえで「健康であること」の基本的な知識を修得する。			
到達目標	健康の基本的な知識理解し、説明できるようになる。			
準備学習	毎回、次回授業範囲の教科書を読んでくること。			
授業方法	教科書を基本に授業を進める。補助教材としてパワーポイント、DVD等も使用する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、健康のとらえ方と獲得するためのポイント(1)健康の定義 2. 健康のとらえ方と獲得するためのポイント(2)健康日本21 3. 生活習慣病と関連する要因 4. 体力とは何か 5. 運動のしくみ 6. 健康を維持・増進するための運動 7. ダイエット計画 8. 運動と水分補給・熱中症 9. ウォーミングアップとクーリングダウン 10. 応急手当 11. スポーツと心理のかかわり 12. 今日の学校保健の問題 13. 要求、ストレスと疲労への対処法 14. 社会におけるスポーツの役割 15. 障がい者のスポーツ、まとめ 			
評価方法	筆記試験 60%、学習意欲や態度30%、レポート等10%			
教科書	健康・スポーツ科学講義 第2版 (2011)出村慎一監修 株式会社杏林書院			

科目名	生命の科学【英語名:Bioscience】	職名・担当者	非常勤講師 福本 理	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 男の子、女の子がどのようにしてきまり、生れてくるかを理解する。 2. 細胞分裂のしくみを理解する。 3. 我々の遺伝子を理解し、がんは我々の遺伝子の異常によってできることを理解する。 4. 免疫のしくみを理解し、さらにアレルギーについても理解する。 5. 上記1～4を理解することにより、私達のからだがいかにうまくできているか理解する。 			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 男の子、女の子がどのようにして性染色体によって決まるかを他の人に説明できる。 2. 細胞分裂のしくみを理解し、他の人に説明できるようになる。 3. がんができるしくみを知り、他の人に説明できるようになる。 4. 免疫やアレルギーのしくみを知り、保育で役に立つようになる。 5. 上記学修目標5. にもとづき、知的好奇心をそだてるような保育を行なう。 			
準備学習	毎回、次の授業について概略を説明し、本やインターネットでできるだけ、予備知識をつけておくよう指導する。			
授業方法	毎授業ごとに、学生諸君の理解を助ける為に、主に自作のプリントを配布する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞の構造について 2. 精子と卵ー受精のしくみー 3. 男の子と女の子はどうやって決まるのか 4. 細胞分裂のしくみ(I)ーG₁期、S期、G₂期ーについて 5. 細胞分裂のしくみ(II)ーM期ーについて 6. 遺伝子DNAの構造について 7. 染色体と遺伝子DNAの関係について 8. DNAの複製のしくみー母型半保存方式ー 9. 遺伝情報の発現のしくみ 10. 染色体異常による病気ーダウン症などー 11. がん遺伝子の発見ーsrc 遺伝子の発見ー 12. がんは遺伝子の病気ー膀胱がん遺伝子の本体についてー 13. 免疫のしくみ Iーインフルエンザと免疫ー 14. 免疫のしくみ IIースギ花粉アレルギー等ー 15. 自己免疫疾患ー重症筋無力症などー <p>シラバスの項目だけだと、ずい分たたくるしく思われますが、時間を作っては、one point biology と題して、例えば、1.AEDの原理と心室細動の除去、2.心臓は血圧が上がると心房細胞から血圧を下げるホルモンを分泌する内分泌器官でもある。3.インフルエンザウィルスは中国の鴨のウィルスで、ブタに感染し、ブタからヒトに感染する。4.エイズウィルスはもともとアフリカのチンパンジーのウィルスで、ヒトに感染し、ヒトの免疫系をこわすこと。5.血液型と性格は、関係あるか否か等等、身近かな話題もとり入れたい。</p>			
評価方法	定期試験(80点)、受講態度(10点)、質問をするなどの積極性等(10点)で評価する。			
教科書	教科書は使用しないが、毎回授業の際に自作のプリントを配布する。			

科目名	ボランティア活動【英語名:Basic knowledge for volunteer activities】	職名・担当者	教授 児嶋 直也	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	2	1
学修目標	1. ボランティア活動の意義と目的を理解し、ボランティアについて総合的に学ぶ。 2. ボランティアに必要な知識を理解する。 3. ボランティア活動の実際から必要な知識と準備を理解する。 4. ボランティアの総括と自己評価を行い、ボランティアに対する課題や認識を明確にする。			
到達目標	ボランティアを行う上での知識を修得し、ボランティアの計画から実践、今後の課題を見つけていく力をつける。			
準備学習	新聞等で社会の事象に関心を持ち、自分たちができるボランティアはないか常に考える。			
授業方法	ニュースを読み、要点を書き、説明を聞き、考え話し合うことを繰り返し行い、いろいろな角度から学んでいく。できれば、ボランティア実践に参加をする。			
授業計画	1.ボランティアの意義 2.ボランティアの役割 3.ボランティアの計画 4.ボランティア活動に必要な基礎知識(子どもの理解) 5.ボランティア活動に必要な基礎知識(子どもの親や職員) 6.ボランティア活動に必要な基礎知識(制度・政策) 7.ボランティア活動に必要な基礎知識(まとめ) 8.ボランティア活動の実際(活動の留意点) 9.ボランティア活動の実際(活動内容の検討) 10.ボランティア活動の実際(記録) 11.ボランティア活動の反省と課題設定の方法 12.ボランティア活動の報告(発表) 13.ボランティア活動の報告(討論) 14.今後の課題を考える 15.まとめ			
評価方法	提出物 30% 実践 20% まとめのレポート 50%			
教科書				

科目名	教育原理【英語名:Theory of education】	職名・担当者	講師 岡本 弘子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	資格取得のための専門的な科目を履修する前に、保育・基礎教育の意義、保育・基礎教育の内容と方法、保育・基礎教育の思想と歴史、保育・基礎教育の現状と課題等、保育・基礎教育の基本的な事項について理解する。 学ぶ際に「なぜ自分は保育者・教育者になりたいのか？」等と考えながら、保育者または教育者を志す者としての自己教育力の目をもつことを目指す。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育や基礎教育の意義、保育や基礎教育の内容等について理解している。 ・保育所と幼稚園の違いについて理解している。 ・保育所保育指針及び幼稚園教育要領とは何かについて理解している。 ・保護者支援の必要性について理解している。 ・保育者及び教育者の仕事と役割について理解している。 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義後に学んだことを振り返り、疑問点等を調べる。 ・講義で学んだ内容やグループディスカッションで得られた気づきから、課題レポートを作成し理解を深める。 ・課題製作に向けて、構想や材料集め等をする。(作り方等の詳細は、授業内で説明する。) 			
授業方法	講義、グループワーク、課題の発表 教科書では足りない資料や最新のデータを、プリントとして配布する。 随時、確認テストやレポート課題を出す。 (授業内容は、初回に説明する。)			
授業計画	第1回:オリエンテーション、保育・基礎教育の理念と概念について学ぶ 第2回:保育・基礎教育の基本 第3回:保育・基礎教育における子ども理解 第4回:発達過程に応じた保育・教育 第5回:保育所保育指針の基本 第6回:幼稚園教育要領の基本 第7回:保育の計画と内容の基本 第8回:基礎教育の計画と内容の基本 第9回:保育の内容と方法 第10回:基礎教育の内容と方法 第11回:保育・基礎教育の歴史と思想 第12回:保育・基礎教育の制度、多様なニーズと保護者支援及び保護者との緊密な連携 施策の視点 第13回:保育・基礎教育の制度、多様なニーズと保護者支援及び保護者との緊密な連携 保護者への支援と連携の視点 第14回:諸外国の保育 第15回:保育者・教育者の職務や専門性・まとめ			
評価方法	授業参加態度 30%、リアクションペーパー・小テスト・課題レポート 40%、期末試験 30%			
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「新保育ライブラリ 保育・福祉を知る 教育原理」小田豊・森真理編、北大路書房、2014年 ・幼稚園教育要領解説 ・保育所保育指針解説書 			

科目名	保育の心理学Ⅱ【英語名:Psychology of ChildcareⅡ】	職名・担当者	教授 陳 惠貞	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	<p>1.乳幼児期から学童期にいたる子どもの発達における基礎知識を身につけることにポイントをおく。</p> <p>2.子どもの発達上の問題について、事例研究を通じて論議しながら考えていく。</p> <p>3.子どものあらゆる面での発達段階をより理解を深め、発達援助者としての学習と実践に役立つことを目標とする。</p> <p>4.国際化が進むなか、外国の保育現場や教育方法を紹介し、国際比較を通してより国際的な感覚を持つ保育士になることを目指す。</p>			
到達目標	<p>1.乳幼児期から学童期にいたる子どもの発達における基礎知識を身につけることができる。</p> <p>2.子どもの発達上の問題について、事例研究を通じて論議でき、考えるようになる。</p> <p>3.子どものあらゆる面での発達段階をより理解を深め、発達援助者としての学習と実践に役立つ。</p> <p>4.国際化が進むなか、外国の保育現場や教育方法を紹介し、国際比較を通してより国際的な感覚を持つ保育士になる。</p>			
準備学習	事前に資料(A4一枚)を配付し、次の授業を備えるように予習をしてもらうことと復習として小レポートを提出することが要する。			
授業方法	学修目標を達成するために、テキストを基にして作成したパワーポイントと参考資料を提示しながら、講義を展開していく。学習効果と理解度を確かめるため、講義の内容について小レポートを作成し、提出する。また、課題に応じて討論し、発表を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期の運動機能の発達(乳児期との差異) 2. 基本的習慣の自立、描画の発達 3. 幼児期の知覚の発達 4. 幼児期の認知・思考の発達 5. 言語機能の発達、バイリンガル教育 6. 社会性の発達、道徳性の芽生え 7. 自己形成、自己概念、動機づけ理論 8. 性役割、性役割の文化の差異 9. 仲間関係の発達と遊び 10. 異文化での子育て、事例研究 11. 異文化での幼児教育、事例研究1(スウェーデン) 12. 異文化での幼児教育、事例研究2(中国・台湾) 13. 学童期の運動機能と思考の発達 14. 学童期の言語機能と自己概念の発達 15. 学童期の道徳性、性役割、仲間関係の発達 			
評価方法	授業態度とノート(60%)、小テストや課題の提出状況(40%)による評価			
教科書	理論と子どもの心をつなぐ 保育の心理学 大橋 喜美子編著 保育出版社			

科目名	造形表現 I 【英語名:Art Expression 1】	職名・担当者	講師 本田 郁子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	保育者・小学校教諭として必要な造形的技能や造形表現の多様さを実際に自身で製作を通して習得する。保育現場や小学校でよく使われる画材や制作道具の安全かつ多様な使い方を身につける。			
到達目標	1. 保育現場で展開される造形活動について理解し、必要な技能を習得する。 2. 子どもの発達に応じた造形活動について理解する。			
準備学習	1. はさみ、のり、ボンドなど必要な道具について保育現場で使用する上での注意点を理解しておく。 2. 保育現場での造形活動の準備、活動、後片付けの流れを理解しておく。			
授業方法	はさみ、のり、クレパス等の道具を用いて描画の実験を体験し、ミニレポートなどで要点をまとめて、保育現場を想定してまとめる。身の周りにある生活廃材と呼ばれる材料を用いてさまざまなおもちゃを作り幼児の製作援助の要点をまとめる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.絵具あそび(ドリッピング・デカルコマニー・バチック) 3.絵具あそび(ブラッシング・スタンピング) 4.絵具あそび(染め紙・マーブリング・スクラッチ) 5.紙版画をつくろう 6.グループ製作(フィンガーペインティング) 7.子どもの絵について 8.紙で立体をつくる 1(コラージュを使って) 9.紙で立体をつくる 2(ポップアップカード) 10.牛乳パックでつくるおもちゃ 1(仕組みをつくる) 11.牛乳パックでつくるおもちゃ 2(仕上げ) 12.モビール 1(構造について, テーマを考える) 13.モビール 2(モチーフをつくる) 14.モビール 3(組み立て) 15.まとめ(ファイリング) 			
評価方法	平常点 40% 実技・作品 50% ミニレポート 10%			
教科書	「幼児造形の研究 保育内容造形表現」萌文書林			

科目名	保育内容総論【英語名:Generality of Content in child care】	職名・担当者	講師 岡本 弘子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	2	1
学修目標	この科目は、資格取得のための科目である。 保育とは何か、保育者がどのような役割を担っているのか、保育職とは何かについての考えを深める。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園における幼児教育内容と保育所における保育内容の共通点とそれぞれの特徴保育内容のがわかる。 ・保育内容の全体構造が理解でき、保育の展開をイメージできるようになる。 ・保育内容の歴史的変遷が知識として身につく。 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義後に学んだことを振り返り、疑問点等を調べる。 ・講義で学んだ内容やグループディスカッションで得られた気づきから、課題レポートを作成し理解を深める。 			
授業方法	講義、グループワーク、発表 資料や最新のデータを、プリントとして配布する。 随時、確認テストやレポート課題を出す。 (授業内容は、初回に説明する。)			
授業計画	第1回: 幼稚園教育要領と保育所保育指針の全体構造 第2回: 幼稚園教育要領の各章とつながりの読み取り 第3回: 日本の保育内容の歩み1 保育所を中心に 第4回: 日本の保育内容の歩み2 幼稚園を中心に 第5回: 幼稚園の一日の生活の観察と記録 第6回: 保育所の一日の生活の観察と記録 第7回: 環境を通して行う保育と環境構成について 第8回: 遊びを通して行う総合的な保育について 第9回: 生活や発達の連続性に考慮した保育の実際 第10回: 行事と保育内容のかかわり 第11回: 幼稚園・保育所・小学校との連携 第12回: 長時間の保育 第13回: 特別な支援を必要とする子どもの保育 第14回: 多文化共生の保育 第15回: これからの保育内容を考える			
評価方法	評価の方法: 授業参加態度 30%、リアクションペーパー・課題レポート 40%、期末試験 30%			
教科書	授業内で伝える			

科目名	保育内容演習(環境)【英語名:Content of Child care in guide : Environment】	職名・担当者	非常勤講師 中川 美子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	自然観察や植物の栽培、小動物の飼育について講義し、自然に対する認識を深め、保育の知識を高めると共に自然保護の問題についても考える。また、折り紙の製作や牛乳パック等を利用したおもちゃづくりを経験することにより保育技術の向上を目指す。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・野の花や小鳥、樹木などについて子ども達にお話ができるようにする。 ・牛乳パックや紙コップなどを利用したおもちゃづくりやおり紙などの伝統的な遊びを身につける。 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・当日指定された用具などを準備する。 ・自分が制作したおもちゃで実際に遊んでみる。 			
授業方法	主として、製作方法を示すプリントを配布し説明しながら見本も示す。自然に関する学習では、ビデオを見て学んだ後、学外へも観察に出かける。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.はじめに 2.動植物との関わり(草花あつめ・虫にふれる) 3.動植物との関わり(樹木・野鳥) 4.動植物との関わり(小動物の飼育) 5.動植物との関わり(ビデオ教材による学習) 6.身近な植物との関わり(学外授業) 7.折り紙の製作 8.折り紙やちぎり絵を活用した作品の製作 9.ストローひこうきの製作 10.うちわシアターの製作 11.ペープサートの製作 12.牛乳パックによるおもちゃの製作 13.手作りおもちゃの製作(製作テーマを考える) 14.手作りおもちゃの製作(製作にとりかかる。できあがった作品を発表する) 15.まとめ 			
評価方法	レポート50% 作品50%			
教科書	プリントを配布			

科目名	保育内容演習(表現) I【英語名:Musical Expression for Enfant】	職名・担当者	講師 笹谷 朋世	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	乳幼児が豊かな感性を育み、意欲的に表現できるように、保育者はどのような援助をしてゆくべきか。保育者自身もいろいろな表現に親しみ、自ら豊かな表現ができることが重要である。 乳幼児の発達の特徴を理解し、保育者に求められる表現活動の援助、指導のあり方を学ぶ。			
到達目標	手あそびうた、童謡、唱歌などたくさんの曲を覚え、歌えるようにすること。 また、それを豊かに表現できるようにする。			
準備学習	授業内で学習した歌は、日常の中で歌ったり、遊んだりしながら、自分のものにしていくこと。			
授業方法	授業の中では、保育者として子どもの表現を援助するために、自ら豊かな表現ができるように、うたを歌い、手あそびをし、表現することの楽しみ、喜びを探ります。 まずは、自分自身が楽しむ気持ちを持って、授業に臨んでください。			
授業計画	【授業計画】 1.オリエンテーション 2.子どものあそびと発達(乳児) 3.子どものあそびと発達(幼児) 4.子どものあそびと発達(復習) 5.伝統的なわらべうたと手あそび歌 6.現代のわらべうたと手あそび歌 7.歌唱活動と指導法 8.楽器奏法と指導法 9.歌あそび 10.音楽表現を中心とした指導計画づくり 11.音楽表現を中心とした指導計画づくりのまとめ 12.音楽表現を中心とした発表練習 13.音楽表現を中心とした発表 14.復習 15.まとめ			
評価方法	学期末に行う試験と平常点による総合評価 実技試験 30%、平常点 70%(授業態度・提出物等)			
教科書	初回授業にて指示します			

科目名	乳児保育 I 【英語名: Infant Care I】	職名・担当者	講師 岡本 弘子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	2	1
学修目標	この科目は、保育士資格取得の為の基本的な科目である。授業では、乳児の保育の理念や意義、心身の発達の特徴、その時期に適した生活や遊びの内容や援助の仕方等について基本から学ぶ。また、乳児を取り巻く環境について検討し、保育者の役割についても考える。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の理論や知識・技術の基本を理解している。 ・保育所等における乳児保育の現状等について理解している。 ・3歳未満児の発育・発達について学び、その時期の生活と遊びの基本を理解している。 ・乳児保育における保護者支援等の基本を理解している。 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義後に学んだことを振り返り、疑問点等を調べる。 ・講義で学んだ内容やグループディスカッションで得られた気づきから、課題レポートを作成し理解を深める。 ・課題製作に向けて、構想や材料集め等をする。(作り方等の詳細は、授業内で説明する。) 			
授業方法	<p>講義、グループワーク、課題の発表 教科書では足りない資料や最新のデータを、プリントとして配布する。 随時、確認テストやレポート課題を出す。 (授業内容は、初回に説明する。)</p>			
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション 第2回:乳児保育の基本 第3回:乳児保育と保育の計画 保育所の基本、保育所における保育計画について学ぶ 第4回:子どもの発達と保育内容1 乳児期の発育や発達の基本について学ぶ 第5回:子どもの発達と保育内容2 特別な配慮を必要とする子どもを取り巻く環境や、実際、対応の仕方について学ぶ 第6回:子どもの発達と保育内容3 0歳児の発育や発達 第7回:子どもの発達と保育内容4 1歳児の発育や発達 第8回:子どもの発達と保育内容5 2歳児の発育や発達 第9回:乳児保育の内容・方法・実際1 乳児保育における生活援助を中心に 第10回:乳児保育の内容・方法・実際2 病気や怪我等いざという時の対応方法 第11回:乳児保育の内容・方法・実際3 乳児期に適したおもちゃや絵本 第12回:乳児保育の内容・方法・実際4 乳児期の遊びや教材 第13回:課題のまとめ・発表1 個々に取り組んだ課題について学生同士で学び合う 第14回:課題のまとめ・発表2 引き続き「乳児期に適した手作りおもちゃ」について学び合う 第15回:まとめ 乳児保育 I の授業内容についての理解度を確認する</p>			
評価方法	授業態度 40%、小レポート・確認テスト・課題・課題レポート 60%			
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育者養成シリーズ 乳児保育」中野由美子・高橋弥生編、一藝社、2015年 ・保育所保育指針解説書 			

科目名	教育心理学【英語名: Educational Psychology】	職名・担当者	教授 陳 惠貞	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	<p>1.保育に携わるものとして、教育の過程における心理学の法則や基礎知識を学ぶ。</p> <p>2.子どもの発達と学習のしくみについて理解を深め、伸び伸びと学ぶように促すための援助の仕方を考え、適切な指導法を考案することを目標とする。</p> <p>3.子育て支援の一環として、保育における幼児教育相談や行動問題児相談に対応できる能力を身につける。</p>			
到達目標	<p>教育心理学の法則や基礎知識を学び、子どもの発達と学習のしくみについて理解し、保育者として現場で活かせることができるようになる。さらに、幼児教育相談や行動問題児相談など子育て支援に対応できるようになる。</p>			
準備学習	<p>初回の授業に進度表を配付し、毎回の授業範囲と分量(テキスト 10 ページ前後)を示す。授業の前に進度表をもとに予習した内容をノートに書き、授業中に書き加え、充実させていく。授業終了後に復習を含め、補足しノートを完成させていく。</p>			
授業方法	<p>学修目標を達成するために、テキストを基にして作成したパワーポイントと参考資料を提示し、講義を進めていく。毎回、講義の内容に沿った練習問題を作成し、随時に講義内容の理解度と効果を確認する。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学の意義と課題 2. 教育心理学の研究方法 3. 発達と教育、発達段階の諸説 4. 乳幼児期の心理と教育、学童期の心理と教育 5. 学習の心理、思考と学習、思考の発達 6. 学習の動機づけ、知的好奇心 7. 学習指導の問題、学習の最適化 8. パーソナリティと適応の理解 9. 個人差の理解:性格理解の方法—気質研究 10. 個人差の理解:知能とその検査法 11. 集団と個人、集団の理解と指導 12. 適応の問題、障害児の概念 13. 障害児の心理と指導 14. 幼児教育相談、カウンセリングの方法 15. 親の理解と子育て支援 			
評価方法	<p>授業態度とノート(60%)、小テストや課題の提出状況(40%)による評価</p>			
教科書	<p>教育心理学 保育者をめざす人へ 石井正子・松尾直博編著 樹村房</p>			

科目名	演劇ワークショップ【英語名:Let's make a play!】	職名・担当者	非常勤講師 小原 ひろみ	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	2	1
学修目標	演劇や演劇的要素を用いて、感性や創造性、コミュニケーションや他者理解、問題解決などを体験的に学び、その自信を培うことを目的とする。 芸術活動を体験することで、社会や人との良きネットワークを築く力を身につけることを目的とする。			
到達目標	他者との協働による演劇体験を通して、多様な価値観を受け入れる力が身につく。 演劇表現の体験により、言語や身体を用いての表現力が向上し、コミュニケーション能力が向上する。			
準備学習	健康な身体で参加できるよう、コンディションを整えて臨むこと。			
授業方法	演劇や演劇的な体験を主に授業を進める。 体験的に学んだことを言語化し、理解を深めるため、参加者相互に意見交流し、考察を深める。 演劇分野や表現教育分野の資料をプリントとして配布する。 必要に応じてレポート課題を出す。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演劇体験シアターゲーム コミュニケーション 2. 演劇体験シアターゲーム 集中 感覚 身体 3. 演劇体験シアターゲーム 想像 言語 4. 演劇体験シアターゲーム 創造 即興 5. 演劇について 脚本の基礎的な構成について学ぶ 6. 脚本づくりのシアターゲーム 題材をつくる 7. 脚本づくりのシアターゲーム 人物をつくる 8. 脚本づくりのシアターゲーム 場面をつくる 9. 演劇と教育 演劇的手法の教育的効果について 10. 発表に向けてのリハーサル 脚本をつくる 11. 発表に向けてのリハーサル 演技練習 12. 発表に向けてのリハーサル 途中経過確認のためのミニシアター 意見交換 13. 発表準備 音楽音響、演出効果について 14. 作品発表 合評会 15. まとめ 演劇体験が作り出すもの 			
評価方法	体験しなければ理解できないことが多いので受講中の態度、課題に対する取り組み方を重視します。課題に対する取り組み姿勢50% ミニレポートも含め、表現する事の教育的な意義についてレポートを提出してもらいます。レポート50%			
教科書	講師が配布します。筆記用具持参。運動の出来る服装で参加してください。			

科目名	保育実践論【英語名:Theory and Practice of the Early child care】	職名・担当者	講師 岡本 弘子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	この授業では、半期で学んだ内容を踏まえ、保育者として子どもの前に立ち子どもとの関係を作ることを模擬保育として体験する。 また、日本や世界の子どもに係る諸問題を整理する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面における教育・保育に関心を持ち、講義を受講している。 ・模擬保育で、協働して遊びを提起する。 ・子どもの目で世界を見ようとする。 ・諸外国の子ども達が直面している問題を知っている。 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究、教材制作、教材のための材料の収集をする。 ・課題レポートを作成し、理解を深める。 ・日本や世界の保育・教育に関心を持ち、新聞やニュース番組を見ている。 			
授業方法	講義・グループワーク・課題発表 必要な資料を、プリントとして配布する。 (授業内容は、初回に説明する。)			
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:児童文化財を用いた遊びのプランについて、発達と遊びについて理解を深める 第3回:児童文化財研究 1 シアター 第4回:児童文化財研究 2 手作りおもちゃ 第5回:児童文化財研究 3 手遊び 第6回:児童文化財研究 4 絵本 第7回:児童文化財を用いた模擬保育 遊びのプランを考える 第8回:シアターを用いた模擬保育 第9回:手作りおもちゃを用いた模擬保育 第10回:表現遊びや絵本を用いた模擬保育 第11回:保育現場にあるグッドトイや木育について学ぶ 第12回:日本の伝統的な遊びについて学ぶ 第13回:海外の保育について学び、日本の保育について考える 持続発展教育の視点から 第14回:海外の保育について学び、日本の保育について考える 貧困層の子ども達の事例から 第15回:保護者支援の視点から異文化・多文化について考える			
評価方法	授業態度 40%、小レポート・確認テスト・課題・課題レポート 60%			
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で説明する ・幼稚園教育要領解説 ・保育所保育指針解説書 			

科目名	多文化保育演習【英語名:Practice of multi-cultural child care and education】	職名・担当者	講師 武 小燕	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	2	1
学修目標	本授業は、海外研修を通して皆さんの視野を広げ、グローバル化の勿れの中で求められる保育の在り方、また多文化共生社会に必要とされる保育者としての資質の取得を目指します。			
到達目標	海外の保育と多文化的な視点について学び、その理解を職場で活かせることができるようになります。			
準備学習	事前に指定した資料の予習と授業中に出した課題の復習をしてもらいます。			
授業方法	パワーポイントや自作資料の提示および視聴覚教材を使って授業を進める。また、グループワークなど、受講者の積極的な参加を求める内容を多く取り入れる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.多文化保育の歴史 3.多文化保育の理論 4.海外研修参加に向けて①(心がまえ) 5. 海外研修に向けて②(カルチャーショックとは) 6. 海外研修に向けて③(多文化的価値観とは) 7. 海外研修の準備①(しおりの作成) 8.9.海外研修の準備②(研修先を知る:歴史) 10.海外研修の準備③(研修先を知る:文化) 11.海外研修の準備④(研修先を知る:現状) 12.海外研修の準備⑤(日本紹介の知識) 13. 海外研修の準備⑥(日本紹介の技能) 14. 海外研修の準備⑦(研修に向けての確認) 15. 総括 			
評価方法	受講態度 15%、提出物 15%、フィールドワーク 30%、期末レポート 40%			
教科書	指定の教科書は使用しない。授業中に資料を随時に配布します。配布資料を整理するファイルの使用をおすすめします。			

科目名	音楽基礎Ⅱ【英語名: music basis】	職名・担当者	講師 笹谷 朋世	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	<p>本学の「音楽表現Ⅱ」の学修目標はバイエル修了程度としており、幼稚園・保育園で求められるピアノの実技力量も一般的にこの程度とされている。</p> <p>しかし、ピアノ経験のない学生にとってこのスキルを身につけるためには大変な個々の努力が強いられる。</p> <p>そのため、この演習授業では「音楽基礎Ⅰ」に引き続き、ピアノ初心者を対象に、楽典・ソルフェージュの基礎を学習し読譜力をつけ、ピアノ奏法技術の学習を行う。</p>			
到達目標	<p>基本的な楽譜の読譜力を身につける。また、簡易伴奏のついた童謡の弾き歌いをできるようにする。</p>			
準備学習	<p>ピアノレッスンは個人のレベルに合わせて行っていくが、事前に提示された課題曲を十分に譜読みし、練習して臨む事。</p> <p>毎日、各自でピアノ練習の時間を持つことが望ましい。</p>			
授業方法	<p>前半 30 分程度は読譜力をつけるためソルフェージュを学習し、後半1時間でピアノレッスンを行う。</p> <p>楽典はピアノレッスンの中で復習していく。</p>			
授業計画	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ピアノレッスン、ソルフェージュ(音階と音名) 3. ピアノレッスン、ソルフェージュ(1・2度音程) 4. ピアノレッスン、ソルフェージュ(拍子) 5. ピアノレッスン、ソルフェージュ(3・4度音程) 6. ピアノレッスン、ソルフェージュ(5・6度音程) 7. ピアノレッスン、ソルフェージュ(7度音程) 8. 中間発表会 9. ピアノレッスン、ソルフェージュ(リズム) 10. ピアノレッスン、ソルフェージュ(リズム打ち練習[易]) 11. ピアノレッスン、ソルフェージュ(リズム打ち練習[中]) 12. ピアノレッスン、ソルフェージュ(リズム打ち練習[高]) 13. ピアノレッスン、ソルフェージュ(長音階) 14. ピアノレッスン、ソルフェージュ(短音階) 15. ピアノレッスン、ソルフェージュ(まとめ) 16. 最終発表会(試験) 			
評価方法	<p>平常点 60%、試験内容 40%</p> <p>学習意欲、授業態度を重視する。</p>			
教科書	<p>「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社 他、初回授業にて指示します</p>			

科目名	家庭【英語名:Nutrition for Children】	職名・担当者	非常勤講師 高橋 美恵	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	小学校における家庭科教育の目標を踏まえ、内容ごとの実践的・体験的な活動方法について具体的な方策を探る。また、子どもたちに身に付けさせたい知識・技能を確認した上で、どのように実践的態度を育てていけるのかを考える。さらに、家庭環境により異なる生活経験をもつ子どもたちを指導する上で注意すべきことを考え、どのような教材をどう取り扱うか、実践例を基に検討する。			
到達目標	家庭科教育について基本的な理解をする。 小学校教員として必要な資質や態度について考える。			
準備学習	授業の終わりに次回の授業内容を知らせ、必要がある場合は、関係する資料集めや実習材料を準備する。また、実習の場合は、製作状況によって次回までの課題とする。			
授業方法	指定教科書を基にして授業を進めたり、教科書では足りない資料や最新の情報をプリントとして配布したりする。また、教材研究をレポートにまとめ、レポートを基に発表する。さらに、基礎的な技能体験をさせて、製作した小物を提出する。			
授業計画	第1回:オリエンテーション :「家庭科を学ぶにあたって」 第2回:学習指導要領における家庭科の基本方針 第3回:学習指導要領における家庭科の目標と内容 第4回:小学校家庭科の教材研究① 家族と食事 第5回:小学校家庭科の教材研究② 衣と住・環境 第6回:指導計画作成上の留意事項 第7回:家庭科学習指導案の書き方 第8回:家庭科学習指導案の作成 第9回:授業実践のポイント 授業をどう展開するか ①「家庭生活と家族」 第10回:授業実践のポイント 授業をどう展開するか ②「日常の食事と調理の基礎」 第11回:授業実践のポイント 授業をどう展開するか ③「快適な衣服と住まい」 第12回:授業実践のポイント 授業をどう展開するか ④「身近な消費生活と環境」 第13回:実験実習(基礎縫い) 第14回:衣生活実習(基礎縫いの完成・評価) 第15回:まとめ			
評価方法	受講態度(20%)、レポート及び指導案作成(50%)、その他、基礎縫い作品などの指示された提出物(30%)により、総合的に評価する。			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』			

科目名	算数【英語名:elementary mathematics】	職名・担当者	非常勤講師 新見 精三	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	テキストに沿いながら基本的な知識を習得するとともに、算数の教科書や実際の授業実践に関する話題を交えながら、実践的な話題についても考察する。			
到達目標	算数科教育に関する基本的な知識を習得する。			
準備学習	教科書の該当範囲を予め予習しておく。			
授業方法	プリントなどで資料を提示し、講義と演習を行う。			
授業計画	第1回：算数科の目標：算数教育の歴史/算数科の特質 第2回：数と計算(1) 整数の概念・表記・加法・減法 第3回：数と計算(2) 整数の乗法・除法 第4回：数と計算(3) 小数と分数 第5回：数と計算(4) 見積もり・概数・概算 第6回：量と測定(1) 量の概念と4段階指導,長さ 第7回：量と測定(2) 面積・体積・円周率 第8回：図形(1) 図形の概念形成 第9回：図形(2) 操作的な活動 第10回：図形(3) 平面図形 第11回：図形(4) 立体図形 第12回：数量関係(1) 関数の考え 第13回：数量関係(2) 式で表すことと式を読むこと 第14回：数量関係(3) 統計の考え 第15回：最近の算数教育の研究課題から			
評価方法	テスト(50%), 小レポート(30%), 授業での発表(20%)			
教科書	教科書:小学校学習指導要領解説 算数編			

科目名	国語【英語名:Japanese】	職名・担当者	非常勤講師 河村 恵子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	初等国語科教育実践のための基礎的知識を理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国語教育の歴史と変遷を知り,現在の国語教育の流れを知る。 2. 小学校学習指導要領と教科書の概要について理解する。 3. 学ぶ意欲を向上させるための理論と実践の概要を理解する。 			
準備学習	教科書を事前に読んでおくこと。			
授業方法	教科書に沿って、授業を行うが、必要に応じてプリント等の資料を配布する。			
授業計画	<p>第1回:受講上のきまり・全体計画・座席の決め方・ポートフォリオの作り方</p> <p>第2回:小学校国語科授業の歴史 国語教育と国語科教育</p> <p>第3回:PISA 型読解力と評価</p> <p>第4回:「言語活動の充実」と実践</p> <p>第5回:小学校学習指導要領解説 国語編概要(低学年)</p> <p>第6回:小学校学習指導要領解説 国語編概要(中学年)</p> <p>第7回:小学校学習指導要領解説 国語編概要(高学年)</p> <p>第8回:小学校学習指導要領国語編と教科書書道の指導と実践</p> <p>第9回:教科書教材の単元構成と年間指導計画</p> <p>第10回:国語科教科書の概要①(1～3年生)</p> <p>第11回:国語科教科書の概要②(4～6年生)</p> <p>第12回:国語学習の中における特別支援教育</p> <p>第13回:国語学習における思考力・判断力・表現力の向上</p> <p>第14回:学ぶ意欲の向上を促す国語教室の在り方</p> <p>第15回:ポートフォリオによるまとめ</p>			
評価方法	期末筆記試験 40%, ポートフォリオ(レポートを含む)60%			
教科書	小学校学習指導要領解説 国語編			

科目名	社会【英語名:Social Science for the Elementary Course】	職名・担当者	教授 児嶋 直也	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	<p>小学校教育課程の教科専門課程の一科目であり、小学校免許取得のための必須科目です。</p> <p>小学校における社会科の指導内容と指導方法を理解します。社会科のものの見方や考え方を身につけ、小学校の教師として児童に社会科を指導する自信を持てるようにします。</p>			
到達目標	<p>小学校における教科指導および教科横断的な社会科学習についての基本的な知識が身につけている。</p> <p>指導内容について、適切な方法で提示することができる。</p>			
準備学習	<p>指導の各時間について学習指導要領の該当部分に通し、そのねらいや内容と、社会科指導全般の中での位置とを把握しておく。</p> <p>歴史、地理、公民に関する書籍を選び、概要・感想・自分の考えを発表できるようにしておく。</p>			
授業方法	<p>社会科指導に関する資料を配布する。地図や実際の教育課程や指導の様子を通して、指導の方法を考えあう。</p> <p>授業計画から各自のテーマを決め発表する。</p> <p>気づいたこと、分かったこと、疑問に思うことなどについて発表し、学生が互いに学びあう活動を取り入れる。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション。学習指導要領、教育課程、授業の進め方、成績評価について 2. 身近な社会科的な事象について 3. 身近な公民的、歴史的、地理的な事象について 4. 日本の自然的な特徴。 5. 日本の第一次産業、第二次産業について 6. 日本の第三次産業、情報と社会の発展について 7. 日本と世界の歴史について 8. 公民と、世界の広がりや異文化理解について 9. 中間のまとめ。各自のテーマについて 10. 世界の広がりや異文化理解について 11. 教材研究。地理。教材提示の方法 12. 教材研究。歴史。教材提示の方法 13. 教材研究。公民、政治経済社会。教材提示の方法。 14. 子どもの発達と社会。生徒指導と進路。 15. まとめ。これからの社会科指導に向けて。 			
評価方法	<p>定期試験 50%</p> <p>学習意欲や態度 30%</p> <p>レポート 20%</p>			
教科書	<p>小学校指導要領の解説 文部科学省 平成20年6月</p>			

科目名	生活【英語名:Life Environment Studies】	職名・担当者	講師	
		単位数	Semester	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の目標と内容、子どもへの活動支援について理解を深める。 体験や活動を楽しみ、その過程で起こる気づきを思考力の芽生えととらえ、具体的な事例を通して目標を達成する。 幼児教育と小学校教育との連携について考察する。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分をとりまく事象について、直接触れる活動や体験をすることにより、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわり、自分自身や自分の生活について具体的な事象や事例を通して体験する。 体験活動など具体的な事象に触れることを基本としながら、子どもたちの活動と指導及び支援法について考察し、基礎的技能の向上を図る。 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動や体験を通じていろいろな人とかかわるため、積極的に楽しく参加するための心がまえを持つ。 年中行事や日常生活に関係が深い内容なので、興味関心を持つように意識付けをする。 体験から気付くためには、好奇心、相手の立場になって考えるなど幅広い視野で観ることが必要であるため、まずは人の話をじっくり聴ける習慣を身につける。 			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> 個人やグループによる調査活動や体験活動、およびその発表、ディスカッション等を通して実践力を身につける。 毎回グループ編成を行い、たくさんの人とかかわるようにする。 毎回グループワークを行い、プリントにまとめる。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション (1)目標、進め方、生活科 行事に参加してみよう「保育園の運動会」 (1)行事とは、保育者視点、観察 体験の意味と気づきの質を高める (1)気づき、行動 生活科の目標 (1)体験、活動、気づき 生活科の内容・研究① (1)季節、対話、コミュニケーション、気づき 生活科の内容・研究② (1)公共物、交流活動、コミュニケーション、気づき 体験活動(学内探検、調査など)① (1)準備、探検、調査、インタビュー、保育者視点 体験活動②(学内探検、調査など)活動 (1)探検、調査、観察、インタビュー、比較、保育者視点 体験活動③ (1)発表、シェアリング、思考、感情、行動 表現活動① 行事「クリスマス会」を開くにあたって (1)行事、クリスマス会、保育者視点、準備(絵本、紙しばい、遊び、童話、童謡、ダンス、劇、掲示物など) 表現活動② 行事「クリスマス会」を開くにあたって (1)子ども、楽しい、役割、活動 表現活動③ 行事「クリスマス会」 (1)発表、シェアリング、保育者視点 幼児教育と小学校教育の連携 生活科授業づくり① (1)目標、教科書、指導案作成 生活科授業づくり② 生活講義のまとめ (1)ミニ体験活動、気づき、表現力 (2)15回のふりかえり 			
評価方法	<p>毎回のレポート 25% 受講態度 25% 定期試験 50%</p>			
教科書	適宜プリントを配付			

科目名	理科【英語名:Science】	職名・担当者	教授 深谷 秀次	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	小学校における理科教育の目的と内容及び指導の要点について理解する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理科教育の目標や内容について学び、小学校理科の指導の要点を説明できる。 ・理科教育の基本的な知識と技能及び考え方が身についている。 ・現代社会の課題と科学との関わりについて考察し、理科教育の役割や目指す児童の姿を説明することができる。 			
準備学習	各授業前に該当する理科の指導内容を把握し、疑問点を整理しておく。			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・指定教科書を基に、パワーポイントやプリントで資料を示し、講義を行う。必要に応じて実験・観察を行う。 ・毎回、前時の振り返りテストを行う。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション:小学校理科教育の実際と課題 2. 小学校理科教育の目標と内容の構成 3. 小学校理科の指導計画作成と内容の扱い 4. 実験・観察指導の要点と教材 5. 「エネルギー」の学習内容と系統性 6. 「エネルギー」学習の実験・観察 7. 「生命」の学習内容と系統性 8. 「生命」学習の実験・観察 9. 「物質」の学習内容と系統性 10. 「物質」学習の実験・観察 11. 「地球」の学習内容と系統性 12. 「地球」学習の実験・観察 13. 理科学習指導の要点と育てる能力 14. 現代社会の課題と理科教育の役割 15. 理科の学力と目指す児童の姿 			
評価方法	定期試験50% レポート30% 受講態度20%			
教科書	・小学校学習指導要領解説 理科編 平成20年 文部科学省			

科目名	幼稚園教育実習(事前・事後)【英語名 : Educational Practice of Kindergarten】	職名・担当者	教授 江上 信子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	幼稚園教育実習に備えて必要な事項を学び、実習とは何かを理解するとともに、実習についての心構えをもつ。 1. 実習の概要(意義、目的、内容)を理解する。 2. 幼稚園について理解する。 3. 実習生に求められる態度を学ぶ。 4. 実習日誌の書き方を知る。			
到達目標	実習について学び、幼稚園教育実習に対する心構えをもって、実習に備えられるようになる。			
準備学習	予習については、必要に応じて指示する。 毎回復習レポート(B5判程度)を課す。			
授業方法	教科書を基に、講義形式と実習に必要な書類の作成を主とした形で進める。また、実習に備えて保育実技も取り入れていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション(授業の内容と進め方について) 2.実習の意義・目的・内容・方法 3.幼稚園の理解、幼稚園の一日 4.子どもとのかかわり(子ども理解) 5.保育者の役割、職務内容 6.教材研究(ポケットシアター制作) 7.教材研究(ポケットシアター制作・実演) 8.幼稚園体験実習計画立案 9.幼稚園体験実習(1)前半グループ 10.幼稚園体験実習(2)後半グループ 11.実習記録の意義・内容 12.実習記録の書き方(1)説明 13.実習記録の書き方(2)演習 14.指導計画案の立て方 15.まとめ(実習参加の姿勢と態度) 			
評価方法	授業態度 50% レポート等提出物 30% 実技発表 20% ※無断欠席が多い場合、実習ができなくなるので注意すること			
教科書	「学びつづける保育者をめざす 実習の本」萌文書林 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼稚園教育要領 解説」「保育所保育指針解説書」(フレーバル館)			

科目名	基礎ゼミナールⅡ【英語名:Basic SeminarⅡ】	職名・担当者	各担当教員	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	基礎ゼミⅠを踏まえ、より実践的な活動に取り組み、保育者、教育者としての素地を養い技能を磨くとともに、表現力を高める。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.実践活動の計画や参加方法についてまとめるとともに、事後の振り返りが的確にできる。 2.子どもの特性や発達に目を向け、自らの関わりと子どもの反応や変化についてまとめることができる。 3.活動の準備から片付けまで、責任を持って安全に実践活動を実施することができる。 			
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実践活動(行事)の意味や内容について調べておく。 2.活動に必要な物品や制作方法について調べ、準備をする。 			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題について意見交換や話し合い、発表をする。 ・実践活動(行事)について事前に準備・計画をまとめ、協力して取り組み、その中での学びと自分の学び方について振り返りを行う。 ・毎回授業後にレポートかワークシートを提出する。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 後期基礎ゼミの計画とISO学習、学園祭の取り組み 2. 学園祭準備 3. 学園祭振り返りと保育園運動会参加計画 4. 運動会振り返りとハロウィン招待計画・準備 5. ハロウィン招待 6. ハロウィン招待振り返りと各自の課題 7. 行事を通して見た子どもの姿と自分の関わりの総括 8. 後期の学生生活と学習の状況 9. クリスマスマーケットの計画 10. 幼稚園実習報告会と実習への心構え 11. クリスマスマーケット準備 12. クリスマスマーケット 13. 保育専門演習と2年次の学習 14. 卒論発表会参加 15. 後期大学生生活の総括及び学年末休業 			
評価方法	参加態度(意欲、貢献度)40%、レポート30%、実践活動(取り組み、子どもとのかかわり)30%			
教科書	資料やワークシートを配布する。			

科目名	中国語【英語名:Chinese I】	職名・担当者	講師 武 小燕	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	2	3	2
学修目標	本授業では、中国語の発音と一般会話の習得を通して、日常生活や保育現場で使える基本的な中国語の会話能力を身につけることを目的とする。			
到達目標	学習した中国語を日常生活や仕事に活かせることができるようになる。			
準備学習	事前に指定した資料の予習と授業中に題した課題の復習をしてもらう。			
授業方法	日本人にとって中国語の難しさが漢字にあるのではなく、主に発音にあるため、配布するオリジナル教材を基に、発音や会話を練習する時間を多く設ける。毎回授業の最後に、当日の授業内容について小テストを行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.発音学習① 四声と単母音 3.発音学習② 複母音 4.発音学習③ 子音 5.発音学習④ 発音のまとめ 6.挨拶言葉 7.文法学習① 名詞と動詞 8.文法学習② 形容詞 9.文法学習③ 数量詞 10.日常会話① 飲食 11.日常会話② 学校生活 12.日常会話③ 趣味 13.日常会話④ 買い物 14.日常会話⑤ 自己紹介 15.まとめ 			
評価方法	受講態度 15%、小テスト 15%、期末テスト 70%			
教科書	授業中にオリジナル教材を随時に配布します。			

科目名	労働と法【英語名:Labor and law】	職名・担当者	教授 高木 清秀	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	社会で働くための基本的なルール(労働と法)を学習し、実社会で安心して働ける知恵を習得する。 働くこと、生きることとは何かを考え、働く職場での人間の幸せ・尊厳を考える。			
到達目標	働くことの意義を学習し、ワークライフバランス(労働と生活のバランス)を考えながら、豊かな人生を考えられる人間になること。			
準備学習	次回の授業のテーマを、前授業で指示するので、新聞等の記事に関心を持ち、問題意識を持って授業に臨むこと。			
授業方法	1. レジュメとスライドショー(プリント)により授業 2. 現在雇用の一般知識を学び、解説すると同時に、現在起こっている事例(裁判判例)を紹介する 3. 労働に関係する、新しい法律、法改正について説明し、その背景(理由)を解説する 4. 講義中に、質問するので、その答えをメモに記入し提出する			
授業計画	1. 今起きている労働問題、事例 (労働と法を学ぶ意義) 2. 働くために関係している法律 (働くこととは、法は必要か) 3. 募集・採用(内定・試用期間・新入社員教育) 4. 労働契約法(就業規則・労働協約) 5. 労働基準法 賃金の概要(賃金額・成果主義・生涯賃金) 6. 賃金・手当・退職金・割増賃金(世界との比較) 7. 労働時間の概要 8. 労働時間・休憩・年次有給休暇 9. 労働時間の短縮(ワークシェアリング・フレックスタイム・変形労働時間制) 10. 労働組合法労働組合・団体交渉・団体行動(ストライキ・ロックアウト)・労働災害 11. 解雇と雇止め(不当労働行為) 12. 派遣(労働者派遣法)・パート・アルバイト(パート労働法) 13. 男女雇用機会均等法(ジェンダーフリー・セクハラ) 14. 育児・介護休業法 15. 個別労働紛争(問題)とその解決方法			
評価方法	定期試験 70%(3分の2以上の出席必要) 資料持込み可能 受講態度 20%(積極性) レポート 10%(質問に対するレポート提出)			
教科書	参考図書 「新・ビジネス法と現代社会」嵯峨野書院 講義の初めに、当日の資料を配付する。			

科目名	社会福祉 I【英語名:social welfare I】	職名・担当者	講師 木村 拓磨	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。 3. 社会福祉の制度や実施体系について理解する。			
到達目標	子どもにおこる困難などの問題を解決するために制度や政策をどのように活用するか、またどのような制度や政策が必要なのかを考える力をつける。			
準備学習	予習や復習にテキストを活用すること。新聞等から社会の事象に関心を持つことや、児童家庭福祉に関連する施設でのボランティアを積極的に行うことも良い。			
授業方法	教科書を読み、要点を書き、説明を聞き、考えるということを繰り返し行い、いろいろな角度から学ぶ方法を使って授業を進めていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.保育における社会福祉 3.社会福祉の概念と理念 4.社会福祉の歴史的変遷 5.社会福祉の分野としての児童家庭福祉 6.子どもの人権・権利擁護と社会福祉 7.家庭支援・子育て支援と社会福祉 8.振り返り① 9.社会福祉の制度と法体系 10.社会福祉行財政と実施機関 11.社会福祉施設など 12.社会福祉の専門職など 13.社会保障および関連制度 14.振り返り② 15.まとめ 			
評価方法	定期試験 80% レポート 20%			
教科書	新 保育士養成講座編纂委員会/編『社会福祉』全国社会福祉協議会			

科目名	社会的養護【英語名:Social and Protective Care】	職名・担当者	非常勤講師 武藤 敦士	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「社会的養護とは何か」を理解する。 2. 社会的養護の背景について理解する。 3. 社会的養護の現状と課題について理解する。 4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 5. 社会的養護に関する今日的動向について学習する。 			
到達目標	社会的養護に関する政策・制度の動きを理解し、社会的養護の現状と課題について考えることを通して、現場実践者に求められる視点や方法を身につける。			
準備学習	<p>予習:テキストに目を通し、わからない用語等があれば調べておくこと。</p> <p>復習:講義で学んだ内容を、身近な事例と照らし合わせて、実態としての理解に努めること。</p>			
授業方法	テキストの要点を説明したうえで、社会的養護とはどうあるべきか、なぜ必要なのかを常に意識した学習ができるようにヒントを与え、学生の主体的な学びを促していく。また、テキストだけでは不十分な内容については、適宜視聴覚教材等を使って理解を促し、それに対するレポートを課す。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.社会的養護とは何か 2.現代社会に暮らす子どもと家庭 3.子どもの権利 4.子どもの養護の歴史 5.社会的養護の体系:家庭・施設・里親 6.社会的養護の制度 7.施設養護の特質 8.施設養護の基本原則 9.施設養護の実際:日常生活および自立支援 10.施設養護の実際:治療的・支援的援助 11.施設養護の実際:親子・地域との関係調整 12.社会的養護とソーシャルワーク 13.児童福祉施設の運営管理 14.児童家庭福祉の援助者としての資質・倫理 15.社会的養護のあるべき姿 			
評価方法	定期試験 80% レポート 20%			
教科書	小池由佳・山縣文治『社会的養護』ミネルヴァ書房			

科目名	音楽表現Ⅰ【英語名:basic piano and music theory】	職名・担当者	講師 笹谷 朋世	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	<p>幼稚園・保育園で求められるピアノの実技力量は、一般的にバイエル修了程度とされている。「音楽表現Ⅰ」では、バイエル 95 番程度を終える事を学習目標とする。</p> <p>また、保育の音楽活動の基本は「歌うこと」にあるので、歌を歌う技術も幼稚園教諭・保育士には求められる。</p> <p>授業では、ピアノレッスンと並行して、読譜のための楽典と、実際に童謡・わらべ歌等の楽譜を使い歌のレッスンをを行い、発声や日本語の発音を学修する。</p>			
到達目標	最低限、バイエル 73 番程度までを弾けるようにする。			
準備学習	事前に提示された課題曲を十分に譜読みし、練習して臨み、復習も行うこと。毎日、各自でピアノ練習の時間を持つことが望ましい。			
授業方法	楽典／歌レッスン(合唱形式)45分、ピアノレッスン 45分			
授業計画	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.ピアノレッスン、音部記号・五線・音名 3.ピアノレッスン、音符と休符(4分・8分・2分・全音符) 4.ピアノレッスン、音符と休符(付点) 5.ピアノレッスン、拍子記号・変化記号 6.ピアノレッスン、リズムと拍子 7.ピアノレッスン、反復記号 8.ピアノレッスン、短調と長調 9.中間発表会 10. ピアノレッスン、歌レッスン(1)姿勢・呼吸法、 11. ピアノレッスン、歌レッスン(2)子音と母音、 12. ピアノレッスン、歌レッスン(3)日本語発音基礎 13. ピアノレッスン、歌レッスン(4)日本語発音実践 14. ピアノレッスン、コードネーム(ハ長調) 15. ピアノレッスン、コードネーム(ト長調・ヘ長調) 			
評価方法	学期末に行う実技試験と、平常点による総合評価 実技試験 40%、平常点 60%(授業態度・提出物・個人の到達度等)			
教科書	<p>「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社</p> <p>「こどもの歌 200」小林美実編 チャイルド社</p> <p>「うたのファンタジー改訂版」圭文社</p> <p>他、初回授業にて指示します</p>			

科目名	身体表現 I 【英語名 :The body expression I】	職名・担当者	教授 佐々木 俊郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	保育者は子どもと信頼関係を築きながら、楽しい遊びを十分に体験させ、豊かなこころとしなやかな身体が育つように支援する必要がある。そこで本講座は幼児の楽しい遊びと身体表現についての知識と技能を学習します。			
到達目標	将来就職した時に、現代のガキ大将をめざし、子どもを元気にすることのできる理論と実践力を修得し、現場で活かせるようになる。			
準備学習	毎回、次回授業範囲の教科書を読んてくること。			
授業方法	実技を中心に行うが、子どもの発育・発達に応じた指導法等も学習する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、自然環境保育で心身を育てる 2. 伝承遊び(1) 鬼ごっこ、竹馬、コマ回し等 3. 伝承遊び(2) 鬼ごっこ、歌を伴う伝承遊び 4. 集団による楽しい運動遊び(1) 色々な鬼ごっこ 5. 跳び箱運動とその指導法 6. マット運動とその指導法 7. 鉄棒とその指導法 8. 身体操作系の楽しい運動遊び 9. 道具操作系の楽しい遊び 11. 集団による楽しい運動遊び(2) 集団によるボール遊び 11. おとなと楽しむ遊び 12. 障がい児の理解と運動遊び 13. 運動会の種目・遊び 14. 水泳の科学、水中における運動指導法、水泳と安全指導 15. まとめ 			
評価方法	学習に対する意欲 50%、基礎技能 20% テスト30%			
教科書	適宜資料を配布			

科目名	保育内容演習(健康)【英語名:The nursing detail practice (The health)】	職名・担当者	教授 佐々木 俊郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	幼稚園教育要領および保育所保育指針に示された基本原則をしっかりと踏まえ、領域「健康」のねらいと内容について理解する。			
到達目標	幼稚園教育要領および保育所保育指針に示された基本原則をしっかりと踏まえ、領域「健康」のねらいと内容について理解を確かなものとし、保育実践に結び付けられるようになる。			
準備学習	毎回、次回授業範囲の教科書を読んでくること。 また、授業内容をノートにまとめること。			
授業方法	教科書を中心に、補助教材としてパワーポイントやDVD等を使用しながら授業を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 領域「健康」の目指すもの 3. 幼児の健康 4. 幼児の発達理解 5. 幼児のあそびの発達 6. 幼児のあそびと健康 7. 幼児の体格・運動能力の現状 8. 幼児の体格・運動能力の課題 9. 幼児の生活スタイル 10. 幼児の体格・運動能力測定表の評価 11. 幼児の安全管理 12. 幼児の安全教育 13. 応急処置法 14. 運動体験を広げる体育的行事 15. 保育の計画と指導演 			
評価方法	筆記試験60%、授業中の課題等20%、学習態度・意欲 20%			
教科書	保育内容健康 北大路書房 民秋言、穂丸武臣編著			

科目名	保育内容演習（表現）Ⅱ【英語名：Practicum in Child Care Curriculum Ⅱ】	職名・担当者	講師 本田 郁子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	保育内容「表現」について理解し、その中で造形表現が音楽表現、身体表現とどう関わり、保育現場でどのように展開されているかを理解する。四季を通じて花や生き物、行事などを製作を通じて理解を深める。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の表現について、造形領域だけでなく様々な分野が関係し成り立っているものと理解する。 2. 上記の理解の上で保育現場を想定しグループで模擬保育ができるようになる。 			
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課外活動やボランティアなどで様々な表現をする幼児たちの活動を観察する。 2. 観察から自分自身が展開したい活動を計画する。 			
授業方法	画用紙やいろがみを用いた立体的な製作によりさまざまな表現する。絵の具の使い方を理解し、色相環を製作する。共同制作を通して集団で製作する。四季の草花や生き物を様々な造形材料を用いて表現し、グループ発表する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.表現とは？（自分の中にあるもの） 2.ビニール袋で遊ぶ 3.並べる・くらべる 4.転がる・ 5.ペープサート1 6.ペープサート2 7.集団で描く1(長い紙に描こう) 8.集団で描く2(大きな絵) 9.季節の中の表現 春 10.季節の中の表現 夏 11.季節の中の表現 発表 12.季節の中の表現 秋 13.季節の中の表現 冬 14.季節の中の表現 発表2 15.表現のまとめ 			
評価方法	平常点40%、作品評価40%、レポート20%			
教科書	3・4・5 歳児の造形活動おまかせガイド 造形アイデア 100 明治図書			

科目名	障害児保育 I 【英語名 :Care and education for child with the disabilities I】	職名・担当者	講師 木村 拓磨	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	3	2
学修目標	<p>1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。</p> <p>2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。</p> <p>3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。</p> <p>4. 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。</p>			
到達目標	障害のある子どもへのかかわりについて、発達の視点を生かして保育を行うための考え方の基礎を身につける。			
準備学習	復習を行うこと。新聞等から社会の事象に関心を持つことや、児童家庭福祉に関連する施設でのボランティアを積極的に行うことも良い。			
授業方法	教科書や資料を読み、要点を書き、説明を聞く。実際の例をイメージしながら、授業を行っていく。			
授業計画	<p>1.オリエンテーション</p> <p>2.乳幼児の発達の理解(0～2歳)</p> <p>3.乳幼児の発達の理解(3～5歳)</p> <p>4.障害児とは</p> <p>5.障害の基礎知識と保育(知的障害、脳性麻痺)</p> <p>6.障害の基礎知識と保育(LD・ADHD)</p> <p>7.障害の基礎知識と保育(広汎性発達障害)</p> <p>8.障害の基礎知識と保育(虐待と情緒障害、愛着障害)</p> <p>9.障害の基礎知識と保育(視覚障害)</p> <p>10.障害の基礎知識と保育(聴覚障害)</p> <p>11.障害の基礎知識と保育(運動障害)</p> <p>12.障害の基礎知識と保育(医療との連携が必要な子どもたち)</p> <p>13.保育所における障害児保育</p> <p>14.就学に向けて</p> <p>15.まとめ</p>			
評価方法	定期試験 80% レポート 20%			
教科書	近藤直子・白石正久・中村尚子編 『保育者のためのテキスト障害児保育』 全障研出版			

科目名	保育課程論【英語名:Curriculum of Child Care】	職名・担当者	非常勤講師 加藤 久美子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	1.保育内容の充実と質の向上に資する保育計画と評価(保育の振り返り)について理解する。 2. 保育課程の構成と指導計画の作成について具体的に理解する。 3. 計画、実践、省察、評価、改善の過程について、全体の構造をサイクルとしてとらえ、理解する。			
到達目標	保育の計画と評価(振り返り)の関わりが理解でき、保育士として指導計画を作成する際の基本が身につく。			
準備学習	教科書を事前に読み、わからない用語の意味を調べておく。 学習する科目の内容を理解しておく。			
授業方法	1. 教科書を使って授業を進める。授業計画書を別途配布し、習得度のチェックをしながら進行する。 2. 教科書では足りない資料をプリントして配布する。 3. 作成された指導計画を添削し、コメントをいれる。 4. 毎回の授業内容レポートを課す。			
授業計画	1・保育課程論を学ぶにあたって 2・保育所保育指針と保育課程論 幼稚園教育要領と教育課程 3・保育を計画するとは 4・保育の基本と保育の計画 5・保育課程の構成 6・保育計画を立てるときに基本となること 7・クラス年間指導計画と計画の時期区分 8・保育内容の構造 9・保育における計画の考え方(0, 1, 2歳児を中心に) 10・保育における計画の考え方(3, 4, 5歳児を中心に) 11・保育における計画・実践の指導計画案から学ぶ 12・保育の省察と実践の記録 13・保育者の自己評価 14・保育所児童保育要録の書き方 15・保育課程の見直しと再作成・保育課程まとめ 16・試験			
評価方法	定期試験 70% レポート他提出物 30%			
教科書	柴崎正行・戸田雅美・増田まゆみ編「保育課程・教育課程総論」			

科目名	子どもの保健Ⅱ【英語名:child healthⅡ】	職名・担当者	教授 浅野 里美	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	こどもの保育、養育などに関わる人々が子どもの保健Ⅰで習得した知識を土台に実習、訓練することにより保育園、幼稚園、施設などの現場で、実務として実際に自分で即座に判断し、行動できるようになることが学習目標となる。			
到達目標	子どもの発達、病気、社会の制度などについて学び社会の現場で常識を持って働くことができるようになる。			
準備学習	教科書などを復習したり、毎日のニュースなどに常に注目し、理解に努めること。			
授業方法	指定教科書を基にして、DVD鑑賞したり補助教材としてパワーポイントなどの資料を提示して授業を進める。課題に対しても、討論なども通じて理解を深める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児保健実習の意義と目標となる保健計画 2. 小児の発育 成長発達、形態的発達、運動機能の発達 3. 精神機能の発達、生理的機能の発達 4. 発育評価、小児の計測 5. 子どもの特性・子どもの生活習慣の自立 6. 基本的生活習慣の確立 7. 食習慣形成・自立への支援 8. 沐浴実習、手洗い実習 9. 小児の事故とその予防、応急処置 10. 小児に多い病状・病気とその対処および予防 11. その他の急性・慢性疾患(アレルギー疾患など)とその対処法について 12. 予防接種(定期予防接種と任意予防接種) 13. 障害をもつ小児へのかかわり方。 14. 児童虐待 15. 地域との連携・協働 			
評価方法	筆記試験60% 学習意欲や態度 30% レポート 10%			
教科書	子どもの保健演習; 編集/執筆 大西文子 中山書店、2012年12月25日 ISBN 978-4-521-73677-8 定価(本体2100円+税)			

科目名	教職概論【英語名:Introduction to The Teaching Profession】	職名・担当者	講師 武 小燕	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	少子高齢化が進む日本社会の教育環境も大きく変化しています。そのなかで教育者に求める力とは何かについて、教員養成の歴史、教職員に関する法律、今日の教員が直面する現状と課題などについて理解し、学習します。			
到達目標	教員という仕事の意義と責務について学び、教員としての心構えを持つと同時に、教育現場に立つ際に直面する現状と課題に対応できるような力を身につくようになります。			
準備学習	事前に指定した資料の予習と授業中に出した課題の復習をしてもらいます。			
授業方法	パワーポイントや自作資料の提示および視聴覚教材の使用で授業を進める。毎回授業内容へのフィードバックとしてリアクションペーパーの提出を求める。また、小レポートを課すことがある。			
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:教職とは何か(1)歴史の視点から 第3回:教職とは何か(2)法制度の視点から 第4回:専門家としての教師 第5回:労働者としての教師 第6回:資格・研修・服務 第7回:教師の職場環境と同僚性 第8回:学校に行けない教師たち(視聴覚) 第9回:教職の課題(1)教育愛と懲戒・体罰 第10回:教職の課題(2)家庭や地域との連携 第11回:教職の課題(3)ビデオ教材による学習 第12回:教師像の変遷(1)戦前 第13回:教師像の変遷(2)戦後 第14回:海外の教職について 第15回:まとめ			
評価方法	授業態度(15%) 提出物(15%) 定期試験(70%)			
教科書	必要に応じて参考書とプリントを提示する。			

科目名	発達心理学【英語名:Developmental psychology】	職名・担当者	教授	
		単位数	semester	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	<p>保育心理士資格を取得するために必要な知識を学ぶことが目的とする。</p> <p>1. 保育は子どもたちがすくすくと成長し、発達するように援助する営みである。保育の対象である子どもたちの発達について理解し、支援ができるようになる。</p> <p>2. 人間の一生、胎児期から老年期までの発達、そしてそれぞれの発達段階の特徴を理解する。</p> <p>3. 保育士が子どもに及ぼす影響を理解し、自覚できるようになる。</p> <p>4. 発達障害などの問題行動の特徴に対する基礎知識を理解し、そのような子どもについての対応や援助の仕方を意識し、考えるようになる。</p> <p>以上の専門知識をもって、保育・教育現場で活用できるようになる。</p>			
到達目標	<p>子どもたちの発達について理解し、支援ができるようになる。保育士が子どもに及ぼす影響を理解し、自覚できるようになる。また、発達障害などの問題行動の特徴に対する基礎知識を理解し、そのような子どもへの対応や援助の仕方を意識し、考えるようになる。</p> <p>以上の専門知識をもって、保育・教育現場で活用できるようになる。</p>			
準備学習	<p>初回の授業に進度表を配付し、毎回の授業範囲と分量(テキスト 15 ページ前後)を示す。授業の前に進度表をもとに予習し、授業後に復習し、レポートを提出する。</p>			
授業方法	<p>講義を中心に展開し、必要に応じて映像資料を用い、分析・発表を行う。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達への第一歩、発達を見る目、発達を支えるもの 2. 発達とそのつまずきについて考えるその1、遺伝子の異変(事例研究) 3. 発達とそのつまずきについて考えるその2、胎児期から新生児期(事例研究) 4. 乳児期、運動機能の発達、愛着の発達、前言語的コミュニケーションの発達 5. 幼児期前期(1～3歳)その1、ことばの獲得と展開、遊びの発達 6. 幼児期前期その2、自我の芽生え、自律としつけ、気になる子どもたちへの特別な支援(吃音、チック症、噛みつきの子の事例研究) 7. 幼児期後期(4～6歳)その1、好奇心の時代、広がる人間関係と遊び 8. 幼児期後期その2、安全基地としての保育者、統合保育、気になる子どもたちへの特別な支援(発達検査、感覚統合 JSI-R) 9. 児童期その1、学びの時代、学校生活と人間関係 10. 児童期その2、自己認識の確立、現代における児童期の課題、気になる子どもたちへの特別な支援(自閉症、AD/HD、LD、アスペルガーなどの診断基準) 11. さまざまな発達の障害(精神発達遅滞、広汎性発達障害、軽度発達障害など)事例研究 12. 思春期から青年期その1、身体と心の変化、対人関係の変化 13. 思春期から青年期その2、保育者をめざす自分をふりかえる 14. 生涯発達とライフサイクルその1、自己実現、職業選択と自立 15. 生涯発達とライフサイクルその2、家庭をつくる、親としての発達 			
評価方法	<p>授業態度とノート(60%)、小テストや課題の提出状況(40%)による評価</p>			
教科書	<p>発達心理学 保育者をめざす人へ 石井正子編著 樹村房</p>			

科目名	多文化保育【英語名:Theory of multi-cultural child care and education】	職名・担当者	講師 武 小燕	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	<p>国際化の流れの中で「多文化共生」が注目されている。我々が生きる社会も例外ではなく、保育の現場においても多文化をめぐる多くの課題が存在する。そこで本講義では、「多文化」および「多文化共生社会」とは何かを理解し、日本国内外における多文化保育の事例を検討しその実態、課題および展望を考えていく。本講義における主な目標は以下の④点である。</p> <p>①多文化共生とは何かを理解する ②日本における多文化保育を知る ③外国における保育に関する知識を得る ④保育者として多文化社会とどのように向き合うのかを考える</p>			
到達目標	多文化保育の理論と現状について学び、その理解を職場で活かせることができるようになる。			
準備学習	事前に指定した資料の予習と授業中に出した課題の復習をしてもらう。			
授業方法	パワーポイントや自作資料の提示および視聴覚教材の使用で授業を進める。授業内容へのフィードバックとしてリアクションペーパーの提出を求める。また、小レポートを課すことがある。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション、多文化保育・教育とは何か 2. 多文化共生社会とは 3. 在日外国人の動向と福祉ニーズ 4. 外国につながる子どもの保育・教育(1)生活面の支援 5. 外国につながる子どもの保育・教育(2)学力面の支援 6. 外国につながる子どもの保育・教育(3)保護者への支援 7. 多文化保育・教育における保育者の専門性 8. 多文化保育・教育における教師の専門性 9. 行政の多文化共生への取組 10.多文化保育を携わる実践者の話 11. 外国の保育:中国における保育 12. 外国の保育:北欧における保育 13. 外国の保育:北米における保育 14. 今後の多文化保育・教育の課題と展望 15. 総括 			
評価方法	受講態度 30%、提出物 20%、期末レポート 50%			
教科書	咲間まり子『多文化保育・教育論』みらい、2014年。			

科目名	保育心理概論【英語名:Theory of Child-care Psychology】	職名・担当者	非常勤講師 脇淵 徹映	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	近代の変化が著しい社会環境での子育て家庭や乳幼児がおかれている状況を理解し、保育心理士という専門職の役割を認識する。 保育心理士として子育て家庭や子どもと関わるために必要な人間性の深まりや、対象理解を深めるための基礎を学ぶ。 小グループ討論をもとに、保育現場での保護者や様々な子どもの事例を通して子どもの育ちや背景の理解を深める。			
到達目標	保育心理士として子育て家庭や子どもと関わるために必要な人間性の深まりや、対象理解を深めるための基礎を身につける。 小グループ討論をもとに、保育現場での保護者や様々な子どもの事例を通して子どもの育ちや背景の理解を深める。			
準備学習	事前に与えたテーマや課題についてインターネットや書籍で調べて授業に臨む			
授業方法	毎回資料を渡し、その資料や子ども達の様子を撮影したビデオなどをパワーポイントで提示して説明講義する。又、課題を見つけて小グループに分かれ、ディスカッションなどしてグループワークを行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会の子育て 2. 保育心理士の役割 3. 乳児の発達 4. こどものつまづき その1 乳児 5. 幼児の発達 6. こどものつまづき その2 幼児 7. こども理解 その2 困り感の共有 8. 自己理解 その1 いのちの歴史 9. 自己理解 その2 「私」の発見 10. グループワーク その1 「私」の発見 11. グループワーク その2 乳児の事例研究 12. グループワーク その3 幼児の事例研究 13. グループワーク その4 保護者の事例研究 14. グループワーク その5 心理士をめざして 15. まとめ 			
評価方法	受講態度(発言・参加度)40%,授業内レポート 30%+試験または最終レポート 30%			
教科書	毎時間プリントを資料として配付する。 参考文献はその都度、指示する。			

科目名	国語科指導法【英語名:Teaching Methods of Japanese Language】	職名・担当者	非常勤講師 近藤 茂明	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	1. 初等国語教育実践を支える基礎的知識を理解する。 2. 国語科の授業づくりの基礎的作業を体験する。			
到達目標	1. 国語科教育の歴史・背景・基礎的知識等の理解を通して、国語科教育のもつ意味を考えることができるようになる。 2. 国語科の授業づくりの体験を通して、教師としての素養を身に付けることができるようになる。			
準備学習	1. 教科書を事前に読んで、国語科教育に対する自分なりのイメージ化を図っておく。 2. 自らの小学校時代に受けた国語科の授業のよかった点、不満だった点等を振り返っておく。			
授業方法	・前半は国語科教育と授業づくりの基礎的理解を講義中心で進める。 ・後半は国語科の授業づくりの実践的理解を参加型学習中心で進める。			
授業計画	第1回 : ガイダンス・国語科教育の歴史(明治～現在) 第2回 : 学習指導要領の意味 (改訂の歴史、国語科の目標・内容、教科書の位置づけ) 第3回 : 学習指導要領の現在(今改訂の重点目標、言語活動の充実等) 第4回 : 国語科教育の今日的課題(PISA型学力と国語科教育の関連) 第5回 : 国語科教育の内容①(話す・聞くこと、書くこと、読むこと) 第6回 : 国語科教育の内容② (伝統的な言語文化、漢字・語彙・書写、読書活動等) 第7回 : 国語科の授業づくりの基礎①(年間・単元計画、学習指導案) 第8回 : 国語科の授業づくりの基礎②(授業づくりの基礎的な技) 第9回 : 国語科の授業づくりの基礎③(教育評価のとらえ方) 第10回 : 国語科の授業づくりの基礎④(国語科の評価づくり) 第11回 : 国語科の授業づくりの実際①(物語単元の授業づくりワーク) 第12回 : 国語科の授業づくりの実際②(物語単元の授業づくり総括) 第13回 : 国語科の授業分析①(授業逐語記録に学ぶ…教師の働きかけ) 第14回 : 国語科の授業分析②(授業逐語記録に学ぶ…子どもの学び) 第15回 : 全体総括(国語科教育における教師の役割)			
評価方法	定期試験 40%、小レポート 40%、授業における貢献度 20%			
教科書	小学校学習指導要領解説 国語編			

科目名	社会科指導法【英語名:teaching method of social studies】	職名・担当者	非常勤講師 宮原 悟	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校社会科教育の目標・内容・方法が理解できる。 2. 小学校社会科教育教材研究について関心と意欲を持つ。 3. 小学校社会科学習指導案を書くことができる。 4. 模擬授業を通して、45分間の授業を実際に行うことができる。 			
到達目標	小学校社会科について、教育目標・内容・方法を習得し教育現場で実際に教えることのできる力をつける。			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領「社会」を熟読する。 ・日常生活において、社会科教材収集を意識し新聞やテレビなどのマス・メディアに注意を払う。 ・読書によって幅広い知識やものの見方・考え方を身に付ける。 ・機会を見つけ、社会科に関連する施設・文化遺産などに足を運び触れる。 			
授業方法	小学校社会科を教える力を付けるため、各自が模擬授業を体験・経験する。また、模擬授業の準備において確かな教材研究を行うことにより、魅力ある社会科の授業のあり方を実感する。			
授業計画	<p>第1回 :イントロダクションと小学校社会科についての問題提起 第2回 :小学校社会科とは何か(目標の観点から) 第3回 :同上(内容・方法の観点から) 第4回 :小学校社会科のカリキュラム構造 第5回 :小学校社会科学習指導案の作成方法 第6回 :各自又はグループでの模擬授業の準備(テーマの決定) 第7回 :同上(教材研究:目標・内容・方法の観点から) 第8回 :同上(学習指導案の作成) 第9回 :各自又はグループでの模擬授業とその研究討議(3・4年教科書上) 第10回 :同上(3・4年教科書下) 第11回 :同上(5年教科書上) 第12回 :同上(5年教科書下) 第13回 :同上(6年教科書上) 第14回 :同上(6年教科書下) 第15回 :模擬授業の総括(社会科を教える力がついたか)</p>			
評価方法	授業態度(遅刻早退・発言など):模擬授業:まとめの確認 =40%:50%:10%			
教科書	小学校学習指導要領解説 社会編			

科目名	理科指導法【英語名:Teaching Method of Science】	職名・担当者	教授 深谷 秀次	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	小学校理科の学習指導について基本的な考え方をもち、授業が実践できる基礎的な知識と技能を習得する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然の事象をわかりやすく説明できる。 2. 理科の学習指導案が適切に書ける。 3. 安全に配慮して観察や実験ができる。 4. 学習目標と内容に応じた授業の展開、教材の選択や評価ができる。 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で使用する教科書を見て、指示のあった単元の指導内容、観察、実験の方法、教材及び結果と結論について、理解しておく。 ・模擬授業の前には指導案の作成と予備実験を行う。 			
授業方法	資料を基に講義をする。模擬授業では受講者の作成した学習指導案を資料として検討する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理科学習の特性と問題解決学習 2. 単元の構成と学習計画 3. 1時間単位の授業の構成と課題の追究 4. 学習指導案の作成と検討 5. 観察・実験の指導の要点とグループ学習 6. 安全指導と教師の安全配慮及び物品の管理 7. 学習課題と発問及び教材の選択 8. 板書計画とノート指導及びワークシートの作成 9. 学習評価の方法 10. 教材研究と予備実験 11. 模擬授業と指導案の検討(生命単元) 12. 模擬授業と指導案の検討(粒子単元) 13. 模擬授業と指導案の検討(エネルギー単元) 14. 模擬授業と指導案の検討(地球単元) 15. 理科指導法のまとめ 			
評価方法	学習指導案 40%、模擬授業 40%、レポート 20%			
教科書	資料を配布する。			

科目名	幼稚園教育実習(事前・事後)【英語名 : Educational Practice of Kindergarten】	職名・担当者	教授 江上 信子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	3・4	2
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園における実習を行う上で必要な知識、技術を学び、実習に対する心構えを持つ。 2. 具体的な保育方法を検証し、保育者としての力を養う。 <ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義、目的、方法を理解する。 ・実習の内容を理解し、自己課題を明確にする。 ・指導計画、実践、記録、評価の内容や方法について習得する。 ・教材研究を行い、保育実技を習得する。 			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱのねらいを踏まえ、自己課題を明確にして、目的意識をもって実習に臨めるようになる。 2. 実習に必要な知識・保育技術を習得し、実習で活かせるようになる。 3. 実習生としての心得・マナーを身に付け、社会人としての体験学習をする自覚をもって行動ができるようになる。 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各回ごとに次回予定を伝えるので、教科書などを読んでおくなどして授業に臨む。 ・実習に備えて、指導案を作成する。 ・保育の技術(ピアノ、造形、絵本の読み聞かせ、手遊びなど)の習得に努める 			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、資料を使い講義を行う。 ・教材の研究、制作および実演を行う。 ・事例研究およびレポートの作成 ・模擬保育演習(グループワーク) 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.幼稚園実習の概要(実習の意義、目的、) 2.実習の内容と方法 3.実習の心構え 3.実習のねらいと実習課題 4.実習書類記入、事前訪問について 5.実習日誌の書き方 6.幼稚園体験実習計画立案 7.幼稚園体験実習演習(1)模擬保育①前半グループ 8.幼稚園体験実習演習(2)模擬保育②後半グループ 9.幼稚園体験実習 10. 幼稚園体験実習 12.実習の心構え、諸注意 お礼状について 13.実習振り返り(1)自己評価 14.実習振り返り(2)反省会 15.実習Ⅰのまとめ 16.教育実習Ⅱのねらい 事前訪問について 17.責任実習の内容と方法 18.実習課題 19.指導計画の立て方(1)部分実習 20.指導計画の立て方(2)一日実習 21.教材研究(1)制作 22.教材研究(2)実演 23.実習諸注意 24.実習振り返り(1)自己評価 25.実習振り返り(2)反省会 26.実習報告会 27.実習報告集作成 28.実習報告集作成 29.保育所実習に向けて自己課題整理 30.まとめ 			
評価方法	<p>受講態度 60% 小レポート等提出物 20% 実技発表 20%</p> <p>米無断欠席が3回以上の場合、実習ができないことがある</p>			
教科書	使用しない(適宜資料を配布する)			

科目名	幼稚園教育実習【英語名: Educational Practice of Kindergarten】	職名・担当者	教授 江上 信子	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	実習	4	3・4	2
学修目標	幼稚園における保育の実際と幼稚園教諭として必要な知識・技能を実践的に学ぶ。 1. 幼児教育の目的・役割を理解する 2. 幼稚園の保育の実際を知る 3. 保育者の仕事、役割について理解する 4. 幼児を理解する 5. 保護者とのコミュニケーションの方法を学び、子育て支援に関する理解を深める。			
到達目標	1. 事前に学んだ知識、技術を実際に保育実践に活かせるようになる。 2. 実習記録の作成、指導計画の立案・実践を通して、幼稚園教諭として必要な資質、能力、技術を習得する。			
準備学習	1. 幼稚園教育実習(事前事後)の授業のなかで、実習に必要な事項を学び、実習計画を立てる。 2. 実習園を事前に訪問してオリエンテーションを受ける。 3. 実習園より示された課題(配置される学年の発達について学習する、課題曲の練習をするなど)に取り組む。 4. 実習終了後、振り返りを行い自己課題を明確にする。			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習オリエンテーションを行う。 ・実習中巡回指導を実施する。 ・必要に応じて個別指導を行う。 ・事後指導を実施し、自己課題を明確にする。 			
授業計画	<p>幼稚園教育実習Ⅰ 6月15日(月)～26日(金)10日間</p> <p>幼稚園教育実習Ⅱ 11月9日(月)～20日(金)10日間</p>			
評価方法	実習評価 70% 実習記録 20% 実習計画・指導計画立案 10%			
教科書	使用しない			

科目名	保育専門演習 I 【英語名:Seminar of Childcare I】	職名・担当者	各担当教員	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	保育者・教育者として、より専門的な分野の学びと表現力の向上を目指す。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 合同ゼミでは、協調性を養い、基本的なマナーや立ち振る舞いを身につけ、丁寧な言葉遣いや思いやる行動ができる。 2. 専門的な分野の学びや自主的に課題に取り組むことができる。 3. 考える力を身につけることができる。 4. 発表をもって、学びの成果を確かめ、表現力を高める。 			
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前に資料を調べ、自分の考えをまとめ、積極的に参加する心構え。 2. 発表のレジユメを作成する。 			
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題について、資料・文献検索と収集、発表、意見交換をする。 2. 活動について、計画を立てて実践する。 3. ゼミ活動での振り返りを行い、毎回授業後にレポートかワークシートを提出する。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(ゼミ運営の説明) 2. 課題設定、計画を立てる 3. 資料・文献を調べる 4. 各自のプレゼン用レジユメを作成する 5. プレゼンテーション 6. 共同の課題を見つける 7. 幼稚園実習に向けて 8. 幼稚園実習の準備 9. 実習報告会の取り組み 10. 実習報告会の準備 11. 実習報告会 12. 各自発表の練習 13. 発表会のリハーサル 14. 発表会の中間報告 15. 前期試験事前指導と前期の大学生活の総括及び夏季休暇の心得について 			
評価方法	活動内容 40%、レポート 30%、発表 30%			
教科書	特になし			

科目名	日本文学【英語名: Japanese Literature】	職名・担当者	非常勤講師 大竹 有子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	日本の歌謡や物語文学(口承・記載)の概観を通して、保育者として必要な日本文学の基礎知識、感性および言語能力を身に付けることを目的とする。 高校までの国語の授業とは異なる関わり方を提示し、新鮮な視点で日本文学を楽しむ。			
到達目標	日本の物語文学や口承文芸(民話・神話)、歌謡を数多く概観し、また日本文化(特に子どもに関わる年中行事や通過儀礼など)の基礎知識を身に付け、保育の場や社会生活で活かすことができるようにする。			
準備学習	予習としては、アンケート(次項参照)の内容について、文献での下調べや聞き取りを行い、次回の予備知識を各自でまとめておくこと。復習としては、各回の感想や疑問点などをアンケートに記入することで、各自のまとめとする。			
授業方法	資料(プリント)の読解を基本としながら、作品理解のために適宜、DVD,CD 等を活用しながら講義を進める。毎回アンケート(小レポート)を課し、授業内容に身近な話題を取り上げる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「国語」と「日本文学」(日本文学の楽しみ方) 2. 日本文学を通して『ハリー・ポッター』を読む (1)呪文学 3. 日本文学を通して『ハリー・ポッター』を読む (2)オオカミをめぐる文化 4. 日本文化とハロウィーン(日本文学にみる世界) 5. 口承文芸(昔話・民話・神話)とは何か 6. 昔話と絵本(口承文芸の絵本における表現) 7. 古典文学と民話と昔話絵本 8. 日本文化の中のサンタクロース(まれびと論) 9. 年中行事と絵本 10. 子守歌、わらべうた(歌謡文学) 11. 古典芸能と文学 12. 古典芸能・文学(能楽)と子ども 13. 『おもろさうし』の世界(沖縄の古典文学) 14. 沖縄とアイヌ民族の口承文芸と絵本 15. 『琉神マブヤー』(戦隊ヒーロー)の沖縄文化 			
評価方法	アンケート(小レポート)の提出 60%、筆記試験 40%の割合。アンケートによって授業への参加度および受講態度、理解の状態を確認する。			
教科書	指定しない。プリントを配布する。			

科目名	手話入門【英語名:Japanese Sign Language(Beginner)】	職名・担当者	非常勤講師 青山 純子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	4	2
学修目標	ろう者が生み育ててきた言語である手話の学習を通じ、聴覚障がいおよび聴覚障がい者が抱える社会的問題(壁)を学びます。視覚言語・体現言語である手話に触れることにより、「見る目」「身体表現」「素直な感情表現」「聴こえてくるもの」に、より興味・関心を深め、コミュニケーションの大切さ、楽しさを知る。			
到達目標	聴覚障害に関する基礎知識を理解する。 聴覚障害者との様々なコミュニケーション方法を理解し、手話で自己紹介、簡単な日常会話ができる。			
準備学習	TV、新聞等の聴覚障害、手話に関する記事、番組等により、知識、情報を得る。			
授業方法	視覚言語である手話の特性に合わせ、「見る」「アイコンタクト」を大切に、講師作成プリントに添って学習。「理解」に必要な部分は音声を利用し、手話表現の学習時は、音声に頼らない形で進める。手話の読取学習については、VTR、DVD を利用。理論学習ではOHCの利用などにより、「見る」学習を大切にする。 手話学習は、単語指導ののち、会話練習をする。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.伝えあってみましょう(身体表現) 2.手話・聴覚障害とは I (聴覚障害者の日常生活) ・挨拶の手話、 3.手話の成り立ち、自己紹介(名前) 4.自己紹介(名前、家族)(質問) 5. 〃 (家族)(指文字)(数字) 6. 〃 (趣味)(仕事) 7. 〃 (住所・地名) 8. 〃 (天候・時制) 9. 〃 (感情) 10. 〃 (動作・好き嫌い・形容表現) 11.会話(自己紹介) 12.聴覚障害者と話してみよう 13.実技復習 14.聴覚障害とは II 15.総復習・まとめ 			
評価方法	授業態度(実技・表現力チェック)30% 定期試験70%			
教科書	講師作成プリントを使用			

科目名	保育者論【英語名: study on training of early childhood Education and care】	職名・担当者	非常勤講師 加藤 久美子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の役割・職務内容について理解する。 ・保育者としての資質と専門性の必要性を理解する。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身と向き合いながら、子どもをみる目を養うことができるようになる。 ・保育者の専門性を理解し、やりがいを見いだすことができる。 ・現場の実践者からの報告を受け、進路選択について考えることができる。 ・実践事例の考察を通して保育を進めるうえでの視点を深めることができる。 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に教科書を読み、わからない用語の意味を調べておく。 ・子どもに関わる書物にも目を通し、自身の目指す保育者像をイメージしておく。 			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、資料を基に授業を進める。 ・実践事例からの考察を学ぶ。 ・実践者からの学びを通して保育者としての役割、専門性をより具体的に理解できるようにする。併せて進路選択について考えられるようにする。 ・毎回授業習得レポートを課す。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.保育者になるということ 3.保育者の一日 4.保育者の役割と資質 5.実践を通して求められる専門性(心と体) 6.実践を通して求められる専門性(絵本・文化) 7.実践を通して求められる専門性(観察・自然) 8.教育・保育の現場から学ぶ(保育園) 9.教育・保育の現場から学ぶ(子育て支援センター) 10.実践事例から学ぶ(行事について) 11.教育・保育の現場から学ぶ(児童館) 12.保護者、家庭と一緒に歩む(子育て支援について) 13.保育者の連携・学び合い 14.学校・専門機関・地域社会とのかかわり 15.まとめ 保育者に求められる多様な機能・保育者を目指して 			
評価方法	定期試験 70% レポート他提出物 30%			
教科書	保育者論 汐見稔幸・大豆生田啓友編			

科目名	相談援助【英語名:Social work】	職名・担当者	非常勤講師 林 俊和	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	1	4	2・3
学修目標	1. 相談援助について理解する。 2. 相談援助の方法と技術について理解する。 3. 相談援助の具体的展開について理解する。 4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。			
到達目標	・対人援助を行う時に必要な、相手との信頼関係のもち方を学習し、うまく相手の話を聞けるようになる。 ・子どもの保護者への対応に役立つ。			
準備学習	演習科目なので、授業時間にやる演習にしっかり取り組み、授業のレポートに自分の考えを書くこと。			
授業方法	レジメを読み、要点を書き、説明を聞き、考えるということを繰り返し行って授業を進めていく。できるだけ現場の状況を伝えていきたい。 演習科目なので事例についてはグループ討論を行うなどして参加意識をもたせる。 模擬ケース会議を行う。			
授業計画	1.相談援助の理論 2.相談援助の意義 3.相談援助の機能 4.相談援助とソーシャルワーク 5.保育とソーシャルワーク 6.相談援助の対象 7.相談援助の過程 8.相談援助の技術・アプローチ 9.計画・記録・評価 10.関係機関との連携 11.多様な専門職との連携 12.社会資源の活用、調整、開発 13.虐待の予防と対応等の事例 14.障がいのある子どもとその保護者への支援等の事例 15.グループワークの演習			
評価方法	レポート 80% 定期試験 20%			
教科書	なし			

科目名	教育課程論【英語名:Curriculum of Kindergarten】	職名・担当者	講師 武 小燕	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	教育課程は教育の在り方と学習効果を左右する重要な要素です。教育課程の原理、歴史および編成の具体例について学習し、理解します。			
到達目標	教育課程の構成と内容を理解し、それらを具体的な指導計画に取り入れる力を身につけるようになります。			
準備学習	事前に指定した資料の予習と授業中に出した課題の復習をしてもらいます。			
授業方法	パワーポイントや自作資料の提示および視聴覚教材の使用で授業を進める。毎回授業内容へのフィードバックとしてリアクションペーパーの提出を求める。また、小レポートを課すことがある。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション、教育課程とは何か 2.教育課程編成に関する法規定(1)学校教育法等 3.教育課程編成に関する法規定(2)幼稚園教育要領 4.教育課程編成に関する法規定(3)学習指導要領 5.顕在的カリキュラム(1)教科書 6.顕在的カリキュラム(2)指導計画 7.潜在的カリキュラム 8.教育課程と子ども像 9.教育課程と学力 10.カリキュラムの類型 11.教育課程の変遷(1) 戦前の教育課程 12.教育課程の変遷(2) 戦後の教育課程 13.教育課程の変遷(3) 今日の教育課程 14.海外の教育課程 15.まとめ 			
評価方法	授業態度(15%) 提出物(15%) 定期試験(70%)			
教科書	必要に応じて参考書とプリントを提示する。			

科目名	音楽表現Ⅱ【英語名:basic piano and children's song】	職名・担当者	講師 笹谷 朋世	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	幼稚園・保育園で求められるピアノの実技力量は、一般的にバイエル修了程度とされているため、ピアノの学修目標はバイエル修了程度とする。 また、保育の音楽活動の基本は「歌うこと」にあるので、歌う技術も幼稚園教諭・保育士には求められる。ピアノのレッスンと並行して、引き続き歌のレッスンを行い、童謡・子供向けの歌をより多く習得していく。			
到達目標	最低限バイエル修了程度の技術力を身につける。			
準備学習	事前に提示された課題曲を十分に譜読みし、練習して臨む事。 毎日、各自でピアノ練習の時間を持つことが望ましい。			
授業方法	ピアノレッスン 45 分、歌レッスン(合唱形式)他 45 分			
授業計画	【授業計画】 1. オリエンテーション 2. ピアノレッスン、歌レッスン(1)春の歌 3. ピアノレッスン、歌レッスン(2)夏の歌 4. ピアノレッスン、歌レッスン(3)秋の歌 5. ピアノレッスン、歌レッスン(4)冬の歌 6. ピアノレッスン、歌レッスン(5)日本歌曲・唱歌 7. ピアノレッスン、歌レッスン(6)NHK みんなのうたより 8. ピアノレッスン、歌レッスン(7)NHK おかあさんといっしょより 9. 中間発表会 10. ピアノレッスン・手遊び歌(1)手・指を使うもの 11. ピアノレッスン・手遊び歌(2)動きの大きいもの 12. ピアノレッスン・歌と合奏(1)楽器の種類 13. ピアノレッスン・歌と合奏(2)合奏練習 14. ピアノレッスン・歌と合奏(3)合奏発表 15. ピアノレッスン・歌とコードネーム			
評価方法	学期末に行う実技試験と、平常点による総合評価 実技試験 40%、平常点 60%(授業態度・提出物・個人の到達度等)			
教科書	「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社 「うたのファンタジー改訂版」圭文社 「こどもの歌200」小林美実編 チャイルド社 他、初回授業にて指示します			

科目名	身体表現Ⅱ【英語名:The body expressionⅡ】	職名・担当者	教授 佐々木 俊郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	保育者は子どもと信頼関係を築きながら、楽しい遊びを十分に体験させ、豊かなこころとしなやかな身体が育つように支援する必要がある。そこで本講座は幼児の楽しい遊びと身体表現についての知識と技能を学習する。			
到達目標	将来就職した時に、自分自身でリズム体操やバルーン、ボディパーカッション等の指導を企画、実施できるようになる。			
準備学習	毎回授業後に、授業内容をノートにまとめること。			
授業方法	必要に応じて資料を配布しながら、実技と講義を交えた演習形式で行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 手あそび、リズム体操(1)わ〜お!、ばわわっふ体操等 3. 手あそび、リズム体操(2)えびカニクス、ライオン体操等 4. 3歳児対象のリズム体操の指導案作成 5. 指導案に沿った指導の実演(3歳児) 6. 5歳児対象のリズム体操の指導案作成 7. 指導案に沿った指導の実演(5歳児) 8. バルーン 9. バルーンの集団演技の企画 10. バルーンの集団演技練習 11. バルーンの実演 12. ボディパーカッションの企画 13. ボディパーカッションの練習 14. ボディパーカッションの実演 15. まとめ 			
評価方法	学習に対する意欲 50%、基礎技能 20% テスト30%			
教科書	適宜資料を配布			

科目名	造形表現Ⅱ【英語名:Art Expression 2】	職名・担当者	講師 本田 郁子	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	<p>子どもの造形表現活動を念頭において、さまざまな素材(絵具、紙、ねんど、生活廃材、自然素材)を使って制作実技を行う。</p> <p>将来、保育者、教育者として子どもたちに表現活動をサポートするために「造形表現Ⅰ」で学んだことを踏まえて、子どもの発達段階を理解した上でのより実践に即した表現ができるように造形的感覚を身につけることを目標とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場を想定し造形活動の指導案を作成することができる。 2. 様々な造形素材について理解し、造形活動に組み込む計画をつくる。 			
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の発達を踏まえた指導案例を読み理解する。 2. パネルシアター、ペープサートなどを事前に経験しておく。 			
授業方法	<p>パネルシアターを製作し演じたり、和紙の明かりやお面などさまざまな製作を時間をかけて作る。様々な材料に触れて互いの作品を鑑賞する。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション(この科目の内容について) 2. 保育現場での造形を用いた表現 1(パネルシアターのしくみ) 3. 保育現場での造形を用いた表現 2(パネルシアターのテーマ・下書き) 4. 保育現場での造形を用いた表現 3(パネルシアターの彩色) 5. 保育現場での造形を用いた表現 4(パネルシアターの仕上げ) 6. おはなし絵本をつくる①(本のしくみ) 7. おはなし絵本をつくる②(あらすじ・制作) 8. おはなし絵本をつくる③(制作) 9. おはなし絵本をつくる④(制作・仕上げ) 10.お面をつくる 1(アイデアスケッチ) 11.お面をつくる 2(素材作り) 12.お面をつくる 3(構造を試作する) 13.お面をつくる 4(本制作) 14.お面をつくる 5(仕上げ作業) 15. 鑑賞 			
評価方法	平常点40% 実技・作品50% レポート10%			
教科書	「3, 4, 5 歳児の造形活動おまかせガイド 造形アイデア 100」 明治図書			

科目名	幼児教育史【英語名:History of Early childhood Education】	職名・担当者	非常勤講師 寺部 直子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	過去の歴史を知ることは、未来に向けて生きることの探求である。幼児教育の歴史について学び、幼児教育思想への理解を深めることを目標とする。			
到達目標	幼児教育の歴史、幼児教育の基本的考え方を理解する。			
準備学習	幼児教育・保育の歴史、制度、現状等について、巢での学んだことを整理しておく。			
授業方法	講義が中心になるが、授業では教授者作成のプリントを配布する。 ビデオや実際の教育遊具等にも触れ、理解を深める。 質問、意見をもとに討論しあう機会をつくる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の案内 2. 幼児教育思想の始まり 3. 子どもの発見 — ルソー『エミール』 4. ペスタロッチーとフレーベル 5. フレーベルの生涯 6. フレーベルの思想 7. フレーベルの幼稚園と当時の幼児教育・保育施設 8. フレーベルの恩物 9. フレーベルが与えた影響 10. モンテッソーリの生涯と思想 11. モンテッソーリの子どもの家と教具 12. 新教育と幼児教育思想 13. 新教育と倉橋惣三 14. 倉橋惣三の保育思想 15. まとめ 			
評価方法	レポート(小レポート・小テストを含む)60%、受講態度 40%			
教科書	使用しない。 基本的にパワーポイントを使用して講義をするので、それに沿ったプリントを配布する。 参考文献は、授業の中で紹介する			

科目名	障害児保育Ⅱ【英語名:Care and education for child with the disabilitiesⅡ】	職名・担当者	講師 木村 拓磨	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害のある子どもを地域で支えるための仕組みについて理解する。 2. 療育の実践を理解する。 3. 障害のある子どもの成長を促す方法を身につけ、実践の場で活用できるようになる。 4. 障害のある子どもがいる家族を支える仕組みを理解する。 			
到達目標	障害のある子どもを支えるための地域の仕組みについて知り、説明できるようになる。保護者に対して子どもの状態像を説明でき、家庭でもできるような取り組みを一緒に考えられるようになる。			
準備学習	毎回受けた授業に関して復習を行っておく。			
授業方法	教科書や資料を読み、要点を書き、説明を聞く。実際にワークを行いながら子どもの理解を深めるかたちで授業を進めていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.保育現場でできる検査法の理解 3.子どもの行動の理解の仕方(観察法) 4.観察の仕方の練習 5.行動療育について 6.子どものほめ方、叱り方 7.目標の立て方 8.感覚統合療法について(感覚遊び) 9.感覚統合療法について(運動遊び) 10.PECSについて 11.絵カードを作成する 12.TEACHについて学ぶ 13.保育現場にTEACHを活かす 14.父母を支える取り組み 15.就学に向けて 			
評価方法	定期試験 50% 授業態度 50%			
教科書	特になし			

科目名	日本人と食育論【英語名:How is our eating habit】	職名・担当者	非常勤講師 神野 順子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	保育所・幼稚園で「食育」が必要とされるに至った社会的背景を理解すると同時に現代のわが国が直面する栄養・健康問題に関心を持つことを促す。今後子どもたちが健やかに育ち、健康寿命を延伸するにはどのような食生活を営むことが求められるのか理解したうえで、園児ならびに保護者への食育のできる保育者をを目指す。			
到達目標	①栄養素のはたらきを理解する ②乳幼児期の栄養の特性を理解する ③日々の食事管理ができる			
準備学習	自己の食生活を把握する			
授業方法	講義、演習、スライド視聴、グループワーク、実習など多様な手段で、食育の必要性を学び実践力を養う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、食育とは 2. 自己の食生活分析 食事記録 3. 食品の分類 望ましい組み合わせ 4. 乳児期の栄養 スライド視聴 5. 幼児期の栄養 偏食と食事 6. 青年・成人期の栄養 成長・メタボと食事 7. 妊娠期の栄養 妊娠と食事 8. 高齢期の栄養 介護と食事 9. 食育計画作成 グループワーク 10. 食育媒体製作(1)カード作成切抜き 11. 食育媒体製作(2)図形色付け仕上げ 12. 食育媒体製作(3)組立 13. 食育媒体製作(4)試行 14. 食育発表会とレポート作成 15. 調理実習(幼児期の間食) 			
評価方法	食育媒体の提出・発表とレポート提出:50点 定期試験:50点 合計100点満点で、60点以上を合格とします。			
教科書	最新子どもの食と栄養 飯塚美和子他 学建書院			

科目名	保育心理演習【英語名:Child Care Psychology (Seminar)】	職名・担当者	非常勤講師 椎野 智子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	登園拒否、虐待、発達障害など、園での生活になじめない子どもに対して、どのようなかかわりをしていけばよいのかについて、プレイセラピーの考えを中心に検討を行う。それらのケースへの適切な支援について理解を目指す。			
到達目標	自分の想いを言葉でうまく伝えられない幼児がどのようなことを感じているのかについて、他者に説明できるようになる。			
準備学習	子どもに関する文献やテレビ番組などに積極的に目を通しておく。授業後は、配布プリントを読み返しておく。			
授業方法	講義プリントを用いての説明と、それらについての討論を行いたいと考える。最新の資料、公開されている映像などを用い、できるだけ興味深く、わかりやすい内容の授業にしていきたいと考えている。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. セラピストの役割と実際 2. プレイセラピーに必要な概念と理論(1)「遊び」とは 3. プレイセラピーに必要な概念と理論(2)プレイセラピーとは 4. プレイセラピーに必要な概念と理論(3)プレイセラピーの基本 5. 子どもの理解(1)発達検査 6. 子どもの理解(2)面接法 7. 子どもの理解(3)行動観察 8. 子どもの理解(4)知能検査:WISC 9. 子どもの理解(5)知能検査:新版K式、遠城寺式など 10. 子どもの理解(6)心理検査 11. 事例研究(1)不登校・登園拒否の子どもの理解 12. 事例研究(2)虐待の疑いのある子どもの理解 13. 事例研究(3)発達障害のある子どもの理解 14. 事例研究(4)ADHDの疑いのある子どもの理解 15. まとめと討論 			
評価方法	授業中の提出物・受講態度50%、試験もしくはレポート課題50%			
教科書	なし			

科目名	教育制度論【英語名: Educational System】	職名・担当者	講師 武 小燕	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2・3
学修目標	教育制度論は教育の仕組みや本質を理解する上で重要な科目です。そのあり方は政治や社会の変化と連動し、歴史とも深くかかわります。日本の教育制度が出来上がるまでの歴史と今日の現状と課題について学習します。			
到達目標	教育制度の原理と構造について知り、他の人に説明できるようになります。			
準備学習	事前に指定した資料の予習と授業中に出した課題の復習をしてもらいます。			
授業方法	指定教科書を基にして作成したパワーポイントや資料を提示して授業を進める。学生による発表と議論の時間を取り入れる。毎回授業内容へのフィードバックとしてリアクションペーパーの提出を求める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・教育制度の基礎 2. 教育法の構造 3. 教育制度の基本原理 4. 教育制度の構造 5. 就学前教育制度 6. 初等教育制度 7. 中等教育制度 8. 高等教育制度 9. その他の学校制度 10. 特別支援教育制度 11. 私学制度 12. 社会教育制度 13. 教育行財政制度 14. 学校経営組織 15. 教員制度 			
評価方法	授業態度(15%) 提出物(15%) 定期試験(70%)			
教科書	小林建一『保育に役立つ教育制度概説』三恵社、2014年。			

科目名	算数科指導法【英語名:Arithmetic teaching methods】	職名・担当者	非常勤講師 新見 精三	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	算数科教育の特質や内容の特色をふまえた指導法のあり方を理解できるようにする。算数の教育課程について理解し、授業を行うために必要な考え方や手法について学習する。			
到達目標	算数科指導法の特色が説明できるようになる。4領域の特質や内容に応じた指導法が身に付く。算数科の授業を行うための指導計画や学習指導案を作成する力を身につける。			
準備学習	次回授業範囲の教科書を読んだり、課題を実施したりする。			
授業方法	教科書や補助教材のプリントを基に授業をすすめる。学習指導案作成などの演習も入れる。			
授業計画	第1回 ガイダンス 算数科授業の目的 第2回 算数科指導の特色(1) 問題解決過程を大切に 第3回 算数科指導の特色(2) 系統と考え方を大切に 第4回 「数と計算」の内容と指導の実際 第5回 「量と測定」の内容と指導の実際 第6回 「図形」の内容と指導の実際 第7回 「数量関係」の内容と指導の実際 第8回 教育課程(1) 年間指導計画 第9回 教育課程(2) 単元の指導内容①低学年 第10回 教育課程(3) 単元の指導内容②中学年 第11回 教育課程(4) 単元の指導内容③高学年 第12回 学習指導案立案の仕方 第13回 学習指導案立案の実際(1) 第14回 学習指導案立案の実際(2) 第15回 算数の授業の進め方と評価の仕方			
評価方法	筆記試験 40% 学習時の発表 20% 課題・レポート等 40%			
教科書	・小学校学習指導要領解説 算数編 東洋館出版社 ・「6つの視点」でつくる算数の授業 高橋正英 著 東洋館出版社			

科目名	家庭科指導法【英語名:teaching method of Nutrition for Children】	職名・担当者	非常勤講師 高橋 美恵	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	「家庭」で学んだ内容を基に、より実践的な家庭科の授業展開について考える。特に、実践的・体験的な活動のための教材及び授業計画について、安全面の配慮を踏まえ、検討する。また、現代社会における家庭生活に関わる問題点を取り上げ、家庭科教育としての視点で考察する。さらに、「食育」についても、小学校家庭科における取り組みを検討する。			
到達目標	家庭科教育について理論と実践の両面から理解を深める。 小学校教員として必要な資質や態度について考える。			
準備学習	授業の終わりに次回の授業内容を知らせ、必要がある場合は、関係する資料集めや実習材料を準備する。また、実習の場合は、製作状況によって次回までの課題とする。			
授業方法	指定教科書を基にして授業を進めたり、教科書では足りない資料や最新の情報をプリントとして配布したりする。また、学習指導案を作成したり、模擬授業で発表したりする。さらに、実践的・体験的に学ぶことの必要性から、手作り作品に挑戦させて、製作した作品を提出する。			
授業計画	第1回:家庭科教育の目指すもの 第2回:子どもの生活と家庭科 第3回:小学校家庭科の授業をつくる 第4回:様々な教材づくりを学ぶ① 実習実験の基礎 第5回:様々な教材づくりを学ぶ② 実習実験の応用 第6回:評価について学ぶ 第7回:実験実習を伴う学習指導案の作成 第8回:実験実習を伴う学習指導案の板書計画とワークプリントの作成 第9回:指導案の検討をする。 第10回:模擬授業と事後検討をする① 第11回:模擬授業と事後検討をする② 第12回:「食育」についての取り組み 第13回:技能を生かす実践活動① (裁断・しるしつけ・手縫い) 第14回:技能を生かす実践活動② (手縫いと完成・評価) 第15回:まとめ			
評価方法	受講態度(20%)、学習指導案作成と模擬授業への取り組み(50%)、その他、手作り作品などの指示された提出物(30%)により、総合的に評価する。			
教科書	授業力UP 家庭科の授業 (鶴田敦子・伊藤葉子編著 日本標準)			

科目名	生活科指導法【英語名:Teaching Methods of Life Environment Studies】	職名・担当者	非常勤講師 山田 隆幸	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	1. 生活を通して真理を見いだしていく科学教育としての生活科実践のあり方をつかむ。 2. 生活科学習を支援するためのリテラシーの獲得。			
到達目標	①体験学習の指導案作成と指導のリテラシーを獲得する。 ②調べ学習の指導案作成と指導のリテラシーを獲得する。 ③生活科学習発表会のリテラシーを獲得する。 ④上記のために必要なIT技能を獲得する。			
準備学習	講義中に指示された学習材の収集。			
授業方法	①講義 ②実技 ③レポート作成			
授業計画	第1回 ①講義ガイダンス ②生活科入門－その1－ (生活科とはどのような学習か) 第2回 生活科入門－その2－ 生活科実践の分析－体験学習－ 第3回 生活科入門－その3－ 生活科実践の分析－調べ学習－ 第4回 生活科入門－その4－ 生活科実践の分析－生活科学習発表会－ 第5回 生活科の授業をつくる① －ネットで新しい情報を集める－ 第6回 生活科の授業をつくる② －集めた情報で発表会用資料を作る－ 第7回 生活科の授業をつくる③ －発表会用プレゼンテーション資料(パワーポイント利用)を作る－ 第8回 生活科の授業をつくる④ －資料文書とプレゼンテーション資料の検討 第9回 模擬授業① －学習計画づくり－ 第10回 模擬授業② －調査活動－ 第11回 模擬授業③ －調査資料をもとに、資料を作る－ 第12回 模擬授業④ －調査資料をもとに、プレゼンテーション資料を作る－ 第13回 模擬授業⑤ －発表会と相互評価－ 第14回 生活科でどのような能力が育つのかまとめる 第15回 人間の発達に於ける教育・学校の役割と生活科の位置づけを考える。			
評価方法	調査方法の習得 30% ITリテラシーの獲得 30% 課題レポート(主に第 14・15 回) 40%, で評価する。			
教科書	小学校学習指導要領および小学校学習指導要領解説「生活編」			

科目名	保育専門演習Ⅱ【英語名:Seminar of ChildcareⅡ】	職名・担当者	各担当教員	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	保育者・教育者として、より専門的な分野の学びと表現力の向上を目指す。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 合同ゼミでは、協調性を養い、基本的なマナーや立ち振る舞いを身につけ、丁寧な言葉遣いや思いやる行動ができる。 2. 専門分野の学びや自主的に課題に取り組むことができる。 3. 発表をもって、専門的な学びの成果を確かめ、表現力を高めていく。 			
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前に資料を調べ、自分の考えをまとめ、積極的に参加する心構え。 2. 発表レジュメを作成する。 			
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題について発表、意見交換をする。 2. 活動について、計画を立てて実践する。 3. ゼミ活動での振り返りを行い、毎回授業後にレポートかワークシートを提出する。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ISO 学習、大学祭の取り組み 2. 大学祭準備 3. 大学祭振り返り 4. 各専門分野の学び 5. 調べ学習 6. 発表の準備 11/10 7. ゼミ内の発表(グループ1) 8. ゼミ内の発表(グループ2) 9. ゼミ内の発表(グループ3) 10. 幼稚園実習報告会と実習への心構え 11. 発表の準備 12. 発表のリハーサル 13. 保育専門演習と2年次の学習、卒論発表会参加について 14. 合同発表会 15. 後期試験の事前指導と後期大学生活の総括及び学年末休業について 			
評価方法	活動内容 40%、レポート 30%、発表 30%			
教科書	特になし			

科目名	家庭支援論【英語名:Theory of Family Support】	職名・担当者	非常勤講師 林 俊和	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	5	3
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭の意義とその機能について理解する。 2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 3. 子育て家庭の支援体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の家庭の問題を学び、自分たちのこれからの生活を考えることができる。 ・保育者として家族への援助も大切であることを学び、就職してからの家族との対応に役立たせることができる。 			
準備学習	インターネット等で自分の住んでいる地域の家庭支援の施設を調べる。実際に行ってみることが望ましい。			
授業方法	レジメを読み、要点を書き、説明を聞き、考えるということを繰り返し行って授業を進めていく。できるだけ現場の状況を伝えていきたい。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.家庭の意義と機能 2.家庭支援の必要性 3.保育士などが行う家庭支援について 4.現代の家庭における人間関係 5.地域社会の変容と家庭支援 6.男女共同参画社会とワークライフバランス 7.子育て福祉を図るための社会資源 8.次世代育成支援の推進 9.子育て支援サービスの概要 10.子育て支援の現場の報告 11.保育所入所児童の家庭への支援 12.保育所における実践の話 13.要保護児童及びその家庭に対する支援 14.子育て支援における関係機関との連携 15.子育て支援サービスの課題 			
評価方法	レポート 80% 定期試験 20%			
教科書	山本信晴・白幡久美子『保育士をめざす人の家庭支援』みらい			

科目名	保育相談支援【英語名: Consultation and Support for Child Care】	職名・担当者	非常勤講師 林 俊和	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	5	3
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。 2. 保護者支援の基本を理解する。 3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの家族との関係作りが難しくなっているのでその対応を学び、少しでもうまく家族と話せるようになる。 ・色々な子どもがいるので、それぞれに合わせた対応の仕方を学び身に付ける。 			
準備学習	演習科目なので、授業時間にやる演習にしっかり取り組み、レポートに自分の考えを書くこと。授業で提供する事例について、再度復習をし、みんなと意見交換をして理解を深めること。			
授業方法	<p>レジメを読み、要点を書き、説明を聞き、考えるということを繰り返し行って授業を進めていく。できるだけ現場の状況を伝えていきたい。</p> <p>演習科目なので事例についてはグループ討論を行うなどして参加意識をもたせる。模擬ケース会議を行う。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者に対する保育相談支援の意義 2. 保育士の専門性をいかした支援 3. 保育相談支援の基本 (1)子どもの最善の利益と福祉の重視 4. 保育相談支援の基本 (2)子どもの成長の喜びの共有 5. 保育相談支援の基本 (3)保護者の養育力の向上 6. 保育相談支援の基本 (4)受容的かかわり、自己決定の尊重、秘密保持 7. 保育相談支援の基本 (5)地域の資源のお活用、関係機関との連携 8. 保育に関する保護者に対する指導 9. 保護者支援の内容 10. 保護者支援の方法、技術 11. 保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス 12. 保育所における保育相談支援の実際 13. 保育所における特別な対応を要する家庭への支援 14. 児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援 15. 障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援 			
評価方法	レポート 80% 定期試験 20%			
教科書	なし			

科目名	幼児理解の理論と方法【英語名:Theory and method of preschool assessment】	職名・担当者	教授 陳 惠貞	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	5	3
学修目標	乳幼児期の子どもを理解するための理論と方法を学ぶ。一人一人の子どもにおける発達課題や個性の特徴を捉え、保育・教育現場に応じた発達の促し方や援助の仕方を考える。子どもを理解する能力を養い、具体的な事例を紹介しながら、保育者としてどのように取り組めばよいかを考えていく。さらに、統合保育への理解を深め、国際感覚を養うとともに、保育者としての素養を高めること、そして、高い専門性を身につけることを目標とする。			
到達目標	乳幼児期の子どもを理解するための理論と方法を学び、保育・教育現場で応用できるようになる。さらに、統合保育への理解を深め、国際感覚を養うとともに、保育者としての素養を高めることで、高い専門性を身につけることができる。			
準備学習	初回の授業に進度表を配付し、毎回の授業範囲と分量(テキスト 15 ページ前後)を示す。授業の前に進度表をもとに予習し、授業後に復習し、レポートを提出する。			
授業方法	指定した教科書を中心に展開し、また発表などを行い、理解度を確かめながら授業を進めていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもと家族の問題の理解 2. 幼児理解と子ども観 3. 幼児理解と発達の理解 4. 幼児理解の方法 5. 心理療法の基礎知識 6. カウンセリングの基礎 7. カウンセリングマインドと保育臨床 8. 幼児理解と統合保育 9. 幼児理解と家庭支援 10. 外国人の子どもの理解と保育－在日外国人 11. 外国人の子どもの理解と保育－諸外国の事例研究 12. 理解者・援助者としての保育者の役割 13. 親への理解と支援 14. 地域の子育て支援 15. まとめ 			
評価方法	講義への参加態度と発表状況(60%)、課題の提出状況(40%)による評価			
教科書	『子どもの理解とカウンセリングマインド 保育臨床の視点から』 青木久子・間藤侑・河邊貴子 萌文書林			

科目名	幼児教育方法論【英語名: Education methodology of Kindergarten】	職名・担当者	講師 岡本 弘子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	5	3
学修目標	<p>この科目は、資格取得のための科目である。 授業では、保育における計画の意義、保育を計画する感覚をつかむことを目指す。 遊びのプランを考え、教材を工夫することを通じて、多様な遊びの展開を可能とする発想の広がりを体験する。 模擬保育を通して、子どもの目で遊びを見ること、「もっとおもしろく」と何度もプランを作りかえること、5領域から遊びのねらいを設定すること、子どもに響くように遊びを提起すること、保育者仲間と協働することに習熟し、「総合的に指導する」という幼児期の指導の感覚を身につけることをめざす。 また、日本や世界の子どもに係る諸問題についても学ぶ。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の計画と評価にかかわる基本的な事項について理解している。 ・子どもの姿→計画→実践→記録→気づき→評価(子どもの姿・保育実践の振り返り)→計画と巡回して進むことを理解している。 ・与えられたテーマと、テーマにふさわしい素材について研究することができる ・模擬保育で、協働して遊びを提起する ・子どもの目で世界を見ようとする ・子どもが集団でいることを生かした遊びの組み立てを考えられる 			
準備学習	<p>模擬保育のための、教材研究、教材制作、教材のための材料の収集、保育内容の理解に必要な用語調べをする。</p>			
授業方法	<p>グループでの模擬保育・グループでのワーク・個人でのワーク・講義 必要な資料を、プリントとして配布する。 (授業内容は、初回に説明する。)</p>			
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション、保育の計画の意義 第2回:保育所保育指針・幼稚園教育要領と保育課程・指導計画 第3回:実習園の保育内容を討議する、模擬保育に向けての準備 第4回:子どもの発達と保育、模擬保育に向けての準備 第5回:教材を用いたかかわりの模擬保育 1 心身の健康に関する活動 第6回:教材を用いたかかわりの模擬保育 2 人との関わりに関する活動 第7回:教材を用いたかかわりの模擬保育 3 身近な環境との関わりに関する活動 第8回:教材を用いたかかわりの模擬保育 4 言葉の獲得に関する活動 第9回:教材を用いたかかわりの模擬保育 5 感性と表現に関する活動 第10回:教材を用いたかかわりの模擬保育 6 心情・意欲・態度を理解する活動 第11回:教材を用いたかかわりの模擬保育 7 子どもが苦手感を忘れる活動 第12回:保育の背景と広がり 1 保育の成立の過程と発展 第13回:保育の背景と広がり 2 子育て支援 第14回:様々なその園らしさの意味を考える 第15回:世界の子ども達を取り巻く環境について考える</p>			
評価方法	<p>授業参加態度 30%、リアクションペーパー・課題(指導計画) 40%、期末試験 30%</p>			
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の実践・原理・内容 第3版 写真でよみとく保育 ・保育所保育指針解説書 ・幼稚園教育要領解説 			

科目名	乳児保育Ⅱ【英語名: Infant CareⅡ】	職名・担当者	講師 岡本 弘子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	5	3
学修目標	この科目は、保育士資格取得の為の基本的な科目である。授業では、乳児保育Ⅰで学んだ知識と保育実習Ⅰの体験を土台とし、乳児の保育の基本、歴史的変遷、心身の発達の特徴、その時期に適した生活や遊びの内容や援助の仕方等について、より深く学ぶ。また、乳児を取り巻く環境について検討し、保育者の役割についても考えを深めていく。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の理論や知識・技術の基本を理解している。 ・保育所や乳児院等における乳児保育の現状等について理解している。 ・3歳未満児の発育・発達について学び、その時期の生活と遊びの基本を理解している。 ・乳児保育における保護者支援や連携の基本を理解している。 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義後に学んだことを振り返り、疑問点等を調べる。 ・講義で学んだ内容やグループディスカッションで得られた気づきから、課題レポートを作成し理解を深める。 ・グループで、0歳児から2歳児に適した玩具・遊び・歌・望ましい保育所の環境について調べ、理解を深める。 			
授業方法	講義、グループワーク、課題の発表 教科書では足りない資料や最新のデータを、プリントとして配布する。 随時、確認テストやレポート課題を出す。 (授業内容は、初回に説明する。)			
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:乳児保育と保育所保育指針 第3回:保育の制度 第4回:乳児保育と保育の計画 第5回:乳児の発達 第6回:乳児保育の内容・方法・実際1 乳児保育における生活援助を中心に 第7回:乳児保育の内容・方法・実際2 健康維持のための養護面を中心に 第8回:乳児保育の内容・方法・実際3 玩具を用いた場合の子ども達と接する際の心構え 第9回:乳児保育の歴史と現状 第10回:乳児院の歴史と現状 第11回:乳児保育と保育者 第12回:乳児保育における家庭支援と今後の課題 第13回:乳児保育の内容・方法・実際4 これまでの実習の経験を振り返りながら、3歳未満の遊びや生活についてさらに理解を深める 第14回:課題のまとめ・発表 第15回:まとめ			
評価方法	授業態度 40%、小レポート・確認テスト・課題・課題レポート 60%			
教科書	保育者養成シリーズ「乳児保育」中野由美子・高橋弥生編、一藝社、2015年 ・保育所保育指針解説書			

科目名	保育人間学【英語名:Philosophy of Child-Care】	職名・担当者	非常勤講師 脇淵 徹映	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	5	3
学修目標	<p>保育者には優れた保育技術や豊かな保育知識が要求されている。しかし、それらが全て備わっていても自らが人として生きる不思議さに感動し、自己自身の内面の育ちを大切に育むことが大切である。</p> <p>保育現場は単に保育する者と保育される者という関係の場でなく、様々な出会いの場である。その出会いを通して、自分の発見を求め続ける歩みを始めるのが求められる保育者である。</p>			
到達目標	<p>保育園や幼稚園に通う子ども達の困り感を理解し、保護者や職場の仲間とも人と人との豊かな関わりを持つことができるようになる。</p>			
準備学習	<p>講義ごとに指示する内容の概要をインターネットなどで事前に調べておく</p>			
授業方法	<p>毎回資料を渡し、その資料や子ども達の様子を撮影したビデオなどをパワーポイントで提示して説明講義する。又、課題を見つけて小グループに分かれ、ディスカッションなどしてグループワークを行う。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間について考える。 2. 子どもと発達 3. 子どもと社会の変化 4. 現代社会の抱えた問題 5. 子育て文化について 6. 保育現場の今 子どもの困り感 7. グループワーク カウンセリングの基本 8. 保育現場の今 保護者支援 9. グループワーク 保護者支援の実際 10. アセスメントの実際 11. 子どもの観察技法 集団遍 12. 子どもの観察技法 個別遍 13. 自分の発見 14. 保育者集団と私 15. まとめ 			
評価方法	<p>受講態度(発言・参加度)40%,授業内レポート 30%+試験または最終レポート 30%</p>			
教科書	<p>毎時間プリントを資料として配付する。 参考文献はその都度、指示する。</p>			

科目名	臨床心理学【英語名: Clinical psychology】	職名・担当者	非常勤講師 椎野 智子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	5	3
学修目標	子どもにまつわる心の問題とその対処法について理解する。具体的には、心の問題についてどのようにそれらを理解し、アプローチしていくのかについての、一連の流れを理解する。			
到達目標	心の健康・不健康、について理解する。日常生活においても、心の健康を保つことができるようになる。			
準備学習	子どもに関する文献やテレビ番組などに積極的に目を通しておく。授業後は講義プリントを読み返しておく。			
授業方法	テキスト・講義プリントで、主に子どもにまつわる心の問題とその対処法について説明する。その他最新の資料、公開されている映像などを用い、できるだけわかりやすく興味深い内容の授業にしていきたいと考えている。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学の定義 2. 臨床心理学の歴史的背景と発展 3. 無意識と意識 4. パーソナリティ理論 5. 心理アセスメント(1)面接法・知能検査 6. 心理アセスメント(2)質問紙法・投映法 7. 臨床心理面接(1)カウンセリングと心理療法 8. 臨床心理面接(2)その他の心理療法 9. 臨床心理面接(3)集団心理療法 10. 臨床心理的地域援助 11. 臨床心理学的研究 12. 子どもの心理と障害児・者の心理 13. 高齢者の心理 14. 精神障害者の心理 15. まとめ 			
評価方法	定期試験70%、受講態度30%			
教科書	こころのケアー臨床心理学的アプローチ(2010) 池田 勝昭・目黒 達哉(編纂) 学術図書出版			

科目名	保育実習指導 I (保育所) 【英語名: Guidance I for Child care Practice】	職名・担当者	教授 江上 信子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	5	3
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所における実習を行う上で、必要な知識、技術を学び、実習に対する心構えをもつ ・実習記録の書き方(場面記録)を学ぶ ・実習終了後に実習の振り返りを行い、自己課題を明確にする。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習 I (保育所)の意義・目的・内容を理解し、それらを踏まえた自分の実習目標をもって、実習に臨むようになる ・実習に必要な知識、保育技術を習得し、実習で活かせるようになる 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・『実習の手引き』により、実習の進め方を確認する ・手遊びを6種類以上、園で良く歌われたいる歌を3曲以上をマスターしておく(課題) ・実習で活用する教材の事前準備行う 			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材、資料を基に授業を進める ・教材の研究および制作、実演を行う ・模擬保育演習(グループワーク)を取り入れる ・実習事後に振り返りを行い、報告書を作成する 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.実習の進め方、保育所の概要(役割、機能等) 2.保育実習の目標設定及び実習書類の作成 3.実習の方法 事前オリエンテーションの受け方 4.実習における乳児の理解と関わり方 5.実習記録の書き方(1)説明 6.実習記録の書き方(2)演習 7.指導計画の作成 8.実習の心構え・諸注意 9.保育実習 I (保育所)の振り返り 10.保育実習 II に向けての課題の明確化 11.保育実習 II の実習計画 12.指導計画の作成(1)部分実習 13.指導計画の作成(2)一日実習 14.教材研究(1)制作 15.教材研究(2)実演 			
評価方法	<p>実技演習 20% レポート等提出物 20% 授業態度 60% レポート・提出物 20% 実技演習 20%</p> <p>※無断欠席が多い場合、実習が受けられないので注意すること</p>			
教科書	<p>適宜資料を配布する 『実習の手引き』(子ども学科作成)</p>			

科目名	保育実習指導Ⅱ【英語名: GuidanceⅡ for child care Practice】	職名・担当者	教授 江上 信子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	5	3
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰ(保育所)の成果と反省を踏まえて、保育実習Ⅱの意義、目的、内容を理解する ・保育実習Ⅱの目標・課題を明確にもって実習に臨む ・保育実習を行う上で必要な知識、技術を習得する ・実際に保育を実施するために、指導計画を立てる ・保育実習の成果を「記録集」にまとめる 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅱの意義や目的が理解でき、自分の実習目標を明確にもって実習に取り組むようになる ・指導計画を立て、それに基づいて責任実習を行う ・実習の成果および課題を明らかにし、「自分の力」を知る 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実技(ピアノ、製作、集団遊び等)については、練習を重ねて確実に身に付ける ・担当する年齢の前後の年齢を含め、子どもの発達を学習する ・指導計画を立案する 			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・資料等を使って授業を進める ・事例の検討、レポート作成 ・模擬保育 ・教材研究と演習 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅱの心構えと実習日程 2. 保育実習Ⅱの書類作成と目標設定 3. 責任実習の教材制作 4. 教材研究発表 5. 指導計画の立案(1)部分実習 6. 指導計画の立案(2)一日実習 7. 実習の心構え 諸注意 8. 実習Ⅱの振り返り 9. 実習Ⅱ自己評価 10. 保育実習報告会 11. 記録集作成(責任実習内容) 12. 記録集作成(手遊び うたなど) 13. 模擬保育計画 14. 模擬保育実践 15. 保育現場参加実習 			
評価方法	<p>実習演習指導計画づくりなどの成果 60% 授業態度 50% 実習のまとめ 25% 提出物・レポート 25%</p> <p>※無断欠席が多い場合、実習ができないので注意すること</p>			
教科書	適宜資料を配布する			

科目名	保育実習 I (保育所) 【英語名:Child care Practiceil of Day nursery】	職名・担当者	教授 江上 信子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	実習	2	5	3
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所における保育の実際及び保育士として必要な知識、技能を実践的に学ぶ ・観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める ・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育について総合的に学ぶ ・保育の計画や記録について具体的に理解し、安全や保育者の倫理について学ぶ ・保育士に求められる保育力やコミュニケーション力を高める 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士に必要な態度、技能が身につく ・保育実習 I (保育所) の評価に合格する ・実習をまとめ、保育実習 II への課題が明らかになる 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・担当する年齢と前後の年齢の子どもの発達を学習する ・実習園より示された課題(課題曲など)について準備しておく ・健康チェックを行い、万全の状態を実習に臨む 			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中巡回指導を実施する ・必要に応じて個別指導を行う ・事後指導を実施し、自己課題を明確にする 			
授業計画	<p>保育所実習</p> <p>実習期間を5月 18 日(月)～5月 30 日(土)の2週間とする</p>			
評価方法	<p>実習評価 60% 実習日誌 30%</p> <p>実習のまとめと課題 10%</p>			
教科書	適宜提示する			

科目名	保育実習Ⅱ【英語名:Child care PracticeⅡof Day nursery】	職名・担当者	教授 江上 信子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	実習	2	5	3
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の保育を実際に実践し、保育士として必要な資質、能力、技術を習得する。 ・保育実習Ⅰを踏まえ、指導計画を立案し計画に基づいて保育を実践することを体験的に学ぶ ・家庭と地域の子育て支援の状況を理解するとともに 子育て支援に必要な能力を養う ・保育士に求められる保育力やコミュニケーション力を高める 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士に求められる態度、知識、技術、コミュニケーション力が身につく ・子育て支援に必要な能力が理解できる ・保育士になるための、自己の課題が明確になる 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・担当する年齢と前後の年齢の子どもの発達を学習する ・指導計画案は晴天用と雨天用の2通り準備する ・健康チェックを行い、万全の状態を実習に臨む 			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中訪問指導を実施する ・必要に応じて個別指導する ・グループ討議を行い、保育実習Ⅱのまとめを行う ・「保育所実習のまとめ」の冊子を作成する 			
授業計画	<p>保育園実習</p> <p>実習期間を6月29日(月)～7月11日(土)の2週間とする</p>			
評価方法	実習評価表 60% 実習日誌 30% 指導計画作 10%			
教科書	適宜提示する			

科目名	演習(卒業研究)【英語名:Seminar】	職名・担当者	各担当教員	
		単位数	semester	年次配当
授業形態	演習	2	5・6	3
学修目標	1. 子ども学にかかわるテーマで卒業論文に取り組み理解を深める。 2. 既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、卒業論文を執筆する。 3. 書籍からの引用の仕方など、文章を参照するルールを理解する。			
到達目標	取組むテーマに関する認識を深め、その理解を仕事に活かせるようになります。また、課題の調べ方を身につけ、その力も仕事における課題の取組に活かせるようになります。			
準備学習	担当教員の指導に基づき、ゼミで発表・報告できるように、課題をこなし、資料を用意しておくようにしてもらいます。			
授業方法	担当教員の専門により各ゼミに分かれ、卒業論文の完成に向けて指導を受ける。			
授業計画	1. 前期ガイダンス(執筆要項配付) 2. テーマ設定 3. テーマ発表会の準備 4. テーマ発表会(前半ゼミ発表) 5. テーマ発表会(後半ゼミ発表) 6. テーマ発表会の指摘を受けて 7. 各ゼミによる指導 8. 各ゼミによる指導 9. 各ゼミによる指導 10. 各ゼミによる指導 11. 各ゼミによる指導 12. 各ゼミによる指導 13. 各ゼミによる指導 14. 各ゼミによる指導 15. 前期のまとめ 16. 後期ガイダンス 17. 中間発表 18. 各ゼミによる指導 19. 各ゼミによる指導 20. 各ゼミによる指導 21. 各ゼミによる指導 22. 各ゼミによる指導 23. 各ゼミによる指導 24. 卒業論文提出に向けて 25. 卒業論文提出に向けて 26. 卒業論文第1回提出 27. 卒業論文の加筆修正 28. 卒業論文の第2回提出 29. 研究発表 30. 研究発表			
評価方法	テーマ発表 10%、中間発表 10%、論文 40%、研究発表 40%による評価			
教科書	特になし			

科目名	英語コミュニケーションⅢ【英語名:English Communication Ⅲ】	職名・担当者	講師 西浜 クリス	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	6	3
学修目標	“英語コミュニケーションⅡ”の履修者を対象とするクラスです。子ども英語指導者トレーニングをテーマに進めていきます。Ⅰ、Ⅱで学んだ歌やゲームを復習し確実な力とすること、また、英語を楽しませる方法をさらに広げていくことを目標とする。			
到達目標	英語の文章を読む力を伸ばす。また、子供たちが英語を習得していくためのより良い方法を習得する。			
準備学習	次回学習するユニットに出てくる分からない単語を調べてくる。			
授業方法	アルファベット、色、数、形などの覚え方やフォニックスによる教え方を、実際に現場で行う方法を実践する中で学んでいきます。同時に絵本の読み聞かせを練習していきます。			
授業計画	1 アルファベットの教え方1(歌を使って) 2 アルファベットの教え方2(ゲームを通して) 3 色の教え方1(歌を使って) 4 色の教え方2(ゲームを通して) 5 数の教え方1(歌を使って) 6 数の教え方2(ゲームを通して) 7 形の教え方1(歌を使って) 8 形の教え方2(ゲームを通して) 9 フォニックスによる教え方1(歌を使って) 10 フォニックスによる教え方2(ゲームを通して) 11 絵本の読み聞かせ Peach Boy (桃太郎)1-2 発音を中心に 12 絵本の読み聞かせ Peach Boy(桃太郎)3-4 リズムを中心に 13 絵本の読み聞かせ Peach Boy(桃太郎)5-6 意味を中心に 14 絵本の読み聞かせ Peach Boy(桃太郎)7-8 総合的に 15 これまでの復習;アルファベット、色、数、形、 絵本の読み聞かせを振り返る			
評価方法	授業での積極性 50%、期末課題 50%			
教科書	『TOEIC TRST LISTENING 450』片野田浩子著 南雲堂			

科目名	社会的養護内容【英語名:Contents of Protective Care】	職名・担当者	非常勤講師	
		単位数	セメスター	年次担当
林 俊和				
授業形態	演習	1	6	3
学修目標	1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。 2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ。 3. 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。 4. 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解する。 5. 社会的養護を通して、家庭支援、地域福祉について理解や認識を深める。			
到達目標	・児童養護施設などの社会資源としての役割を理解し、それを地域の人に説明できるようになる。 ・福祉施設の職員の役割、倫理を学び、倫理観の高い職員になる。			
準備学習	授業で提供する事例について、再度復習をし、みんなと意見交換をして理解を深めること。積極的に質問したり、意見を言うこと。			
授業方法	レジメを読み、要点を書き、説明を聞き、考えるということを繰り返し行って授業を進めていく。 できるだけ現場の状況を伝えていきたい。 演習科目なので事例についてはレポート提出を求め、参加意識をもたせる。			
授業計画	1.児童の権利擁護 2.保育士等の倫理及び責務 3.施設養護の特性及び実際 4.里親制度の特性及び実際 5.個別支援計画の作成 6.日常生活支援に関する事例 7.こころの援助 8.治療的支援に関する事例 9.自立支援に関する事例 10.記録及び自己評価 11.保育士の専門性 12.親子関係の援助 13.ソーシャルワーク 14.施設の小規模化と地域のかかわり 15.社会的養護の課題と展望			
評価方法	レポート 80% 定期試験 20%			
教科書	辰己隆・岡本眞幸『保育士をめざす人の社会的養護内容』みらい			

科目名	教育相談の基礎と方法【英語名:Base and method of educational counseing】	職名・担当者	非常勤講師 松瀬 留美子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	6	3
学修目標	学校教育の現場で教師が直面する生徒の諸問題から不登校・いじめ・発達障害・非行などを中心に話題を提供し、生徒の「ころ」と行動を理解し支援する関わり方について、検討する。また、思春期に発症しやすい神経症的問題や精神病理、教師のメンタルヘルスについても基礎的な精神医学的知識を習得し、学校における対応について考える。生徒理解を深め、援助するための実践的な方法を、臨床心理学的な視点を踏まえて学ぶことを目標とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育における教育相談の意義・役割について理解する。 ・学校教育相談に関するさまざまな理論や方法に関する知識を身につける。 ・いじめや不登校、子どもの精神疾患や発達障害などの対応など、教育相談に関する実際の・技術的側面に関する知識と理解を身につける。 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・予習:毎授業下記授業の構成をみて、書店で出版されている教育相談に関する教科書等を個々で探し、それを参考にして予習をする。 ・復習:毎授業下記授業の構成をみて、書店で出版されている教育相談に関する教科書等を等個々で探し、それを参考にして復習をする。これと授業で聞いた内容を参考にレポートを作成する。 			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の一方の授業でなく、学生に質問を行う双方向 授業を行う。 ・毎授業の内容を書いたレポートを次回授業開始までに 提出する。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育相談を学ぶにあたって 2. スクールカウンセラーの役割 3. 学校におけるカウンセリングマインド 4. 児童生徒の問題の理解と対応の基本姿勢 5. 学校における不適応・問題行動の検討(第5回から 11 回)不登校 6. 学校いじめの検討 7. 発達障害①特質の理解、小学校で起こりやすい問題の検討 8. 発達障害②中学校・高校で起こりやすい問題の検討 9. 非行・問題行動の理解と対応 10. 学級崩壊、問題行動事例の検討 11. 虐待ー学校ができること 12. 同一性の問題 13. 保護者相談 14. 教師のメンタルヘルス 15. 総括 			
評価方法	受講態度を25%、定期試験を50%、毎授業の提出物を25%により、総合的に判定する。			
教科書	特になし			

科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)【英語名:Seminar of Practical Teaching in Kindergarten】	職名・担当者	教授 江上 信子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	6	3
学修目標	他の授業科目や様々な活動を通じて身に付けた資質・能力が、保育者に必要な資質・能力として形成されているか確認し、自分の課題を明確にして、保育者に必要な力を身に付ける。			
到達目標	保育者になる上で、自分にとって何が課題かを確認し、不足している知識や技能等を補って、教職生活を円滑にスタートできるようになる。			
準備学習	1. 履修カルテをふまえてこれまでの学習を振り返ってみる。その学習における不足を自覚したうえで授業に臨む。 2. 模擬保育の取り組みにあたって、必要な物を整え、予めシミュレーションを行って授業に臨む。			
授業方法	1. 各自の課題が確立できるように、実習日誌や成績評価などを活用してこれまでの授業を振り返る。 2. 現職の保育者に学ぶ機会を作る 3. 事例研究(模擬保育)に取り組む。 4. 現場に必要なコミュニケーション力を身につけるように、ロールプレイやグループワークを取り入れる。			
授業計画	1.オリエンテーション 2.これまでの学びを振り返って:履修カルテの確認 3.保育者に必要な知識(1)教育の視点から 4.保育者に必要な知識(2)心理の視点から 5.保育者に必要な知識(3)社会福祉の視点から 6.保育者に必要な知識(4)小児保健の視点から 7.保育者に必要な実践力(1)絵本・手遊び 8.保育者に必要な実践力(2)社会性・対人関係能力 9.保育者に必要な実践力(3)保護者対応 10.事例研究(模擬保育)計画・準備 11.事例研究(模擬保育)Aグループ 12.事例研究(模擬保育)Bグループ 13.事例研究(模擬保育)Cグループ 14.事例研究(模擬保育)Dグループ 15.総括 現場の保育者に学ぶ			
評価方法	授業態度(30%) 発表・演習(25%) 提出物(15%) 期末レポート(30%)			
教科書	必要に応じて提示する。			

科目名	心身の発達と学習過程【英語名:The development and the learning process of mind and body】	職名・担当者	教授 陳 惠貞	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	6	3
学修目標	本講義では、胎児期から青年期までの心身の発達と各段階での学習過程について学ぶ。障害児を含む乳幼児、児童と生徒の心身の発達および学習の過程について幅広く知ることによって、個人がいかにして「育てられるもの」から「育てるもの」へと向かっていくのかを考えていく。いのちの尊さ、学ぶことの大切さを自覚し、自ら学ぶ環境を整えながら、生涯学習へ繋げていくことが目標とする。			
到達目標	胎児期から青年期までの心身の発達と各段階での学習過程について学び、保育活動に活かせるようになる。また、学生各々の成長過程において、各発達段階のエピソードを思い出してもらい、授業の内容と照り合わせるようにする。そうすることによって、学びを通して自分への理解を深め、生涯学習の大切さを実感し、人間として成長するようになる。			
準備学習	事前に資料(A4一枚)を配付し、次の授業を備えるように予習をしてくことと復習として小レポートを提出することが要する。			
授業方法	講義を中心に展開し、必要に応じて映像資料を用い、分析・発表を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 胎児期の心身の発達と学習 2. 乳児期の心身の発達と学習(1歳児) 3. 幼児期前期の心身の発達と学習(2歳児) 4. 幼児期前期の心身の発達と学習(3歳児) 5. 幼児期後期の心身の発達と学習(4歳児) 6. 幼児期後期の心身の発達と学習(5歳児) 7. 幼児期後期の心身の発達と学習(6歳児) 8. 学童期前期の心身の発達と学習 9. 学童期後期の心身の発達と学習 10. 思春期の心身の発達と学習 11. 青年期前期の心身の発達と学習 12. 青年期後期の心身の発達と学習 13. 成人期の心身の発達と学習 14. 生涯学習と学習環境 15. まとめ 			
評価方法	講義への参加態度と発表状況(60%)、課題の提出状況(40%)による評価			
教科書	教科書を使用しない。随時に資料を配付する。			

科目名	社会福祉Ⅱ【英語名:social welfareⅡ】	職名・担当者	講師 木村 拓磨	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	6	3
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉を取り巻く相談援助について理解する。 2. 社会福祉に関連する相談援助の具体的展開を理解する。 3. 具体的事例から社会福祉について考察する。 4. 社会福祉施設における利用者の保護について理解する。 5. これからの社会福祉について課題を考えられる。 			
到達目標	社会福祉に関する問題について深い知識を得て、どのような制度や政策が必要なのかを考える力をつける。			
準備学習	新聞等から社会の事象に関心を持つと講義で学んだことへの理解が深まる。			
授業方法	教科書を読み、要点を書く。自ら事例について考え、まとめることで具体的な福祉の援助について学び授業を進めていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.相談援助の概要 3.相談援助の具体的な展開 4.事例から学ぶ① 5.事例から学ぶ② 6.事例から学ぶ③ 7.事例から学ぶ④ 8.事例から学ぶ⑤ 9.事例から学ぶ⑥ 10.事例に関する振り返り 11.情報提供と第三者評価 12.利用者の権利擁護と苦情解決 13.社会福祉の動向と課題 14.他専門機関との連携ネットワーク 15.まとめ 			
評価方法	定期試験 70% 授業態度 30%			
教科書	新 保育士養成講座編纂委員会/編『社会福祉』全国社会福祉協議会			

科目名	児童家庭福祉Ⅱ【英語名:Child WelfareⅡ】	職名・担当者	非常勤講師 武藤 敦士	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	6	3
学修目標	「児童家庭福祉Ⅰ」で学修したことを土台に、児童福祉の制度や政策の展開とその課題についてさらに理解を深める。具体的には、保育、障害児福祉、母子保健、健全育成、要保護児童対策を取り上げる。			
到達目標	児童家庭福祉の課題について、政策や制度の面から理解する力をつける。			
準備学習	予習や復習にテキストを活用すること。新聞等から社会の事象に関心を持つことや、児童家庭福祉に関連する施設でのボランティアを積極的に行うことも良い。			
授業方法	教科書を読み、要点を書き、説明を聞き、考えるということを繰り返し行い、いろいろな角度から学ぶ方法を使って授業を進めていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの生活と権利 2. 児童家庭福祉に関連する法制度(1)児童福祉六法 3. 児童家庭福祉に関連する法制度(2)その他の法律 4. 児童家庭福祉の機関と施設 5. 保育制度 6. ひとり親家庭福祉 7. 障害児福祉 8. 母子保健 9. 児童健全育成 10. 要保護児童対策 11. 児童家庭福祉の専門職 12. 児童福祉の歴史 13. 子どもの遊びの保障 14. 世界の子どもたち 15. 今後の課題とまとめ 			
評価方法	定期試験 100%			
教科書	福田公教・山縣文治『児童家庭福祉』ミネルヴァ書房			

科目名	小児栄養実習【英語名:Practicing of child nutrition】	職名・担当者	非常勤講師 神野 順子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	6	3
学修目標	乳幼児期の食機能の発育・発達に呼応した調理形態を理解し、同時に栄養的に満たされた食事を提供できるよう技能の修得に努める。 また、乳幼児の健全な食生活には妊娠期からの栄養管理が不可欠であることから、妊産婦の栄養についても学び、園児や保護者への食育ができることを目的とする。			
到達目標	①離乳食を理解し、適切な供給ができること ②幼児期の食に関する問題点を理解し、適切な対応ができること			
準備学習	小児栄養(講義)を復習の上、受講すること			
授業方法	実習を中心とし、理解を促す目的で一部講義と演習を取り入れる			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.講義、献立作成法 3.講義調理の基礎知識(調理法) 4.講義調理の基礎知識(調理操作) 5.離乳食実習(1)調乳・離乳食開始頃 6.離乳食実習(2)7～8ヶ月頃 7.離乳食実習(3)9ヶ月～1歳頃 8.離乳食実習(4)完了頃 9.子供に食べさせたいおやつの実習 10.幼児食行事食・偏食対策実習 11.保育所給食・アレルギー食実習(卵) 12.保育所給食・アレルギー食実習(乳) 13.妊娠期・バランス食実習 14.妊娠期・貧血食実習 15.まとめレポート 			
評価方法	レポート:40点 試験:60点 合計100点満点中60点以上を合格とします。			
教科書	使用しません。毎週資料を配布します。			

科目名	保育支援演習【英語名:Child support Psychology (Seminar)】	職名・担当者	非常勤講師 椎野 智子	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	1	6	3
学修目標	保育士として子どもを支援していくためには、子どもと適切なかかわりを結ぶだけでは不十分である。本稿では、子どもへのより良い援助のために、家族システムについての理解、支援機関についての理解、相談技術についての理解を目指す。			
到達目標	子どもを支えていくための社会資源について、どのような種類があるか、それらはどのようなものか、などを理解し、社会の現場で生かすことができるようになる。			
準備学習	子どもに関する文献やテレビ番組などに積極的に目を通しておく。授業後は、配布プリントを読み返しておく。			
授業方法	講義プリントを用いた説明と、それに対する討論をしたいと考える。最新の資料、公開されている映像などを用い、できるだけわかりやすく興味深い内容の授業にしていきたいと考えている。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育支援を学ぶ意識 2. 子ども理解の理論と方法(1) 発達の観点からの理解 3. 子ども理解の理論と方法(2) 子どもの行為、居場所、遊び、感情表現 4. 子ども理解の理論と方法(3) 集団の中での姿、気になる行為から 5. 子ども理解の理論と方法(4) カンファレンスによる総合化、修正 6. 保育支援の理論と方法(1) 必要性和歴史 7. 保育支援の理論と方法(2) 相談体制、方法、期間連携 8. カウンセリングの基礎知識(1) 発展の歴史 9. カウンセリングの基礎知識(2) 基本原則・カウンセラーの役割 10. ロールプレイ(1) 傾聴技法 11. ロールプレイ(2) 保護者の訴えや望みを聞く 12. ロールプレイ(3) 保護者の資源(長所)、これからの取り組み 13. カウンセリングマインドに基づく保育活動(1) 幼児への支援 14. カウンセリングマインドに基づく保育活動(2) 保護者への支援 15. まとめ 			
評価方法	受講態度・授業中の提出物50%、レポート課題50%			
教科書	なし			

科目名	保育心理技法【英語名:Child care Psychology】	職名・担当者	非常勤講師 椎野 智子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	6	3
学修目標	プレイセラピーの方法論についての理解を目指す。前半は子どものセラピーについての概論を学び、後半は心理アセスメント、箱庭療法、表現療法など、各論的な理解を目指す。			
到達目標	子どもに対する心理的援助の方法論の種類と、それらがどのようなものなのかを他者に説明できるようになる。			
準備学習	子どもに関する文献やテレビ番組などに積極的に目を通しておく。授業後は講義プリントを読み返しておく。			
授業方法	講義プリントを用いた説明と、それに対する討論をしたいと考える。最新の資料、公開されている映像などを用い、できるだけわかりやすく興味深い内容の授業にしていきたいと考えている。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心の理解と心理技法のいろいろ 2. プレイセラピー(1)「遊び」とは 3. プレイセラピー(2)プレイセラピーの基本 4. 心理検査の技法を学ぶ(1)観察法 5. 心理検査の技法を学ぶ(2)面接法 6. 心理検査の技法を学ぶ(3)テスト法 7. 音楽療法(1)音楽療法とは 8. 音楽療法(2)音楽療法の実際 9. 箱庭療法(1)箱庭療法とは 10. 箱庭療法(2)箱庭療法の理論 11. 箱庭療法(3)箱庭療法の実際 12. 事例研究(1)アタッチメント障害 13. 事例研究(2)適応障害 14. 事例研究(3)発達症 15. まとめと討論 			
評価方法	授業中の提出物・受講態度50%、試験の成績50%			
教科書	なし			

科目名	事例研究【英語名:Case Study】	職名・担当者	非常勤講師 目黒 達哉	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	1	6	3
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・つまずきをもった子どもと関わることを前提として、個別支援のあり方をまなぶ ・個別支援実習に際しての事前事後指導を受け、保育所における個別支援の実習を意欲的に行う ・この授業を通して、個別ケースワーク、ケースレポートの作成、事例スーパービジョン、事例検討会を体験する 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所や幼稚園、児童福祉施設などにおいて、一人ひとりの心に添える支援と集団での適応支援ができる ・ケースの研究を積み重ねて、保育心理士としての資質を得るようになる 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・配布した資料などをよく読んで、授業に臨む ・実習後にケースレポートを作成し、事例研究の準備をする 			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援、ケース研究、個別支援計画の講義を行う ・実習のオリエンテーションを行う ・実習中に帰校させ、スーパービジョンの指導を行う ・事後の指導で全員の事例検討会を行う ・討論、レポート作成、発表を取り入れる 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例指導① 個別支援とは 2. 事例指導② ケースレポートの書き方 3. 事例指導③ ケースのとらえ方と支援計画 4. 事例指導④ 実習先オリエンテーション 5. 実習中のスーパービジョン①帰校日 実習の振り返り 6. 実習中のスーパービジョン②帰校日 前半の事例研究 7. 実習中のスーパービジョン③帰校日 個別支援計画を立てる 8. 実習中のスーパービジョン④帰校日 個別支援計画の発表 9. 事後指導① A実習園の事例検討会 10. 事後指導② B実習園の事例検討会 11. 事後指導③ C実習園の事例検討会 12. 事後指導④ D実習園の事例検討会 13. 事後指導⑤ E実習園の事例検討会 14. まとめと討論 15. レポート作成と発表 			
評価方法	<p>事例報告書 40%</p> <p>事例検討会発言 15%</p> <p>レポート 30%</p> <p>授業態度(出席状況含む) 15%</p>			
教科書	適宜指示			

科目名	保育実習(個別支援実習)【英語名: Individual Support Teaching】	職名・担当者	教授 江上 信子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	実習	2	6	3
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・つまづきのある子どもの観察と関わりを通して個別支援の大切さを理解する ・個別支援の実際を学び、内容や方法を理解する ・個別支援計画を立て、個別支援の実習をする ・毎日実習日誌を書き、実習のふり返りを行う 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・つまづきのある子どもの個別支援ができる保育技能が身につく ・個別支援計画が立案できる 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問後に、担当するケースの状況を十分に把握しておく ・保育実習で経験した保育の実際を実習日誌等で確認しておく 			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先で訪問指導を行う ・実習中の帰校で、個別支援計画を立てさせる ・実習日誌に目を遠し、評価をする 			
授業計画	実習は、11月30日～12月11日(予定)の10日間とする。			
評価方法	実習先の評価(60%) 実習日誌(40%)			
教科書	使用しない(「実習の手引き」を使用する)			

科目名	保育実習指導 I (施設) 【英語名: Guidance for Child care teaching in Welfare Facilities I】	職名・担当者	講師 木村 拓磨	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	6	3
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設における実習の意義・目的を理解する。 2. 社会的に求められている施設の存在意義を理解する。 3. 実習施設における子どもおよび家族の特徴と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、自らが身につけるべきスキルを明確にする。 			
到達目標	「保育実習 I (施設)」で子どもの姿をとらえるための必要な知識及び子どもの問題行動に対応するためのスキルを身につける。			
準備学習	予習や復習にテキストを活用すること。新聞等から社会の事象に関心を持つと講義で学んだことの理解が深まる。			
授業方法	教科書を読み、要点を書き、説明を聞き、考えるということを繰り返し行い、実際の施設で起こるトラブル場面のロールプレイングを行う。また、DVD教材を使い、施設のイメージを視覚的にも持ちやすくする。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の目的 2. 実習の概要 3. 実習生としての心構え 4. 実習先について(居住型児童福祉施設等) 5. 実習先について(障害児通所施設等) 6. 実習の内容 7. 実習の課題 8. 子どもの人権と最善の利益の考慮 9. プライバシーの保護と守秘義務 10. 実習における計画と実践 11. 実習における観察、記録及び評価 12. 実習先での子どものトラブル場面について 13. 実習の総括と自己評価 14. 身につけるスキルの明確化 15. まとめ 			
評価方法	受講態度 30% レポート 50% 報告発表 20%			
教科書	愛知県保育実習連絡協議会・伊藤貴啓・小川英彦『保育士をめざす人の福祉施設実習』みらい			

科目名	保育実習 I (施設) 【英語名:Child care teaching in Welfare Facilities I】	職名・担当者	講師 木村 拓磨	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	実習	2	6	3
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に説明できる。 2. 観察や子どものかかわりを通して子どもの特徴を把握できる。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。 			
到達目標	施設の内容や役割を理解し、施設職員として働く基礎の力をつける。			
準備学習	実習期間中もテキストを活用すること。「保育実習指導 I (施設)」で学んだ内容を復習しておくこと。			
授業方法	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等において 10 日間または 7 泊 8 日の実習を行う。			
授業計画	<p><実習の内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設の生活と一日の流れ (2) 施設の役割と機能 2. 子ども理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた援助やかかわり 3. 養護内容・生活環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画に基づく活動や援助 (2) 子どもの心身の状態に応じた対応 (3) 子どもの活動と生活の環境 (4) 健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録の仕方 (3) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 			
評価方法	<p>事前訪問の実施及び報告書を提出し、実習計画書、施設実習の実施、実習記録、事前指導および事後指導への出席を満たした者について、実習先から送られてくる実習評価表等を勘案し、ABCD 評価をする。</p> <p>施設実習にかかわる事前および事後指導の授業に 3 回以上欠席した者は、評価対象外(欠席過多で F 評価)とする。</p> <p>実習先評価 80%</p> <p>実習日誌 20%</p>			
教科書	愛知県保育実習連絡協議会・伊藤貴啓・小川英彦『保育士をめざす人の福祉施設実習』みらい			

科目名	保育実習指導Ⅲ【英語名:Guidance for Fieldwork in Nursery Care Ⅲ】	職名・担当者	講師 木村 拓磨	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	6	3
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅲの意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対して身につけるスキルを明確にする。 			
到達目標	「保育実習Ⅲ」で活用できる知識とスキルを身につける。			
準備学習	予習や復習にテキストを活用すること。新聞等から社会の事象に関心を持つことや、児童家庭福祉に関連する施設でのボランティアを積極的に行うことも良い。			
授業方法	教科書を読み、要点を書き、説明を聞き、考えるということを繰り返し行い、いろいろな角度から学ぶ方法を使って授業を進めていく。事例を多く活用し、実習先で困らないように、様々な対応を学ぶ。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.保育実習による総合的な学び 2.実習先の理解 3.子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 4.子どもの保育と保護者支援 5.保育実践力の育成 6.子どもの状態に応じた適切なかわり 7.保育の表現技術を生かした保育実践 8.計画と観察、記録、自己評価 9.保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 10.保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 11.保育士の専門性と職業倫理 12.事後指導における実習の総括と評価 13.実習の総括と自己評価 14.課題の明確化 15.まとめ 			
評価方法	受講態度 30% レポート 50% 報告発表 20%			
教科書				

科目名	保育実習Ⅲ【英語名:Fieldwork in Nursery Care Ⅲ】	職名・担当者	講師 木村 拓磨	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	実習	2	6	3
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に関して理解する。 3. 保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 4. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。 5. 保育士として自らに必要なスキルを明確化する。 			
到達目標	障害のある子どもの施設について役割と内容を理解し、実際の現場での援助の仕方を理解する。			
準備学習	実習期間中もテキストを活用する。「保育実習指導Ⅲ」で学んだ内容を復習しておく。			
授業方法	児童福祉施設等において、宿泊の場合は7泊8日、通勤の場合は、10日間実習を行う。なお、上記実習期間の他に、施設への事前訪問(打合せ)や事後訪問もある。			
授業計画	<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2. 施設における支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 受容し、共感しながら指導する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子どもの家族への支援と対応 (5) 多様な専門職との連携 (6) 地域社会との連携 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化 			
評価方法	<p>事前訪問の実施及び報告書を提出し、実習計画書、施設実習の実施、実習記録、事前指導および事後指導への出席を満たした者について、実習先から送られてくる実習評価表等を勘案し、ABCD評価をする。</p> <p>施設実習にかかわる事前および事後指導の授業に3回以上欠席した者は、評価対象外(欠席過多でF評価)とする。</p> <p>実習先評価 80%</p> <p>実習日誌 20%</p>			
教科書	なし。別途資料を配付する。			

健康福祉学科 シラバス

科目名	社会保障論【英語名:Theory of Social Security】	職名・担当者	講師 藤田 委子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	介護福祉士として支援・援助をするということの多くは、社会保障制度の仕組みのなかでおこなわれています。介護福祉士の専門性を発揮するためにも社会保障についての知識を身につけることは不可欠です。社会保険をはじめ、生活保護、社会福祉制度など人を支える仕組みを学びます。			
到達目標	介護福祉士取得希望者としてふさわしい知識を習得することを目標にします。この授業では、社会保障制度を理解し、必要とする人へ説明できるようになることを目標とします。			
準備学習	授業の前には、テキストの該当箇所を読んでおき、わからないところを調べておくようにしてください。講義後は、テキストを読み返し、理解を深め、ニュース・新聞などで社会保障についての記事を読むようにしてください。			
授業方法	社会保障制度の体系とその変遷をとおして、各制度の理念、しくみ、現状、課題などをテキストを使用して学びます。また、具体的な事例の提示や VTR の視聴します。学生一人ひとりが問題点を指摘したり、課題を述べたり、解決策を提示したりできるようレポートを課します。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障とは 2. 医療保険(1)医療保障 3. 医療保険(2)医療保障 4. 介護保険(1)理念と概要 5. 介護保険(2)保険給付と課題 6. 年金制度のしくみ 7. 社会手当 8. 生活保護(1)制度の概要 9. 生活保護(2)制度の課題 10. 社会福祉(1)歴史・児童福祉 11. 社会福祉(2)障害者福祉・高齢者福祉 12. 雇用保険・労災保険 13. 諸外国の社会保障制度 14. 権利擁護 15. 社会保障の課題 まとめ 			
評価方法	受講態度 40%、レポート 10%、定期試験 50%			
教科書	古橋エツ子編『新・初めての社会保障論』法律文化社			

科目名	情報処理【英語名:Information Literacy】	職名・担当者	講師 早川 健太郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	情報通信技術の進歩に伴い、私たちの生活、社会が大きく変わりつつあります。デジタル・ディバイド(情報格差)を脱却するために、情報通信の原理・原則・マナー、各種ソフトウェア(主に Word,Excel,Powerpoint)の利用技術を学び、ならびに最低限のキーボード操作を習得します。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書が作成できる。 ・デザイン文書が作成できる。 ・関数の利用と応用、各種グラフ作成ができる。 ・効果的なプレゼンテーションができる。 			
準備学習	キーボードに慣れ、一定の速度で日本語入力できるよう練習しておくこと。			
授業方法	PC 教室にて、指定の教科書を用い、課題を作成していきます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(アカウントの配布、PC および電子メールのログオン確認) 2. 学内システムとその利用①(OS 操作、ネットワークドライブの操作、ネチケット、情報化社会のモラルとルール、Mail 基本操作・添付ファイルの送信) 3. インターネット概要 4. IT を利用した自己紹介 5. ワードプロソフトの基本 1(入力・編集・書式設定) 6. ワードプロソフトの基本 2(文書の体裁設定) 7. ワードプロソフトの基本 3(図形の組み込みと編集) 8. ワードプロソフトの基本 4(表の組み込み編集) 9. 表計算ソフトの基本 1(基礎) 10. 表計算ソフトの基本 2(表の体裁設定) 11. 表計算ソフトの基本 3(関数の利用) 12. 表計算ソフトの基本 4(グラフの利用) 13. プレゼンテーションソフトの基本 1(基礎) 14. プレゼンテーションソフトの基本 2(アニメーション効果) 15. プレゼンテーションソフトの基本 3(スライドショー) 			
評価方法	授業態度および課題の提出状況 50%、試験 50%			
教科書	情報リテラシー 入門編 富士通エフ・オー・エム株式会社 FOM出版 名古屋産業大学・名古屋経営短期大学 情報センター利用の手引き			

科目名	介護予防運動指導論【英語名:Exercise care prevention】	職名・担当者	教授 佐々木・志水	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所が有する「介護予防のノウハウ」を理解する。			
到達目標	高齢者が要介護状態に陥ることなく、健康で生き生きとした生活を送れるように、医療・保健・福祉の専門職と連携しながら、地域での介護予防プログラムを実施できるようになる。			
準備学習	毎回、次回授業範囲の教科書を読んでくること。			
授業方法	テキストを中心に、補助教材としてパワーポイントを使用しながら授業を行います。また、必要に応じて実技を実施します。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、介護予防運動指導員の定義 2. 介護予防概論 3. 介護予防統計(1)科学的な評価デザイン 4. 介護予防統計(2)基本統計 5. 行動科学特論 6. 行動科学特論実習 7. リスクマネジメント 8. 高齢者筋力向上トレーニング特論 9. 失禁予防特論 10. 失禁予防演習 11. 低栄養予防特論 12. 低栄養予防演習 13. 口腔機能向上特論 14. 認知症予防特論 15. まとめ 			
評価方法	学習に対する意欲 50%、受講態度50%			
教科書	介護予防運動指導員養成講座テキスト 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所発行			

科目名	カウンセリング概論【英語名:Outline of counseling】	職名・担当者	講師 勝田 みな	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの基本的な理論、技法について理解する。 ・カウンセリングを学ぶことにより、自己理解・他者理解を深め、自己を成長させることができることを知る。 ・人とのかかわりが重要である職業に必要な実践力を身につける。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングを学ぶことにより、自分のためになる。 ・人の面倒をみることによって、自立できる人になろうとし、人間味のある雰囲気をつくり出すことができる。 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の学習に関するテキスト範囲を読んでくる。 ・また、ピアヘルパーについての知識を十分に身につけるために「ハンドブック」を1節読んだら「ワークブック」を1節練習することが自学自習により理解が深まる。 ・さらに、ピアヘルパーを好きになるためには、体験を通してよさを感じるのが最適である。ヘルパー役(援助される役)になって援助されたときの気持ちのよさを体感するうちにピアヘルパーのよさがわかってくるので、友人と協力して自習を行い、身につける。 			
授業方法	講義形式による学習と、ペアあるいはグループによる学習を組み合わせる授業を進めていく。授業の後に、ミニレポートを提出する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (1)カウンセリング、自己紹介 2. 構成的グループエンカウンター(SGE)① (1)エクササイズ、リチュアル、握手、シェアリング 3. 構成的グループエンカウンター(SGE)② (1)エクササイズ、インタビュー、他者紹介、シェアリング 4. 構成的グループエンカウンター(SGE)③ (1)エクササイズ、将来願望、忘れえぬ人物または出来事、シェアリング 5. リーダーの心得 (1)リーダー、自己開示、ピアヘルパー 6. カウンセリングの定義、種類 (1)行動変容、コミュニケーション、カウンセリング 7. カウンセリングの理論① (1)自己理論、精神分析理論 8. カウンセリングの理論② (1)行動理論、論理療法 9. カウンセリング① (1)ラポール、カウンセラーの基本的態度 10. カウンセリング② (1)傾聴、受容、共感的理解 11. グループカウンセリング (1)SGE、シェアリング、傾聴、受容、共感的理解 12. ピアヘルピングの関係領域 (1)カウンセリング、教育、心理療法 13. ピアヘルピングのプロセス (1)リレーションづくり、問題把握、解決 14. ピアヘルパーのパーソナリティ (1)自己開示、共感性 15. カウンセリングの動向 (1)折衷主義、コーヒーカップ方式、育てるカウンセリング 			
評価方法	定期試験 40% 受講態度 30% ミニレポート 30%			
教科書	日本教育カウンセラー協会編「ピアヘルパーハンドブック」 日本教育カウンセラー協会編「ピアヘルパーワークブック」			

科目名	障害者スポーツ指導員（初級）【英語名：Handicapped person sports instructor】	職名・担当者	教授 佐々木 俊郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	スポーツをすることは万人に与えられた権利である。しかし、障害者にとってひとくちに「障害がある」といっても種類や程度はさまざまであり、さらに個々の運動能力やスポーツについて理解し指導してくれるスポーツ指導員がいれば安心してスポーツを行うことができるのではないだろうか。そこで本講座をそのようなスポーツ指導員の養成を目標としている。			
到達目標	障害者に対して、障害者スポーツの指導ができるようになる。			
準備学習	毎回、次回授業範囲の教科書を読んてくること。			
授業方法	パワーポイントを使用した講義と実技を中心に授業をすすめる。必要に応じて DVD なども活用する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.障害者福祉施策と障害者スポーツ 2.ボランティア論 3.障害者スポーツの意義と理念 4.安全管理 5.障害の理解とスポーツ①身体障害者とスポーツ・レクリエーション 6.障害の理解とスポーツ②知的障害者とスポーツ・レクリエーション 7.障害の理解とスポーツ③精神障害者とスポーツ・レクリエーション 8.日本障害者スポーツ協会資格認定制度について 9.全国障害者スポーツ大会の概要について 10.障害に応じたスポーツの工夫・実施①車いすバスケットボール 11.障害に応じたスポーツの工夫・実施②ボッチャ 12.障害に応じたスポーツの工夫・実施③フライングディスク 13.障害に応じたスポーツの工夫・実施④グラウンドゴルフ 14.障害者との交流 15.まとめ 			
評価方法	(試験やレポートの評価基準など) 授業態度60%・レポート40%で評価する。 資格科目なので、基本的には、4/5以上の出席が単位認定の条件である。			
教科書	「障害者スポーツ指導教本 初級・中級」公益財団法人日本障害者スポーツ協会編 ぎょうせい			

科目名	健康管理士一般指導員【英語名:A health care person public instructor】	職名・担当者	教授 上田 智子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	生活習慣病は今や国民病ともいわれ、誰もがかかる可能性がある疾患群である。その代表的疾病について理解し、健康管理に関する法律や関連する医学知識をもとに、介護利用者だけでなく家族や地域の方々に対して相談援助を行う「健康管理士一般指導員」の資格取得を目指す。			
到達目標	「健康管理士一般指導員」資格を取得し、自らの職業あるいは家族や地域での活動に役立てることが出来る。			
準備学習	常日頃から、新聞等の関連記事に興味関心を持ち、日進月歩の医療の最新情報の収集に努めること。			
授業方法	指定テキストに沿って解説し、内容に応じて演習や資料(DVD)の視聴も加えながら理解を深める。最終回で資格試験に向けた要点をまとめ、学内で資格試験をおこなう。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 健康の概念とライフスタイル 2 生活習慣病の基礎知識(高血圧、動脈硬化) 3 生活習慣病の基礎知識(心疾患、脳血管疾患) 4 生活習慣病の基礎知識(糖尿病) 5 生活習慣病の基礎知識(脂質異常症、高尿酸血症) 6 生活習慣病の基礎知識(がん) 7 メタボリックシンドローム 8 ストレスと健康 9 栄養と健康(栄養と代謝) 10 栄養と健康(肝臓・腎臓機能) 11 栄養と健康(疾患別食事制限) 12 環境と健康 13 運動と健康 14 健康管理の進め方 15 まとめ 			
評価方法	参加態度 50%、レポート 50%で評価する			
教科書	健康管理士一般指導員受験対策講座テキスト(1～ 6 巻)セット			

科目名	美容法【英語名:Beauty method】	職名・担当者	非常勤講師 原 志保	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	将来的に美容家として活躍できるような知識を身につける。 美容法を学び心身ともに美しくなることで、就職活動や仕事に生かしていく。 健康福祉に役立つようなマッサージの基本、お年寄り向けのストレッチを学ぶ。			
到達目標	まずは自分自身が変わることが大切なので、講義終了時には何らかの形で変わることを目標とする。			
準備学習	毎回、勉強したことを普段から実践する。			
授業方法	講義・実践を混じえながら行う。講義はパワーポイントやプリントを使って行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.お肌のしくみ 3.お肌のお手入れ方法 4.メイクレッスン ～基本のやり方～ 5.メイクレッスン 2 ～実践～ 6.メイクレッスン 3 ～仕上げ～ 7.食事について 8.ボディメイキング ～美しいボディラインの作り方～ 9.ボディメイキング 2 ～歪んだ身体を整える～ 10.骨盤ストレッチング・ウォーキング 11.セルフマッサージ 12.デコルテマッサージ 13.マッサージのまとめ 14.ロコモティブシンドロームストレッチング 15.まとめ 			
評価方法	定期試験 40%、受講態度 30%、実技 30%			
教科書	原志保の美ハラシェイパーで骨盤ダイエット			

科目名	スチューデントトレーナー講座【英語名:Student trainer lecture】	職名・担当者	講師 早川 健太郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	スチューデントトレーナー中級の資格取得を目指す。一般運動実践者のサポートをできることを目指す。			
到達目標	スチューデントトレーナー中級認定試験合格できる。			
準備学習	試験は筆記試験 6 科目とテーピング・コンディショニングの実技試験があるので参考書を熟読しておくこと。			
授業方法	試験出題範囲の 6 科目の教科書を中心に講義を行う。 毎回小テストを行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.ガイダンス 受講にあたって 2.スポーツ生理学① 3.スポーツ生理学② 4.スポーツ医学① 5.スポーツ医学② 6.スポーツ栄養学① 7.スポーツ栄養学② 8.スポーツ社会学 9.スポーツ心理学① 10.スポーツ心理学② 11.スポーツ指導論① 12.スポーツ指導論② 13.テーピング練習 14.コンディショニング 15.実技練習 			
評価方法	受講態度 50% 小テスト 50%			
教科書				

科目名	人間の尊厳と自立【英語名: Independence of the human dignity】	職名・担当者	教授 岡崎 強	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	介護福祉士の価値は、利用者に対し尊厳を持って自立を支援することにあります。尊厳の保持と自立を理解し、介護の根幹となる倫理について学びます。			
到達目標	介護福祉士取得希望者としてふさわしい知識・倫理を習得することを目標にする。この科目では、人間の尊厳・自立・権利擁護を理解し、尊厳を保持した介護・倫理的な対応ができるようになる。			
準備学習	授業の前には、テキストの該当箇所を読んでおき、わからないところを調べておく。グループ討議・VTRの視聴のときの授業後は、小レポートまたは感想文を課し復習するようにしてください。			
授業方法	基本は、テキストをもとに授業をすすめます。適宜、グループ討議などによる演習やVTRの視聴によって、人間の尊厳の保持・介護福祉士の倫理・自立支援について学びます。			
授業計画	<p>人間の尊厳と自立(1～4)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間理解と尊厳(1) 2ページ～15ページ 2. 人間理解と尊厳(2) 17ページ～26ページ 3. 人間の自律と自立(3) 27ページ～28ページ 4. 人間の自律と自立(4) 29ページ～33ページ <p>介護福祉と人間理解(5～9)</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 社会福祉と介護福祉士 6. 人間の多面的理解(6) 49ページ～54ページ 7. 人間の多面的理解(7) 55ページ～61ページ 8. その人らしい幸福に寄り添うために(8) 62～68 9. その人らしい幸福に寄り添うために(9) 68～74 <p>介護における尊厳の保持・自立支援(10～15)</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 尊厳ある状態を支える介護(10) 78～80 11. 尊厳ある状態を支える介護(11) 80～82 12. 人権と尊厳 13. 身体的・精神的・社会的な自立支援(13) 91～96ページ 14. 身体的・精神的・社会的な自立支援(14) 98～106ページ 15. まとめ 			
評価方法	出席・受講態度 40%、レポート 20%、定期試験 40%			
教科書	橋本正明編『人間の理解』メヂカルフレンド社			

科目名	人間関係とコミュニケーション【英語名:Human relationship and communication between clients and careworkers】	職名・担当者	教授 岡崎 強	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	人間関係と心理の理解、自己形成の意義とその過程について学び、人間関係の機能について理解し、コミュニケーションの方法を理解する。			
到達目標	介護実践のために必要な人間関係の理解や他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養う			
準備学習	予習として、テキストの該当箇所を読んでおく。場面によりグループ討議を行います。			
授業方法	講義と演習(グループ討議、ロールプレイ他)適宜取り組む			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.人間関係と心理—人間関係の機能 2. 人間関係と心理—人間関係のストレスとストレスコーピング 3. 人間関係形成のプロセス—人間関係形成の基本的プロセス 4. 人間関係形成のプロセス—援助を必要とする人々との人間関係の形成 5. 人間関係全体に関わるまとめ 6. 対人関係とコミュニケーション①-コミュニケーションとは 7. 対人関係とコミュニケーション②-コミュニケーションの特性 8. コミュニケーションの技法—言語コミュニケーション、言語の機能・特性・能力 9. コミュニケーションの技法—言語コミュニケーション、話し言葉によるコミュニケーション 10. コミュニケーションの技法—非言語コミュニケーション①—非言語コミュニケーションの機能と特性 11. コミュニケーションの技法—非言語コミュニケーション②—欺瞞のコミュニケーション 12. 現代のコミュニケーション 13. 人間関係を育てるコミュニケーション①—コミュニケーションを促す環境 14. 人間関係を育てるコミュニケーション②—コミュニケーションに役立つ技法 15. まとめ 			
評価方法	授業態度30% 課題:20% 定期試験:50%			
教科書	橋本正明編 人間の理解 メチ”カルフレンド社			

科目名	社会福祉概論 I 【英語名: Introduction to social welfare I】	職名・担当者	准教授 三好 禎之	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	本講義の目標は以下の通りである。 1.社会福祉の歴史を学ぶ。 2.現代社会における社会福祉の制度を学ぶ。 3.現代社会における権利侵害の実態をとらえつつ、権利擁護のあり方を学ぶ。			
到達目標	本講義における到達目標は以下の通りである。 1.社会福祉の歴史を学ぶことから、その形成過程を理解する。 2.社会福祉の目的や役割を理解する。 3.権利擁護の視点を学ぶ。			
準備学習	オリエンテーション時に指示する。			
授業方法	講義の方法は以下の通りである。 1.テキスト、レジメ・参考資料を用いて講義を実施する。 2.視聴覚教材を使用する。 3.社会福祉に関する文献を紹介する。			
授業計画	1.オリエンテーション・社会福祉の歴史1 2.社会福祉の歴史2 3.社会福祉の歴史3 4.社会福祉の歴史4 5.社会福祉の歴史5 6.現代社会にみる生活構造 7.家族と地域社会 8.現代におけるライフスタイルの変化 9.生活支援と社会福祉の体系 10.日本の社会保障制度概要と仕組み1 11.日本の社会保障制度概要と仕組み2 12.日本の社会保障制度概要と仕組み3 13.社会福祉における権利擁護 1 14.社会福祉における権利擁護 2 15.まとめ			
評価方法	小テスト 30% レポート試験 70%			
教科書	最新介護福祉全書 小澤温・秋元美世『社会の理解』メヂカルフレンド社			

科目名	介護福祉Ⅰ【英語名:The care welfareⅠ】	職名・担当者	講師 大橋 美加子	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	本講義の学習目標は以下の通りである。 1.高齢者福祉を手掛かりに介護の歴史を学ぶ。 2.高齢者の身体的、精神的特長を理解する。 3.高齢者の生活を理解しつつその特性を知る。 4.現代介護福祉理論の潮流を学ぶ。			
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 1.介護福祉の実態を理解する。 2.制度の概要を理解する。 3.介護福祉の理論を理解する。 4.介護福祉の方法論を理解する。			
準備学習	講義内で指示する。			
授業方法	本講義の方法は以下の通りである。 1.テキスト、レジメ、参考資料を用いて講義を展開する。 2.視聴覚教材を使用する。 3.一部演習を行なう。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.現代社会と高齢社会(高齢社会の実情) 3.老人福祉理念の構築(概念と対象の範囲) 4.老人福祉制度の変遷Ⅰ(老人福祉法の目的と役割) 5.老人福祉制度の変遷Ⅱ(給付体系と意義) 6.高齢者を取り巻く環境の特徴(高齢者と家族) 7.高齢者の身体的、精神的特徴Ⅰ(寝たきり) 8.高齢者の身体的、精神的特徴Ⅱ(認知症1) 9.高齢者の身体的、精神的特徴Ⅲ(認知症ビデオ) 10.介護保険制度Ⅰ(概要) 11.介護保険制度Ⅱ(施設サービス) 12.介護保険制度Ⅲ(抑制廃止ビデオ) 13.ケアマネージメントの理論と実際Ⅰ 14.ケアマネージメントの理論と実際Ⅱ 15.まとめ施設介護サービスの実態調査 			
評価方法	学習意欲や態度 30%、レポート試験 70%で評価			
教科書	西村洋子編集『最新介護福祉全書 3 介護の基本』メヂカルフレンド社			

科目名	レクリエーション【英語名:Recreation】	職名・担当者	教授 佐々木 俊郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	レクリエーションの基礎理論を通して、現在の福祉施設におけるレクリエーションを学ぶ。 ”いきがい”その人らしい生活を実現するためのレクリエーションを立案、計画、実施、振り返りを通して学ぶ。			
到達目標	「レクリエーションって楽しい」を体感する			
準備学習	自己決定の大切さ、自分らしく生活する生きがいの大切さを学ぶ			
授業方法	講義と演習(計画、実施、様々なレクリエーション体験)に適宜取り組む			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、アイスブレイキングアクティビティ 2. なぜレクリエーションをするのか 3. レクリエーション援助者の役割 生活、人生を豊かにするレクリエーション(ホスピタリティーについて) 4. レクリエーション援助者の役割 身近な物を使ってのレクリエーションの実施(社会資源の活用について) 5. 盛り上がりレクリエーション秘密のテクニック 6. 高齢者とのレクリエーション① 身近な物を使ってのレクリエーションの応用 7. 高齢者とのレクリエーション② 現在の福祉施設の実際 8. 高齢者とのレクリエーション③ 思い出療法 9. 高齢者とのレクリエーション④ リアリティオリエンテーション 10. レクリエーションの安全管理 事故・事故への対応(リスク回避) 11. レクリエーションプログラム① 企画・立案 12. レクリエーションプログラム② 実施 13. レクリエーションプログラム③ 評価 14. 介護予防のレクリエーション 実施・評価 15. 総まとめ 集団レクリエーションの A-PIE プロセスの実施 			
評価方法	授業への意欲、態度60% 課題:40%			
教科書				

科目名	生活支援技術Ⅰ(介護理論①)【英語名:Life support Technology①】	職名・担当者	講師	
		川角 真弓	川角 真弓	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	<p>本科目は、介護福祉士に必要な「介護技術」の知識を修得する科目の一つである。2セメスターで修得する介護技術の演習「生活支援技術③」の基盤となる知識となる。それぞれの介護技術における意義や原理原則、基本的な知識と具体的な方法について理解するとともに活用できるようになることが目標である。</p> <p>以下、本科目の具体的な学習目標をあげる。</p> <p>①介護福祉士が支援する「対象者」および「生活」について理解することができる ②介護福祉士に必要な視点「ICF」とは何かを理解することができる ③居住環境の意義と具体的な整備について理解することができる ④身支度の支援について、意義および留意点、具体的な方法について理解することができる ⑤清潔保持の支援について、意義および留意点、具体的な方法について理解することができる</p>			
到達目標	<p>1.介護とは何かについて理解することができる 2.ICFの視点について理解することができる 3.環境整備の意義と目的を理解し、生活支援技術Ⅲにて実践することができる 4.ボディメカニクスの原理原則を理解し、移動・移乗介助の基本を理解し、生活支援技術Ⅲで実践することができる。</p>			
準備学習	<p>1.事前にテキストの該当項を学習し、分からない語句などは調べておくこと 2.授業で学習した内容は、生活支援技術Ⅲで演習するため、復習を行う</p>			
授業方法	<p>基本的には講義形式であるが、学習効果を深めるためビデオ学習やグループワーク等を行う。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 生活支援の理解①(生活と生活支援) 3. 生活支援の理解②(介護の対象者の理解) 4. 生活支援の理解③(ICFの視点に基づいた生活支援) 5. 居住環境の整備①(居住環境の整備の意義と目的) 6. 居住環境の整備②(快適な居住環境の整備) 7. 居住環境の整備③(快適な居住環境の整備の実際) 8. ボディメカニクスの原理原則 9. 移乗・移動介助①(水平移動・体位変換・安楽の介助) 10. 移乗・移動介助②(起き上がり・立ち上がりの介助) 11. 移乗・移動介助③(車椅子・杖の介助) 12. 移乗・移動介助④(車椅子への移乗介助) 13. 移乗・移動介助⑤(ストレッチャー・二人介助での移乗) 14. 福祉用具概論①(福祉用具とは) 15. 福祉用具概論②(福祉用具の使用方法和アセスメントについて) 			
評価方法	<p>定期試験 50%、レポート課題 50%</p>			
教科書	<p>井川太加子編集 最新介護福祉全集 5 生活支援技術1 基本編 発行:メヂカルフレンド社</p> <p>中央法規出版編集部編集 六訂 介護福祉用語辞典 発行:中央法規出版</p> <p>※教科書は「生活支援技術①」「生活支援技術②」「生活支援技術③」共通</p>			

科目名	生活支援技術Ⅲ(基礎介護技術)【英語名:Life support Technology③Basic care skills】	職名・担当者	講師 川角 真弓	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	1	1
学修目標	1.生活支援技術Ⅰで学修した生活支援技術の理論を基に、環境整備、移動移乗介護、食事についての技術を実施する 2.自らが演習で実施した技術について考察する 3.利用者の立場になった生活支援技術を実施する			
到達目標	1.生活支援技術Ⅰで学修した生活支援技術の理論を基に、環境整備、移動移乗介護、食事についての技術を実施することができる。 2.自らが演習で実施した技術について客観的に考察することができる 3.利用者の立場になった視点を持ち、生活支援技術を実施することができる			
準備学習	1.生活支援技術Ⅰで学習した内容を復習しておく 2.授業後に配布する「本日の振り返りシート」にて、自身の生活支援技術に対する考察を行う			
授業方法	1.生活支援技術Ⅰで学習した理論を基に介護実習室にて演習を行う 2.指定のユニフォームとシューズに更衣する			
授業計画	1.2. オリエンテーション 環境整備の方法 3.4. ボディメカニクスとベッドメイキング 5.6. ベッドメイキング 7.8. ベッドメイキング 小テスト 9.10. 水平移動・上方・下方移動・側臥位・安楽な体位 11.12. シーツ交換 13.14. 全介助での起き上がり～端座位 15.16. 立ち上がり・車いすへの移乗方法 17.18. 車いす介助の方法・杖の介助方法 19.20. 一部介助での起き上がり～端座位 21.22. 一部介助での車いすへの移乗方法 23.24. ストレッチーの操作方法 25.26. 移乗移動小テスト 27.28. 福祉用具の使用法①(学内の福祉用具) 29.30. 福祉用具の使用法②(福祉用具見学)			
評価方法	レポート20%、小テスト30%、定期試験(実技試験)50%で評価する。			
教科書	川井太加子編集『最新介護福祉全書 5 介護 生活支援技術Ⅰ基本編』メヂカルフレンド社			

科目名	介護過程 I (思考過程の理解)【英語名:Thinking Method of Solution to Client' s Problems ①】	職名・担当者	講師 井川 淳史	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	介護福祉士は「心身の状況に応じた介護」を行うと定義されている。したがって、介護福祉士は介護過程を展開していくことが期待される。それには根拠に基づいた科学的手法を必要とする。 介護過程①では、介護過程の意義、ICF の考え方、介護過程におけるニーズとアセスメントを学ぶ。			
到達目標	到達目標は以下の 3 点である。 1.問題解決思考を身につけ、介護過程の基本的概要が理解できる。 2.ICF の視点を根拠として当事者のニーズを捉えることができる。 3.個別援助の重要性を理解し、介護実習では施設利用者の正確な情報収集ができるようになる。			
準備学習	予め、テキストを読み、授業時配布のプリントを整理しノート類にまとめておくことが望ましい。			
授業方法	テキスト、授業時配布のプリントを基本として、介護過程の基礎を学ぶ。アセスメントを学習するときは、本学の介護実習記録の書式に沿った情報収集用紙(アセスメントシート)を利用し、事例から情報収集する授業を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程とは 2. 課題解決の考え方 3. ニーズを満たす援助 4. 介護過程の構成要素 5. 介護過程におけるニーズ(1)ニーズの意味 6. 介護過程におけるニーズ(2)7つの視点 7. 介護過程と ICF 8. 情報収集(1)手段と信頼性 9. 情報と判断 10. ニーズの優先順位 11. 情報収集(2)記録様式 12. 情報収集(3)事例1 13. 情報収集(4)事例1の情報をまとめる 14. 情報収集(5)事例2 15. 情報収集(6)事例2の情報をまとめる 			
評価方法	定期試験 50%、授業態度及び提出課題 50%			
教科書	石野育子編著『最新介護福祉全書 7 介護過程』メヂカルフレンド社			

科目名	介護総合演習 I 【英語名:Synthetic Seminar for Care Internship I】	職名・担当者	井川・大橋	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	1	1
学修目標	介護実習の意義とその内容について理解し、実習に向けて必要な基礎学習をおこない、実際の実習で的確に実践できることを目標とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.介護実習の意義・目的を理解できる。 2.利用者(高齢者や障害者の方等)と基本的コミュニケーションを図ることができる。 3.介護施設の基本的役割や生活の場としての環境を理解し、利用者の特性や利用に至る背景、家族・地域について学ぶ。 4.介護実習に関する準備から終了後までの流れや記録等について理解できる。 			
準備学習	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。実習に行くための要件として、専門科目の出席数の規程があるため確認し把握しておくこと。			
授業方法	テキストに沿った講義を中心に実習に関する進め方を理解し、実際の施設見学を実施し、事前学習とする。また、実習を行うための基本的態度や言葉使い等も含めて、実習に向けた演習主体で進めていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習の意義と目的(本学における実習と内容) 2. 介護実習の事前学習①(介護サービスの種類と概要) 3. 介護実習の事前学習②(施設での生活) 4. 介護実習の事前学習③(利用に至る背景や利用者像) 5. コミュニケーションの図り方(基本的態度) 6. コミュニケーションの図り方(挨拶・言葉使い) 7. カンファレンスの持ち方 8. 実習記録の種類と内容①(実習日誌の概要) 9. 実習記録の種類と内容②(実習日誌の記述) 10.実習記録の種類と内容③(その他書式の記述方法) 11.施設見学①(特別養護老人ホーム) 12.施設見学②(介護老人保健施設) 13.施設見学③(障害者支援施設) 14.見学レポートの作成 15.見学レポートの発表 			
評価方法	定期試験(レポート)50%、提出課題(授業内の課題)と授業態度 50%			
教科書	最新介護福祉全書 8巻「介護総合演習」メヂカルフレンド社			

科目名	高齢者のこころとからだ I 【英語名:Senior citizen mind and body I】	職名・担当者	非常勤講師 下鶴 紀之	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	発達の観点から老化を理解し、加齢現象に関する心身の変化や介護に必要な医学的知識を修得し、高齢者のこころとからだについて理解する。			
到達目標	老いについて理解ができるようになる。			
準備学習	予習(教科書)や復習(教科書、資料)を繰り返し確認。			
授業方法	解剖学的医学知識を詳細な資料や視聴覚教材を交えながら解説する。適宜、小テストを実施し、理解の深度を確認する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の発達段階と加齢の理解 2. 身体各部と名称の理解(全身) 3. 身体各部所と名称の理解(筋肉・骨格) 4. 身体各部と名称の理解(血液・血管) 5. 身体各部と名称の理解(関節) 6. 加齢に伴う各種機能の変化① 7. 加齢に伴う各種機能の変化② 8. 加齢変化とその対応(呼吸器系) 9. 加齢変化とその対応(循環器系) 10.加齢変化とその対応(消化器系)① 11.加齢変化とその対応(消化器系)② 12.加齢変化とその対応(腎尿路系) 13.加齢変化とその対応(脳神経系) 14.加齢変化とその対応(感覚器系) 15.加齢に伴う変化(まとめ) 			
評価方法	定期試験(100%)によって総合評価			
教科書	最新介護福祉全書 9巻「発達と老化の理解」メヂカルフレンド社 参考)介護職・福祉職のための医学用語辞典 中央法規出版			

科目名	こころとからだのしくみ I (心理)【英語名 :Physical structure theory I (Psychology)】	職名・担当者	非常勤講師 椎野 智子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	高齢者・障害者に対する心理的理解を深め、心理的援助方法について理解できる。			
到達目標	受講前よりも人間について、特に高齢者や障害者についてより深く理解できるようになることをめざす。			
準備学習	高齢者や障害者に関する文献やテレビ番組などに積極的に目を通しておく。授業後は講義プリントを読み返しておく。			
授業方法	担当者が作成した教材プリントや資料を配布して授業を進める。最終的にはレポート課題によって理解度を確認する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.人間の基本的欲求と自己概念 2. こころのしくみの基礎(1)福祉のこころとは 3. こころのしくみの基礎(2)学習・記憶・思考・感情について 4. こころのしくみの基礎(3)認知・意欲・動機付け・適応について 5. 老化に伴うこころの変化:老人心理学と老年期の心理 6. 老年期の精神機能・知的機能の変化 7. 老年期のこころの問題とからだへの影響(1)パーソナリティの適応 8. 老年期のこころの問題とからだへの影響(2)老年期の人間関係 9. 障害者の心理と受容(1)知的障害者、自閉症、軽度発達障害、情緒障害児 10. 障害者の心理と受容(2)精神障害者、中途障害者、聴覚・言語障害者 11. 障害者の心理と受容(3)肢体不自由者、重度・重複障害者 12. 高齢者への援助方法と相談(カウンセリング等) 13. 障害者への援助方法と相談(カウンセリング等) 14. 高齢者・障害者を支える人々(専門家) 15. 高齢者・障害者を支える人々(ボランティア) 			
評価方法	成績試験70%、受講態度20%、レポート10%			
教科書	なし			

科目名	こころとからだのしくみⅡ(生活機能) 【英語名:psychological & physical mechanism of elderlyⅡ】	職名・担当者	教授 上田 智子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	人体の構造や機能を基に、生活(日常生活動作)に関連した生活支援技術の根拠となる知識を学び、生活機能面から見たこころとからだのしくみを理解する。			
到達目標	根拠に基づいた生活支援の在り方を理解し、生活支援技術としてその支援が適切に提供できる。			
準備学習	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでくること。			
授業方法	教科書に沿ったレジュメを毎回用意し、解説を交えながら、学生自身が教科書に沿ってまとめをおこなう。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身じたくに関するしくみ(P97～110) 2. 身じたくに関するしくみ(P111～132) 3. 活動・移動に関するしくみ(P133～160) 4. 活動・移動に関するしくみ(P161～174) 5. 食事に関するしくみ(P175～182) 6. 食事に関するしくみ(P183～200) 7. 食事に関するしくみ(P201～211) 8. 入浴・清潔に関するしくみ(P212～230) 9. 入浴・清潔に関するしくみ(P231～248) 10.排泄に関するしくみ(P249～253, 257～264) 11.排泄に関するしくみ(P254～256, 265～276) 12.排泄に関するしくみ(P277～287) 13.睡眠に関するしくみ(P288～304) 14.睡眠に関するしくみ(P305～314) 15.まとめ 			
評価方法	参加態度 30%、定期試験 70%で評価			
教科書	最新介護福祉全書 12「こころとからだのしくみ」メジカルフレンド社			

科目名	認知症をやる I (認知症の基礎的理解) 【英語名:Study On Dementia I】	職名・担当者	非常勤講師 下鶴 紀之	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	1. 認知症に対する基礎知識を習得し、認知症の人の体験や生活障害など、認知症の現状を理解する。 2. 認知症の医学的美容体・診断・治療法を学び、認知症の心理、ケア、家族への支援、権利擁護について理解する。 3. 以上のことから、福祉、介護の専門的な知識と技術を理解することができる。			
到達目標	認知症の現状、基本的なケア等を一般の方にも説明できるようになる。			
準備学習	認知症関連の記事(新聞、ニュースなど)を前期中関心をもって読む			
授業方法	資料、ビデオ学習により、理解を深める。			
授業計画	1. 認知症の介護に向けて 2. 認知症とは何か(医学的側面から見た基礎知識1) 3. 老化のしくみと脳の機能(医学的側面から見た基礎知識2) 4. 認知症の特徴と類似した状態(医学的側面から見た基礎知識3) 5. 認知症の診断(医学的側面から見た基礎知識4) 6. 認知症の原因疾患と治療(医学的側面から見た基礎知識5) 7. 認知症の原因疾患と治療(医学的側面から見た基礎知識6) 8. 認知症の予防(医学的側面から見た基礎知識7) 9. 中核症状(認知症の人の心理と行動1) 10. 周辺症状・BPSD(認知症の人の心理と行動2) 11. 認知症が及ぼす心理的影響(認知症の人の心理と行動3) 12. 認知症の人の特徴的な行動障害(認知症の人の心理と行動4) 13. 本人の体験から学ぶ 14. 若年性認知症者の理解 15. まとめ			
評価方法	定期試験 100%、			
教科書	なし			

科目名	家庭における食事【英語名:Controlling over meals at home】	職名・担当者	非常勤講師 神野 順子	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	講義	2	1	1
学修目標	家庭における食事管理の意義への理解と介助者に必要な栄養知識の修得を目指す 栄養とは何か、の基本的事項を理解したうえで栄養素の機能および食事摂取基準、各食品の含有栄養素、献立構成について解説する。さらにライフステージ、特に加齢や障がいに伴う摂食機能の変化を理解して食品選択、調理形態を考察し家庭における食事管理能力ならびに介護者として必要な栄養と食品衛生の知識の習得に努める。			
到達目標	①栄養素のはたらきを理解すること ②生活習慣病予防のための食事を理解すること ③高齢者や障がいの者の食事を理解すること			
準備学習	自己や家族の食事内容を確認すること。			
授業方法	講義を中心とするが、理解と意欲を喚起するため一部演習を取り入れる。また学修の確認のため、必要に応じて小テストを行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、自己の食生活振り返り、栄養とは 2. 食品の分類、日本食品標準成分表、食事記録演習 3. 献立作成演習、栄養計算演習 4. 栄養素のはたらき(1) 三大栄養素 5. 栄養素のはたらき(2) 微量栄養素 6. 栄養素のはたらき(3) 消化 7. 栄養素のはたらき(4) 吸収及び排泄 8. 調理の基礎知識(1) 調理法 9. 調理の基礎知識(2) 調理操作 10. ライフステージ別食事のあり方 11. 高齢期の疾患別 食事形態 12. 高齢期の摂食嚥下困難別 食事形態 13. 食物アレルギー、食品表示、食品衛生 14. 家事支援演習 15. まとめ、レポート演習 			
評価方法	レポート、受講態度:30点 小テスト:20点、定期試験:50点 上記合計100点満点で、60点以上を合格とします。			
教科書	系統看護学講座 栄養学 中村丁次 医学書院			

科目名	介護実習 I 【英語名:Care training I】	職名・担当者	上田・三好ほか	
		単位数	Semester	年次配当
授業形態	実習	5	1・2	1
学修目標	学校で学習したことを基礎として、介護福祉の倫理や知識、技術を、実際の場で応用し、総合的に利用者の日常生活の援助を実践できる能力、および態度を身につけます。			
到達目標	利用者(とその家族)との接し方を学ぶ。支援を受ける利用者の生活の実際を理解する。提供される支援の実際を学ぶ。利用者をより理解するために情報収集を実施し、その方法を理解する。			
準備学習	介護総合演習の授業で介護実習の準備をおこないます。介護総合演習の授業を遅刻・欠席なく受講し、課題や書類の提出を遅滞なく、意欲的に取り組む。			
授業方法	合計 27 日間の実習をおこなう。介護総合演習を必ず受講すること。			
授業計画	<p>実習期間 期間未定 計 7 日間 平成 27 年 11 月 16 日(月)～12 月 11 日(金)計 20 日間 本学と契約している介護老人福祉施設、介護老人保健施設、障害者支援施設、通所介護事業所などにおいて実習をする。 期間・配属先については介護総合演習において指示する。</p> <p>※実習施設は厚生労働省により介護実習施設として認められ、本学と実習契約をしている施設・事業所において実習をする。 ※実習は、原則としてすべて出席しなければならない。遅刻・早退・欠席した場合には補充実習をすることがある。</p>			
評価方法	施設評価表 50%、実習取組み状況(担当教員)50% 内訳は、実習日数に応じて配分し評価する。			
教科書	「介護実習のてびき」			

科目名	基礎ゼミナール【英語名:Basic Seminar】	職名・担当者	講師	
		単位数	各担当教員	セメスター
授業形態	演習	2	1・2	1
学修目標	最初は、みなさん・ゼミの仲間と教員で学生生活について考えていきます。大学生活が円滑に進むことができるようになることを目的とします。また、人権教育を通じて社会人・援助者としてふさわしい人権の知識を身につけることができることも目的としています。後期には研究の方法も学びます。			
到達目標	大学生活が円滑に進むことができるようになる。人権について理解できる。2年次の卒業研究に向けて、研究の方法を理解している。			
準備学習	体調に気を付け必ず出席できるようにする。授業で受けた注意事項に日々留意して過ごす。授業後は、復習し、提出物の遅滞がないようにする。			
授業方法	ゼミごと、学科での合同授業、2年生との合同授業、また他学科との合同でのゼミナールを開講します。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己紹介・個別面談 2. 学校オリエンテーション・履修確認 3. 自己分析・個別面談 4. 図書館の利用の仕方 5. インターネットの活用方法 6. 人権教育 7. ISO・環境教育 8. レポートの書き方(テーマの設定・文献検索・書式) 9. レポートの書き方(レポートの作法・自分の考えを述べる) 10. 2年生との交流 11. 人権教育 12. 自己分析・個別面談 13. 自己分析・個別面談のつづき 14. 大学祭の準備 15. 定期試験について・前期のまとめ 16. 履修登録指導・個別面談 17. 大学祭の準備・履修確認 18. 大学祭の準備 19. 大学祭の反省 20. 人権教育 21. 論文作成(テーマの設定・文献検索) 22. 論文作成(何に関心があるのか) 23. 論文作成(研究領域を決める) 24. 論文作成(仮説を設ける) 25. 論文作成(アウトラインを作る) 26. 論文作成(論文の概要) 27-29. 卒業論文の発表を聞く 30. 定期試験について・基礎ゼミナールの総括 			
評価方法	受講態度 50%、提出物 50%			
教科書	宅間紘一『はじめての論文作成術』日中出版			

科目名	介護予防運動指導演習【英語名:Exercise care prevention exercise】	職名・担当者	佐々木・志水	
		単位数	Semester	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所が有する「介護予防のノウハウ」を理解する。			
到達目標	高齢者が要介護状態に陥ることなく、健康で生き生きとした生活を送れるように、医療・保健・福祉の専門職と連携しながら、地域での介護予防プログラムを実施できるようになる。			
準備学習	毎回、次回授業範囲の教科書を読んてくること。			
授業方法	テキストとパワーポイント等を用い、実技と講義を併用して演習形式で授業を行います。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 介護予防評価 3. 介護予防評価実習 4. 高齢者筋力向上トレーニング(1)包括的高齢者筋力向上トレーニング(CGT)プログラムの流れ 5. 高齢者筋力向上トレーニング(2)マシントレーニング指導の心得 6. 高齢者筋力向上トレーニング(3)準備運動(ストレッチング、軽運動)指導 7. 高齢者筋力向上トレーニング(4)機能的トレーニング指導 8. 高齢者筋力向上トレーニング(5)コンディショニング期の指導シミュレーション 9. 高齢者筋力向上トレーニング(6)1回拳上最大力(1RM)、見極めテストの実際 10. 高齢者筋力向上トレーニング(7)筋力増強期、機能的トレーニング期の指導シミュレーション 11. 転倒予防特論 12. 転倒予防プログラム実習 13. 転倒予防プログラム演習 14. 自彊術(1)基本動作 15. 自彊術(2)応用動作 			
評価方法	学習に対する意欲 50%、受講態度50%			
教科書	介護予防運動指導員養成講座テキスト 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所発行			

科目名	カウンセリングスキル【英語名:Counseling skill】	職名・担当者	講師	
		単位数	Semester	年次担当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの基本的なスキルを身につける。 ・人間関係を円滑にするために必要とされるスキル向上とそのスキルを活かしたカウンセリングの実際を体験することにより、人間力を高めるための技術を修得する。 ・自己肯定感を味わい、他者の良い面に気付き、人を尊重することができるように体験活動を実施する。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングを学ぶことにより、自分のためになる。 ・人の面倒をみることによって、自立できる人になろうとし、人間味のある雰囲気をつくり出すことができる。 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の学習に関するテキスト範囲を読んでくる。 ・また、ピアヘルパーについての知識を十分に身につけるために「ハンドブック」を1節読んだら「ワークブック」を1節練習することが自学自習により理解が深まる。 ・さらに、ピアヘルパーを好きになるためには、体験を通してよさを感じるのが最適である。ヘルパー役(援助される役)になって援助されたときの気持ちのよさを体感するうちにピアヘルパーのよさがわかってくるので、友人と協力して自習を行い、身につける。 			
授業方法	<p>カウンセリング技術の基本を身につけるため、ロールプレイ、構成的グループエンカウンター(SGE)など、演習を中心に授業を進める。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (1)カウンセリング、リレーション、自己紹介、他者紹介 2. コミュニケーション能力を高める① (1)コミュニケーション、ペア、グループ、「構成的グループエンカウンター(SGE)、シェアリング、雑談力」(毎回行う予定) 3. カウンセリングの言語的技法① (1)受容、繰り返し、明確化 4. カウンセリングの言語的技法② (1)支持、質問 5. カウンセリングの言語的技法③ (1)受容、繰り返し、明確化、支持、質問 6. カウンセリングの非言語的技法 (1)コミュニケーション、感情、シェアリング、ヘルパー 7. カウンセリングの非言語的技法 (1)ヘルパー 8. ロールプレイ① (1)初回面談、対話上の諸問題、対処法 9. ロールプレイ② (1)話題づくり、対話上の諸問題、対処法 10. ロールプレイ③ (1)対処法、沈黙を生かす 11. ロールプレイ④ (1)基本技法の総合練習、ピアヘルパーの心がまえ 12. コミュニケーション能力を高める② (1)SGE、シェアリング、雑談力、カウンセリング、技法 13. アサーション (1)コミュニケーション、自己表現、私はOK あなたもOK、 14. コラージュ (1)自己表現、気付き、無意識 15. ヘルピングスキルの上達法 (1)心がまえ、観察、コーヒーカップ・モデル、別れの花束 			
評価方法	<p>受講態度 50% ミニレポート、提出物 50%</p>			
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・日本教育カウンセラー協会編「ピアヘルパーハンドブック」 ・日本教育カウンセラー協会編「ピアヘルパーワークブック」 			

科目名	介護保険事務【英語名:Nursing care insurance office work】	職名・担当者	講師 塚本 佳子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	1. 介護保険制度、介護報酬請求のしくみなど、介護報酬請求事務に必要な基本的知識について学ぶ。 2. 介護報酬の算定方法を学び、介護報酬明細書作成の技術を習得する。			
到達目標	介護保険事務士認定試験への合格を目指す。			
準備学習	介護サービスの種類と概要を理解しておく			
授業方法	資料のプリントを配付する。また、配布された事例問題より介護報酬明細書を作成する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護保険制度の仕組みとサービス 2. 居宅サービス 3. 施設サービス 4. 介護予防サービス 5. 地域密着型サービス・地域密着型介護予防サービス 6. 人員・施設・設備基準の概要 7. 医療保険・公費との併用 8. 介護給付費請求の実務 9. 居宅サービス介護給付費 10. 居宅介護支援介護給付費 11. 施設サービス介護給付費 12. 地域密着型サービス介護給付費 13. 介護予防サービス給付費 14. 介護給付費請求の実際と記載例 15. 返戻と査定 			
評価方法	定期試験70%、受講態度・参加度30%			
教科書	(財)つしま医療福祉研究財団編『介護保険事務士養成テキスト・実務編』中央法規出版 上記テキスト、検定料、登録料費用を含め 24,000 円が必要となります。			

科目名	リラクゼーション【英語名:Relaxation】	職名・担当者	非常勤講師 左満花	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	介護福祉士として、利用者さんに、希望に繋がるリラクゼーションを提供し、OQLを高めていける人材を目指します。まずは自分自身のケアの大切さを学び、セルフケア方法を学びます。自身の可動域を広げ気持ちよく介護ができ、介護される側、介護する側双方がハッピーになれるそんなさまざまな手法を学びます。			
到達目標	筋緊張を緩める方法、若返り、健康増進、アロマセラピー等の手法を学び、利用者ごとに必要なリラクゼーションを提供出来る事を目指します。			
準備学習	毎授業時の復習をするとともに、質問があれば準備をしておくこと。 また、用語等不明なものがあれば図書館などを利用して調べ、分からないままにしないこと。			
授業方法	主に実践中心です。 現場に役立つ内容を盛りだくさんにお伝えしていきます。 手技 タッチケア 筋緊張をほぐす施術 介護士が楽になるセルフケア 介護士がキレイになるフェイシャルセルフケア みんなのできる姿勢が良くなる体操 アロマセラピー基礎 アロマハンドマッサージ アロマクラフト など			
授業計画	<p>1日目：筋緊張を取るテクニック・デモンストレーション 2日目：MRT(筋肉リリーステクニック)セルフケア 3日目：現場に役立つケア MRT(筋肉リリーステクニック) 4日目：リンパケア：口腔を整える～小顔、頭痛、肩こり、顎関節症ケア 5日目：リンパケア：胸腔を整える～巻き肩、猫背、姿勢、呼吸 6日目：リンパケア：腹腔を整える～便秘、浮腫、冷えのケア 7日目：リンパケア：下半身を整える～脚やせ、膝の違和感、ヒップ UP 8日目：アロマセラピー基礎知識 9日目：アロマセラピー実践編(ホームケア方法) 10日目：アロマセラピー精油各論 11日目：アロマセラピー精油各論 12日目：アロマセラピー実践編(アロママッサージ) 13日目：コンサルテーションシート作成 14日目：ロールプレイング 15日目：発達障害の基礎知識と理解</p> <p>実践が中心の講座です。施術を通して生徒同士触れ合うことがが苦手な方の受講には向いていません。講義終了後には、利用者に対して適したリラクゼーションが提供できる所を目指しています。</p>			
評価方法	実技テスト30%、課題提出20%、受講態度50% 授業中実践の不参加等、私語など他の受講者への迷惑行為に当たる場合は評価の対象とはなりません。			
教科書	Duohera Academy 資料			

科目名	アニマルセラピー - 【英語名:Animal Therapy】	職名・担当者	非常勤講師 青木 健	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	アニマルセラピーとは何か。その内容と効果を理解する。			
到達目標	高齢者施設等でアニマルセラピーのプログラムが作成できる様にする。			
準備学習	授業終了前に次回使用のプリントを配布するので、これを理解し次回の授業に備える。			
授業方法	毎回授業テーマに沿った資料を提示して授業を進める。DVD等の映像や実際にセラピーに使用している動物に触れあいながら癒しを実体験する。セラピー犬は授業に参加します。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.自己紹介・授業の説明・動物の触り方 2.アニマルセラピーとは、アニマルセラピーの分類 3.使用動物の飼育・管理方法 1 4.使用動物の飼育・管理方法 2 5.高齢者施設でのアニマルセラピー(DVD) 6.動物介在療法(病院編)(小児病棟・ホスピス病棟) 7.動物介在活動(高齢者施設) 8.動物介在活動(障害者施設) 9.動物介在活動(児童施設) 10.動物介在教育(児童施設) 11.動物介在教育(DVD) 12.プリズンドックプログラム(DVD) 13.プリズンドックプログラム(DVD) 14.人畜共通伝染病 15.アニマルセラピーについてのまとめ(プログラム作成) 			
評価方法	レポート 70% 小テスト 30%			
教科書				

科目名	健康ケアトレーナー講座【英語名:Health care trainer lecture】	職名・担当者	講師 早川 健太郎	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	メディカルフィットネス協会認定の健康ケアトレーナー認定試験の筆記試験内容を理解する。			
到達目標	健康分野とケア分野の専門知識を理解したうえで医療的視点から日常生活動作の向上につなげる技法や援助の展開方法が身につく。			
準備学習	教科書を毎回熟読してくること。			
授業方法	パワーポイントを用いての講義形態			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.健康管理概論1 概念・健康増進施策 3.健康管理概論2 地域健康管理 4.医学一般1 老人の身体 5.医学一般2 病気の成り立ち 6.栄養学総論 7.運動と栄養 8.健康運動指導1 運動生理 9.健康運動指導2 運動処方・運動指導 10.健康カウンセリング 11.レクリエーション基礎理論 12.リハビリテーション概論 13.対策問題1 健康管理・医学一般・栄養学 14.対策問題2 運動指導・カウンセリング・レクリエーション 15.まとめ 			
評価方法	定期試験 50% 小テスト 50%			
教科書				

科目名	健康福祉教育論【英語名:Healthy welfare education theory】	職名・担当者	教授 志水 暎子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> 健康福祉学科の教育理念と教育目標を学び、加えて、健康福祉学科教育の科目構成と関連性を理解して、健康福祉学科で学ぶ意義と将来像を具体的に描けるようになる 福祉住環境コーディネーター3級レベルの知識を修得出来る 持続的介護の可能な身体をつくるため、健康体操(自彊術)が自分で持続的にできるようになる。また、施設等で他人にしてあげることが出来るようになる 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 福祉住環境コーディネーター3級レベルをめざし、同2級へのチャレンジ意欲を創出する 健康体操(自彊術)31動に加えて、他人にしてあげる肩もみ、足もみ、手もみなどが出来るようになる 			
準備学習	シラバスに示した次回のテキストの予習をしておく。また終わったところの復習も次回の授業の準備となる。 これら予習と復習が出来ている前提で、授業は進められる。			
授業方法	前半は指定テキストにより、講義室で福祉住環境整備を学び、福祉住環境コーディネータ試験を受ける為の模擬試験を行う。 後半はトレーニング室で健康体操(自彊術)を行う。 自分に行う体操(自彊術・腹もみ)と、他人にしてあげる体操(手もみ・十字路もみ・タッピングタッチ)を行う			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション(授業の目的・ねらい、授業の概要、評価の仕方)健康福祉の意義 第1章 福祉住環境整備の重要性、在宅生活の維持とケアサービス 第2章 健康と自立、障害者が生活の不自由を克服する道 第3章 バリアフリーとユニバーサルデザイン、生活を支える様々な用具 第4章 安全快適な住まいの整備 第5章 安心できる住生活支援、安心して暮らせるまちづくり 上記のまとめと小テスト(福祉住環境コーディネーター模擬試験) 健康体操(自彊術)の意義、ルーツ 実技の全容と解説 自彊術(1～12動)の意義と実技解説 自彊術(13～23動)の意義と実技解説 自彊術(24～31動)の意義と実技解説 健康体操(自彊術)のまとめと実技試験 自分に行う顔擦り、足もみ、腹もみ 他人に行う手もみ、十字路もみ、タッピングタッチ 健康福祉学科の教育理念と教育目標、健康福祉学科教育の科目構成と関連性について(全体のまとめに変えて) 			
評価方法	授業参加度 10%、小テスト 30%、レポート 30%、実技試験 30%で評価し、60点以上を合格とする			
教科書	「福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト」、東京商工会議所編、東京商工会議所 「自彊術」、久保颯子、小学館			

科目名	社会福祉概論Ⅱ【英語名:Introduction to social welfareⅡ】	職名・担当者	准教授 三好 禎之	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	本講義の目標は以下の通りである。 1.社会福祉基礎構造改革について学ぶ。 2.介護に関する諸制度及び、社会福祉転換期における動向を学ぶ。 3.世界的な社会福祉の潮流を学ぶ。			
到達目標	現代社会における社会福祉の国内外の動向を理解する。また、社会福祉制度の概要を学ぶ。取り分けて、介護保険制度の概要を学ぶ。さらに、現代社会におけるソーシャルキャピタルの実態と社会的効用を学ぶ。			
準備学習	オリエンテーション時に指示する。			
授業方法	本講義における講義方法は以下の通りである。 1.テキスト、レジメ・参考資料を用いる。 2.ビデオ等視聴覚教材を使用する。 3.社会福祉関係に関わる図書を紹介する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.社会福祉の政策動向 2.社会福祉の実践動向 3.世界の社会福祉-北欧の社会福祉- 4.世界の社会福祉-アメリカ・カナダの社会福祉- 5.介護予防施策(健康寿命延伸施策) 6.介護保険制度創設の背景と目的 7.介護保険制度の仕組み 8.介護保険制度にかかわる組織とその役割 9.介護保険制度における専門職の役割 10.介護保険制度の展望と高齢者福祉 11.地域福祉の役割 12.ソーシャルキャピタルの概要 13.諸外国のソーシャルキャピタル(アメリカ) 14.日本社会におけるソーシャルキャピタル 15.まとめ 			
評価方法	小テスト 30%、テスト 70%			
教科書	最新介護福祉全書 小澤温・秋元美世『社会の理解』 メヂカルフレンド社			

科目名	介護福祉Ⅱ【英語名:The care welfareⅡ】	職名・担当者	講師 井川 淳史	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	本講義は「障がい者福祉論」の内容を実施する。 「障がい」とは何かを通して、わが国における障がい者福祉の歴史、制度的背景から、未来へ繋がる「障がい者福祉」を理解する。 また、当事者(障がい者)の自立生活、それを支える家族やサービスの現状を捉え、在宅、施設の側面から地域との連携について、その意義、目的を学ぶ。			
到達目標	到達目標は以下の2点である。 1.障がい福祉における対人援助の視点を理解し、考えを述べることができる。 2.介護福祉士として必要な知識を身につけ、今後の学修や実践に繋げることができる。			
準備学習	予め、テキストを読み、授業時配布のプリントを整理しノート類にまとめておくことが望ましい。			
授業方法	基本的に講義方式で進めるが、学生の発言機会(質疑を含む)について、可能な限り設ける。 また、ゲスト(当事者)による特別講義を入れることがある。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション、「障がい者福祉」とは何か 2.障がい者福祉を学ぶ(1)意義 3.障がい者福祉を学ぶ(2)目的 4.「障がい」とは(構造的理解) 5.「障がい」とは(制度、統計的理解) 6.障がい者福祉の理念(ノーマライゼーション) 7.障がい者福祉の理念(リハビリテーション) 8.障がい者福祉の理念(自立生活思想ほか) 9.わが国の障がい者施策の背景と歴史(1) 10.海外の障がい者施策の背景と歴史(2) 11.障がい者基本計画 12.特別講義(当事者講演) 13.障害者総合支援法(1)背景、概要 14.障害者総合支援法(2)構造、実際 15.障がい者の権利擁護、まとめ 			
評価方法	定期試験 50%、授業態度及び提出課題 50%			
教科書	滝口真・福永良逸編『障害者福祉論』法律文化社			

科目名	コミュニケーション技術 I (コミュニケーションの理解) 【英語名:Communication Skill I】	職名・担当者	講師 井川 淳史	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	利用者のみならずご家族等に対する精神的支援のため、実践的なコミュニケーション能力を養う。 自分を見つめる力、意見をまとめて報告する力、自己と他者の意見の違いを理解し協力する力を養う。			
到達目標	対人援助におけるコミュニケーションの大切さを知る。			
準備学習	他者(当事者)との関係を構築するためには、自分の感情や思考、反応傾向を自覚し、適切にコントロールする「自己覚知」の重要性を知っておく。			
授業方法	講義、集団討議、「気づきノート」の記述など、適宜取り組む。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.介護におけるコミュニケーション 意義・目的・役割 2.介護におけるコミュニケーションの基礎 意義・目的・役割 3.利用者の特性に応じたコミュニケーション① コミュニケーション障害の理解 4.利用者の特性に応じたコミュニケーション② 特性に応じたコミュニケーションの実際(ア行トーク、伝達トレーニング) 5.利用者の特性に応じたコミュニケーション③ ジェスチャーコミュニケーション・うなづきと繰り返し 6.利用者の特性に応じたコミュニケーション④ 三つの姿勢、要約の技法 7.利用者の特性に応じたコミュニケーション⑤ 共感の技法 8.利用者の特性に応じたコミュニケーション⑥ 助言トレーニング 9.利用者の特性に応じたコミュニケーション⑦ 状況に応じたコミュニケーションをグループ討議する 10.介護チームのコミュニケーション① 3分間スピーチ基礎 11.介護チームのコミュニケーション② 3分間スピーチ方法 12.介護チームのコミュニケーション③ 3分間スピーチ発表 13.介護チームのコミュニケーション④ 心に残ったテーマの伝言ゲームを行い体感する グループワーク 14.介護チームのコミュニケーション⑤ 報告・連絡・相談・カンファレンス 15.総まとめ 危機からの脱出を体験して逐語記録・要約記録体験する 			
評価方法	定期試験 50%、授業態度及び提出課題 50%			
教科書				

科目名	生活支援技術Ⅱ(介護理論②)【英語名:Life support Technology②】	職名・担当者	准教授 三好 禎之	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	2	1
学修目標	本講義の目標は以下の通りである。 1.基礎的介護技術の理論を学ぶ。 2.介護技術の目的と方法を学ぶ。 3.利用者に応じた支援の方法を学ぶ。			
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 1.基礎的介護技術の理論を修得する。 2.介護技術の方法論を学び、実践できるようになる。 3.利用者に応じた支援の方法を修得する。			
準備学習	講義毎に指示する。			
授業方法	本講義の方法は以下の通りである。 1.テキスト、参考資料を用いて講義を展開する。 2.一部、演習を含む介護技術を実施する。 3.ビデオ等視聴覚教材を使用する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 本授業の概要説明 他の教科との関連 2. 自立に向けた移動の介護、移動の意義と目的、移動に関する利用者のアセスメント 3. 自立に向けた移動の介護 安全で的確な移動・移乗の介助方法①歩行の介助の技法②車椅子の介助 4. 自立に向けた移動の介護、安全で的確な移動・移乗の介助方法、③安楽な体位の保持、④体位変換 5. 自立に向けた移動の介護 利用者の状況に・状態に応じた介助の留意点、他職種との役割と連携 6. 自立に向けた食事の介護 食事の意義と目的、食事に関する利用者のアセスメント 7. 自立に向けた食事の介護、安全で的確な食事介助の方法 8. 自立に向けた食事の介護、利用者の状況に・状態に応じた介助の留意点、他職種との役割と協働 9. 自立に向けた排泄の介護 排泄の意義と目的、排泄に関する利用者のアセスメント 10. 自立に向けた排泄の介護 安全で的確な排泄介助の方法 ①トイレ ②ポータブルトイレ 11. 自立に向けた排泄の介護 安全で的確な排泄介助の方法 ③採尿器・差し込み便器 ④おむつ 12. 自立に向けた排泄の介護 利用者の状況に・状態に応じた介助の留意点、他職種との役割と協働 13. 自立に向けた睡眠の介護 睡眠の意義と目的 睡眠に関する利用者のアセスメント 14. 自立に向けた睡眠の介護 安眠のための介護 安眠を促す介助技法 15. 自立に向けた睡眠の介護 利用者の状況に・状態に応じた介助の留意点、他職種との役割と協働 			
評価方法	学習意欲や態度 30% レポート70%、			
教科書	川井太加子『生活支援技術Ⅰ』メヂカルフレンド社 谷口敏代 中村裕子『生活支援技術Ⅱ』メヂカルフレンド社			

科目名	生活支援技術Ⅳ(応用介護技術)【英語名:Life support Technology④】	職名・担当者	三好・大橋	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	2	1
学修目標	<p>本講義の目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.利用者のライフサイクルを学ぶ。 2.利用者の生活の質の向上と、自立支援のあり方を学ぶ。 3.利用者の自己決定の尊重と尊厳を学ぶ。 			
到達目標	<p>本講義の目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.利用者のライフサイクルが理解できるようになる。 2.自立支援の介護実践が展開できるようになる。 3.利用者の尊厳を保つことのできる介護の視点を学ぶ。 			
準備学習	講義毎に指示する。			
授業方法	<p>本講義の方法は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.講義は演習形式で行なう。 2.グループワークによって、生活支援のあり方を検討する。 3.車椅子体験など直接的な体験を通して、利用者理解を深める講義とする。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自立支援の概念と自立支援に必要な知識と視点 2. 移動の自立支援①(ベッド上での寝返り・起き上がり・端座位・立位・車椅子への移乗) 3. 移動の自立支援②(布団での寝返り・起き上がり・立位・車椅子移乗) 4. 移動の自立支援③(車椅子の操作と自走・移乗に使用する自助具の工夫) 5. 移動の自立支援④(車への乗り降り:乗用車・リフト車の操作方法) 6. 着脱の自立支援(座位での着脱・着脱に使用する自助具の工夫) 7. 排泄の自立支援①(ポータブルトイレ・トイレでの排泄) 8. 排泄の自立支援②(定時誘導・随時誘導・オムツはずし・排泄に使用する自助具の工夫) 9. 食事の自立支援①(テーブルと椅子での食事・食事の自助具の工夫) 10.食事の自立支援②(配膳から下膳・片付けまでを含めた食事の自立支援について・グループワーク) 11.入浴の自立支援(家庭浴槽での入浴の方法と自助具の工夫) 12.日常生活の拡大①(車椅子外出体験の計画 生活する力を育むために) 13.日常生活の拡大②(実践 車椅子でもとの生活をしてみよう) 14.日常生活の拡大③(生活の中に生きる価値がある 車椅子外出体験のまとめ 「生きがいもリハビリテーションも生活が基本」) 15.発表とまとめ 			
評価方法	学習意欲や態度 30% 実技試験 70%			
教科書	川井太加子『生活支援技術Ⅰ』メジカルフレンド社、 谷口敏代、中村裕子『生活支援技術Ⅱ』メジカルフレンド社			

科目名	介護過程Ⅱ（基礎事例演習）【英語名:Thinking Method of Solution to Client's Problems Ⅱ】	職名・担当者	井川・藤田	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	2	2	1
学修目標	介護福祉専門職は、当事者の生活背景や抱える課題を的確に捉え、課題解決のための知識、理論を駆使し、介護ロジック(論理)を明確にする必要がある。介護過程②では、「介護過程①」で学んだことを土台とし、さらに「アセスメント力」を磨く科目である。その上で、当事者主体の介護計画、評価方法を学ぶ。			
到達目標	到達目標は以下の2点である。 1.当事者の生活背景や抱える課題を的確に捉えることができる。 2.課題解決のための知識、理論を駆使し、介護ロジック(論理)がいえる。			
準備学習	予め、テキストを読み、授業時配布のプリントを整理しノート類にまとめておくことが望ましい。			
授業方法	基本は演習方式で進めるが、特別講義を入れることがある。			
授業計画	1・2 オリエンテーション 導入～介護過程の展開について振り返る～ 3・4 情報収集の方法① 情報収集の基礎的方法 5・6 情報収集の方法② 情報収集の方法(応用) 7・8 アセスメントの方法① 関連図の意義と目的・書き方 9・10 アセスメントの方法② 演習 関連図 事例①11・12 アセスメントの方法③ 演習 関連図 事例①13・14 アセスメントの方法④ 演習 課題の優先順位と情報の分析 事例① 15・16 アセスメントの方法⑤ 演習 課題の優先順位と情報の分析 事例① 17・18 介護計画の立案の方法① 演習 介護計画立案 事例① 19・20 介護計画の立案の方法② 演習 介護計画実施 事例① 21・22 介護計画の立案の方法③ 演習 介護計画評価 事例① 23・24 介護計画の立案 演習 基礎事例② 25・26 介護計画の実施、評価 演習 基礎事例② 27・28 介護計画の立案 演習 応用事例③ 29・30 介護計画の実施、評価 演習 応用事例③			
評価方法	定期試験 50%、授業態度及び提出課題 50%			
教科書	石野育子編著『最新介護福祉全書 7 介護過程』メヂカルフレンド社(1年前期に購入済み)			

科目名	介護総合演習Ⅱ【英語名:Synthetic Seminar for Care InternshipⅡ】	職名・担当者	井川・大橋	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	2	1
学修目標	介護実習(第1段階施設介護、通所介護、訪問介護)の導入を円滑にすることを目的とし、利用者の生活および介護支援の提供方法を理解し、実習の目標を達成できるようにする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.施設介護、通所介護、訪問介護の在り方を理解できる。 2.利用者と積極的にコミュニケーションを図り、基本的な生活支援技術が提供できる。 3.個別援助の基礎を理解し、受け持ち利用者の情報を的確に収集できる。 4.余暇支援をはじめとするレクリエーション等の理解ができる。 			
準備学習	<p>実習の手引きを適宜参照すること。</p> <p>授業(実習)に関する課題は提出期限厳守のこと。</p>			
授業方法	<p>初めての実習に向けて介護施設に関する種別や概要、利用者像を説明し、介護実習において生活支援技術、コミュニケーション技術等、学内で学んだ知識や技術を基に応用、実践できる様、演習を主体に進めていく。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.介護実習(第1段階施設介護)の概要 2.施設利用者の心身の状態、生活の理解 3.実習に求められる姿勢・態度、コミュニケーション 4.実習記録の書き方①(実習日誌) 5.実習記録の書き方②(個人票・目標) 6.実習記録の書き方③(アセスメントシート) 7.施設実習の事前指導 8.実習施設の理解①(帰校日:実習記録の確認) 9.実習施設の理解②(帰校日:実習の経過報告) 10.実習施設の理解③(帰校日:個別援助の結果確認) 11.実習施設の理解④(帰校日:個別援助の報告) 12.施設実習の事後学習、施設別の報告会 13.通所介護、訪問介護実習の概要 14.通所介護、訪問介護利用者の理解 15.実習記録の書き方(実習日誌等)、実習事前指導 			
評価方法	定期試験(レポート)50%、提出課題(実習書類等)と授業態度50%			
教科書	最新介護福祉全書8巻『介護総合演習』メヂカルフレンド社(1年前期に購入)			

科目名	労働と法【英語名:Labor and law】	職名・担当者	教授 高木 清秀	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	社会で働くための基本的なルール(労働と法)を学習し、実社会で安心して働ける知恵を習得する。 働くこと、生きることとは何かを考え、働く職場での人間の幸せ・尊厳を考える。			
到達目標	働くことの意義を学習し、ワークライフバランス(労働と生活のバランス)を考えながら、豊かな人生を考えられる人間になること。			
準備学習	次回の授業のテーマを、前授業で指示するので、新聞等の記事に関心を持ち、問題意識を持って授業に臨むこと。			
授業方法	1. レジュメとスライドショー(プリント)により授業 2. 現在雇用の一般知識を学び、解説すると同時に、現在起こっている事例(裁判判例)を紹介する 3. 労働に関係する、新しい法律、法改正について説明し、その背景(理由)を解説する 4. 講義中に、質問するので、その答えをメモに記入し提出する			
授業計画	1. 今起きている労働問題、事例 (労働と法を学ぶ意義) 2. 働くために関係している法律 (働くこととは、法は必要か) 3. 募集・採用(内定・試用期間・新入社員教育) 4. 労働契約法(就業規則・労働協約) 5. 労働基準法 賃金の概要(賃金額・成果主義・生涯賃金) 6. 賃金・手当・退職金・割増賃金(世界との比較) 7. 労働時間の概要 8. 労働時間・休憩・年次有給休暇 9. 労働時間の短縮(ワークシェアリング・フレックスタイム・変形労働時間制) 10. 労働組合法労働組合・団体交渉・団体行動(ストライキ・ロックアウト)・労働災害 11. 解雇と雇止め(不当労働行為) 12. 派遣(労働者派遣法)・パート・アルバイト(パート労働法) 13. 男女雇用機会均等法(ジェンダーフリー・セクハラ) 14. 育児・介護休業法 15. 個別労働紛争(問題)とその解決方法			
評価方法	定期試験 70%(3分の2以上の出席必要) 資料持込み可能 受講態度 20%(積極性) レポート 10%(質問に対するレポート提出)			
教科書	参考図書 「新・ビジネス法と現代社会」嵯峨野書院 講義の初めに、当日の資料を配付する。			

科目名	住環境福祉論【英語名:living environment for welfare】	職名・担当者	教授 志水 暎子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉住環境コーディネーター2級の知識を修得する。 ・在宅介護における住環境の課題を見つけ、介護者の負担軽減や本人の自立支援に向けて、他職種と連携して住環境整備の提案が出来るようになる。 ・設計図が読めるようになって、建築関係者と話ができるようになる。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひとはすまいをつくり、すまいはひをつくる」の真意を理解できるようになる。 ・身近な住環境に目をむけて、介護者の負担軽減や本人の自立支援に向けて、具体的な提案が出来るようになる。 ・設計図が読めるようになって、ユニバーサルの住宅が考えられるようになる 			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに示す進度に沿って、テキストの予習 ・出された課題をやっておく 			
授業方法	<p>指定教科書で住環境を事例を挙げて学びます。 住宅設計は、資料を別に準備して、住宅設計課題、改造課題を提出します</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(目的・概要・評価方法) 2. 第1章 住環境福祉の位置づけ 3. 第2章 住宅・居住 (意義、沿革、現状と課題) 4. 第3章 福祉用具 5. 第4章 生活・交通環境・まちづくり 6. 第5章 住環境福祉の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1)住宅設計の基礎 7. (2)小住宅の設計 8. (3)小住宅の庭園設計 9. (4)戸建住宅の改造・改修 10. (5)集合住宅の改造・改修 11. (6)福祉機器、福祉用品 12. (7)生活環境、交通環境 13. (8)まちづくり 14. 住居管理と防災・安全、緊急時連絡、非難、消火 15. まとめ 			
評価方法	<p>授業の参加度 10%、レポート50%、課題提出物40%で 60 点以上を合格とする。</p>			
教科書	<p>教科書 住環境福祉論 川村匡由編著 ミネルヴァ書房所 東京商工会議所</p>			

科目名	リスクマネジメント【英語名:Risk Management】	職名・担当者	准教授 三好 禎之	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護場面で発生しやすい事故を知る 2. 要因分析と事故予防対策について学習する 3. 危険予知訓練について学習する 4. 事故発生時の対応について学習する 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントの定義と重要性を説明できる ・要因分析と事故予防対策について学び、現場で活かすことができる ・危険予知訓練について学び、現場で活かすことができる ・事故発生後の対応について学び、現場で活かすことができる 			
準備学習	事前にテキストを読んでおくこと			
授業方法	テキストと資料による講義を行う。理解を深めるためにグループワーク・ビデオ学習も行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. リスクマネジメントとは何か 3. リスクマネジャーが担う役割 4. 要因分析と事故予防対策 5. 事故発生後の対応のポイント 6. 事例検討① 7. 事例検討② 8. 記録の重要性 9. 職員教育体制の整備 10. 危険予知について 11. 危険予知演習① 12. 危険予知演習② 13. 苦情対応のポイント 14. 個人情報保護法のポイント 15. まとめ 			
評価方法	レポート70%、学習意欲や態度30%を総合評価する。			
教科書	「かんたん！福祉施設のリスクマネジメント 80 のポイント」砂川直樹 佐藤崇, 筒井書房, 2010年8月			

科目名	生活支援技術Ⅷ(家事援助②)【英語名:Life support Technology⑧ Home economics training】	職名・担当者	非常勤講師 西川 光子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	家庭生活における基本である家事について理解し、家事の自立に必要な知識と技術を修得する。 利用者の自立に向け適切な家事の介助が提供できることを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・繊維の特徴を学習することで、着装、洗濯、収納が日常的に適切に出来るようになる。 ・裁縫の基本的技術を身につける。 			
準備学習	日常生活において使用している衣類、洗剤等について認識を深めておくようにしたい。 学習したことを実生活において実践する。			
授業方法	教科書を中心とし、被服材料(繊維)や洗剤の種類を実見する。 裁縫、しみ抜き、被服の収納方法、掃除など、家事の実習を通して理解を深める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 被服の起源、被服の機能 2. 3. 繊維の性質と用途 4. 洗濯、素材別洗濯の方法と注意点 5. 漂白剤、仕上げ剤について、掃除、ごみ捨て 6. 7. 裁縫、ミシンの基本実習、補修の基本実習 8. 9. 手縫いによる補修の実習、縫い方の種類と方法 10. 衣類、寝具の衛生管理 11. 買い物、家庭経営、家計管理 12. レクリエーション、リハビリテーションの応用 ゆびあみによるアクリルたわしの製作 13. しみの性質としみ抜き実習、掃除、洗濯の実習 14. 家事の介助の基本的留意点 15. 衣類の収納方法と防虫剤の特徴 16. 筆記試験 			
評価方法	受講態度 20%、提出物 30%、定期試験 50% (計 100%)			
教科書	介護 生活支援技術Ⅰ 基本編 メヂカルフレンド社			

科目名	介護過程Ⅲ（応用事例演習）【英語名:Thinking Method of Solution to Client's Problems③】	職名・担当者	川角・藤田	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	2	3・4	2
学修目標	<p>本科目は、介護計画の作成、実施内容の記録方法および評価の方法について学習する。</p> <p>また、さまざまな事例に関する介護過程の展開を通して、介護福祉士に必要な根拠に基づいた科学的支援方法や利用者の尊厳を保持しその人らしい生活を支援するための介護過程の在り方について学習する。</p>			
到達目標	<p>介護計画の作成、実施と記録、評価を理解し、介護実習で、介護過程が展開できるようになる。</p>			
準備学習	<p>予習 介護過程①②で学修した内容を事前に予習をし、アセスメントの方法、介護計画の立案方法等を復習しておく。また、疾患や障害の特徴と介護の方法、介護保険法や障害者総合支援法などの制度について復習しておく。</p> <p>復習 事例を通して理解が不足していた疾患や障害、制度等について調べなおし理解を深める。</p>			
授業方法	<p>テキストをふまえながら、事例をとおして介護計画を作成をこころみます。介護実習で使用する記録様式を利用し、実施・評価の仕方を学びます。実習終了後は、展開した介護過程をまとめ、振り返りをします。新たな事例を提示し、グループで介護過程を展開し、介護過程の理解を深めていきます。</p>			
授業計画	<p>1・2. 介護過程②の振り返りとオリエンテーション 3・4. 介護計画(1)意義、ケアプランと介護計画 5・6. 介護計画(2)目標と援助内容 7・8. 介護計画の作成 9・10. 計画の実施と実施記録の書き方、評価 11・12. 実施記録の作成 13・14. 実施記録の作成のつづきと評価記録の作成 15・16. 介護過程展開の振り返り 17・18. 介護過程をまとめる(1)アセスメント 19・20. 介護過程をまとめる(2)目標と計画 21・22. 介護過程をまとめる(3)実施と評価 23・24. 事例報告会 25・26. 事例『一人で住みたい』 27・28. 事例『一人で住みたい』のつづき 29・30. 計画の発表 まとめ</p>			
評価方法	レポート 40%、定期試験 60%			
教科書	石野育子編『最新介護福祉全書7介護過程』メヂカルフレンド社			

科目名	介護総合演習Ⅲ【英語名:Synthetic Seminar for Care Internship Ⅲ】	職名・担当者	井川・大橋	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	3	2
学修目標	介護実習(2段階施設介護)の導入を円滑にすることを目的とし、利用者の生活および介護支援の提供方法や個別支援の重要性を理解する。また、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)実習に向けても、事前学習を行い、実習の目標を達成できるようにする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.施設介護、認知症対応型共同生活介護の在り方を理解できる。 2.利用者と幅広くコミュニケーションを図り、生活支援技術提供の応用が理解できる。 3.個別援助の応用を理解し、受け持ち利用者の介護過程展開が的確に行える。 4.介護実習において自己の介護観構築に向けた取り組みができる。 			
準備学習	<p>実習の手引きを適宜参照すること。</p> <p>授業(実習)に関する課題は提出期限厳守のこと。</p>			
授業方法	利用者像を説明し、介護実習において生活支援技術、コミュニケーション技術等、学内で学んだ知識や技術を基に応用実践し、個別援助の重要性が理解できる様、演習を主体に進めていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.第1段階施設介護実習の事後学習 2.第1段階施設介護実習の施設別の報告会 3.第2段階施設介護実習の概要 4.実習記録の書き方①(個人票・目標、日々の目標) 5.実習記録の書き方②(アセスメントシートの理解) 6.実習記録の書き方③(介護計画シートの理解) 7.第2段階施設介護実習の事前指導 8.実習施設の理解①(帰校日:実習記録、個別援助記録の確認) 9.実習施設の理解②(帰校日:実習、個別援助の経過報告) 10.実習施設の理解③(帰校日:個別援助の結果確認) 11.実習施設の理解④(帰校日:個別援助の結果報告) 12.第2段階施設介護実習の事後学習、報告会に向けて 13.認知症対応型共同生活介護実習の概要 14.認知症対応型共同生活介護利用者の理解 15.実習記録の書き方(プロセスレコード等)、実習事前指導 			
評価方法	定期試験(レポート)50%、提出課題(実習書類等)と授業態度50%			
教科書	<p>「実習の手引き」</p> <p>坪山孝 監、能田茂代 編『最新介護福祉士全書 8 介護総合演習』メヂカルフレンド社</p> <p>参考:石野育子編著『最新介護福祉士全書 7 介護過程』メヂカルフレンド社</p>			

科目名	高齢者のこころとからだⅡ【英語名:Senior citizen mind and body Ⅱ】	職名・担当者	教授 上田 智子	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	Iで修得した医学的基礎知識をもとに、具体的な高齢者に多い疾病について理解する。特に介護保険上適用となる「特定疾病」を中心に解説をおこない理解を深める。			
到達目標	加齢に伴う代表的疾患、特に介護の場面で多く見られる疾病について理解し、介護福祉活動に活かすことができる。			
準備学習	疾病に関連する医学的基礎知識を復習し理解の上、授業に臨む。			
授業方法	特定疾病に関する詳細な資料や視聴覚教材を交えながら、解説する。DVDに沿って要点を学生自身がまとめながら、理解を深める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う変化 2. 介護保険法における特定疾病 3. 介護特定疾病(脳血管疾患) 4. 介護特定疾病(閉塞性動脈硬化症) 5. 介護特定疾病(骨粗鬆症) 6. 介護特定疾病(変形性関節症) 7. 介護特定疾病(関節リウマチ、脊柱管狭窄症) 8. 介護特定疾病(認知症) 9. 介護特定疾病(パーキンソン病) 10.介護特定疾病(パーキンソン病のケア) 11.介護特定疾病(糖尿病) 12.介護特定疾病(糖尿病の合併症と治療) 13.介護特定疾病(がん) 14.介護特定疾病(難病) 15.まとめ 			
評価方法	参加態度 30%、試験 70%で評価			
教科書	最新介護福祉全書 9巻「発達と老化の理解」			

科目名	認知症をやるⅡ（認知症への支援と理解）【英語名:Study On Dementia Ⅱ】	職名・担当者	非常勤講師 下鶴 紀之	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	1.認知症の人の生活を理解する 2.認知症の人に対する介護の方法について理解する			
到達目標	1.認知症の人への基本的なかかわり方を理解し実施できるようになる。 2.認知機能の変化が及ぼす生活への変化を理解し、認知し用の人の生活について考察することができる。 3.認知症の進行に応じた介護の方法について理解することができる			
準備学習	授業前に該当テキストを予習する。 授業後は、授業内容を復習する。			
授業方法	テキストを中心に講義を行う。 学習効果を深めるために、認知症の方を招待したり、事例やビデオ学習も行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 認知症の人の生活理解① 認知機能の変化が生活に及ぼす影響 3. 認知症の人の生活理解② 環境の力を理解する 4. 認知症の人の生活理解③ 環境の力の活用方法 5. 認知症の人の生活理解④ グループワーク 6. 認知症の人の生活理解⑤ 生活を構成する要素 7. 認知症の人の生活理解⑥ 生活課題を知る 8. 認知症の人の生活理解⑦ 演習 9. 認知症の人に対する介護① かかわりの基本 10. 認知症の人に対する介護② かかわりの基本演習 11. 認知症の人に対する介護③ 認知症への気づき 12. 認知症の人に対する介護④ 認知症の進行に応じた介護(初期～中期) 13. 認知症の人に対する介護⑤ 認知症の進行に応じた介護(後期) 14. 認知症の人に対する介護⑥ 認知症の進行に応じた介護(終末期) 15. まとめ 			
評価方法	定期試験 100%総合的に評価する。			
教科書	なし			

科目名	医療的ケア I 【英語名:Care In medical treatment I】	職名・担当者	教授 上田 智子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	3	2
学修目標	法改正により平成 24 年 4 月から、介護職による喀痰吸引(口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内)及び経管栄養の実施が可能となり、そのために必要な知識・技術を修得し実践できるよう基本的知識について理解する。			
到達目標	喀痰吸引に関する呼吸状態や異常の有無、吸引の安全な実施に向けた基礎的知識を修得できる。			
準備学習	教科書の該当箇所をあらかじめ予習して臨むこと。			
授業方法	I では、個人の尊厳を守りつつ安全な療養生活を送れるよう「喀痰吸引」に関する呼吸や消化のしくみや働き、病態、生活支援上の留意点、感染予防、緊急時の対応等安全な実施に向けテキストに従って講義を行うとともに、適宜修得した知識の確認をおこなう。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.人間と社会 2.保健医療制度とチーム医療(保健医療に関する制度、チーム医療と介護職員との連携) 3.保健医療制度とチーム医療(医行為に関する法律)、清潔保持と感染予防(職員の感染予防) 4.清潔保持と感染予防(療養環境の清潔、消毒法、滅菌と消毒) 5.健康状態の把握(健康状態を知る;バイタルサイン) 6.健康状態の把握(身体・精神の健康、急変状態) 7.高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論(呼吸のしくみとはたらき) 8.高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論(いつもと違う呼吸状態、喀痰の排出するしくみ) 9.高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論(喀痰吸引、喀痰吸引により生じる危険、人工呼吸器のしくみ) 10.高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論(人工呼吸器と吸引) 11.安全な療養生活(喀痰吸引や経管栄養の安全な実施) 12.安全な療養生活(ヒヤリハット・アクシデントの報告、呼吸器系の感染と予防) 13.高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論(子どもの吸引、吸引を受ける利用者家族への対応) 14.高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論(喀痰吸引の安全確認、緊急状態、報告・記録) 15. 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論(急変・事故発生時の対応、対策) 			
評価方法	参加態度 30%、試験 70%で評価			
教科書	最新福祉全書 13 巻「医療的ケア」メヂカルフレンド社			

科目名	介護実習Ⅱ【英語名:Care trainingⅡ】	職名・担当者	上田・三好ほか	
		単位数	Semester	年次配当
授業形態	実習	2	3・4	2
学修目標	学校で学習したことを基礎として、介護福祉の倫理や知識、技術について実践現場で応用する。また、総合的に利用者の生活援助の実践力、および専門職としての姿勢を養う。具体的に、実習においてプロセスレコード等を作成することで、援助者としての姿勢を振り返り、利用者との適切な関係構築が可能となる。			
到達目標	学校で学習したことを基礎として、介護福祉の倫理や知識、技術について実践現場で応用することができる。 総合的に利用者の生活援助の実践力、および専門職としての姿勢を養うことができる。			
準備学習	介護総合演習の授業で介護実習の準備をおこないます。介護総合演習の授業を遅刻・欠席なく受講し、課題や書類の提出を遅滞なく、意欲的に取り組む。実習記録をはじめ、実習に関する提出物は必ず期日までに提出できるようにする。			
授業方法	合計10日間の実習を行う。介護総合演習を必ず受講すること。			
授業計画	<p>【グループホーム実習】 実習期間 未定 合計10日間 期間については、介護総合演習にて発表する。</p> <p>本学との契約している認知症対応型共同生活介護事業所において実習をする。 期間・配属先については介護総合演習において指示する。</p> <p>※実習施設は厚生労働省により介護実習施設として認められ、本学と実習契約をしている施設・事業所において実習をする。 ※実習は、原則としてすべて出席しなければならない。遅刻・早退・欠席した場合には補充実習をすることがある。</p>			
評価方法	施設評価表 50%、実習取組み状況 50%			
教科書	「実習の手引き」			

科目名	介護実習Ⅲ【英語名:Care training Ⅲ】	職名・担当者	上田・三好ほか	
		単位数	Semester	年次配当
授業形態	実習	3	3・4	2
学修目標	<p>一人の利用者を受け持ち、利用者の心身の状況をアセスメントし、個別介護計画を作成・実施・評価、さらに再アセスメント・再立案・実施、評価という一連の介護過程の展開方法を実施する。</p> <p>一人の利用者と深くかかわるかご福祉実践を通して、介護福祉観について考察する。</p>			
到達目標	<p>①一連の介護過程の展開方法を理解し実施できるようになる。</p> <p>②利用者の生活を支える介護福祉援助の実際を理解したうえで適切な援助を実施できるようになる。</p> <p>③介護福祉援助の実践を通して、専門性と介護福祉の理念に基づいた自身の「介護福祉観」について考察することができる。</p>			
準備学習	<p>①介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで修得した内容を復習しておく。</p> <p>②配属予定の施設の法的根拠、入居者の特徴などを復習しておく。</p> <p>③利用者が多い疾患や障害の特徴や介護する上での留意点について復習しておく。</p> <p>④前回までの実習で抽出された自己の課題について振り返り、本実習で課題が解決されるように事前に計画を作成しておく。</p>			
授業方法	20日間同一施設を継続して実習をおこなう。介護総合演習を必ず受講すること。			
授業計画	<p>【介護実習Ⅱ】 実習期間:平成27年6月8日(月)～7月3日(金) 土・日を除く、計20日間。 本学と契約している介護老人福祉施設、介護老人保健施設、障害者支援施設においておこなう。 実習施設への配属等は、介護総合演習の中でおこなう。</p> <p>※実習施設は厚生労働省により介護実習施設として認められ、本学と実習契約をしている施設・事業所において実習をする。 ※実習は、原則としてすべて出席しなければならない。遅刻・早退・欠席した場合には補充実習をすることがある。</p>			
評価方法	施設評価表 50%、実習取組み状況 50%			
教科書	「介護実習の手引き」(要綱)			

科目名	専門ゼミナール【英語名:Advanced Seminar】	職名・担当者	各担当教員																															
		単位数	semester	年次配当																														
授業形態	演習	2	3・4	2																														
学修目標	本ゼミナールの目標は以下の通りである。 1.研究とは何かを学んで卒業論文が書けるようになる 2.そのため、資料・論文検索技法を学び、論文の書き方を学ぶ。 3.出来た卒業論文の発表の方法を学び、人前で発表出来るようになる。																																	
到達目標	論理立てで、物事が進められるようになり、他人や職場で、役立つプレゼンの能力を身に付けるようになる。 時間管理と健康管理が出来るようになる																																	
準備学習	就職活動や施設実習の合間を縫っての卒論であるから、きびしい時間管理と健康管理で、シラバスにある日程をこなすべく、自分で調査、検索、原稿づくりを行う																																	
授業方法	ゼミナールの進めかたは以下の通りである。 1.質的、量的研究の方法。 2.資料・論文検索の方法。 3.論文の書き方など作法。 4.発表の方法などを演習形式で行なう。																																	
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1.オリエンテーション</td> <td>16.夏季休暇中進捗状況</td> </tr> <tr> <td>2.論文の書き方①</td> <td>17.中間報告会資料作成①</td> </tr> <tr> <td>3.論文の書き方②</td> <td>18.中間報告会資料作成②</td> </tr> <tr> <td>4.テーマの選定①</td> <td>19.中間報告会</td> </tr> <tr> <td>5.テーマの選定②</td> <td>20.中間報告終わりの会</td> </tr> <tr> <td>6.研究方法の選択①</td> <td>21.個別指導</td> </tr> <tr> <td>7.研究方法の選択②</td> <td>22.個別指導</td> </tr> <tr> <td>8.テーマ発表会</td> <td>23.個別指導</td> </tr> <tr> <td>9.文献検索の方法</td> <td>24.個別指導</td> </tr> <tr> <td>10.研究計画と文献リスト</td> <td>25.個別指導</td> </tr> <tr> <td>11.研究計画と文献リスト</td> <td>26.個別指導</td> </tr> <tr> <td>12.個別指導</td> <td>27.個別指導</td> </tr> <tr> <td>13.個別指導</td> <td>28.個別指導(論文提出)</td> </tr> <tr> <td>14.個別指導</td> <td>29.個別指導(再提出)</td> </tr> <tr> <td>15.個別指導</td> <td>30.口述試験</td> </tr> </table>				1.オリエンテーション	16.夏季休暇中進捗状況	2.論文の書き方①	17.中間報告会資料作成①	3.論文の書き方②	18.中間報告会資料作成②	4.テーマの選定①	19.中間報告会	5.テーマの選定②	20.中間報告終わりの会	6.研究方法の選択①	21.個別指導	7.研究方法の選択②	22.個別指導	8.テーマ発表会	23.個別指導	9.文献検索の方法	24.個別指導	10.研究計画と文献リスト	25.個別指導	11.研究計画と文献リスト	26.個別指導	12.個別指導	27.個別指導	13.個別指導	28.個別指導(論文提出)	14.個別指導	29.個別指導(再提出)	15.個別指導	30.口述試験
1.オリエンテーション	16.夏季休暇中進捗状況																																	
2.論文の書き方①	17.中間報告会資料作成①																																	
3.論文の書き方②	18.中間報告会資料作成②																																	
4.テーマの選定①	19.中間報告会																																	
5.テーマの選定②	20.中間報告終わりの会																																	
6.研究方法の選択①	21.個別指導																																	
7.研究方法の選択②	22.個別指導																																	
8.テーマ発表会	23.個別指導																																	
9.文献検索の方法	24.個別指導																																	
10.研究計画と文献リスト	25.個別指導																																	
11.研究計画と文献リスト	26.個別指導																																	
12.個別指導	27.個別指導																																	
13.個別指導	28.個別指導(論文提出)																																	
14.個別指導	29.個別指導(再提出)																																	
15.個別指導	30.口述試験																																	
評価方法	テーマ発表 10%、中間発表 10%、論文 40%、口述試験 40%																																	
教科書	はじめての論文作成術一問うことは生きること一三訂版 宅間紘一 日中出版(1年次購入済み)																																	

科目名	青年期の心理【英語名: Adolescent Psychology】	職名・担当者	非常勤講師 岩瀬 真寿美	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	ピアヘルパーを目指す者として必要な知識、技術、および態度を養うことを目標とする。具体的に履修者は、学業領域や心理領域などにおけるピアヘルパーの留意点、ユング心理学、心理療法と仏教に関する考察を深める。			
到達目標	履修者は授業で得られたピアヘルピングの知識をスキルとして身につけ、応用することができるようになる。併せて、自分自身の生き方や考え方についての理解をカウンセリングの観点から深めることができるようになる。			
準備学習	予習として、次の授業に関する内容の予習プリントに回答してくる。 復習として、各回の授業の内容に関するリアクションペーパーを提出する。			
授業方法	指定教科書に沿った内容について、具体的事例を混じえながら解説する。 実際に履修者同士でピアヘルピングを実践的に学ぶ機会を多く設ける。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 青年期の課題とピアヘルパーの留意点 2. 学業領域のヘルピング 3. 進路領域のヘルピング 4. 友人領域とグループ領域のヘルピング 5. 関係修復領域のヘルピング 6. 心理領域のヘルピング 7. いじめ模擬裁判 8. いじめ概論・自他のつながりの意義 9. 青年心理に関する諸説 10. 仏教における自我形成 11. 青年期におけるジェンダー形成 12. 親子関係・友人関係・社会の中の自分 13. 私とは何か——「十牛図」を手がかりとして 14. 心理療法としての仏教の役割 15. 台湾の道德教育 			
評価方法	学習意欲・態度30% リアクションペーパー30% 定期試験40%			
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーハンドブック』図書文化社。 ・日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーワークブック』図書文化社。 			

科目名	介護サービス論【英語名:Theory of Care Service and Social Work】	職名・担当者	講師 藤田 委子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	介護福祉士の仕事は、利用者の権利を守ることでもあります。権利を守る方法として法制度・援助技術・倫理を学びます。この講義では、介護サービス(介護保険制度・障害者総合支援法など)、権利擁護、援助技・介護福祉士の倫理について学び、利用者の権利を守り、介護福祉士の倫理を遵守できる介護福祉士を目指します。			
到達目標	介護サービス(介護保険制度・障害者総合支援制度など)、権利擁護、介護福祉士の倫理について説明できるようになり、介護福祉士としてふさわしい援助技術・倫理観を身につける。			
準備学習	授業の前には、テキストの該当箇所を読んでおき、わからないところを調べておく。グループ討議・VTR の視聴のときの授業後は、小レポートまたは感想文を課し復習するようにしてください。			
授業方法	テキストを中心に、適宜プリントを配布します。倫理を学ぶときには、グループワークを活用し、理解を深めていきます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 介護保険を知る(1)理念と目的 3. 介護保険を知る(2)保険者と申請 4. 介護保険を知る(3)給付内容・専門職と地域、その連携 5. 社会福祉援助技術 6. ケアマネジメント(1)概要 7. ケアマネジメント(2)介護保険制度を利用する 8. 障害者総合支援法を知る(1)理念と目的 9. 障害者総合支援法を知る(2)サービス内容 10. 利用者の権利を守る(1)各虐待法 11. 利用者の権利を守る(2)成年後見制度ほか 12. 介護福祉士の倫理(1)倫理綱領 13. 介護福祉士の倫理(2)倫理的ジレンマ 14. 事例検討 15. 権利を守る法制度の課題 まとめ 			
評価方法	受講態度 30%、レポート 30%、定期試験 40%			
教科書	東京都社会福祉協議会編『介護保険制度とは…』『障害者総合支援法とは…』東京都社会福祉協議会			

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ(感覚機能障害)【英語名:Communication technology ②(Sensory function disorder)】	職名・担当者	非常勤講師 西村 由美子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	手話と聴覚障害について学習する			
到達目標	自己紹介、あいさつ、簡単な会話が手話で話せるようになる			
準備学習	手話は復習の繰り返しが最重要なため、次回講義前に必ず前回の手話を復習しておく			
授業方法	学習目標を達成するために指定教科書を基に進める。教科書で足りない部分は別途資料を印刷し配布する。			
授業計画	<p>実技編</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. つたえあってみましょう 身ぶり・表情・指さし 2. 自己紹介をしましょう① 名前の紹介 3. 指文字、数字を覚える 4. 自己紹介をしましょう② 家族の紹介 5. 自己紹介をしましょう③ 趣味 6. 自己紹介をしましょう④ 学校、仕事 7. 自己紹介をしましょう⑤ 住所(県,市町村) 8. 自己紹介をしましょう⑥ ~まとめ~ 9. 自己紹介をしましょう⑦ ~まとめ~ 10. 話しかけてみましょう① 一日のことを話す 11. 話しかけてみましょう② 一ヶ月のことを話す 12. 話しかけてみましょう③ 一年のことを話す 13. 話しかけてみましょう④ 旅行のことを話す 14. 話しかけてみましょう⑤ ~まとめ~ 15. 話しあってみましょう 予定(未来形) <p>講義編</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.聴覚障害の基礎知識 2.聴覚障害者の生活 3.手話の基礎知識 			
評価方法	手話実技(40%),定期試験(40%),レポート提出(20%)			
教科書	「手話を学ぼう 手話で話そう」 発行/社会福祉法人全国手話研修センター 発売/財団法人全日本ろうあ連盟出版局			

科目名	生活支援技術Ⅴ (障害別ケ7①)【英語名:Life support Technology⑤】	職名・担当者	講師 川角 真弓	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	本科科目は、身体障害のある人の生活について、障害の特徴や生活支援の方法について学修を深めるものである。			
到達目標	到達目標は以下の2点である。 1.その人らしく生きるための支援方法を考えることができる。 2.障がいのある人に応じた介護方法を理解し実践できる。			
準備学習	事前学習としては、テキストを読む、関連分野の参考資料を学習することが望ましい。 事後学習としては、授業で配布したプリントやテキストをもとに授業内容を各自でノートにまとめておくことが望ましい。			
授業方法	講義形式である。授業内容の理解を深めるためにグループワークやビデオ学習を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 身体障害の理解 3. 視覚障害の理解 4. 視覚障害のある人の生活の理解 5. 聴覚障害の理解 6. 聴覚障害のある人の生活の理解 7. 肢体不自由の理解 1 脳血管障害①(脳梗塞の理解) 8. 肢体不自由の理解 2 脳血管障害②(生活の理解) 9. 肢体不自由の理解 3 脳血管障害③(生活支援の実際) 10. 肢体不自由の理解 4 脳血管障害④(生活支援の実際の続き) 11. 肢体不自由の理解 5 パーキンソン病 12. 肢体不自由の理解 6 関節リウマチ 13. 肢体不自由の理解 7 脊椎損傷 14. 肢体不自由の理解 8 脳性麻痺 15. 補助犬について 			
評価方法	定期試験 50%、提出課題 50%			
教科書	谷口敏代・中村裕子編『最新介護福祉全書 6 生活支援技術Ⅱ 障害編』メヂカルフレンド社 参考: 谷口敏代編『最新介護福祉全書 11 障害の理解』メヂカルフレンド社			

科目名	生活支援技術Ⅶ(家事援助①)【英語名:Life support Technology⑦ Home economics training】	職名・担当者	非常勤講師 神野 順子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	壮年期から高齢期の食事管理の意義を理解して栄養的に満たされた献立を作成でき、そのうえで嗜好性の高い食事を提供できる技能の習得を目指す。また、介護食を経験することで食事介助に必要な配慮を学ぶ。			
到達目標	①対象者の食事能力に呼応した食事が適切に供給できること。 ②家庭において、食事管理ができること			
準備学習	自己の食事内容を把握しておくこと			
授業方法	(調理) 実習を中心とするが、理解を促す目的で一部演習を取り入れる			
授業計画	1. 実習オリエンテーション 調理・栄養の基礎知識 2.3. 献立作成演習 (1)高齢者向けバランス食和風 4.5. 献立作成演習 (2)高齢者向けバランス食洋風 6.7. 献立作成演習 高齢者の行事食・間食 8.9. 献立作成演習 形態別展開方法 摂食嚥下困難食 10.11. 献立作成演習 疾患別献立 12.13. 献立作成演習 食材別展開食(形態・病態別) 14.15. 課題献立演習まとめ			
評価方法	レポート 25 点、定期試験 25 点(計 50 点)			
教科書	幸せの介護食レシピ 旭屋出版 MOOK LETS 食の絆編			

科目名	生活支援技術Ⅵ (障害別ケ7②)【英語名:Life support Technology⑥】	職名・担当者	講師 井川 淳史	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	精神的側面における「障がい」(精神障がい)によって、当事者の生活に如何なる「障害」が生じているのかを捉える点が目的である。また、その人らしく生きるための支援、「精神障がい」に応じた介助方法を専門的に理解し、人の尊厳を尊重した対人援助ができることが学修目標である。			
到達目標	到達目標は次の3点である。 1.その人らしく生きるための支援方法を考えることができる。 2.「精神障がい」がある人に応じた介助方法を理解し実践できる。 3.多職種連携、協働を理解し、人としての尊厳を尊重した対人援助ができる。			
準備学習	障がいについて、テキストを主体に確認しておく。			
授業方法	基本的に講義方式で進行し、理解を深めるため資料を基にグループワークや映像の視聴学習を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症の基本的理解 2. 認知症の症状に応じた生活課題と支援方法① 3. 認知症の症状に応じた生活課題と支援方法② 4. 認知症の人に対して起こりやすい虐待と予防、権利擁護 5. 介護者や家族の抱える課題と支援方法 6. 知的障がいの基本的理解 7. 知的障がいがある人の実態と生活課題 8. 知的障がいがある人に応じた支援方法 9. 精神障がいの基本的理解 10. 精神障がいがある人の実態と生活課題 11. 精神障がいがある人に応じた支援方法 12. 発達障がいの基本的理解と支援方法 13. 高次脳機能障がいの基本的理解と支援方法 14. 重複障がいの基本的理解 15. 重複障がいがある人に応じた支援方法 			
評価方法	定期試験 50%、授業態度及び提出課題 50%			
教科書	谷口敏代・中村裕子編『最新介護福祉全書 6 生活支援技術Ⅱ 障害編』メヂカルフレンド社 参考文献:谷口敏代編『最新介護福祉全書 11 障害の理解』メヂカルフレンド社			

科目名	介護総合演習Ⅳ【英語名:Synthetic Seminar for Care Internship Ⅳ】	職名・担当者	講師 川角・藤田	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	介護実習Ⅱにむけて、事前学習および実習準備などをおこない、実習を効果的に学ぶことができるようになる。自らの介護観を考察することができる。			
到達目標	①介護実習Ⅱの目的および目標を理解することができる。 ②自身の介護実習Ⅱの実習目的と行動計画を立案することができる。 ③介護実習Ⅱの実習方法等について理解することができる。 ④介護福祉観について考察することができる。 ⑤事例報告の意義や方法を理解し、実施することができる。			
準備学習	①これまでの実習を振り返り、自身の課題について明確にし、今回の実習で課題が解決できるよう準備をする。 ②①をふまえて、介護実習Ⅱの実習計画を担当教員の指導のもと立案する。 ③基本的な生活支援技術、コミュニケーションの方法、レクリエーション、人体構造など復習しておく。			
授業方法	実習に向けた事前学習をおこなう。実習の報告、配属先の事前学習、実習関係書類の作成、実習目標の策定をおこなう。実習終了後は、実習を振り返り、実習の報告と実習で学んだ介護過程をまとめる。			
授業計画	1. 実習Ⅰ②(訪問介護・グループホーム実習)のまとめ 2. 実習Ⅰ②(訪問介護・グループホーム実習)の発表 3. 介護実習Ⅱに向けてオリエンテーション 4. 配属先の事前学習 5. 実習の目標と概要 6. 実習の課題・実習予定表作成 7. 介護実習Ⅱの事前訪問、最終確認 8・9. 帰校日指導(実習2または3週目) 10・11. 帰校日指導(実習3週目または終了後) 12. 実習報告の作成 13. 実習報告会 14. 事例のまとめ方 15. 事例をまとめる (事例集の作成と事例報告は介護過程③で継続して取り組む)			
評価方法	介護実習Ⅱにかかわる課題及び提出物 50%、事例報告レポート 50%			
教科書	「介護実習の手引き」(要綱) 坪山孝監修 能田茂代編集『介護総合演習』メジカルフレンド社			

科目名	こころとからだのしくみⅣ(終末期) 【英語名:】	職名・担当者	非常勤講師 下鶴 紀之	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	1. 介護の専門職として、医療における倫理問題について考える。 2. ターミナルステージにある利用者の理解を深める。 3. その人らしい生を支援できる介護のあり方を学ぶ。			
到達目標	①延命治療、緩和ケア、リビングウィル等の尊厳の保持とは、何かを学び、自分自身の死生観を深めることができる。 ②終末期の心身状況を理解し、QOLを高めるケアを学び、利用者及び家族の精神的サポートができる。			
準備学習	授業で学んだことを復習(教科書、資料)し、自分の考えの根拠を言えるようにする。			
授業方法	テキストと、資料・パワーポイントによる講義を行う。理解を深めるために演習・ビデオ学習も行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期における介護の意義、目的、介護 2. 死生観と終末期医療の現状 3. がん治療、インフォームドコンセントと緩和医療 4. 死に対するこころの理解 死に対する恐怖不安 5. 介護職の役割と医療者との連携の必要性 6. 症状と日常生活の援助 7. これからの終末期医療 8. 医療と介護職における倫理とは 9. 倫理的問題への取り組み 10. 介護の場における倫理問題を含むケース検討 11. 介護の場における倫理問題を含むケース検討 12. 終末期はどこで過ごしたいか 13. 倫理的問題を含む医療・介護場面でのコミュニケーション 14. 倫理的問題を含む医療・介護場面でのコミュニケーション 15. まとめ 			
評価方法	定期試験(100%)を総合評価する。			
教科書				

科目名	障害をしるⅡ(障害への支援と理解) 【英語名:Knowledge of disability & healthⅡ(Support for handicapped people)】	職名・担当者	教授 上田 智子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	「障害を識るⅠ」での各種障がいに関する基礎的理解を踏まえて、障がいのある人に対する多くの壁(物理的・心理的・制度上・就労上のバリア)について、主に視聴覚教材(DVD)を使用して、障害者の生活上の困難さを理解する。			
到達目標	障がいに応じて必要な支援およびその方法を理解し、適切な援助ができる。			
準備学習	各障がいに関する事例等に興味関心を持って臨むこと。			
授業方法	毎回、内容に関する資料を提示しその解説をおこない、事例としてDVDの視聴を通して具体的理解を深める。それらの内容をレポートとしてまとめ、理解の深度を確認する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障がい者を取り巻くバリア 2. 制度上のバリア(欠格条項) 3. 障がいの程度と福祉用具 4. 聴覚障がい者の困難と補聴器の使用(事例) 5. 中途障がいの受容過程 6. 高次脳機能障がいの受容過程と心の変遷(事例) 7. 障がい者の自立とマズローの欲求段階 8. 肢体不自由者の自立と生活(事例) 9. 統合失調症の病理と症状 10. 統合失調症の生活上の困難と適応(事例) 11. 発達障害の病理と症状 12. 自閉症の理解とコミュニケーション(事例) 13. 難病の病理と症状 14. 難病(ALS)を生きる人への支援(事例) 15. まとめ 			
評価方法	参加態度 30%、レポート 70%で評価			
教科書	なし 参考)最新介護福祉全書 11 巻「障害の理解」			

科目名	医療的ケアⅡ【英語名:Care In medical treatment Ⅱ】	職名・担当者	教授 上田 智子	
		単位数	セメスター	年次配当
授業形態	講義	2	4	2
学修目標	Ⅱでは、医療的ケアⅠでの知識を踏まえて「喀痰吸引」「経管栄養」の実施に向けて、具体的手順や必要な器具・器材とそのしくみ、清潔の保持、対象者の状態観察とその留意点を学び、準備から後片づけまで一貫した医行為の実践ができ、異常の早期発見と共に医療職へ適切な報告ができるよう学修する。あわせて、緊急時の対応として対象者の状態に応じて適切な救急蘇生法(気道の確保、人工呼吸、AED操作)について学ぶ。			
到達目標	喀痰吸引及び経管栄養の実施に向けて、具体的手順や必要な器具・器材、清潔の保持、対象者の状態観察等準備から後片づけまで一貫した医行為の実践及び緊急時の対応ができる。			
準備学習	教科書の該当箇所をあらかじめ予習して臨むこと。			
授業方法	テキストに従って講義を中心としながら、適宜演習もおこなう。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説(吸引で用いる器具・機材、物品) 2.高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説(利用者の状態観察) 3.高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説(事前準備、手順と留意点) 4.高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説(実施による変化、実施後の確認) 5.高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説(吸引にともなうケア、報告及び連絡) 6.高齢者及び障害児・者の経管栄養概論(消化器系のしくみ) 7.高齢者及び障害児・者の経管栄養概論(消化・吸収と消化器症状、経管栄養が必要な状態) 8.高齢者及び障害児・者の経管栄養概論(経管栄養のしくみ、注入する内容) 9.高齢者及び障害児・者の経管栄養概論(実施上の留意点、子どもの経管栄養) 10.高齢者及び障害児・者の経管栄養概論(子どもの経管栄養に関する物品・使用法と感染予防) 11.高齢者及び障害児・者の経管栄養概論(利用者家族への説明と同意、危険や安全確認) 12.高齢者及び障害児・者の経管栄養概論(急変・事故対応、報告及び連絡方法) 13.高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説(経管栄養の器具・機材、物品) 14.安全な療養生活(救急蘇生法・講義) 15.安全な療養生活(救急蘇生法・演習) 			
評価方法	参加態度 30%、試験 70%で評価			
教科書	最新福祉全書 13 巻「医療的ケア」メヂカルフレンド社			

科目名	医療的ケアⅢ【英語名:Care In medical treatment Ⅲ】	職名・担当者	教授 上田 智子	
		単位数	セメスター	年次担当
授業形態	演習	1	4	2
学修目標	Ⅲでは、Ⅰ・Ⅱで修得した知識技術をもとに安全確実に「喀痰吸引」「経管栄養」が実施できるよう演習を行い、対象者の観察から準備実施、確認報告、記録に至るまでを学内でシミュレーションし、療養の場で実施できる技術を学修する。			
到達目標	喀痰吸引及び経管栄養を、対象者の観察から準備実施、確認報告、記録に至るまで一連の流れの中で確実に実施できる。			
準備学習	実践に向けて、今までの学習内容を復習の上授業に臨むこと。			
授業方法	今まで習得した知識を確認しながら、喀痰吸引・経管栄養の実践的演習をおこなう。最終的に実技試験を通るよう一連の実技を繰り返し練習する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順(経管栄養前の利用者の状態) 2.高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順(実施手順と留意点) 3.高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順(経管栄養後の変化と確認、片づけ) 4.高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順(経管栄養に必要なケア、報告・連絡方法) 5.口腔内の喀痰吸引 6.口腔内の喀痰吸引 7.鼻腔内の喀痰吸引 8.鼻腔内の喀痰吸引 9.胃ろう(腸ろう)による経管栄養 10.胃ろう(腸ろう)による経管栄養 11.経鼻経管栄養 12.口腔内の喀痰吸引 13.口腔内の喀痰吸引 14.鼻腔内の喀痰吸引 15.鼻腔内の喀痰吸引 			
評価方法	実技試験 100%で評価する			
教科書	最新福祉全書 13 巻「医療的ケア」メヂカルフレンド社			